岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第160集

上鬼柳IV遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

上鬼柳IV遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600カ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保持し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特にも高速道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設に関連して、平成２年度に発掘調査した上鬼柳IV遺跡の調査結果をまとめたものであります。上鬼柳IV遺跡は和賀川右岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、縄文時代の土坑群や平安時代の竪穴住居跡と畑地跡等の遺構と縄文・弥生時代、平安時代の遺物が発見されるなど、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査および報告書作成に御協力、御支援を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所、北上市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成３年11月

財団法人　岩手県文化振興事業団

理事長　工　藤　　巌

例　言

1，本報告書は、岩手県北上市鬼柳町上鬼柳第２地割15ほかに所在する上鬼柳Ⅳ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2，本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線建設に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査である。調査は、日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3，本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号および遺跡調査略号は次のとおりである。

遺跡番号　ＭＥ65－2078　　遺跡調査略号　ＫＯⅣ－90

4，調査面積は9,190㎡である。野外調査は平成２年４月16日から10月31日まで実施し、調査資料の整理作業は平成２年11月１日から平成３年３月30日まで実施した。

5，発掘調査は村上修・小原眞一・星雅之が担当し、室内整理および報告書の作成は村上修が担当した。

6，分析や鑑定は次の方々に依頼した。(敬称略)

火山灰の分析・鑑定	三辻　利一（奈良教育大学）
Ｃ14年代測定	木越　邦彦（学習院大学）
プラント・オパール分析	パリノ・サーヴェイ株式会社
石質鑑定	佐藤　二郎（佐藤環境地質研究所）

7，遺跡の基準点測量は、株式会社吉田測量設計に委託した。

8，空中写真の撮影は、有限会社ＮＲＣ岩手空撮に依頼した。

9，野外調査にあたっては、北上市教育委員会および地元の方々の御協力をいただいた。

10，本遺跡から出土した遺物および調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

序

例言

本　文

Ⅰ．調査に至る経過……1

Ⅱ．遺跡の立地と環境

1．位置と地形……3

2．周辺の地形……9

3．基本層序……9

4．周辺の遺跡……11

Ⅲ．野外調査と整理の方法

1．調査方法……15

2．室内整理の方法……16

Ⅳ．検出された遺構と遺物

1．竪穴住居跡……18

2．畑地跡……21

3．土坑……25

4．陥し穴状遺構……130

5．溝跡……147

Ⅴ．遺構外出土遺物

1．縄文時代・弥生時代の土器……154

2．土製品……156

3．石器……156

Ⅵ．まとめ

1．遺構……161

2．遺物……171

Ⅶ．鑑定・分析

1．種子同定及び植物珪酸体分析報告…177

2．放射性炭素年代測定結果報告書…190

3．火山灰の蛍光X線分析……191

図　版

第1図　和賀川下流の地形……4

第2図　上鬼柳Ⅳ遺跡と周辺遺跡位置図…5

第3図　調査区周辺地形図……7

第4図　地層模式図・土層柱状図……10

第5図　上鬼柳Ⅳ遺跡遺構配置図……13

第6図　CⅡe2住居跡……19

第7図　CⅡe2住居跡出土遺物……20

第8図　畑地跡(1)……22

第9図　畑地跡(2)……23

第10図　土坑(1)……27

第11図　土坑(2)……28

第12図　土坑(3)……33

第13図　土坑(4)……34

第14図　土坑(5)……38

第15図　土坑(6)……41

第16図　土坑(7)……44

第17図　土坑(8)……47

第18図　土坑(9)……50

第19図　土坑(10)……53

第20図　土坑(11)……55

第21図　土坑(12)……57

第22図　土坑(13)……60

第23図　土坑(14)……63
第24図　土坑(15)……66
第25図　土坑(16)……68
第26図　土坑(17)……71
第27図　土坑(18)……74
第28図　土坑(19)……77
第29図　土坑(20)……80
第30図　土坑(21)……83
第31図　土坑(22)……86
第32図　土坑(23)……89
第33図　土坑(24)……93
第34図　土坑(25)……94
第35図　土坑(26)……96
第36図　土坑(27)……100
第37図　土坑(28)……103
第38図　土坑(29)……105
第39図　土坑(30)……108
第40図　土坑(31)……111
第41図　土坑(32)……114
第42図　土坑(33)……117
第43図　土坑(34)……119
第44図　土坑(35)……123
第45図　土坑(36)……125
第46図　土坑(37)……127
第47図　土坑(38)……129
第48図　陥し穴状遺構(1)……132
第49図　陥し穴状遺構(2)……135
第50図　陥し穴状遺構(3)……138
第51図　陥し穴状遺構(4)……140
第52図　陥し穴状遺構(5)……142
第53図　陥し穴状遺構(6)……144
第54図　遺構(1)……145
第55図　遺構(2)……152
第56図　遺構(3)……153
第57図　遺構外出土遺物　土器(1)……157
第58図　遺構外出土遺物　土器(2)・土製品…158
第59図　遺構外出土遺物　石器(1)……159
第60図　遺構外出土遺物　石器(2)……160
第61図　土坑の底部施設形態……165

表

第１表　周辺の遺跡一覧表……12
第２表　畝溝の規模……24
第３表　底径による分類……162
第４表　深さによる分類……162
第５表　土坑の底部施設形態別一覧表……162
第６表　土坑の規模と形態の関係……163
第７表　土坑一覧表……166
第８表　陥し穴状遺構一覧表……170
第９表　土器観察表……172
第10表　石器計測表……176

写真図版

写真図版 1　空中写真 ……195
写真図版 2　遺構群・基本層序等 ……196
写真図版 3　CⅡe2住居跡 ……197
写真図版 4　畑地跡(1) ……198
写真図版 5　畑地跡(2) ……199
写真図版 6　土坑(1) ……200
写真図版 7　土坑(2) ……201
写真図版 8　土坑(3) ……202
写真図版 9　土坑(4) ……203
写真図版10　土坑(5) ……204
写真図版11　土坑(6) ……205
写真図版12　土坑(7) ……206
写真図版13　土坑(8) ……207
写真図版14　土坑(9) ……208
写真図版15　土坑(10) ……209
写真図版16　土坑(11) ……210
写真図版17　土坑(12) ……211
写真図版18　土坑(13) ……212
写真図版19　土坑(14) ……213
写真図版20　土坑(15) ……214
写真図版21　土坑(16) ……215
写真図版22　土坑(17) ……216
写真図版23　土坑(18) ……217
写真図版24　土坑(19) ……218
写真図版25　土坑(20) ……219
写真図版26　土坑(21) ……220
写真図版27　土坑(22) ……221
写真図版28　土坑(23) ……222
写真図版29　土坑(24) ……223
写真図版30　土坑(25) ……224
写真図版31　土坑(26) ……225
写真図版32　土坑(27) ……226
写真図版33　土坑(28) ……227
写真図版34　土坑(29) ……228
写真図版35　土坑(30) ……229
写真図版36　土坑(31) ……230
写真図版37　土坑(32) ……231
写真図版38　土坑(33) ……232
写真図版39　土坑(34) ……233
写真図版40　土坑(35) ……234
写真図版41　土坑(36) ……235
写真図版42　土坑(37) ……236
写真図版43　土坑(38) ……237
写真図版44　土坑(39)・陥し穴状遺構(1) …238
写真図版45　陥し穴状遺構(2) ……239
写真図版46　陥し穴状遺構(3) ……240
写真図版47　陥し穴状遺構(4) ……241
写真図版48　陥し穴状遺構(5) ……242
写真図版49　陥し穴状遺構(6) ……243
写真図版50　陥し穴状遺構(7) ……244
写真図版51　溝跡(1) ……245
写真図版52　溝跡(2) ……246
写真図版53　溝跡(3) ……247
写真図版54　CⅡe2住居跡出土遺物(1) …248
写真図版55　CⅡe2住居跡出土遺物(2) …249
写真図版56　土坑出土遺物(1) ……250
写真図版57　土坑出土遺物(2) ……251
写真図版58　土坑出土遺物(3) ……252
写真図版59　土坑出土遺物(4) ……253
写真図版60　土坑出土遺物(5) ……254

写真図版61　土坑出土遺物(6) ……255
写真図版62　土坑出土遺物(7) ……256
写真図版63　土坑出土遺物(8) ……257
写真図版64　土坑出土遺物(9) ……258
写真図版65　土坑出土遺物(10) ……259
写真図版66　土坑出土遺物(11) ……260
写真図版67　陥し穴状遺構・溝跡出土遺物…261
写真図版68　遺構外出土遺物　土器(1) …262
写真図版69　遺構外出土遺物　土器(2) …263
写真図版70　遺構外出土遺物　石器(1) …264
写真図版71　遺構外出土遺物　石器(2) …265

Ⅰ．調査に至る経過

東北横断自動車道秋田線は、北上市から和賀町・湯田町を経由して秋田市に至る総延長107㎞の高速道路である。このうち、第９次・10次施行命令区間は北上ジャンクションから秋田県境までの延長33.9㎞である。

これに関連する埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行っており、日本道路公団仙台建設局との間でその取り扱いについて協議された。協議の経過は以下の通りである。

昭和63年４月13日付け　「仙建北工第35号」による分布調査の依頼

５月25日付け　「教文第117号」による分布調査結果の解答

昭和63年９月９日付け　「教文第320号」による平成元年度発掘調査事業の照会

９月16日付け　「仙建北工第515号」による平成元年度発掘調査事業の回答

昭和63年12月27日及び平成元年１月21日　日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の３者による埋蔵文化財調査に関する協議

これにより、岩手県教育委員会は調整のうえ、柳上遺跡、岩崎台地遺跡群、岩崎城西遺跡、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡、石曽根遺跡、月館跡、八幡館跡、八幡野Ⅱ遺跡、田中館跡、越中畑Ⅴ遺跡の13遺跡、92,000㎡の調査を岩手県文化振興事業団の平成元年度委託事業にすることとした。

これをうけて、当埋蔵文化財センターは、平成元年４月１日付け委託契約により発掘調査に着手したものである。しかし、梅ノ木台地Ⅱ遺跡と越中畑Ⅴ遺跡の調査は、用地の買収未了や保安林解除の遅延により次年度以降に実施することとした。また、柳上遺跡、梅ノ木台地Ⅰ遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡は、同様の理由により調査区の一部を次年度の継続調査とした。これにともない田中館跡と八幡野Ⅱ遺跡の調査面積を増加することとした。

平成２年１月10日　日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の３者による埋蔵文化財調査に関する協議

平成２年３月２日付け「教文第731号」による平成２年度埋蔵文化財調査事業の通知

これにより、柳上遺跡、上鬼柳Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡、岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡、兵庫館跡、上反町遺跡、観音館跡、煤孫遺跡、法量野Ⅰ遺跡、中屋敷、林崎館跡、本郷遺跡、石曽根遺跡、八幡野Ⅱ遺跡、田中館跡、越中畑Ⅴ遺跡の20遺跡、130,700㎡の調査を実施することとなり、平成２年４月１日付け契約により発掘調査に着手した。

平成２年６月27日付け「教文257号」による平成２年度発掘調査遺跡の変更の通知

これにより、新たに岩崎台地遺跡群のＭＥ64－2316とＭＥ64－2288を追加し、今年度調査予

定の梅ノ木台地II遺跡、兵庫館跡、中屋敷遺跡は次年度に繰り越すこととした。また、観音館跡、上反町遺跡内の未買収地部分は次年度の継続調査とした。なお、法量野Ⅰ遺跡については粗掘だけとし、精査を次年度に繰り越すこととした。

平成２年11月26日付け「財岩文141号」による平成２年度発掘調査事業の調整の依頼

これにより、一部精査未了の柳上遺跡、上鬼柳Ⅰ遺跡、岩崎台地遺跡群、煤孫遺跡は次年度の継続調査とした。

II．遺跡の地形と環境

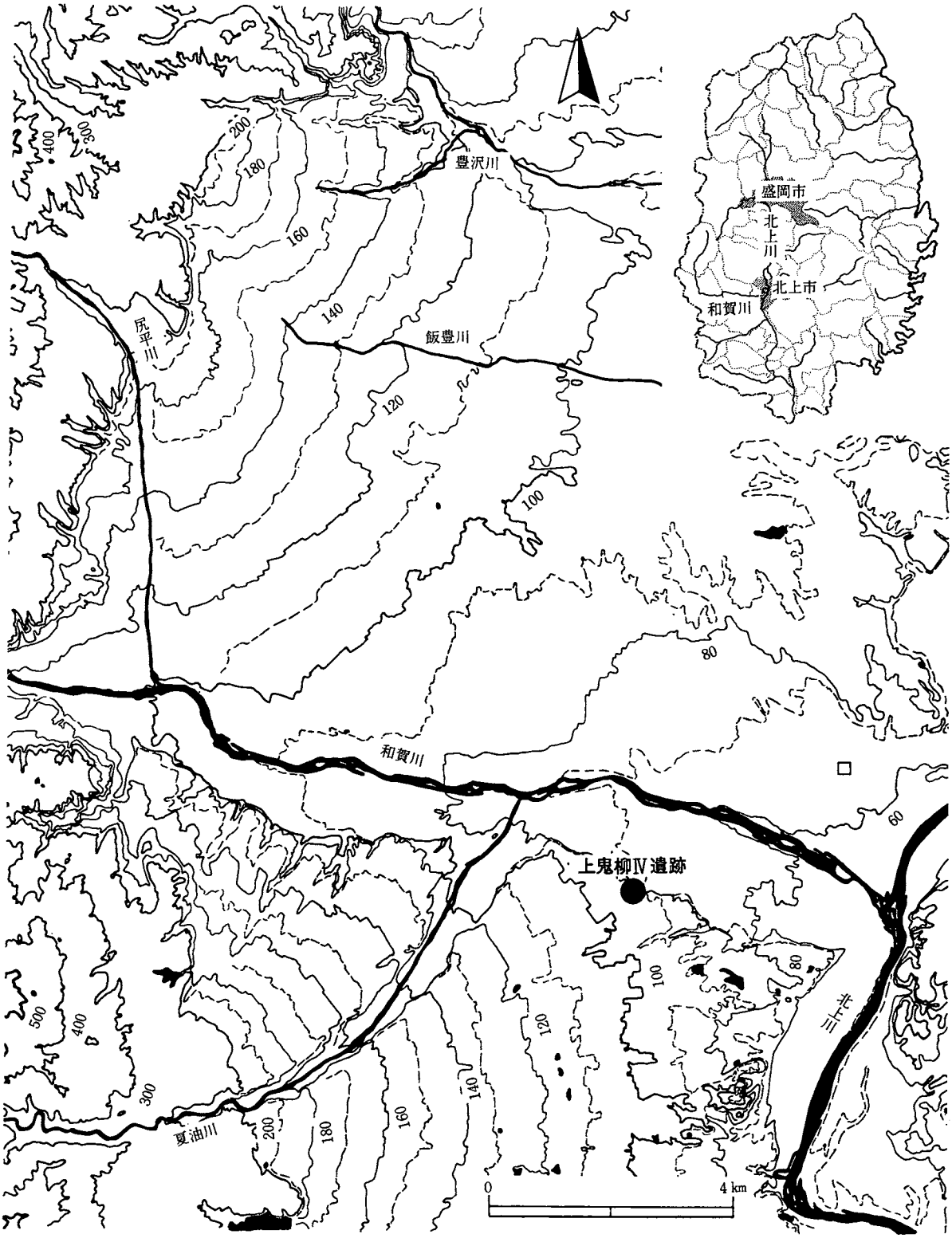
1．位置と立地

上鬼柳IV遺跡は岩手県北上市鬼柳町上鬼柳第２地割15ほかに所在し、東日本旅客鉄道東北本線北上駅の西南西約4.3kmに位置している。地形図上では、国土地理院発行の５万分の１地形図「北上」ＮＪ-54-14-13（一関13号）の図幅に含まれ、北緯39度16分35秒、東経141度３分52秒付近に位置する。

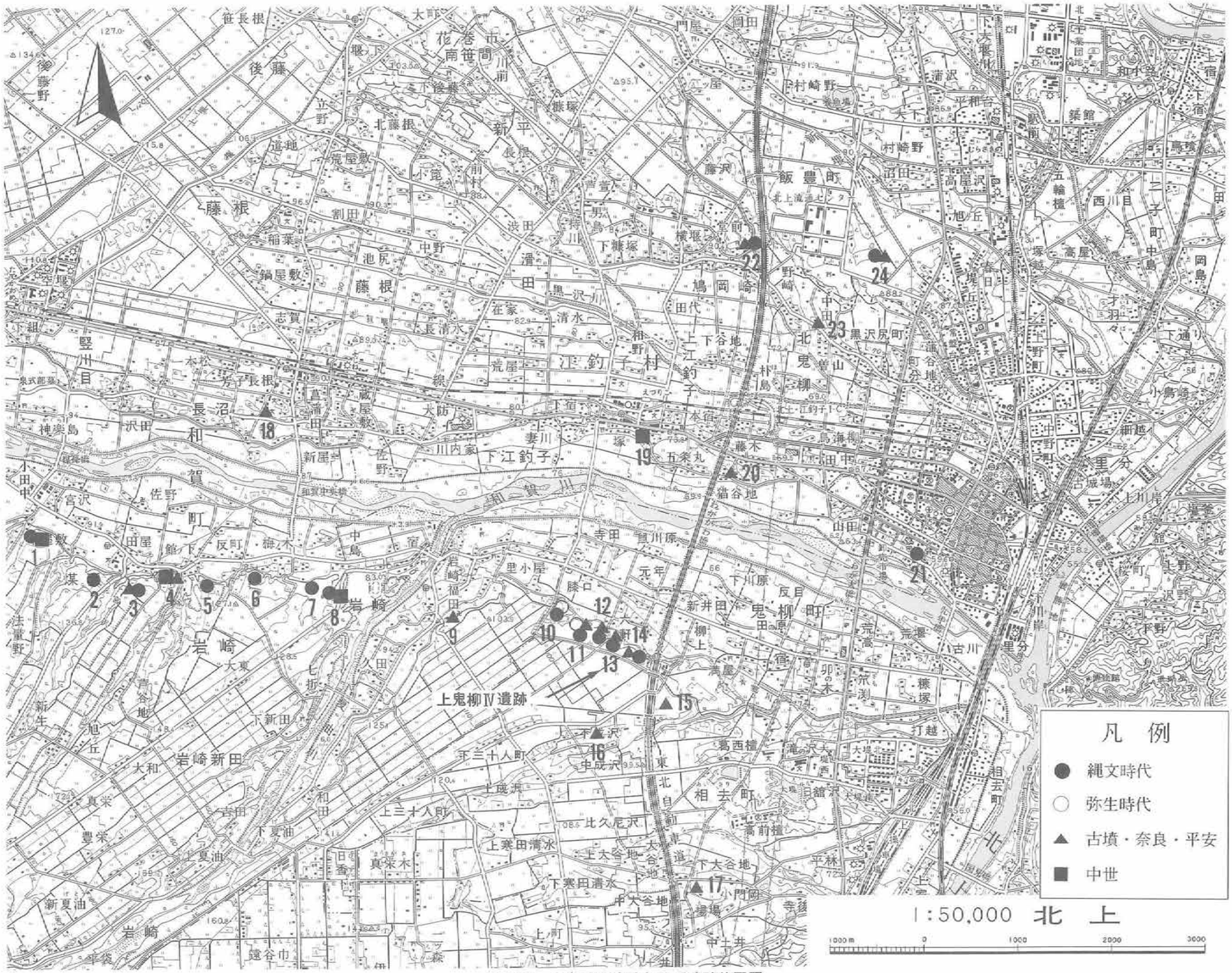
本遺跡が所在する北上市は、盛岡の南方約64km、岩手県南部の西側にある。市の東側を北上川が南流し、市内南東部で最大支流和賀川と合流する。また、東北本線・東北新幹線・国道４号線・東北縦貫自動車道が南北に縦断し、秋田県と岩手県を結ぶ国道107号線が東西に横断している。北側に花巻市、西側に沢内村・湯田村、南側に胆沢町・金ケ崎町・江刺市、東側に東和町が隣接している。

北上市は、岩手県で最も広い平野である北上盆地のほぼ中央に位置し、東側は古生代、中生代の岩石が分布する北上山地、西側には新生代になってから形成された奥羽山脈が南北に連なる。盆地西端部には、急激に成長した奥羽山脈側からの河川によって大量の土砂が供給され、多くの扇状地が形成されている。北上市の市街地はそれらの扇状地が開析されてできた段丘上に広がる。それらの段丘は高位から西根段丘、村崎野段丘、金ケ崎段丘、河岸平野に分類されており、西根段丘は盆地内に残丘として残り、ほとんどは東西両山地の山麓部に分布する。村崎野段丘は花巻市飯豊、中笹間、北上市村崎野、相去、煤孫に分布し、村崎野浮石を含む火山灰がおおっている。金ケ崎段丘は扇状地状の地形面のほとんどで、後藤野、岩崎新田に広がる地形面がそれである。この段丘が北上市付近では最も広く分布している。河岸平野は北上川、和賀川とそれら支流に沿って分布し、地表には旧河道の跡が網目状に残っており、自然堤防と呼ばれる微高地上には住居が並んでいる。特に和賀川の右岸の段丘は明瞭な崖(比高20～30m)に区切られており、縄文・平安時代の遺跡の多くはこの段丘上に分布している。

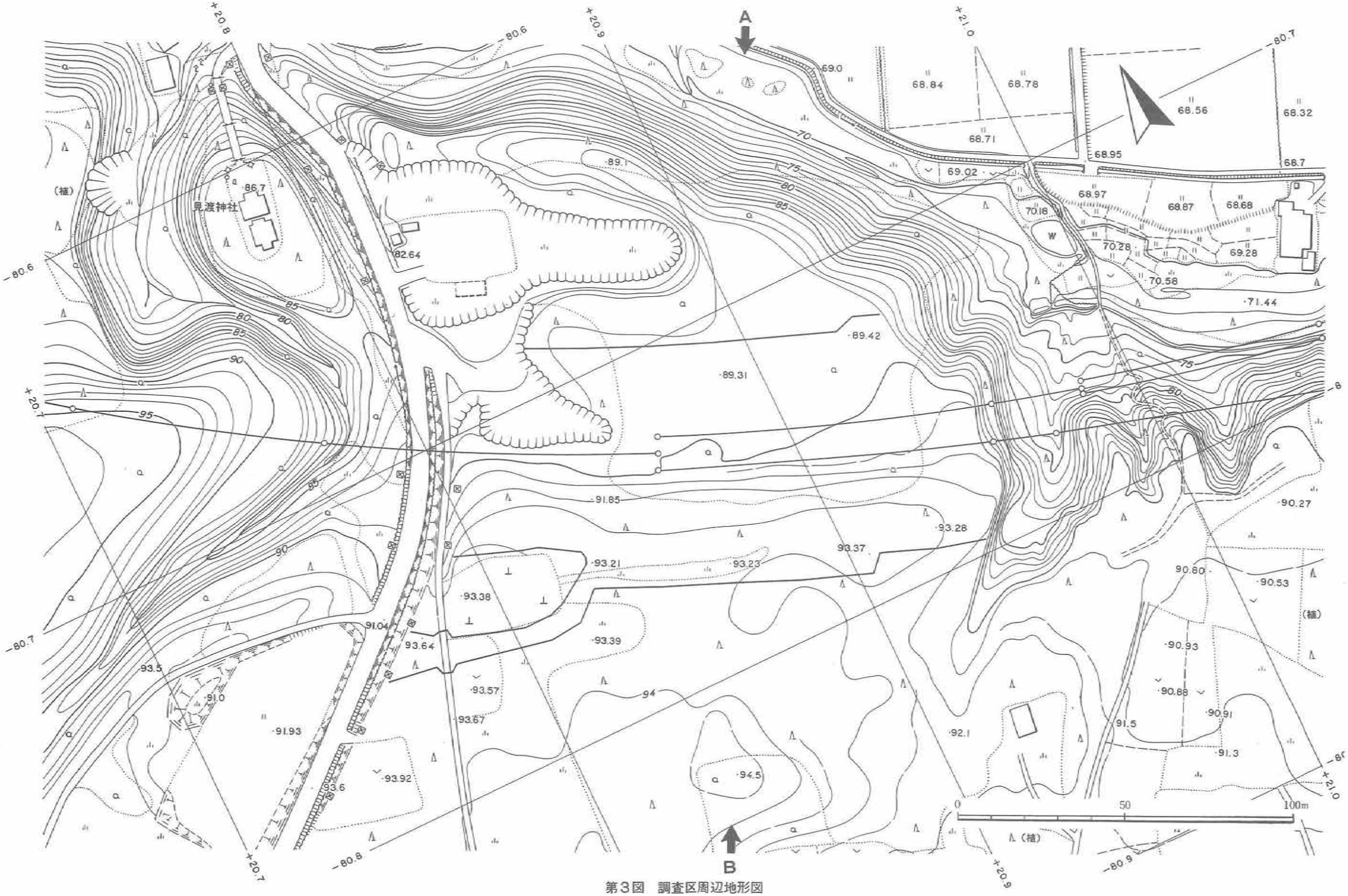
本遺跡も和賀川右岸の段丘上に立地しており、この段丘と和賀川の現河床との比高は25m、下位の段丘面とは20mで、標高は89m～93mである。調査区内の段丘面は上位、下位の二面に分けられ、上位面は村崎野段丘、下位面は金ケ崎段丘に相当する。上位面と下位面の比高は４～５mで、緩やかな崖で区切られており、両面とも現況は山林である。遺構のほとんどは上位面から検出されている。



第１図　和賀川下流の地形



第2図　上鬼柳Ⅳ遺跡と周辺遺跡位置図



第３図　調査区周辺地形図

2．周辺の地形（和賀川下流域）

和賀川は奥羽山脈の和賀岳、高下岳の麓よりほぼ南北に流れ、沢内盆地を滋養する。湯田町川尻で東に向きを変え、深い谷を削る。湯田ダムはこの谷の出口部分に建設されている。その後北上市和賀町横川目付近で山地を離れ平野部をゆっくり東流したのち、北上市南東部で北上川と合流する。大きな支流は上流から横川、本内川、下前川、左草川、鬼ケ瀬川、南本内川、北本内川、鈴鴨川、尻平川、夏油川がある。下流にある尻平川、夏油川は他の支流とは異なり、一度平野部に出てから和賀川と合流する。そして、山地からの出口にあたる北上盆地の西縁部に扇状地を形成する。しかし本流である和賀川は大きな扇状地を形成することなく、両支流の扇状地の扇端部を浸食している。それは、和賀川は広い流域を持ち、大量の砂礫の供給が可能であるものの、上流の沢内盆地を流れるうちにそれらの砂礫を落としてしまい下流まで運ばれるものが少ないからと考えられる。

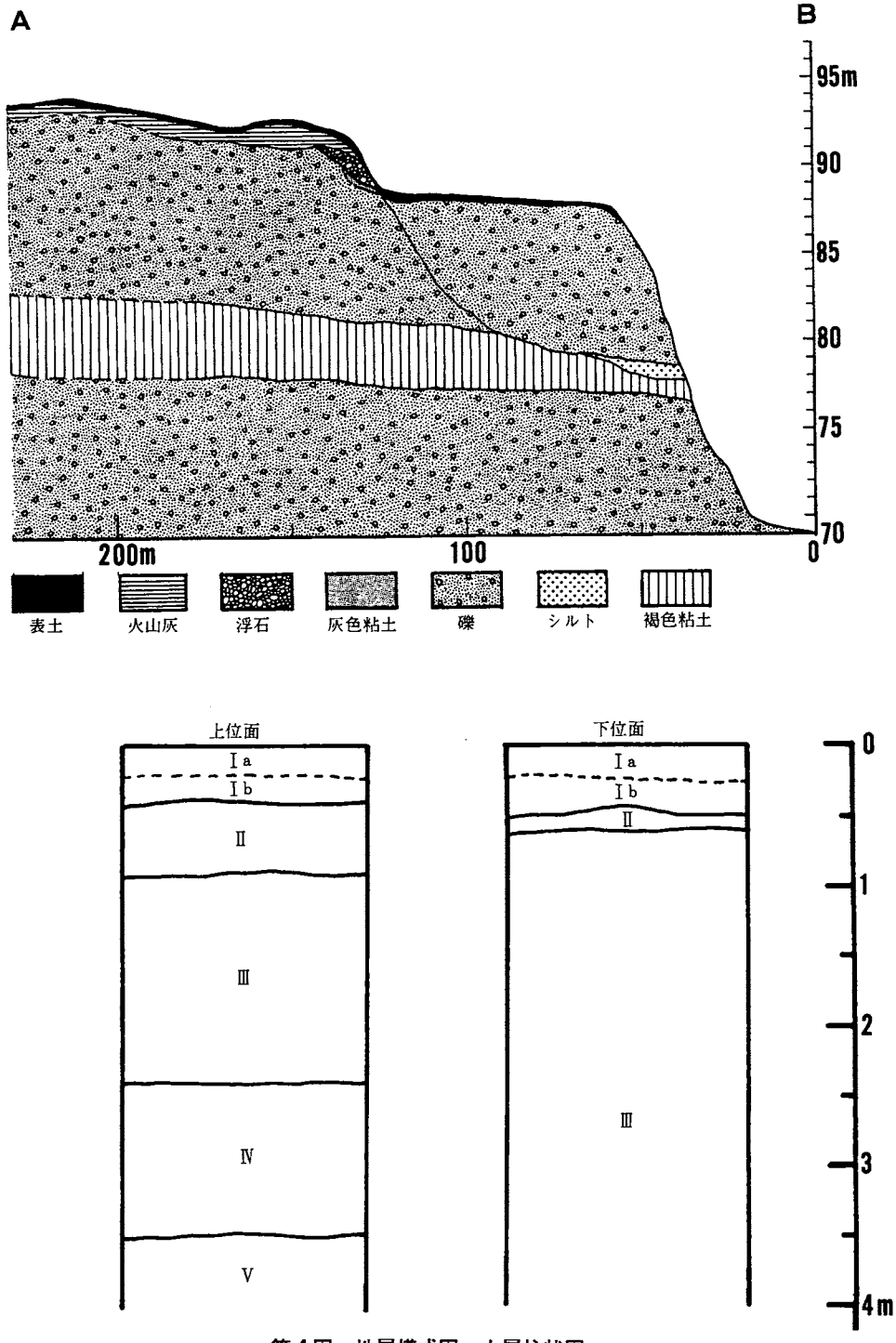
夏油川の上流部には焼石岳、牛形山、駒ヶ岳の火山があり、周囲に火山灰や浮石等を噴出している。特に北上市の村崎野、相去町に分布している浮石層は層厚が３ｍにもなるが、扇状地状を示す地形面は火山灰に蔽われない。和賀川の南岸と北岸では段丘の発達に差がある。南岸には沖積平野と比高が20～30ｍの急崖によって区切られた段丘面が広がる。段丘面上には崖も見当たらず単一の段丘のようだが、崖に近い所に幅の狭い段丘面が僅かにみられる。北崖は比高数ｍの崖で区切られる複数の段丘が発達しており、南岸ほど明瞭な急崖はみられず、和賀川が南に偏って流れたことが多かったことを示している。それらの段丘を浸食してできた河岸平野上には流路の変遷の後である弧状の旧河道が網の目のように分布し、主に水田に利用されている。旧河道に沿って並ぶ自然堤防などの微高地は宅地や畑地に利用されているが、現在は水田造成、宅地造成といった開発によって改変されている。また段丘を開析した沢が沖積平野に出てくる所には扇形の崖錐がみられ、宅地等に利用されている。

3．基本層序

本遺跡の基本層序は、南側の上位面と北側の下位面ではそれぞれ様相を異にしている。前述のとおり上位面が村崎野段丘、下位面が金ケ崎段丘に相当しており、それぞれの地点で層序を観察した。概略は以下のとおりである。

〈上位面・村崎野段丘相当〉

Ⅰ層　黒褐色～褐色シルト　表土である。粘性はなく、ほとんど礫を含まない、Ⅰａは黒褐色土主体で構成され、Ⅰｂは黒褐色土に褐色土が混入しⅡ層へと漸移的に変化する。層厚20cm～35cmで上位面全面を覆う。



第4図　地層模式図・土層柱状図

II層　褐色火山灰　層厚５～50cmで黒沢尻火山灰に相当する。堅くしまる。

III層　黄褐色浮石　層厚50～150cmで村崎野浮石に相当する。斜面寄りに沿って堆積し堅くしまる。

IV層　にぶい黄褐色粘土　層厚30～110cmで細砂を含みあまりしまっていない。

V層　砂礫層　最大径30cmの円礫を含む。遺構はこの層まで掘りこまれている。

〈下位面・金ケ崎段丘相当〉

Ｉ層　黒褐色～黒色シルト　表土である。粘性はなく大量の円礫を含む。Ｉａは黒褐色土主体で構成され漸移的に黒色のＩｂに変化する。層厚は40～50cmで下位面全面を覆う。

II層　褐色砂質シルト　層厚３～10cmで礫の混入がほとんどない。

III層　砂礫層　層厚５ｍ以上で段丘を構成する礫層である。

４．周辺の遺跡

発掘調査された遺跡に限定し、本遺跡を含めて和賀川周辺の遺跡について概観する。遺跡位置図を第２図に、その内容を第１表に掲載した。

和賀川左岸では、中位段丘やその縁辺部および開析された小支谷沿いに縄文時代の遺跡が比較的多く分布し、河岸低地にも若干認められる。調査された主な遺跡としては鳩岡崎遺跡（縄文・奈良・平安時代の竪穴住居跡）、藤沢遺跡（平安時代の竪穴住居跡、溝状土坑）、九年橋遺跡（縄文晩期）などがあげられる。また、低位段丘上や低位段丘に沿って河岸低地形成された自然堤防上には、奈良時代から平安時代にかけての遺跡が多く分布する。調査された主な遺跡としては下谷地遺跡（縄文土器、土師器、須恵器）、長沼古墳群（古墳13基、鉄刀、勾玉、切子玉など）、猫谷地古墳群、五条丸古墳群などがあげられる。

和賀川右岸では、丘陵縁辺や段丘上に開析された支谷に沿って、縄文時代から平安時代までの遺跡が分布し、段丘の北川縁辺部には湧泉や深く入り込んだ沢、急崖等を利用した城館遺跡が分布している。調査された主な遺跡としては、段丘構成層から旧石器が出土している和賀仙人遺跡（旧石器の散布地）、下岩沢Ｉ遺跡（集落跡、土坑、縄文土器、弥生土器）、梅ノ木遺跡（縄文・古代・中世の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、縄文土器）、成沢遺跡（平安時代の竪穴住居跡、土師器）、中位段丘上に立地する下成沢遺跡（旧石器、縄文土器、土師器）、上大谷地遺跡（平安時代の竪穴住居跡、縄文土器、土師器）などがあげられる。

また、平成元年度からは本遺跡も含めて東北横断自動車道秋田線建設関連の遺跡発掘調査が始まり、和賀川南岸の低位段丘の縁辺部に立地する遺跡が調査された。その結果、柳上遺跡（縄文・平安時代の竪穴住居跡、土坑）、上鬼柳Ｉ遺跡（弥生時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、陥し穴）、上鬼柳II遺跡（弥生・平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴）、上鬼柳III遺跡（縄

文、平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、周溝、土坑、陥し穴)、上鬼柳IV遺跡（本遺跡)、岩崎台地遺跡群（縄文・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、陥し穴、方形周溝、塚、溝跡)、岩崎城西遺跡（溝跡、柱穴列、炭窯跡)、梅ノ木台地Ⅰ遺跡（平安時代の竪穴住居跡、陥し穴、溝跡）兵庫館跡（建物跡)、上反町遺跡（土坑、炭窯跡)、観音館跡（掘立柱建物跡、土坑、陥し穴、溝跡)、煤孫遺跡（縄文・平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴、溝跡)、法量野Ⅰ遺跡（陥し穴)、林崎館跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴、溝跡)、本郷遺跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴、塚)、石曽根遺跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴)、月館跡（堀跡、柵列)、八幡館跡（平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴)、八幡野II遺跡（平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴)、田中館跡（土坑）などの遺構が発見されている。

第１表　周辺の遺跡一覧表

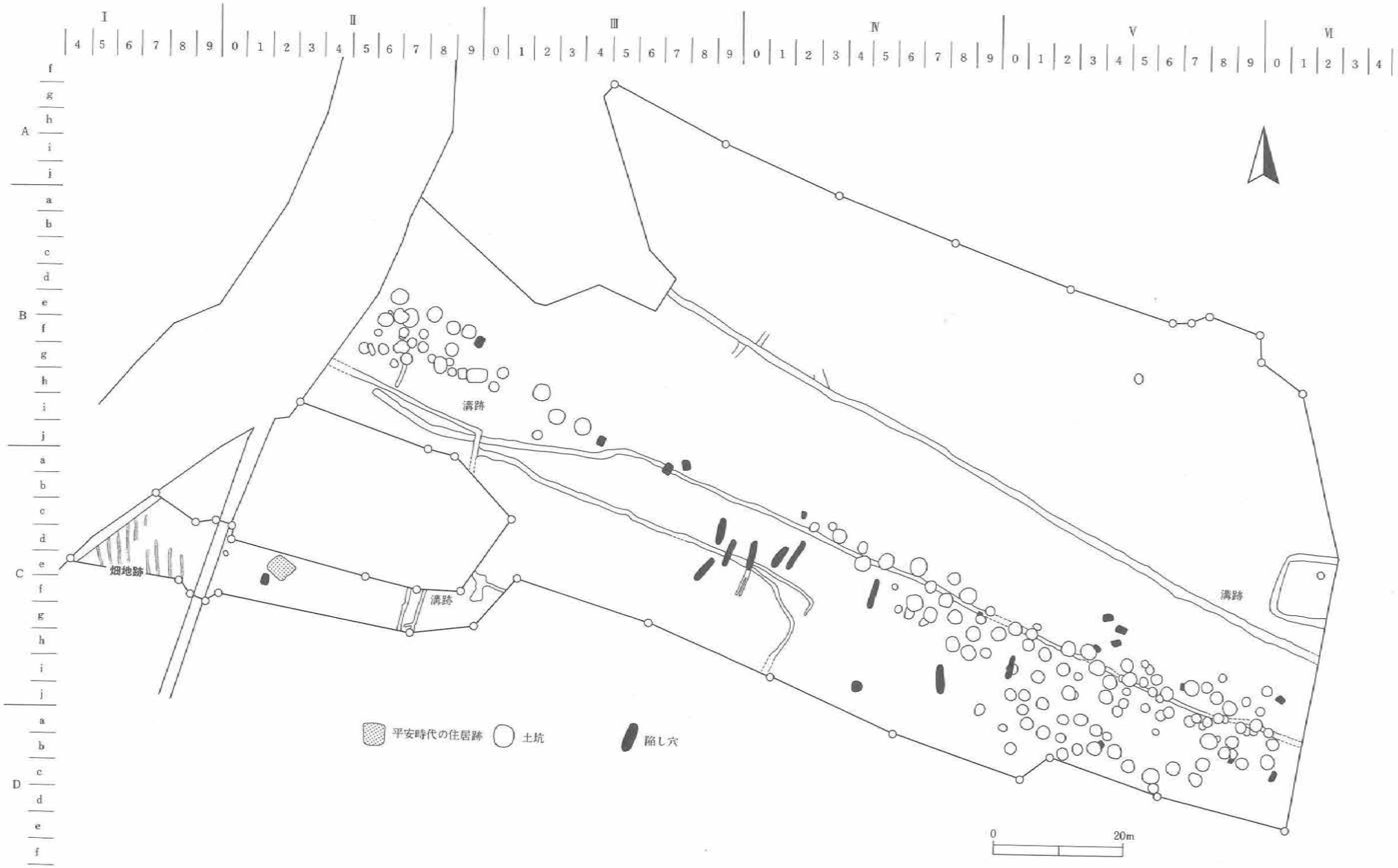
番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	林崎館	7	梅ノ木台地Ⅰ	13	上鬼柳Ⅳ	19	五条丸館
2	法量野Ⅰ	8	岩崎城西	14	柳上	20	猫谷地古墳群
3	煤孫	9	岩崎台地遺跡群	15	下成沢	21	九年橋
4	観音館	10	上鬼柳Ⅰ	16	成沢	22	鳩岡崎
5	上反町	11	上鬼柳Ⅱ	17	上大谷地	23	下谷地
6	兵庫館	12	上鬼柳Ⅲ	18	長沼古墳群	24	藤沢

参考資料

(1)岩手県土地分類基本調査地形分類図

(2)中川久夫・石田琢二・大池昭二・小野寺信吾・七崎　修・松山　力「北上線沿線の段丘群」「東北大学地質古生物研邦報No.71」Ｐ47～59、1971

(3)中川久夫・石田琢二・佐藤二郎・松山　力・七崎　修「北上川上流沿岸の第四系および地形－北上川流域の第四紀地史（１)」、『地質学雑誌、69』Ｐ163～171、1963



第５図　上鬼柳Ⅳ遺跡遺構配置図

III. 野外調査と整理の方法

1．調査方法

(1)調査区の設定と遺構名

基準点測量を委託し、公共座標軸を利用して調査区を設定した。調査範囲内の長軸に一直線となるように調査区東側に基準点１、同西側に基準点２を設置した。

基１（X＝－80,740,000　Y＝20,912,000）

基２（X＝－80,740,000　Y＝20,820,000）

この２点のうち基１を座標原点とし、原点と基２を結ぶ線と、原点を通りこれと直交する線を基準線とした。これをもとに調査対象区全体を20m毎に大区画した。調査区の表示は、南北は、北からA～Dのアルファベットを、東西は東からⅠ～Ⅵのローマ数字をそれぞれ付し、両者の組み合わせによって大区画名をAⅡ区・BⅢ区のように表した。また、大区画を４m毎に区画し、南北は北からａ～ｊの小文字を、東西は東から０～９の数字を付し、小区画名をAⅡｅ３区・BⅢｆ５区のように表した。

遺構名は検出された調査区名をあて、BⅡｆ７土坑、CⅤｈ３陥し穴状遺構のように命名し、同じ調査区内に同種の遺構が複数存在した場合は、BⅡｆ７①土坑、同②土坑とした。なお、畑地跡は、調査区名をあてず「畑地跡」とした。

(2)粗掘・遺構検出と精査

検出面までの深さ及び層序の確認のため小規模なトレンチを入れ、その後重機を導入して表土を除去した。表土除去後、作業員によって遺構を検出した。遺構検出は、上位面がⅡ層上面、下位面はⅢ層上面で行い、ほとんどの遺構はこの面で確認されている。

検出された遺構は、住居跡は４分法、土坑・陥し穴状遺構は２分法で精査し、畑地跡・溝跡は適宜畦畔を残して埋土を除去した。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影を行った。

遺構内出土の遺物は、埋土では上部・下部に分けて取り上げ、底面出土の遺物は、写真撮影し図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については調査区別に出土した層位を記入して取り上げた。

(3)実測方法・写真撮影

実測は簡易遣り方測量で行った。実測図は20分の１縮尺で平面図と断面図を作成した。また、土坑の底面出土土器やカマドなど細部の実測は10分の１の縮尺で図面を作成した。遺構のレベルは50cm間隔で計測した。なお、遺構中央に木根がある場合には、状況を記録し土層断面図の

作成を省略したものもある。

写真撮影は、6×7㎝版1台（白黒）と35㎜版2台（白黒・カラーリバーサル）の3台を1セットとして使用し、埋土断面・全景・遺物出土状況等を撮影した。

2．室内整理の方法

(1)作業手順

遺物の水洗いと注記の一部を発掘現場で行った。室内整理では、残っている遺物の注記から始め、次いで接合･復元、石膏入れの順で進めた。これらの作業が終わった段階で遺物の仕分･登録を行い、報告書掲載分について写真撮影を行った。その後、遺物実測、土器拓本、遺物・遺構トレースの順に作業を進め、最後に図版と写真図版を作成した。これらの作業と併行して計測、鑑定、原稿作成を行い報告書に掲載した。

(2)遺構

各遺構図版は以下の縮尺を原則としたが、一部には縮尺の変更もあり、図版にはそれぞれスケールや縮尺率を付した。

・竪穴住居跡の平面・断面図…1/40　カマドその他の施設の断面図…1/20

・畑地跡の平面図…1/80　断面図…不定縮尺

・土坑・陥し穴状遺構の平面・断面図…1/50

・溝跡の平面図…不定縮尺　断面図…1/40

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面を基本に1/250の縮尺図を作成し、不定縮尺で掲載した。

(3)遺物

本遺跡から出土した遺物には竪穴住居跡から出土した遺物、土坑から出土した遺物、陥し穴状遺構から出土した遺物、溝跡から出土した遺物、さらに遺構外から出土した遺物の順に一連の遺物番号を付した。

土器については、左上に口径・底径・器高の順にその測定値（㎝）を記した。（　）付の数値は反転実測によって推定した値である。また土坑底面から出土した遺物には右上に“底面”と記した。掲載遺物の縮尺率は次のとおりである。

・土器の実測図…1/4　拓本・土製品・剥片石器・礫石器・鉄製品の実測図…1/2

(4)写真図版

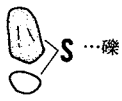
写真の縮尺は遺構・遺物とも不定である。また、遺物の写真番号は遺物図版番号と同一番号とした。

…磁北

…焼土

…炭化物

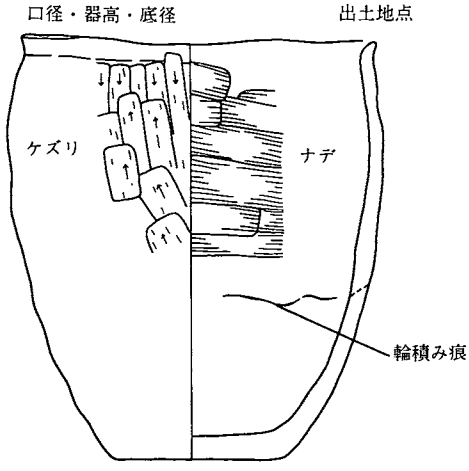
…土器

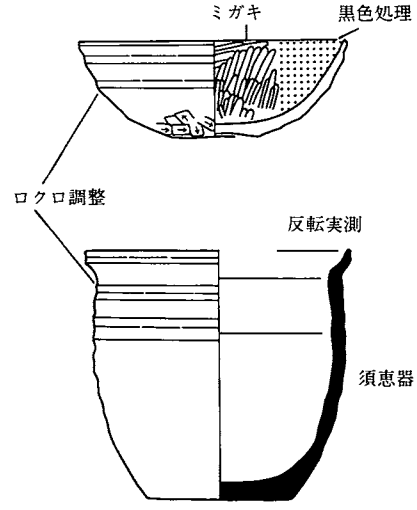


…礫

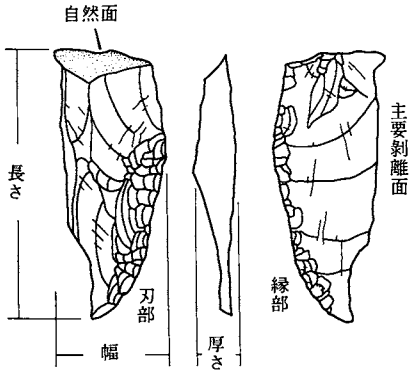
P_1, P_2, P_3 …柱穴又は副穴

土　器

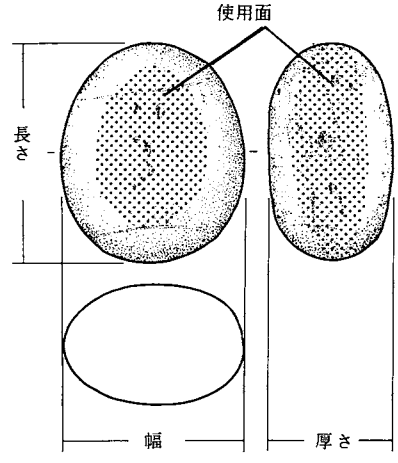




不定形石器



礫石器



スクリーントーン・略号、土器・石器実測図の表し方

IV. 検出された遺構と遺物

検出された遺構は、竪穴住居跡１棟、畑地跡１か所、土坑146基、陥し穴状遺構26基、溝跡15条である。遺構に伴って出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、鉄製品である。土器は縄文時代中期末葉のものが主体である。

１．竪穴住居跡

ＣⅡｅ２住居跡

遺構（第６図．写真図版３）

調査区南西端に近いグリッドＣⅡｅ２、ｅ３、ｆ２にまたがって位置する。検出面はⅡ層上面である。

平面形は西北壁、北東壁に凹凸があるものの長軸3.8～3.3m、短軸3.2mの長方形を示す。壁高は８～16cmとなっているが、表土が20cm程度で現状が畑地あることから削剝を受けている。埋土は暗褐色、褐色の２層で、１層中ににぶい黄橙色の火山灰がブロック状に含まれる。

床はⅡ層の褐色土で構築されしまりが良い。南西壁から１m位の所に比高が僅かに２～３cmだが、長さ１mの段差がある。

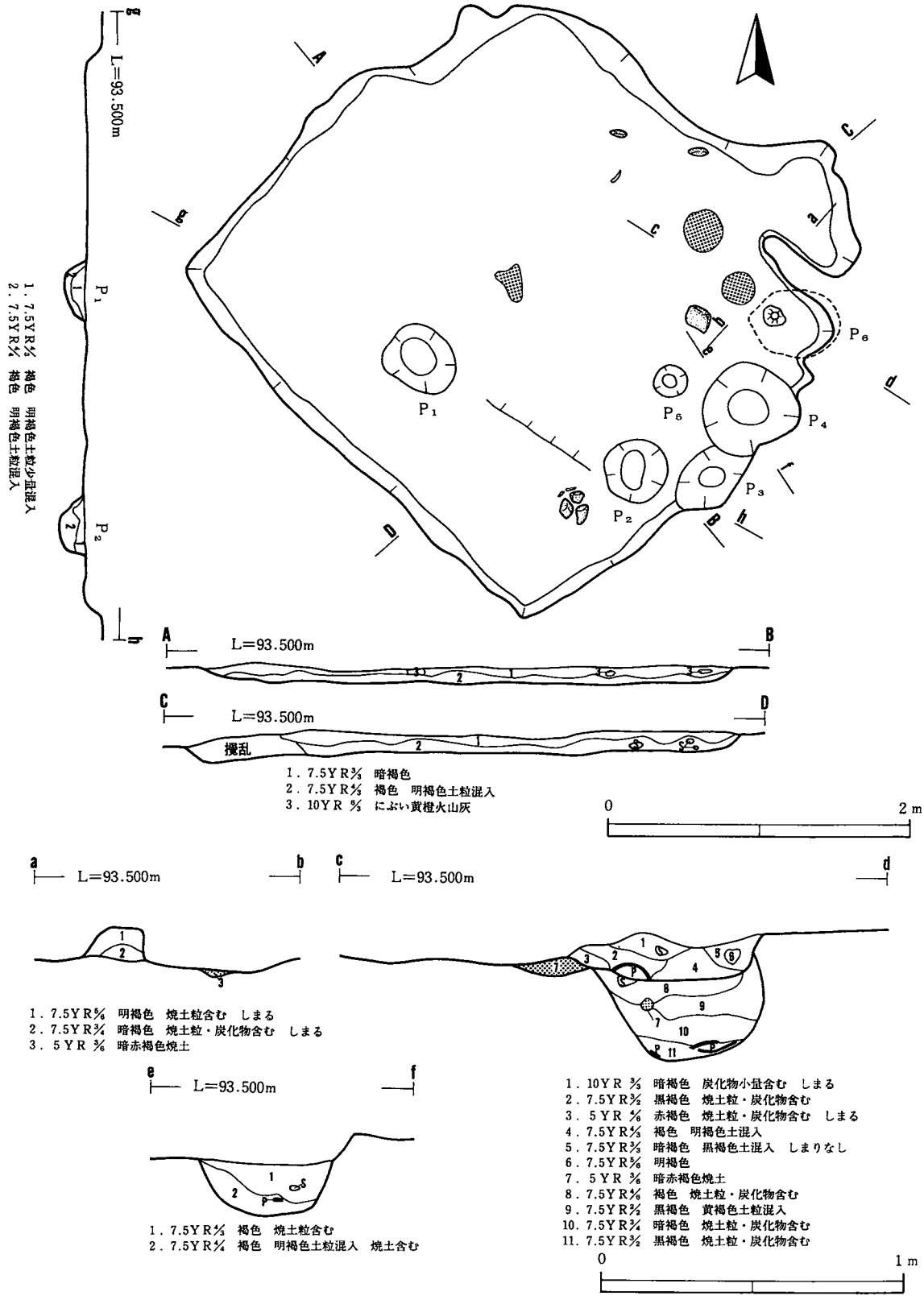
床面からはＰ１～５の土坑が検出されている。いずれも円形か楕円形の平面形を示し、径23～55cm、深さ16～19cmである。位置からＰ１、Ｐ２が主柱穴とみられる。Ｐ４は深さ19cm、断面形が半円形を示し、位置がカマド脇であることから貯蔵穴の可能性がある。

カマドは南東壁の北東隅に構築されており、燃焼部と袖部が検出された。袖部は左側のみの検出で幅24cm、長さ58cm、高さ20cm、明褐色、暗褐色シルトで構築されている。燃焼部の規模は焼土の範囲から推定すると幅が40cm位、奥行80cmで、奥に向かって８cm低くなっている。燃焼部の焼土は袖口付近に径24cmの範囲で広がり、層厚５cmである。支脚は奥壁から70cm手前に位置し、円礫の上に土師器の坏を伏せて使用している。

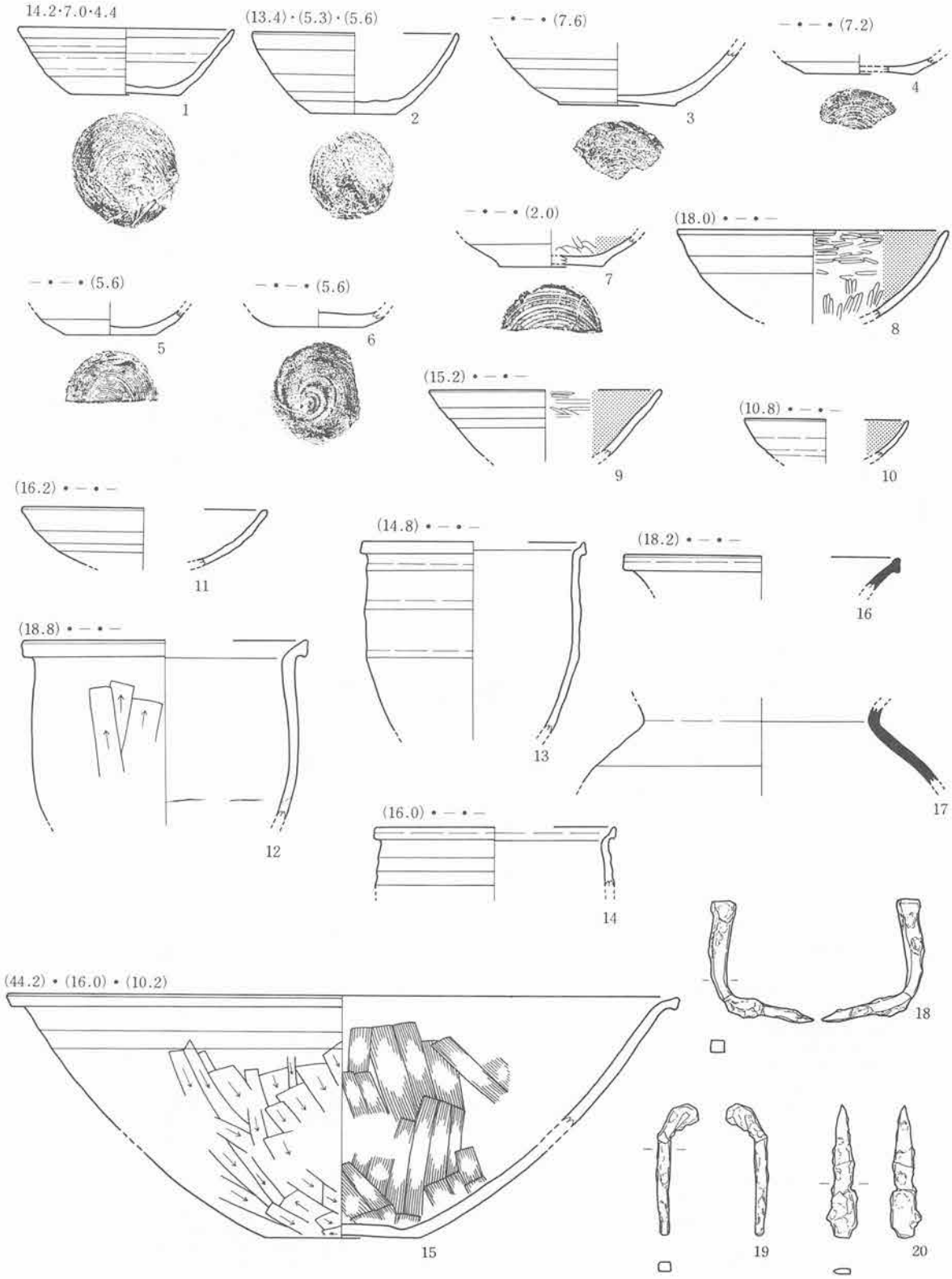
カマド燃焼部の焼土から20cm離れた所と床面中央に現地性の焼土が検出された。前者は径28cm、層厚約５cmである。後者は26×８cmの範囲で層厚は約１cmである。またカマドの燃焼部底からＰ６の土坑が検出された。規模は径56×44cm、深さ33cmで断面形は半円形を示す。北西壁の凸辺や現地性の焼土の位置、床面の段差あるいは土坑の存在からこの住居は拡張に伴ってカマドが作り替えられた可能性がある。

出土遺物（第７図、写真図版54・55）

床面から埋土下位にかけて土師器の坏・甕・鍋と須恵器の甕、鉄製品が出土している。


L=93.500m
P1
P2
P3
P4
P5
P6
A
B
C
D
a
b
c
d
e
f
g
h
撹乱
1．7.5YR3/3 暗褐色
2．7.5YR4/3 褐色 明褐色土粒混入
3．10YR 5/3 にぶい黄橙火山灰
1．7.5YR5/6 明褐色 焼土粒含む しまる
2．7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒・炭化物含む しまる
3．5YR 5/6 暗赤褐色焼土
1．10YR 3/3 暗褐色 炭化物小量含む しまる
2．7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒・炭化物含む
3．5YR 5/6 赤褐色 焼土粒・炭化物含む しまる
4．7.5YR4/3 褐色 明褐色土混入
5．7.5YR3/3 暗褐色 黒褐色土混入 しまりなし
6．7.5YR5/6 明褐色
7．5YR 3/6 暗赤褐色焼土
8．7.5YR4/6 褐色 焼土粒・炭化物含む
9．7.5YR3/2 黒褐色 黄褐色土粒混入
10．7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒・炭化物含む
11．7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒・炭化物含む
1．7.5YR4/3 褐色 焼土粒含む
2．7.5YR4/4 褐色 明褐色土粒混入 焼土含む
0
2 m
1 m

第6図 CⅡe2住居跡



第7図　C Ⅱe 2住居跡出土遺物

土師器

坏（1～11）全てロクロ成形の土器である。1はカマドの支脚に使用されていたもので、完形である。体部は外傾し内面に炭化物が付着する。2は底部～体部片であり、体部は緩く内湾する。3～7は底部片である。1～7の底部切り離しは回転糸切りである。8～11は緩く内湾する体部片である。8・9は内面をミガキ後黒色処理が施され、10は内面を黒色処理のみ施される。

甕（12～14）全てロクロ成形の土器である。小型甕の体部片で、緩く内湾して立ち上がる。口縁部は短く強く外傾する。12は内面をケズリで調整される。

鍋（15）ロクロ成形の土器である。体部は強く外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。体部外面をケズリ内面をナデで調整される。

須恵器

甕（16・17）ともにロクロ成形である。16は口縁部片で短く外反する。17は肩部片で外面は叩き目のうえをロクロで調整している。

鉄製品（18～20）18・19は床面から出土した鉄釘、20は同じく床面から出土した刀子の刃部であり、長さ6.5cm、幅1.5cm、厚さ4mmである。

遺構の時期

出土した土器から推定して平安時代（9世紀末～10世紀）である。

2．畑地跡

遺構（第8・9図、写真図版4・5）

調査区上位面南西の工事用道路最西端に位置する。検出面はII層上面であり、約150m²の範囲に、暗褐色土（I層）中の畝溝に堆積したと思われるにぶい黄橙色火山灰が筋状に列をなして10条検出された。畝溝はII層上面まで掘り込まれている。畝溝の規模は第2表のとおりである。

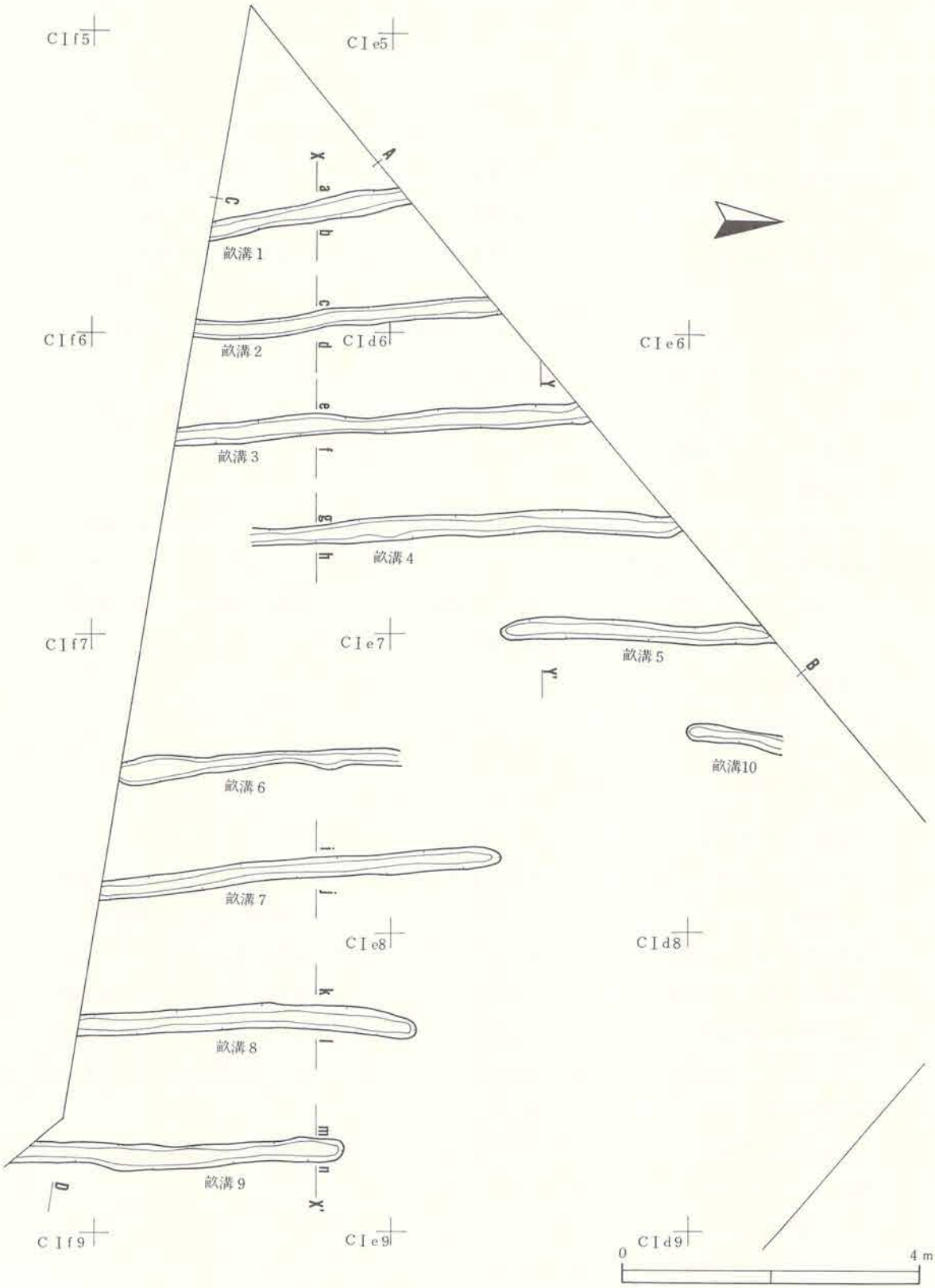
畝溝の長軸方向はいずれもほぼ南北方向であり、断面形はIII形またはU字形である。畝の埋土は、断面の観察から上位に火山灰、下位面に黒褐色土が堆積する。これは畝として盛り上げられた土の一部が流れて畝溝に堆積し、その上に火山灰が堆積したものと考えられる。なお、畑の遺存状態が悪く、火山灰が明瞭に残っているところは少ない。

本遺構の栽培植物の確認に迫るプラント・オパールによる分析を実施した。詳細は後述する資料のとおりである。

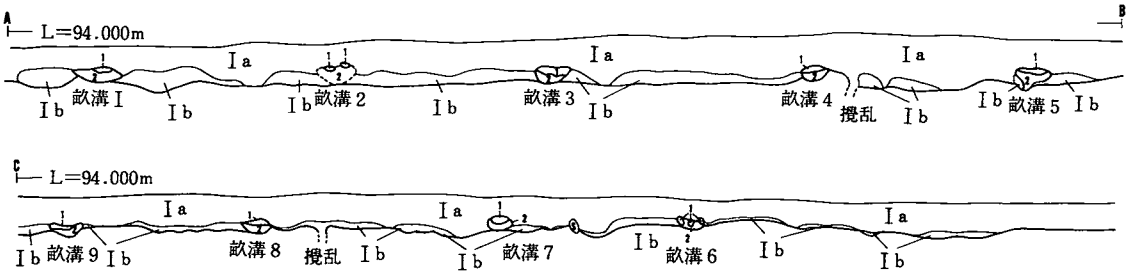
出土遺物はない。

遺構の時期

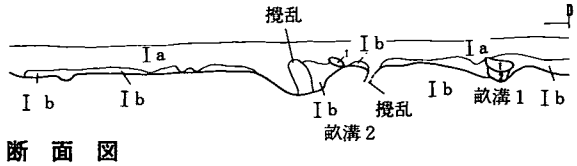
火山灰の鑑定結果から推定して、平安時代の遺構である。


CIf5
CIe5
CIf6
CIe6
CIf7
CIe7
CIe8
CId8
CIf9
CIe9
CId9
畝溝1
畝溝2
畝溝3
畝溝4
畝溝5
畝溝6
畝溝7
畝溝8
畝溝9
畝溝10
A
B
X
X'
Y
Y'
C
D
0
4 m

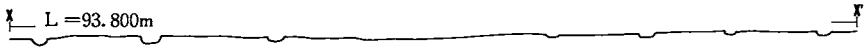
第8図　畑地跡（1）

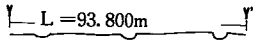


1．10YR 7/2 にぶい黄橙火山灰　黒褐色土少量混入
2．10YR 3/1 黒褐色　しまる

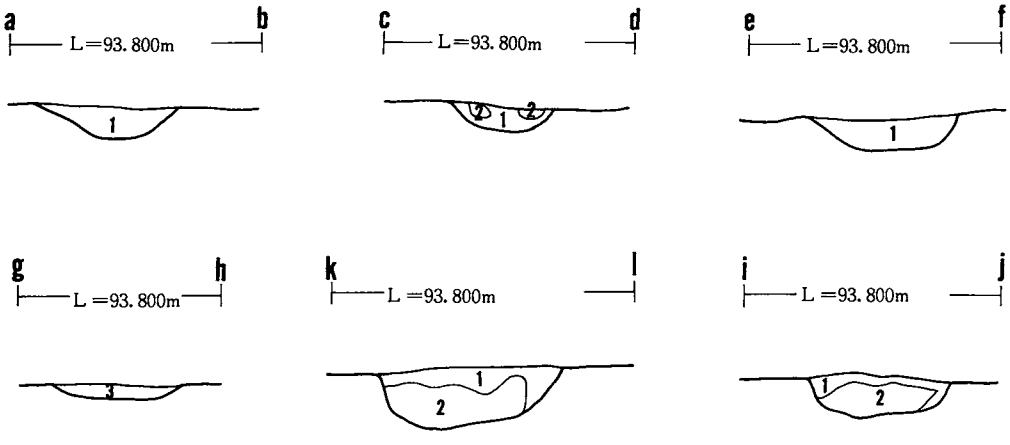


土 層 断 面 図

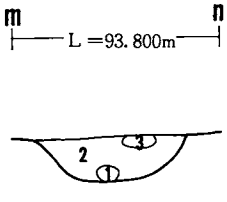




火山灰堆積断面図



1．10YR 3/3　暗褐色　火山灰少量混入
2．10YR 7/2　にぶい黄橙色火山灰　しまる
3．10YR 2/3　黒褐色　火山灰少量混入



畝溝断面

第９図　畑地跡(２)

第２表　畝溝の規模

番号	方向	長さ	幅	深　さ	火山灰の厚さ	東隣畝溝との間層	備　考
No.1	N-10°-W	2 m75cm	20～32cm	最深、断面A-Bで30cm	5 ～ 8 cm	110～125cm	両端が調査区外に延びる。
No.2	N-10°-W	4 m20cm	20～28cm	最深、断面A-Bで30cm	3 ～ 6 cm	105～120cm	両端が調査区外に延びる。
No.3	N- 8°-W	5 m63cm	17～30cm	最深、断面A-Bで28cm	2 ～ 9 cm	110～120cm	両端が調査区外に延びる。
No.4	N- 2°-W	5 m72cm	17～34cm	最深、断面A-Bで24cm	3 ～ 8 cm	110～120cm	北端が調査区外に延びる。
No.5	N-358°-W	3 m54cm	22～30cm	最深、断面A-Bで25cm	3 ～ 9 cm	105～120cm	北端が調査区外に延びる。
No.6	N- 3°-W	3 m65cm	17～35cm	最深、断面C-Dで16cm	1 ～ 4 cm	115～125cm	南壁が調査区外に延びる。
No.7	N- 5°-W	5 m28cm	20～32cm	最深、断面C-Dで15cm	5 ～10cm	150～180cm	南壁が調査区外に延びる。
No.8	N- 2°-W	4 m45cm	28～36cm	最深、断面C-Dで25cm	7 ～12cm	140～150cm	南壁が調査区外に延びる。
No.9	N- 2°-W	3 m78cm	20～36cm	最深、断面C-Dで20cm	5 ～10cm		南壁が調査区外に延びる。
No.10	N-352°-W	1 m32cm	17～24cm	断面に残らず	1 ～ 3 cm		No.6の延長か

3．土坑

ＢⅡｄ６土坑

遺構（第10図、写真図版６）

調査区西端の北西に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部が長軸を北東－南西方向にもつ楕円形で、底部が円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がわずかにくびれる。規模は開口部径274cm×243cm、頸部径220cm×208cm、底部径206cm×203cm、深さは中心部で174cmである。底面はＶ層上面で、中央部に１個とその周辺に４個の副穴がある。Ｐ１は開口部80cm×60cm、底部径68cm×44cm、深さ12cm、Ｐ２～Ｐ５は開口部直径15cm～22cm、底部直径５cm～10cm、深さ18cm～22cmである。底面はＰ１に向かって最大10cm下る。埋土は９層に細分される。上位は黒色土、以下は黒褐色主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれる。また、２・５・８層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第10図、写真図版56）

21～23の土器が出土している。これらのうち21は底面副穴内から、22は埋土中位から、23は埋土上位から出土したものである。21は体部下端の破片で強く内湾し、胎土に繊維が含まれる。地文等は磨滅しており不明瞭である。22はＬＲ単節斜縄文、23は単節の羽状縄文を地文とする体部片である。23の胎土には繊維が含まれる。

これら出土遺物のうち、21・23は第Ⅰ群土器に、22は第Ⅴ群土器に属するものである。

遺構の時期

出土土器から推定して、縄文時代前期前葉の遺構と考えられる。

ＢⅡｄ６①土坑

遺構（第10図、写真図版６）

調査区西端の北西に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。北にＢⅡｄ６②土坑が隣接する。平面形は開口部が長軸を北西－南東方向にもつ不整な楕円形で、底部が円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がわずかにくびれる。規模は、開口部径207cm×155cm、頸部径160cm×127cm、底部径160cm×148cm、深さは中心部で156cmである。底面はⅢ層下面で平坦である。中央部に開口部直径32cm、底部直径28cm、深さ16cmの副穴１個がある。埋土は７層に細分される。上位は黒色土と暗褐色土、中位は黒褐色土、下位は褐色土と黒褐色土主体で構成される。２・３・５層に浮石粒が、１・４・５層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代と考えられる。

ＢⅡｄ６②土坑

遺構（第10図、写真図版６）

調査区西端の北西に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。北にＢⅡｄ６①土坑が隣接する。平面形は開口部・底部が円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部直径55cm、底部直径35cm、深さは中心部で35cmである。底面はⅡ層下面で平坦である。埋土は黒褐色土の単層で直径２cmの円礫・黄褐色土をわずかに含む。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅡｄ６③土坑

遺構（第10図、写真図版６）

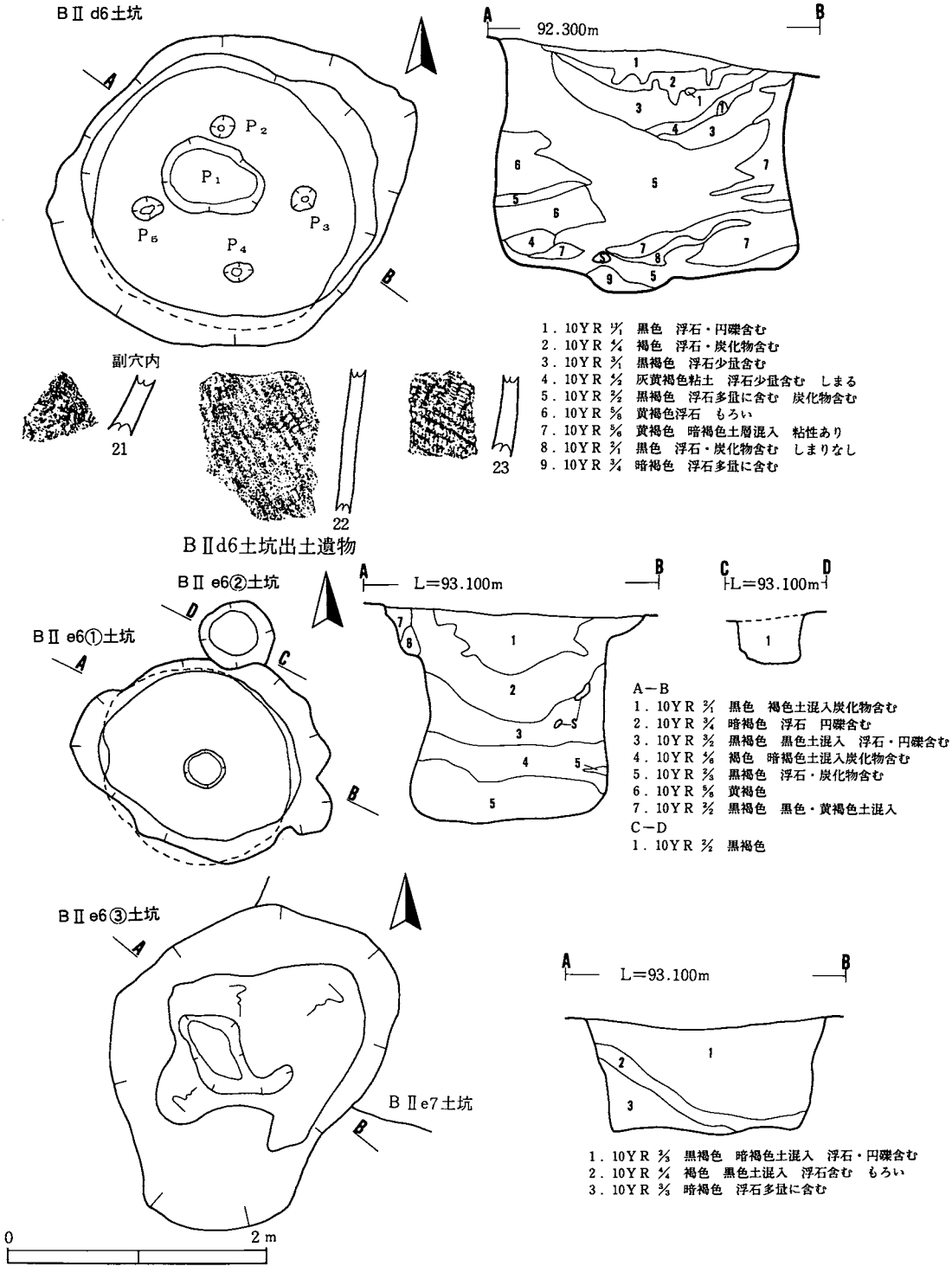
調査区西端の南東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。北東でＢⅡｅ７土坑を切る。平面形は開口部が長軸を北東－南西にもつ楕円形で、底部は不整形である。断面形は浅皿形である。規模は、開口部径250cm×230cm、底部径180cm×150cm、深さは中心部で90cmである。底面はⅢ層で、木根による攪乱のため凹凸が激しい。埋土は３層に細分され、黒褐色土～暗褐色土である。全層に浮石粒を含む。人為的堆積層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

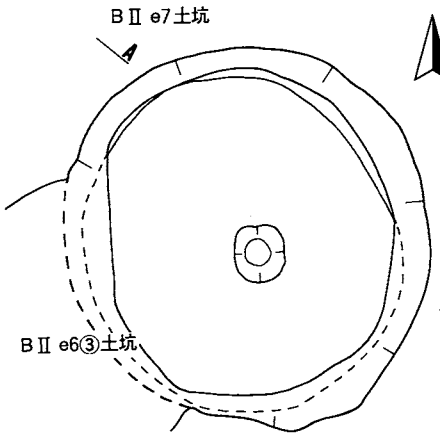
ＢⅡｅ７土坑

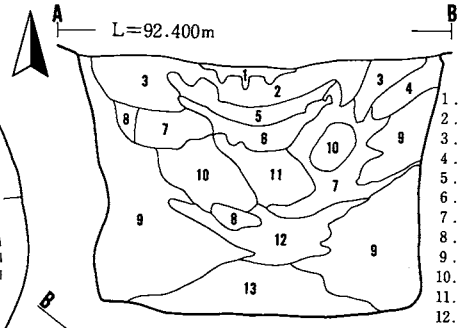
遺構（第11図、写真図版７）

調査区西端の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。南西をＢⅡｅ６③土坑に切られる。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部直径250cm、頸部径217cm×192cm、底部径220cm×210cm、深さは中心部で170cmである。底面はⅤ層上面で、中央部に開口部径38cm×33cm、底部径20cm×17cm、深さ18cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かって最大10cm下る。埋土は13層に細分され、黒褐色土と暗褐色土を主体に構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。浮石粒や炭化物粒が多く含まれる。人為的堆積層である。


BⅡd6土坑
92.300m
1．10YR 2/1 黒色 浮石・円礫含む
2．10YR 3/4 褐色 浮石・炭化物含む
3．10YR 3/1 黒褐色 浮石少量含む
4．10YR 5/2 灰黄褐色粘土 浮石少量含む しまる
5．10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む 炭化物含む
6．10YR 5/8 黄褐色浮石 もろい
7．10YR 5/6 黄褐色 暗褐色土層混入 粘性あり
8．10YR 3/1 黒色 浮石・炭化物含む しまりなし
9．10YR 3/4 暗褐色 浮石多量に含む
副穴内
21
22
23
BⅡd6土坑出土遺物
BⅡe6②土坑
BⅡe6①土坑
L=93.100m
A－B
1．10YR 3/1 黒色 褐色土混入炭化物含む
2．10YR 3/4 暗褐色 浮石 円礫含む
3．10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 浮石・円礫含む
4．10YR 5/8 褐色 暗褐色土混入炭化物含む
5．10YR 3/3 黒褐色 浮石・炭化物含む
6．10YR 5/8 黄褐色
7．10YR 3/2 黒褐色 黒色・黄褐色土混入
C－D
1．10YR 3/2 黒褐色
BⅡe6③土坑
BⅡe7土坑
L=93.100m
1．10YR 3/3 黒褐色 暗褐色土混入 浮石・円礫含む
2．10YR 3/4 褐色 黒色土混入 浮石含む もろい
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石多量に含む
0
2 m

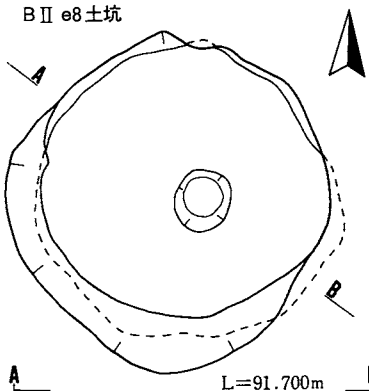
第10図 土坑（1）

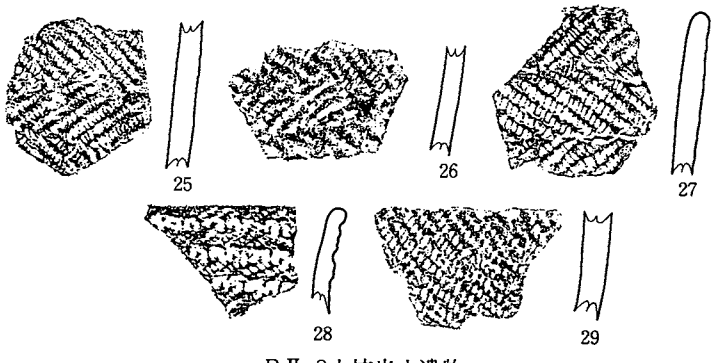




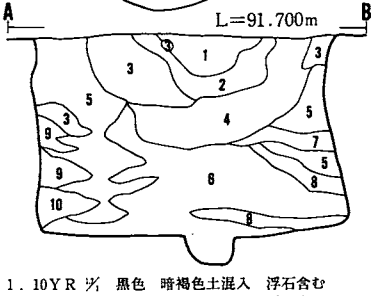
1. 10YR 3/1 黒色
2. 10YR 3/4 暗褐色
3. 10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入
4. 10YR 5/6 褐色 浮石含む
5. 10YR 2/3 黒褐色
6. 10YR 5/8 黄褐色浮石 褐色土混入塊
7. 10YR 5/4 褐色 浮石・炭化物少量混入
8. 10YR 5/6 黄褐色 浮石含む
9. 10YR 5/8 黄褐色浮石 もろい
10. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 浮石含む 固くしまる
11. 10YR 3/2 黒褐色 黒褐色土混入 浮石・炭化物含む
12. 10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む 湿る
13. 10YR 2/3 暗褐色 炭化物含む

BⅡe7土坑出土遺物

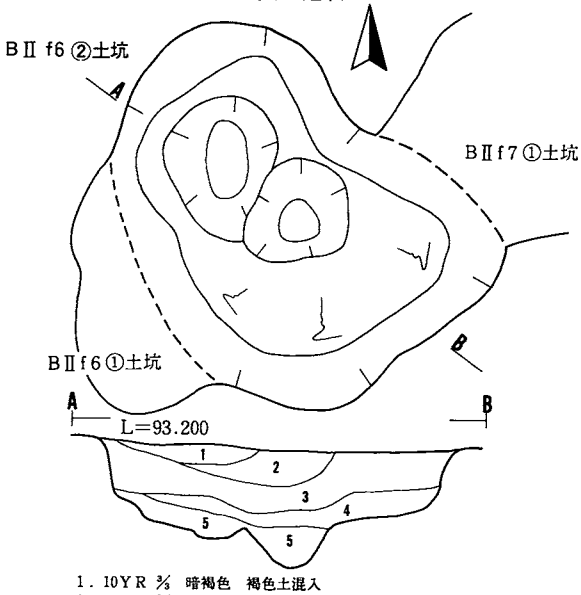




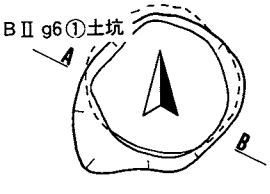
BⅡe8土坑出土遺物

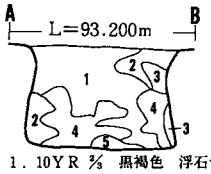


1. 10YR 3/1 黒色 暗褐色土混入 浮石含む
2. 10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
3. 10YR 3/4 褐色 黒色土混入 浮石含む
4. 10YR 3/2 黒褐色 灰黄褐色粘土ブロック混入 浮石多量に含む
5. 10YR 3/1 黒色 暗褐色土混入 浮石少量含む
6. 10YR 4/2 灰黄褐色粘土 浮石・炭化物含む
7. 10YR 3/1 黒褐色 灰黄褐色粘土混入 浮石含む
8. 10YR 3/1 黒褐色 浮石少量含む
9. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
10. 10YR 4/2 灰黄褐色粘土 しまる



1. 10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入
2. 10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入
3. 10YR 5/6 褐色 黒褐色・暗褐色土混入
4. 10YR 3/2 黒褐色・暗褐色・褐色土混入 しまりなし
5. 10YR 5/4 褐色 黒褐色土混入





1. 10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
2. 10YR 4/3 暗褐色
3. 10YR 5/6 褐色 しまる
4. 10YR 3/2 黒褐色 しまりなし
5. 10YR 5/4 褐色 黒褐色土混入 しまる

0 2 m

第11図 土坑（2）

出土遺物（第11図、写真図版56）

埋土から24の体部下端の土器片が出土している。地文はＬＲ単節斜縄文である。器形や胎土ら第II群土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器、遺構の規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢＩＩｅ８土坑

遺構（第11図、写真図版７）

調査区西端の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はIII層上面である。南をＢＩＩｇ７溝に切られる。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がわずかにくびれる。規模は、開口部径225cm×216cm、頸部直径180cm、底部径200cm×194cm、深さは中心部で134cmである。底面はIV層下面でほぼ平坦である。中央部に開口部径42cm×38cm、底部径直径26cm、深さ18cmの副穴があり、底面はＶ層に達する。埋土は10層に細分される。上位は黒色土と黒褐色土、下位は灰黄褐色粘土で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。６層を除き、浮石粒が含まれる。６層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物（第11図、写真図版56）

埋土下位から土器片が出土している。25～27は羽状縄文を地文とする同一個体であり、胎土に繊維が含まれる。25・26は体部片、27は口縁部片である。28はＲＬ単節斜縄文を地文とする口縁部片でループ文が施文される。29はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片である。

これら出土遺物のうち、25～28は第Ｉ群土器に、29は第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代前期前葉の遺構と考えられる。

ＢＩＩｆ６①土坑

遺構（第11図、写真図版７）

調査区上位面西端に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部が長軸を北東－南西にもつ楕円形で、底部が円形である。断面形はビーカー形であり、壁の上位がわずかに外傾する。規模は、開口部径122cm×96cm、頸部直径85cm、底部径98cm、深さは中心部で66cmである。底面はII層で平坦である。埋土は５層に細分され、黒褐色土主体で構成される。Ｉ層に浮石粒を含む。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｆ６②土坑

遺構（第11図、写真図版７）

調査区上位面西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。南西部でＢⅡｇ６②土坑を切り、北東部でＢⅡｆ７①土坑を切る。重複のため全体の平面形・規模は不明である。断面形は浅皿形である。規模は、残存する部分で開口部直径262cm、底部直径205cm、深さは中心部で52cmである。底面はⅡ層で、中央に向かって凸凹をもちながら緩やかに傾斜する。中央に大きな窪みが２つ見られるが木根痕と考えられる。埋土は５層に細分される。黒褐色土・褐色土・暗褐色土の混土が主体である。人為的堆積層である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅡｆ７①土坑

遺構（第12図、写真図版８）

調査区西端の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。南西をＢⅡｆ６②土坑に切られる。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部直径160cm、頸部径140cm×125cm、底部径183cm×170cm、深さは中心部で176cmである。底面はⅣ層上面で平坦である。中央部に開口部直径28cm、底部直径17cm、深さ20cmの副穴が１個ある。埋土は13層に細分される。上位は黒褐色土、中位は暗褐色土、下位は褐色土主体に構成され、壁際には壁の崩落が見られる。３・10層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｆ７②土坑

遺構（第12図、写真図版８）

調査区西端の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径160cm×148cm、底部径150cm×140cm、深さは中心部で185cmである。底面はⅣ層で平坦である。中央部に開口部直径34cm、底部直径18cm、深さ10cmの副穴が１個ある。埋土は８層に細分される。上位と下位は黒褐色土と暗褐色土、中位は褐

色土主体に構成され、壁際には壁から崩落した浮石が見られる。大部分の層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｆ７③土坑

遺構（第12図、写真図版８）

調査区西端の南東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部直径160cm、頸部径120cm×114cm、底部径128cm、深さは中心部で120cmである。底面はⅢ層で平坦であるが、斜面に沿って10cmほど傾斜する。埋土は９層に細分される。上位は黒色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｆ７④土坑

遺構（第12図、写真図版８）

調査区西端の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。北でＢⅡｆ７⑤土坑と重複する。新旧関係は不明である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部直径148cm、頸部径136cm×130cm、底部径164cm×150cm、深さは中心部で154cmである。底面はⅢ層下面で平坦である。中央部に開口部径35cm×32cm、底部径15cm×12cm、深さ18cmの副穴が１個ある。埋土は９層に細分される。上位は黒褐色土～暗褐色土、下位は黄褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。２・６層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｆ７⑤土坑

遺構（第12図、写真図版38）

調査区西端の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。南半がＢⅡｆ７④土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、平面形は開口部・底部ともに円形と考えられる。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部直径、底部直径がともに東－西でる。105cm、深さは中心部で76cmである。底面はⅡ層で平坦である。埋土は暗褐色土が主体である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｆ８①土坑

遺構（第12図、写真図版９）

調査区西端の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径184cm×172cm、頸部径184cm×174cm、底部径206cm×190cm、深さは中心部で144cmである。底面はⅣ層上面で、中央部と北西壁際の２箇所に副穴が見られる。Ｐ１は開口部直径24cm、底部直径10cm、深さ20cmである。Ｐ１から４条の溝が十字状に延びる。溝１は北に延び長さ10cm、最大幅８cm、深さ最大２cm、溝２は東に延び長さ16cm、最大幅12cm、深さ最大２cm、溝３は南に延び長さ35cm、最大幅10cm、深さ最大２cm、溝４は北西に延び長さ20cm、最大幅８cm、深さ最大２cmである。また、北壁の下位を円礫６個で補強している。埋土は６層に細分される。上位は黒色土、以下は黒褐色土と暗褐色土の互層になっており、壁際には壁の崩落土が見られる。２～４層には浮石粒、２・６層には直径10cm～20cmの円礫、４・６層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第13図、写真図版56）

埋土から30の深鉢型土器の体部が出土している。緩く外反し、地文はＬＲ単節縄文で横走または斜行する。これは、第Ⅲ群土器に属するものである。

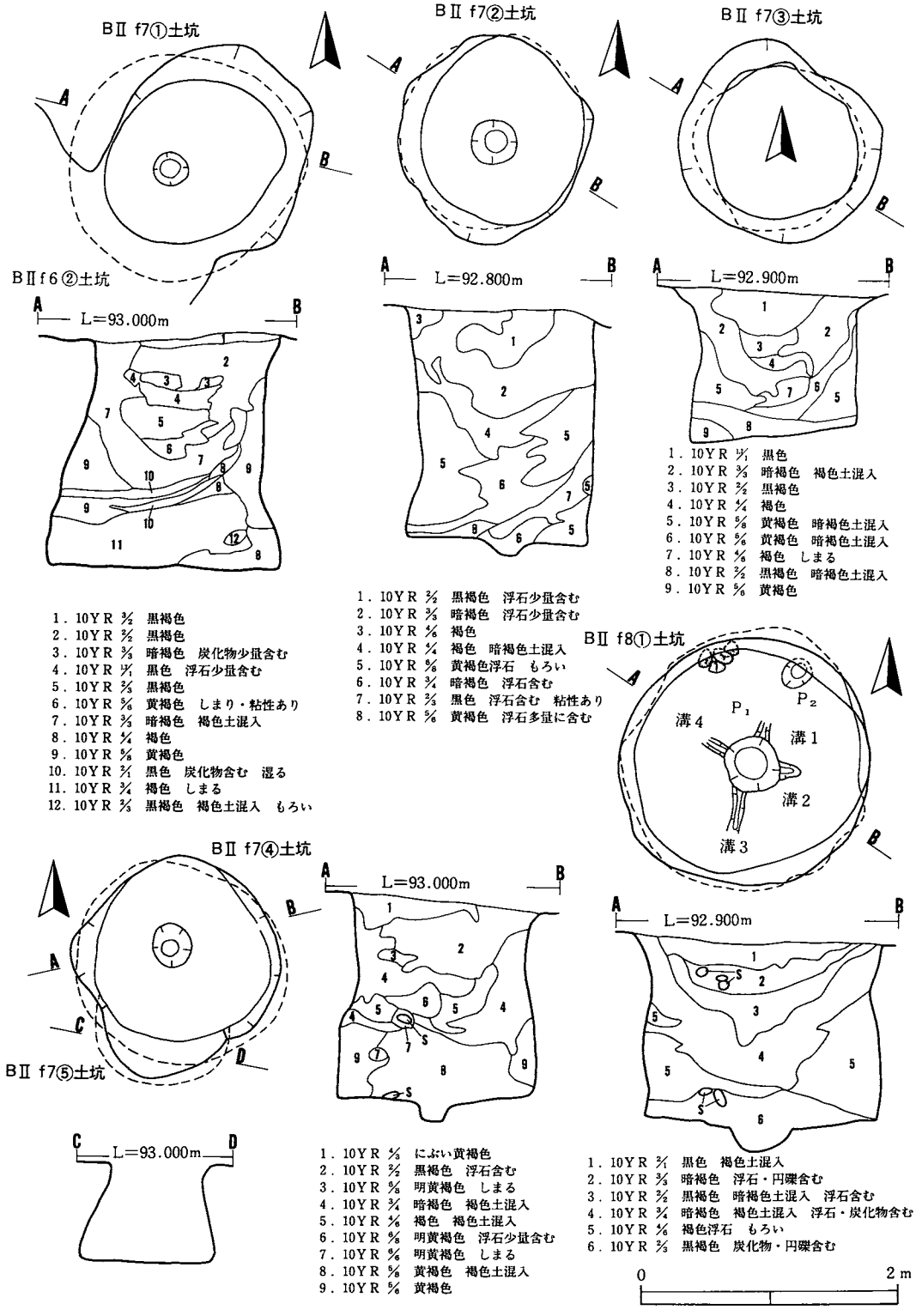
遺構の時期

出土した土器、遺構の規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

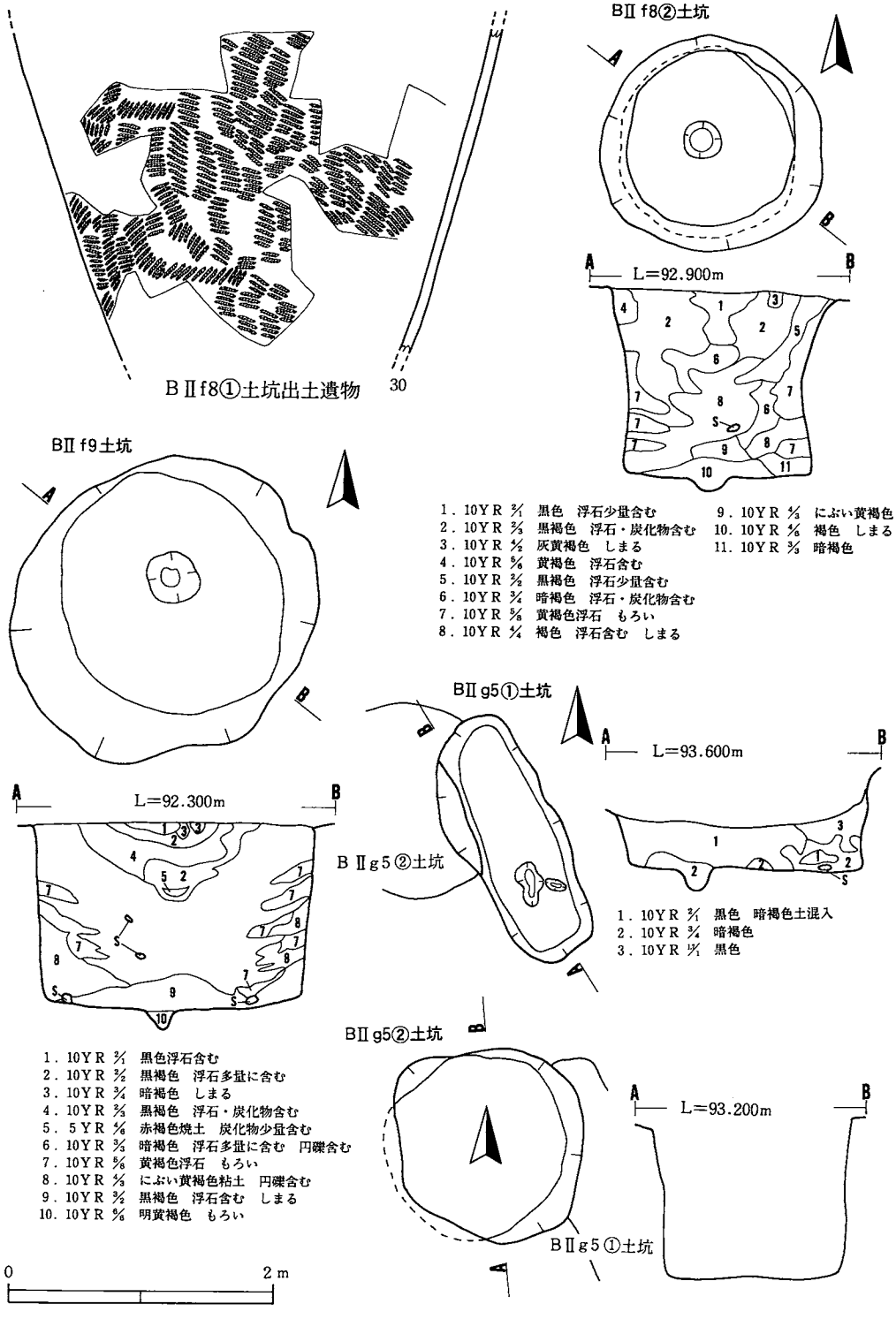
ＢⅡｆ８②土坑

遺構（第13図、写真図版９）

調査区上位面西端に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形


BⅡ f7①土坑
BⅡ f7②土坑
BⅡ f7③土坑
BⅡf6②土坑
L=93.000m
L=92.800m
L=92.900m
1．10YR 3/2 黒褐色
2．10YR 3/2 黒褐色
3．10YR 3/3 暗褐色 炭化物少量含む
4．10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
5．10YR 3/3 黒褐色
6．10YR 5/6 黄褐色 しまり・粘性あり
7．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入
8．10YR 3/4 褐色
9．10YR 5/6 黄褐色
10．10YR 3/1 黒色 炭化物含む 湿る
11．10YR 3/4 褐色 しまる
12．10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入 もろい
1．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石少量含む
3．10YR 5/6 褐色
4．10YR 3/4 褐色 暗褐色土混入
5．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
6．10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
7．10YR 3/3 黒色 浮石含む 粘性あり
8．10YR 5/6 黄褐色 浮石多量に含む
1．10YR 2/1 黒色
2．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入
3．10YR 3/2 黒褐色
4．10YR 3/4 褐色
5．10YR 5/8 黄褐色 暗褐色土混入
6．10YR 5/6 黄褐色 暗褐色土混入
7．10YR 5/6 褐色 しまる
8．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入
9．10YR 5/6 黄褐色
BⅡ f8①土坑
P1
P2
溝1
溝2
溝3
溝4
BⅡ f7④土坑
BⅡ f7⑤土坑
C
D
L=93.000m
1．10YR 5/3 にぶい黄褐色
2．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
3．10YR 5/6 明黄褐色 しまる
4．10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入
5．10YR 3/6 褐色 褐色土混入
6．10YR 5/8 明黄褐色 浮石少量含む
7．10YR 5/6 明黄褐色 しまる
8．10YR 5/6 黄褐色 褐色土混入
9．10YR 5/6 黄褐色
L=92.900m
1．10YR 2/1 黒色 褐色土混入
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石・円礫含む
3．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入 浮石含む
4．10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入 浮石・炭化物含む
5．10YR 5/6 褐色浮石 もろい
6．10YR 3/3 黒褐色 炭化物・円礫含む
0
2 m

第12図 土坑（3）


BⅡf8①土坑出土遺物
30
BⅡf8②土坑
A
B
L=92.900m
1. 10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
2. 10YR 3/3 黒褐色 浮石・炭化物含む
3. 10YR 4/2 灰黄褐色 しまる
4. 10YR 5/6 黄褐色 浮石含む
5. 10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
6. 10YR 3/4 暗褐色 浮石・炭化物含む
7. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
8. 10YR 4/4 褐色 浮石含む しまる
9. 10YR 4/3 にぶい黄褐色
10. 10YR 4/6 褐色 しまる
11. 10YR 3/3 暗褐色
BⅡf9土坑
L=92.300m
1. 10YR 2/1 黒色浮石含む
2. 10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む
3. 10YR 3/4 暗褐色 しまる
4. 10YR 3/3 黒褐色 浮石・炭化物含む
5. 5YR 4/6 赤褐色焼土 炭化物少量含む
6. 10YR 3/3 暗褐色 浮石多量に含む 円礫含む
7. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
8. 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土 円礫含む
9. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む しまる
10. 10YR 5/6 明黄褐色 もろい
BⅡg5①土坑
L=93.600m
1. 10YR 2/1 黒色 暗褐色土混入
2. 10YR 3/4 暗褐色
3. 10YR 1/1 黒色
BⅡg5②土坑
BⅡg5②土坑
L=93.200m
BⅡg5①土坑
0
2 m

第13図 土坑（4）

である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径170cm×164cm、頸部径136cm×130cm、底部径140cm×134cm、深さは中心部で138cmである。底面はV層上面に達っし、中央部に開口部直径30cm、底部直径16cm、深さ12cmの副穴1個がある。底面は副穴に向かって3cm～6cmほど下がる。埋土は11層に細分される。上位は黒褐色土、中位と下位は褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。底面近くの層を除き浮石粒を含んでいる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

BⅡf9土坑

遺構（第13図、写真図版9）

調査区西端の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部が長軸を北東－南西にもつ楕円形、底部が長軸を北西－南東にもつ楕円形である。断面形はピーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径240cm×210cm、底部径192cm×165cm、深さは中心部で140cmである。底面はⅢ層上面である。中央部に開口部径40cm×37cm、底部径12cm、深さ20cmの副穴がある。底面は副穴に向かって最大15cm下る。埋土は10層に細分される。上位と下位が黒褐色土、中位は暗褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれる。4・5層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層と考えられる。出土遺物はなく、時期は不明である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

BⅡg5①土坑

遺構（第13図、写真図版9）

調査区上位面西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。北西部でBⅡg5②土坑を切る。平面形は開口部・底部ともに長軸を北西－南東方向にもつ隅丸長方形である。断面形は浅皿形で、壁は緩く外傾する。規模は、開口部径190cm×80cm、底部径170cm×60cm、深さは中心部で45cmである。底面はⅡ層中にあり木根による凸凹が見られるが、ほぼ平坦である。埋土は3層に細分され、主に暗褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅡｇ５②土坑

遺構（第13図、写真図版38）

調査区上位面の西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。東部でＢⅡｇ５①土坑に切られる。平面形は開口部・底部ともに不整な円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径160cm×140cm、底部径140cm×130cm、深さは中心部で120cmである。底面はⅤ層上面で平坦である。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は主に暗褐色土で構成され、中位に黄褐色土が混入する。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｇ６①土坑

遺構（第14図、写真図版10）

調査区上位面の西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径150cm×145cm、頸部径112cm×100cm、底部径125cm×120cm、深さは中心部で165cmである。底面はⅤ層上面で、中央部に開口部径30cm×25cm、底部径20cm×12cm、深さ11cmの副穴が１個ある。底面は副穴に向かって最大７cm下る。埋土は10層に細分される。上位は黒色土と黒褐色土、中位は褐色土、下位は黄褐色土と黒褐色土主体で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｇ６②土坑

遺構（第14図、写真図版10）

調査区上位面の西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。北東部をＢⅡｆ６②土坑に切られる。重複のため全体の平面形・規模は不明であるが、残存する平面形は開口部・底部ともにほぼ円形であろう。断面形はビーカー形である。規模は、開口部直径160cm、底部直径126、深さは中心部で52cmである。底面はⅡ層で平坦である。西壁際に開口部径35cm～20cm、底部径20cm～10cm、深さ10cm～28cmの小穴の３個が並んで見られる。これらは遺構に伴う副穴とは考えられない。埋土は８層に細分される。上位は暗褐色土、下位は黒褐色土主体で構成される。壁際には壁の崩落土が見られる。

出土遺物（第14図、写真図版56）

埋土から31の体部片が出土している。ＲＬ単節斜縄文を地文とし低い隆帯により文様が施される。これは、第Ⅲ群土器３類に属するものである。

遺構の時期

出土した土器、遺構の規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｇ６③土坑

遺構（第14図、写真図版10）

調査区上位面の西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。掘り過ぎのため全体の平面形・規模は不明である。規模は、残存する部分で開口部直径126cm、底部直径105、深さは最深部で52cmである。底面はⅡ層で凸凹をもつ。埋土は暗褐色土の単層である。

出土遺物（第14図、写真図版56）

埋土から32の体部片が出土している。細いＲＬ単節斜縄文を地文とする。これは第Ⅳ群２類土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｇ７土坑

遺構（第14図、写真図版10）

調査区上位面の西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。南をＢⅡｇ７溝に切られる。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径167cm×162cm、頸部径132cm×125cm、底部径140cm×132cm、深さは中心部で140cmである。底面はⅤ層上面でほぼ平坦である。中央部に開口部直径34cm、底部直径15cm、深さ12cmの副穴が１個ある。埋土は10層に細分され、黒褐色土と褐色土の互層になっている。４層に浮石粒が含まれる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はない。

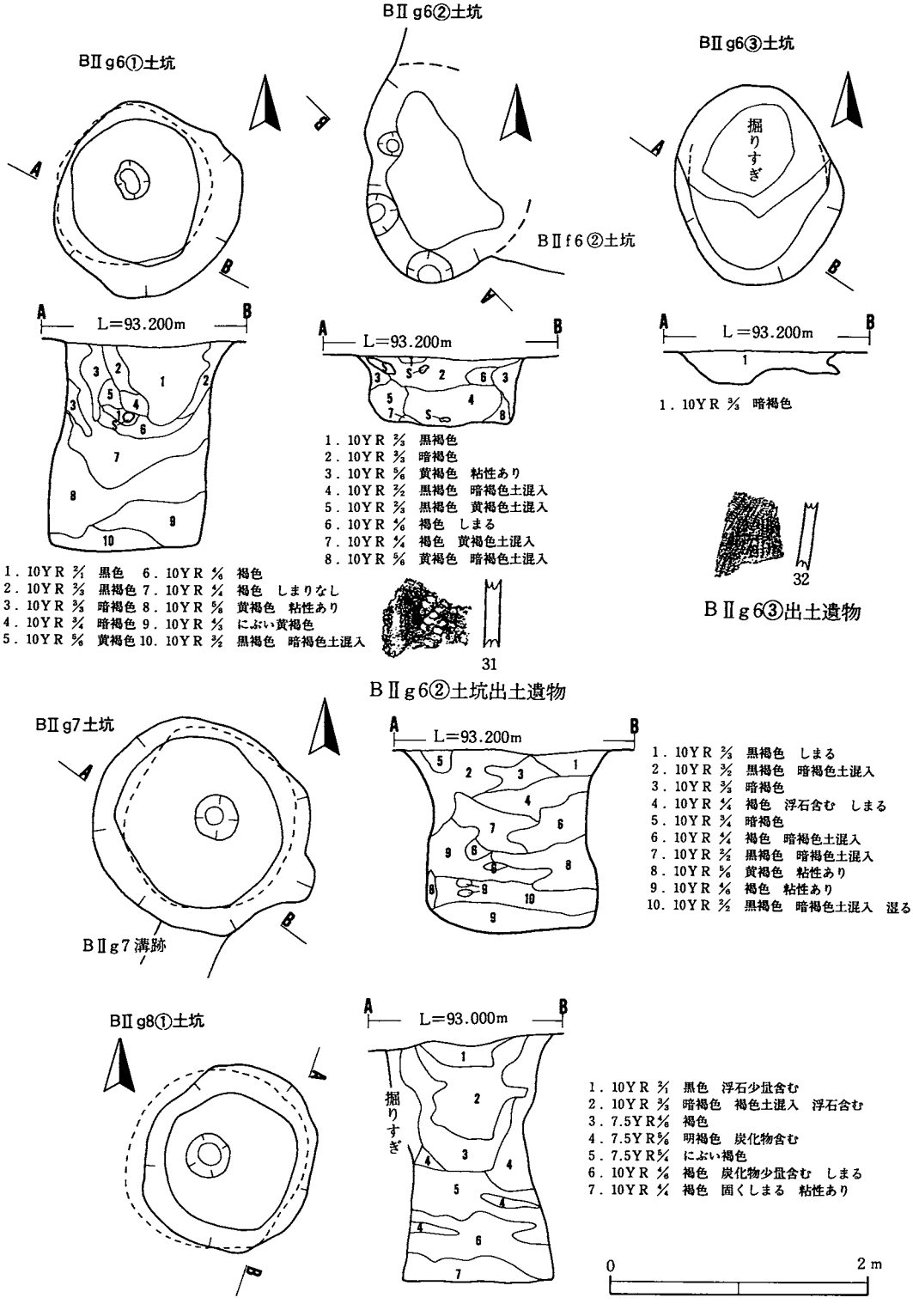
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｇ８①土坑

遺構（第14図、写真図版11）

調査区上位西端に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円


BⅡg6①土坑
BⅡg6②土坑
BⅡg6③土坑
BⅡf6②土坑
掘りすぎ
L=93.200m
L=93.200m
L=93.200m
1．10YR 3/3 暗褐色
1．10YR 3/3 黒褐色
2．10YR 3/3 暗褐色
3．10YR 5/6 黄褐色 粘性あり
4．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入
5．10YR 3/3 黒褐色 黄褐色土混入
6．10YR 4/6 褐色 しまる
7．10YR 4/4 褐色 黄褐色土混入
8．10YR 5/6 黄褐色 暗褐色土混入
1．10YR 3/1 黒色 6．10YR 4/6 褐色
2．10YR 3/3 黒褐色 7．10YR 4/4 褐色 しまりなし
3．10YR 3/3 暗褐色 8．10YR 5/6 黄褐色 粘性あり
4．10YR 3/4 暗褐色 9．10YR 4/3 にぶい黄褐色
5．10YR 5/6 黄褐色 10．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入
31
BⅡg6②土坑出土遺物
32
BⅡg6③出土遺物
BⅡg7土坑
BⅡg7溝跡
L=93.200m
1．10YR 3/3 黒褐色 しまる
2．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入
3．10YR 3/3 暗褐色
4．10YR 4/4 褐色 浮石含む しまる
5．10YR 3/4 暗褐色
6．10YR 4/4 褐色 暗褐色土混入
7．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入
8．10YR 5/6 黄褐色 粘性あり
9．10YR 4/6 褐色 粘性あり
10．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入 混る
BⅡg8①土坑
L=93.000m
掘りすぎ
1．10YR 3/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
3．7.5YR 4/6 褐色
4．7.5YR 5/6 明褐色 炭化物含む
5．7.5YR 5/4 にぶい褐色
6．10YR 4/6 褐色 炭化物少量含む しまる
7．10YR 4/4 褐色 固くしまる 粘性あり
0
2 m

第14図 土坑（5）

形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径144cm×132cm、頸部直径100cm、底部径140cm×130cm、深さは中心部で188cmである。底面はⅣ層上面で中央部に開口部直径34cm、底部直径18cm、深さ15cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かって２cm～４cmほど下がる。埋土は７層に細分される。主に上位は暗黒色土、中位から下位は褐色土で構成される。壁際には壁の崩落土が見られる。１・２層には浮石粒が含まれる。

出土遺物ない

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅡｇ８②土坑

遺構（第15図、写真図版11）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。北西にＢⅡｇ８④土坑を切っており、東にＢⅡｇ８③土坑が隣接する。平面形は、開口部が楕円形、底部は隅丸長方形である。断面形は浅皿形である。規模は、開口部径270cm×240cm、底部径220cm×170cm、深さは中心部で80cmである。底面はⅢ層中にあり木根による凸凹が激しく、湾曲している。埋土は７層に細分される。上位は黒褐色～褐色の混土に浮石粒が多量に含まれ、下位は黄褐色土である。人為堆積層と考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅡｇ８③土坑

遺構（第15図、写真図版38）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。西にＢⅡｇ８②土坑が隣接する。平面形は、開口部・底部ともに楕円形である。断面形は木根による攪乱のため不整である。規模は、開口部径170cm×160cm、底部径100cm×80cm、深さは中心部で70cmである。底面はⅢ層中にあり、木根による小穴が見られ凸凹が激しい。土層断面は木根のため省略したが、主埋土は、暗褐色土と黄褐色土の混土と浮石塊である。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅡｇ８④土坑

遺構（第15図、写真図版11）

調査区西端斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。南東をＢⅡｇ８②土坑に切られている。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位

が大きくくびれる。規模は、開口部直径120cm、底部径194cm×150cm、深さは中心部で168cmである。底面は、III層中にありほぼ平坦で、中央部に開口部直径34cm、底部直径15cm、深さ14cmの副穴１個がある。埋土は８層に細分される。上位と下位は黒褐色土、中位は褐色土～黄褐色土が主体である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢＩＩｇ９①土坑

遺構（第15図、写真図版11）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ隅丸方形である。断面形は浅皿形である。規模は、開口部径190cm×160cm、底部径96cm×90cm、深さは中心部で36cmである。壁・底面ともに凸凹が見られ、底面は、III層上面である。埋土は７層に細分される。浮石が埋土中に非常に多く、投げ込みによる堆積層であると思われる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢＩＩｇ９②土坑

遺構（第15図、写真図版12）

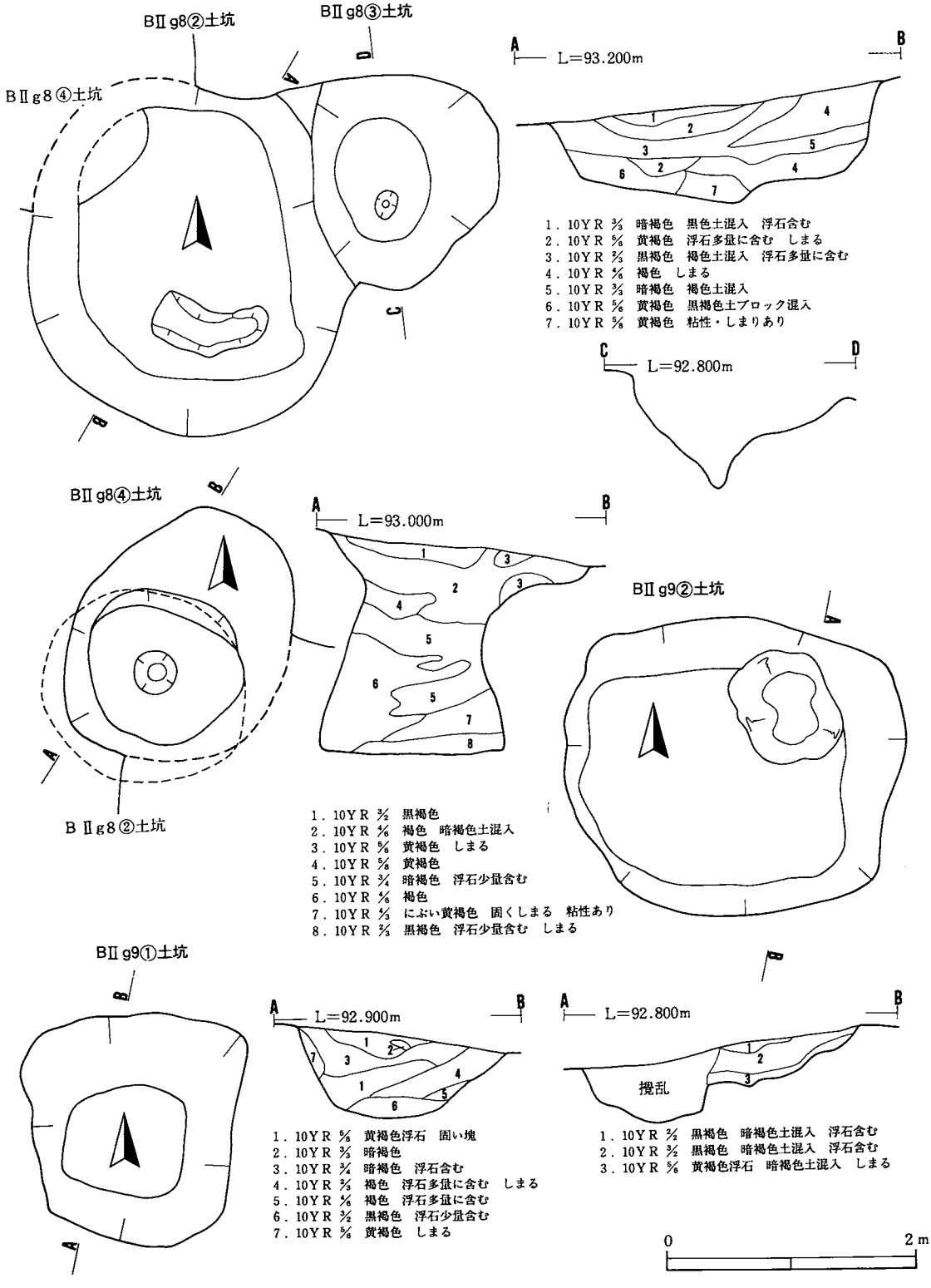
調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ隅丸方形である。断面形は浅皿形である。規模は、開口部径266cm×235cm、底部径210cm×170cm、深さは中心部で35cmである。壁・底面ともに凸凹が見られ、底面はIII層上面である。北東隅は木根による攪乱を受けている。埋土は３層に細分され、主に黒褐色土で構成される。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢIIIｇ０土坑

遺構（第16図、写真図版12）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径220cm×198cm、頸部径150cm×147cm、底部径165cm×160cm、深さは中心部で170cmである。底面はIV層でほぼ平坦である。底面周囲には５個の副穴が見られる。Ｐ１は北東壁寄り、Ｐ２は北


BⅡg8②土坑
BⅡg8③土坑
BⅡg8④土坑
A
B
C
D
L=93.200m
1. 10YR 3/3 暗褐色 黒色土混入 浮石含む
2. 10YR 5/6 黄褐色 浮石多量に含む しまる
3. 10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入 浮石多量に含む
4. 10YR 5/6 褐色 しまる
5. 10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入
6. 10YR 5/6 黄褐色 黒褐色土ブロック混入
7. 10YR 5/6 黄褐色 粘性・しまりあり
L=92.800m
BⅡg8④土坑
BⅡg8②土坑
L=93.000m
BⅡg9②土坑
1. 10YR 3/2 黒褐色
2. 10YR 5/6 褐色 暗褐色土混入
3. 10YR 5/6 黄褐色 しまる
4. 10YR 5/6 黄褐色
5. 10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
6. 10YR 5/6 褐色
7. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 固くしまる 粘性あり
8. 10YR 3/3 黒褐色 浮石少量含む しまる
BⅡg9①土坑
L=92.900m
1. 10YR 5/6 黄褐色浮石 固い塊
2. 10YR 3/3 暗褐色
3. 10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
4. 10YR 3/3 褐色 浮石多量に含む しまる
5. 10YR 5/6 褐色 浮石多量に含む
6. 10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
7. 10YR 5/6 黄褐色 しまる
L=92.800m
撹乱
1. 10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入 浮石含む
2. 10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入 浮石含む
3. 10YR 5/6 黄褐色浮石 暗褐色土混入 しまる
0
2 m

第15図 土坑（6）

壁寄り、Ｐ３は東壁寄り、Ｐ４は南壁寄り、Ｐ５は西壁寄りにある。Ｐ１は開口部直径28cm、底部直径14cm、深さ27cm、Ｐ２～Ｐ５は開口部直径12cm～18cm、底部直径２cm～６cm、深さ17cm～27cmである。Ｐ１から３条の溝が延びる。溝１はＰ２と連結し長さ22cm、最大幅10cm、深さ最大２cm、溝２はＰ３と連結し長さ34cm、最大幅10cm、深さ最大３cm、溝３はＰ５と連結し長さ83cm、最大幅18cm、深さ最大４cmであり、中央部で溝４と分岐する。溝４は南壁際に延び長さ60cm、最大幅13cm、深さ最大２cmである。これらの溝はＰ１に向かってわずかに下る。埋土は11層に細分される。上位と下位は黒褐色土、中位は暗褐色土と褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土と浮石が見られる。全層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅢｈ０土坑

遺構（第16図、写真図版12）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径178cm×152cm、頸部径150cm×140cm、底部径176cm×150cm、深さは中心部で168cmである。底面は、Ⅳ層上面で中央部に開口部直径42cm、底部直径24cm、深さ20cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かって３cm～４cmほど下る。また、北壁の下位を円礫３個で補強している。埋土は９層に細分される。上位と下位は黒褐色土、中位は褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。また、部分的に浮石粒と炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅢｈ２土坑

遺構（第16図、写真図版12）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径242cm×240cm、頸部径198cm×185cm、底部径222cm×198cm、深さは中心部で188cmである。底面は、Ｖ層上面に達し平坦である。北隅に開口部直径28cm、底部直径12cm、深さ12cmの副穴１個がある。副穴から１条の溝が南にのびる。溝の長さは50cm、幅は最大で10cm、深さは２cm～４

cmで副穴に向かってわずかに下る。また、周囲の壁の下位を３～５個の円礫で５か所補強している。埋土は11層に細分される。上位は黒色土、以下は黒褐色土と黄褐色土の互層になっており、壁際には壁の崩落土が見られる。また、部分的に浮石粒と炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅢｉ２土坑

遺構（第16図、写真図版13）

調査区西側の北東に下る斜面の始まりに位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径246cm×226cm、頸部径194cm×185cm、底部径214cm×194cm、深さは中心部で188cmである。底面は、Ｖ層上面で平坦かつ水平である。埋土は10層に細分され、上位は暗褐色土、中位は黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土と黒褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。ほぼ全層に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第16図、写真図版56）

埋土から33の土器片と34の剝片が出土している。33はＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片である。これは、第Ｖ群に属するものである。

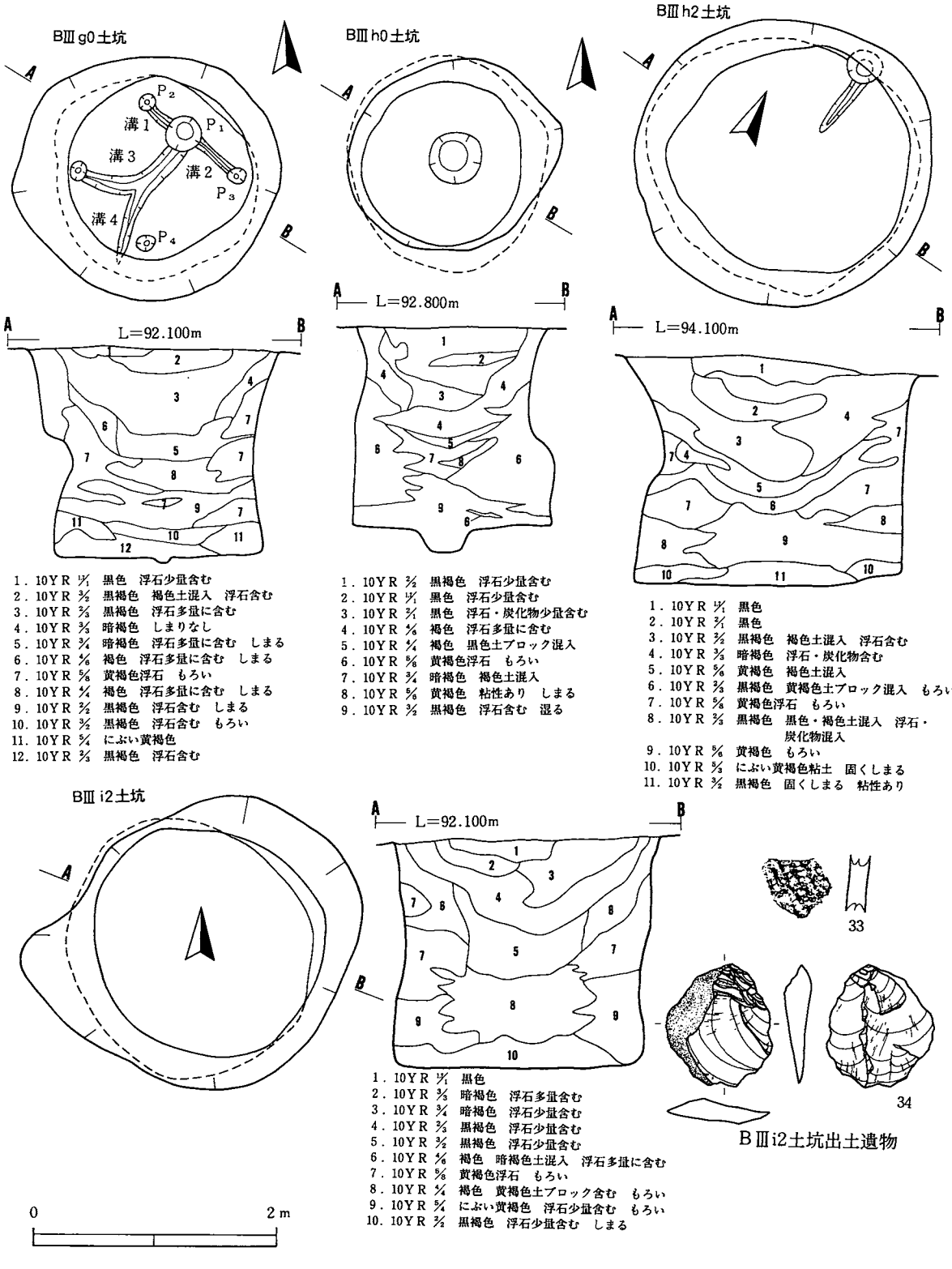
遺構の時期

出土した土器、遺構の規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅢｉ３土坑

遺構（第17図、写真図版13）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部・ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径236cm×212cm、頸部径172cm×166cm、底部径190cm×172cm、深さは中心部で158cmである。底面はＶ層上面で斜面に沿って10cmほど傾斜する。中央部に開口部直径38cm×36cm、底部直径20cm、深さ16cmの副穴１個がある。壁際には周溝が巡る。また副穴から４条の溝が十字状に延び、周溝につながる。溝１は北東に延び長さ58cm、最大幅15cm、深さ最大３cm、溝２は南東に延び長さ50cm、最大幅10cm、深さ最大３cm、溝３は南西に延び長さ38cm、最大幅７cm、深さ最大２cm、溝４は北西に延び長さ66cm、最大幅12cm、深さ最大２cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。周溝の幅は８cm～20cm、深さは５cm前後である。埋土は９層に細分され、黒褐色土主体で構成さ


BⅢg0土坑
A
B
P2
P1
P3
P4
溝1
溝2
溝3
溝4
L=92.100m
1．10YR 7/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入 浮石含む
3．10YR 3/3 黒褐色 浮石多量に含む
4．10YR 3/3 暗褐色 しまりなし
5．10YR 3/4 暗褐色 浮石多量に含む しまる
6．10YR 5/6 褐色 浮石多量に含む しまる
7．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
8．10YR 5/4 褐色 浮石多量に含む しまる
9．10YR 5/3 黒褐色 浮石含む しまる
10．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む もろい
11．10YR 5/4 にぶい黄褐色
12．10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
BⅢh0土坑
L=92.800m
1．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
2．10YR 7/1 黒色 浮石少量含む
3．10YR 2/1 黒色 浮石・炭化物少量含む
4．10YR 5/6 褐色 浮石多量に含む
5．10YR 4/4 褐色 黒色土ブロック混入
6．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7．10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入
8．10YR 5/6 黄褐色 粘性あり しまる
9．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む 湿る
BⅢh2土坑
L=94.100m
1．10YR 7/1 黒色
2．10YR 2/1 黒色
3．10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入 浮石含む
4．10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物含む
5．10YR 5/6 黄褐色 褐色土混入
6．10YR 3/3 黒褐色 黄褐色土ブロック混入 もろい
7．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
8．10YR 3/3 黒褐色 黒色・褐色土混入 浮石・炭化物混入
9．10YR 5/6 黄褐色 もろい
10．10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土 固くしまる
11．10YR 3/2 黒褐色 固くしまる 粘性あり
BⅢi2土坑
L=92.100m
1．10YR 7/1 黒色
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石多量含む
3．10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
4．10YR 3/3 黒褐色 浮石少量含む
5．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
6．10YR 5/6 褐色 暗褐色土混入 浮石多量に含む
7．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
8．10YR 5/4 褐色 黄褐色土ブロック含む もろい
9．10YR 5/4 にぶい黄褐色 浮石少量含む もろい
10．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む しまる
33
34
BⅢi2土坑出土遺物
0
2 m

第16図 土坑（7）

れる。壁際には壁の崩落土と浮石が見られる。大部分の層に浮石粒が、１層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢⅢｊ２土坑

遺構（第17図、写真図版13）

調査区上位面西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部形170cm×166cm、頸部径128cm×116cm、底部径150cm×148cm、深さは中心部で158cmである。底面はⅢ層下面で、斜面に沿って３cmほど傾く。中央部に開口部直径36cm、底部直径28cm、深さ15cmの副穴１個があり、副穴の底面はⅣ層に達する。埋土９層に細分され、上位は黒褐色土～暗褐色土、中位から下位は褐色土主体で構成され浮石粒を多量に含んでいる。壁際には壁の崩落土と浮石が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＢＶｇ５土坑

遺構（第17図、写真図版13）

調査区下位面北東側に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。壁は底から外傾して立ち上がり断面形はビーカー形である。規模は、開口部径122cm×102cm、底部径68cm×66cm、深さは中心部で66cmである。底面はほぼ平坦である。埋土は５層に細分される。上位は黒褐色土、中位は黒褐色土、下位は暗褐色土で構成される。３・４層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第17図、写真図版57）

埋土下位から35・36の土器が出土している。35は底面より約20cm上の南壁寄りに口縁部を上にした斜位の状態で出土した完形の甕形土器である。器形は口縁部が緩く外反し、頸部～体部にかけて大きく肩が張る特徴をもつ。口唇部は小波状となっている。口縁部は無文であり、体部はＬＲ単節縄文を地文とし、上部及び下端は斜縄文、中央部は横走する。内外面ともに炭化物が付着している。36は、35に隣接した地点から出土した口縁部～体部上半が残存する甕形土

器である。器形は35と同様であり、体部はＬＲ単節斜縄文を地文とする。これらの土器は第IV群１類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、弥生時代前半の遺構と考えられる。

ＣＩＩｄ０土坑

遺構（第17図、写真図版14）

調査区南西の工事用道路中央部に位置する。検出面は、上位面第II層上面である。平面形は開口部・底部ともに不整形で、断面形は浅皿形である。規模は、開口部径60cm×44cm、底部径40cm×24cm、深さは中央部で30cmである。底面はII層中にあり若干起伏が見られ湾曲する。埋土は黒色と黒褐色土の３層に細分される。自然堆積と考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＣIVｃ２土坑

遺構（第17図、写真図版14）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。南半をＢＩＩｈ６溝に切られる。平面形は開口部が円形で、底部は長軸を北東－南西にもつ楕円形である。断面形は不整な浅皿形である。規模は、開口部径134cm×122cm、底部径92cm×66cm、深さは中心部で58cmである。底面はIII層で、木根の攪乱により壁から続いて凸凹が激しい。埋土は６層に細分され、暗褐色土主体で構成される。１・５層に浮石粒が含まれる。

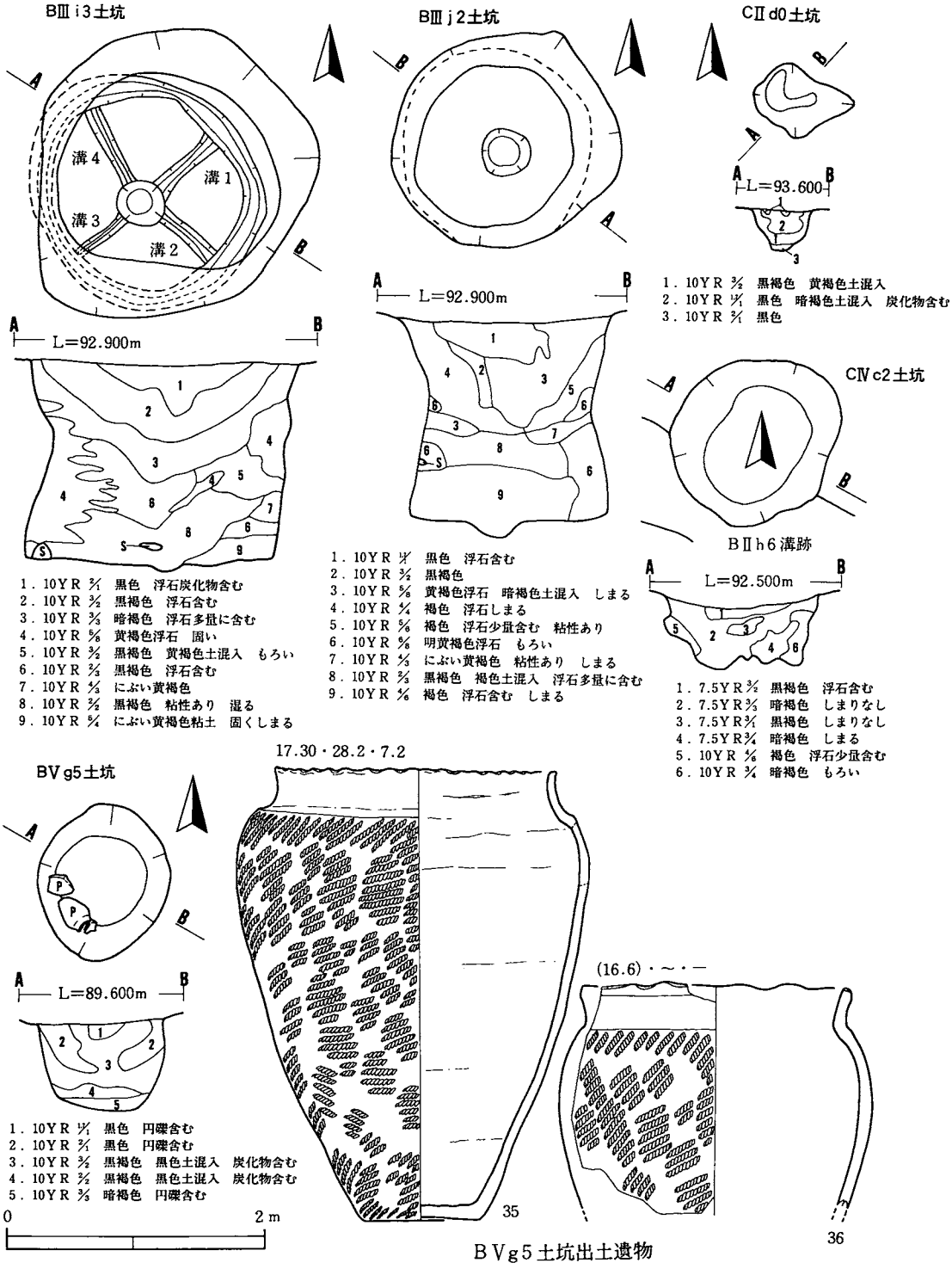
出土遺物はなく、時期は不明である。

ＣIVｃ３①土坑

遺構（第18図、写真図版14）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。北西にＣIVｃ３②土坑が隣接する。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の上位がくびれる。規模は、開口部径216cm×190cm、頸部径190cm×174cm、底部径206cm×190cm、深さは中心部で156cmである。底面は、IV層上面で、中央部やや北側に開口部直径36cm、底部直径20cm、深さ16cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かって６cm～12cmほど下る。埋土は８層に細分される。黒褐色土が主体で、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。また、全層に浮石粒が含まれ、２層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。


BⅢi3土坑
溝4
溝1
溝3
溝2
A
B
L=92.900m
1．10YR 3/1 黒色 浮石炭化物含む
2．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石多量に含む
4．10YR 5/6 黄褐色浮石 固い
5．10YR 3/2 黒褐色 黄褐色土混入 もろい
6．10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
7．10YR 4/3 にぶい黄褐色
8．10YR 3/2 黒褐色 粘性あり 混る
9．10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土 固くしまる
BⅢj2土坑
L=92.900m
1．10YR 2/1 黒色 浮石含む
2．10YR 3/2 黒褐色
3．10YR 5/6 黄褐色浮石 暗褐色土混入 しまる
4．10YR 4/4 褐色 浮石しまる
5．10YR 5/6 褐色 浮石少量含む 粘性あり
6．10YR 6/6 明黄褐色浮石 もろい
7．10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘性あり しまる
8．10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入 浮石多量に含む
9．10YR 4/6 褐色 浮石含む しまる
CⅡd0土坑
L=93.600
1．10YR 3/2 黒褐色 黄褐色土混入
2．10YR 2/1 黒色 暗褐色土混入 炭化物含む
3．10YR 3/1 黒色
CⅣc2土坑
BⅡh6溝跡
L=92.500m
1．7.5YR 3/2 黒褐色 浮石含む
2．7.5YR 3/3 暗褐色 しまりなし
3．7.5YR 3/1 黒褐色 しまりなし
4．7.5YR 3/4 暗褐色 しまる
5．10YR 5/6 褐色 浮石少量含む
6．10YR 3/4 暗褐色 もろい
BⅤg5土坑
L=89.600m
1．10YR 2/1 黒色 円礫含む
2．10YR 3/1 黒色 円礫含む
3．10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 炭化物含む
4．10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 炭化物含む
5．10YR 3/3 暗褐色 円礫含む
0
2 m
17.30・28.2・7.2
35
(16.6)・～・—
36
BⅤg5土坑出土遺物

第17図 土坑（8）

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣc 3②土坑

遺構（第18図、写真図版14）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。南東にCⅣc 3①土坑が隣接する。平面形は開口部・底部ともに円形である。壁は、北東側では底面から外傾し南西側では内傾して、断面形は底が南西に広がるフラスコ形である。規模は、開口部径108cm×104cm、底部径116cm×106cm、深さは中心部で68cmである。底面はⅢ層で、北に僅かに傾斜する。埋土は暗褐色土の単層で、浮石粒がわずかに含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣd 4①土坑

遺構（第18図、写真図版15）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層下面である。CⅣd 4②土坑の北壁下位から底部を切っている。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は開口部径230cm×222cm、頸部径178cm×172cm、底部径218cm×216cm、深さは中心部で168cmである。底面はⅢ層下面で、中央部に開口部直径46cm、底部直径20cm、深さ24cmの副穴1個がある。底面は、副穴に向かって4cm～6cm下る。北壁下位から底部の重複部と下位2カ所を最大40cmの円礫10数個で補強している。埋土は9層に細分される。褐色土～明褐色土が主体で、壁際には壁の崩落土が見られる。また、大部分の層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣd 4②土坑

遺構（第18図、写真図版15）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面は二層下面である。CⅣd 4①土坑によって南壁下位から底部が切られている。平面形は開口部が東西に長い楕円形、底部は円形で

ある。断面形はフラスコ形であり、壁の上位がくびれる。規模は、開口部径174cm×124cm、頸部径146cm×104cm、底部径200cm×190cm、深さは中心部で152cmである。底面はIV層上面で、中央部に開口部直径42cm、底部直径28cm、深さ20cmの副穴１個がある。副穴から３条の溝がＴ字条にのびる。溝１は南東に延び長さ42cm、最大幅８cm、深さ最大３cm、溝２は南西壁に延び長さ84cm、最大幅10cm、深さ最大２cm、溝３は北西に延び長さ55cm、最大幅８cm、深さ最大３cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。南壁下位から底部の重複部はＣIVｄ４①土坑側からの補強のための円礫10数個が露出している。埋土は６層に細分される。上位は暗褐色土、中位は浮石塊、下位は黒褐色土が主体である。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣIVｄ５土坑

遺構（第18図、写真図版15）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上である。南をＢIIｈ６溝に切られる。平面形は、開口部・底部ともにほぼ円形である。壁は下位から中位にかけてやや内傾し、上位で外反して立つ。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径240cm×224cm、頸部径208cm×206cm、底部径198cm×196cm、深さは中心部で184cmである。底面はIV層上面で、中央部に開口部径40cm×34cm、底部直径22cm、深さ27cmの副穴１個がある。副穴から５条の溝が放射状にのびる。溝１は東に延び長さ30cm、最大幅12cm、深さ最大４cm、溝２は南東壁際に延び長さ75cm、最大幅15cm、深さ最大２cm、溝３は南壁際に延び長さ80cm、最大幅14cm、深さ最大５cm、溝４は南西壁に延び長さ110cm、最大幅14cm、深さ最大３cm、溝５は西に延び長さ82cm、最大幅24cm、深さ最大６cmである。溝は副穴に向かって３cm～５cm下る。同様に、底面も副穴にむかってわずかに傾斜している。埋土は６層に細分され、黒褐色土と壁から崩落した浮石塊、下位の黒色土で構成され、全て浮石粒を含む。３層は浮石塊で、人為的堆積層である。

出土遺物はない。

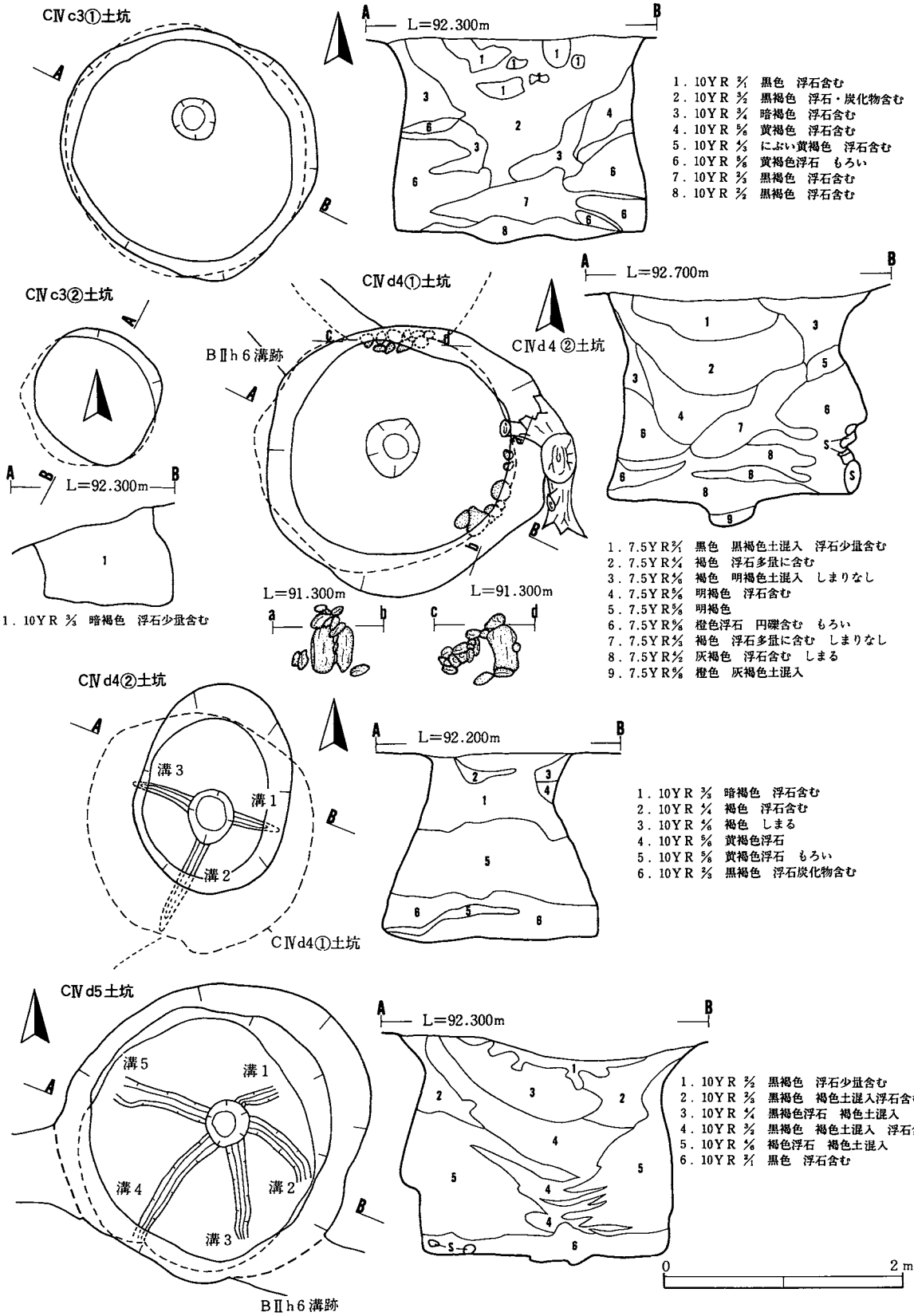
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣIVｄ６土坑

遺構（第19図、写真図版15）

調査区中央の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層上位である。平面形は、開口部


CⅣc3①土坑
L=92.300m
1．10YR 7/1 黒色 浮石含む
2．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
3．10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
4．10YR 5/6 黄褐色 浮石含む
5．10YR 5/3 にぶい黄褐色 浮石含む
6．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7．10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
8．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
CⅣc3②土坑
L=92.300m
1．10YR 3/3 暗褐色 浮石少量含む
CⅣd4①土坑
BⅡh6溝跡
L=91.300m
L=91.300m
CⅣd4②土坑
L=92.700m
1．7.5YR 3/1 黒色 黒褐色土混入 浮石少量含む
2．7.5YR 3/4 褐色 浮石多量に含む
3．7.5YR 5/6 褐色 明褐色土混入 しまりなし
4．7.5YR 5/6 明褐色 浮石含む
5．7.5YR 5/8 明褐色
6．7.5YR 5/8 橙色浮石 円礫含む もろい
7．7.5YR 5/3 褐色 浮石多量に含む しまりなし
8．7.5YR 5/2 灰褐色 浮石含む しまる
9．7.5YR 5/6 橙色 灰褐色土混入
CⅣd4②土坑
溝3
溝1
溝2
CⅣd4①土坑
L=92.200m
1．10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
2．10YR 5/4 褐色 浮石含む
3．10YR 5/6 褐色 しまる
4．10YR 5/6 黄褐色浮石
5．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
6．10YR 3/3 黒褐色 浮石炭化物含む
CⅣd5土坑
溝5
溝1
溝4
溝2
溝3
BⅡh6溝跡
L=92.300m
1．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
2．10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入浮石含む
3．10YR 5/4 黒褐色浮石 褐色土混入 もろい
4．10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入 浮石含む
5．10YR 5/6 褐色浮石 褐色土混入
6．10YR 3/1 黒色 浮石含む
0
2 m

第18図 土坑（9）

は楕円形、底部は円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径218cm×192cm、頸部径174cm×170cm、底部径206cm×204cm、深さは中心部で186cmである。底面はIV層で、中央部に開口部径52cm×40cm、底部直径22cm、深さ22cmの副穴1個がある。副穴から5条の溝が放射状にのびる。溝1は北に延び長さ50cm、最大幅8cm、深さ最大1cm、溝2は北東に延び長さ60cm、最大幅10cm、深さ最大2cm、溝3は南東壁際に延び長さ72cm、最大幅14cm、深さ最大2cm、溝4は南に延び長さ38cm、最大幅8cm、深さ最大2cm、溝5は西に延び長さ66cm、最大幅12cm、深さ最大1cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。同様に、底面も副穴に向かって2cm～5cm下る。埋土は11層に細分される。上位は、黒色土と黒褐色土、中位は暗褐色土、下位は暗褐色土と黒褐色土が主体で、壁際には崩落土や浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CIVe 6 土坑

遺構（第19図、写真図版16）

調査区中央の上位面斜面寄りに位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径106cm×98cm、底部径80cm×70cm、深さは中心部で40cmである。底面は、III層上面で平坦である。埋土は4層に細分され、褐色土が主体である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CIVe 7 土坑

遺構（第19図、写真図版16）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。中央を東西にBIIh 6溝に切られる。平面形は開口部・底部ともに長軸を東西に持つ楕円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径158cm×134cm、底部径194cm×164cm、深さは中心部で126cmである。底面は、IV層上面で、中央部に開口部径40cm×35cm、底部直径30cm、深さ18cmの副穴1個がある。底面は平坦である。埋土は8層に細分される。上位が黒褐色土、中位が暗褐色土、下位がにぶい黄褐色粘土主体で構成される。大部分に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｅ８土坑

遺構（第19図、写真図版16）

調査区中央の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径174cm×168cm、底部径162cm×158cm、深さは中心部で168cmである。底面はⅣ層で、中央部に開口部直径34cm、底部直径16cm、深さ13cmの副穴１個がある。底面は平坦である。埋土は６層に細分される。下位から黒褐色土、黄褐色浮石、暗褐色土、明黄褐色浮石の順に堆積し、壁際下位に壁の崩落土が見られる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｆ６①土坑

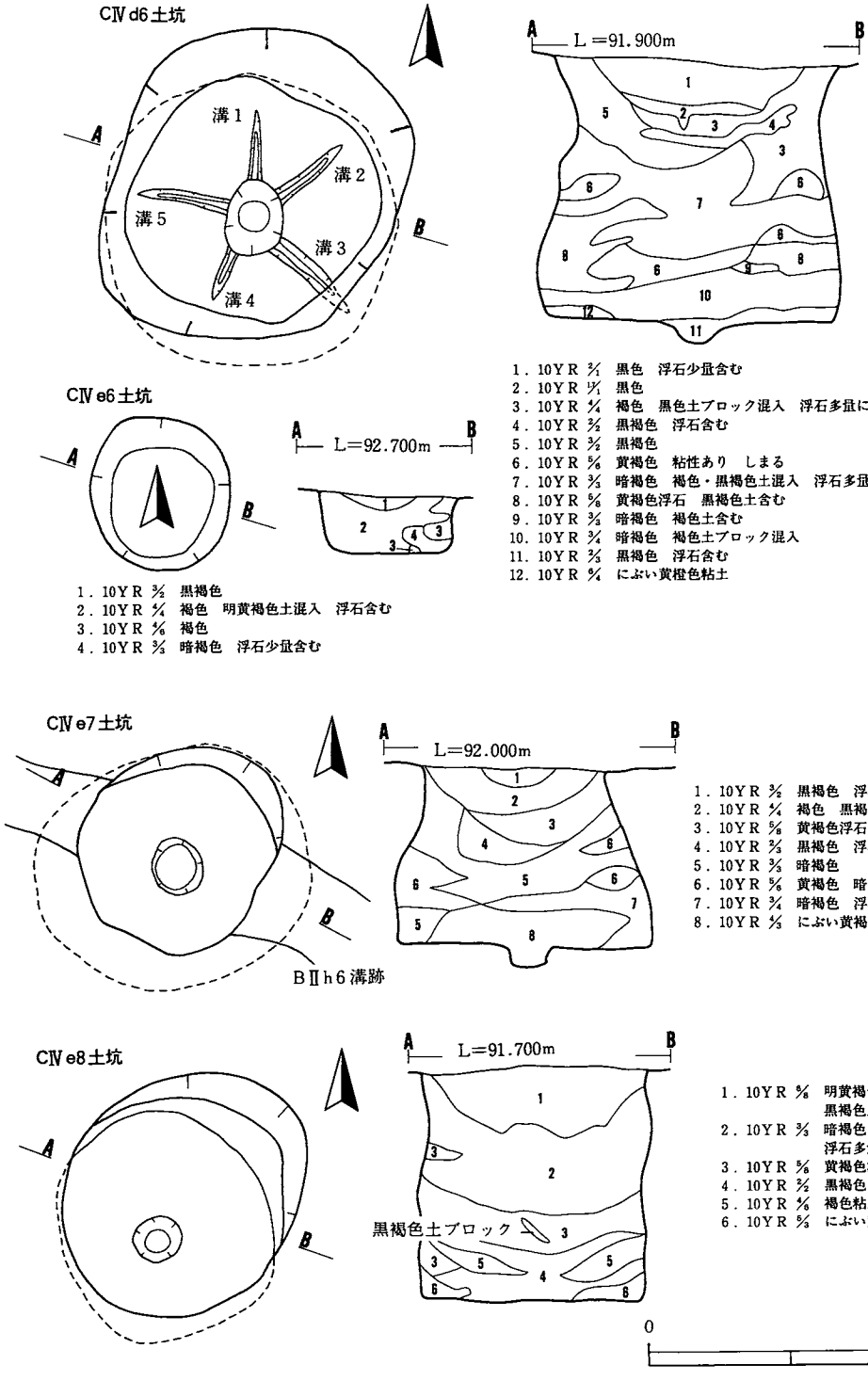
遺構（第20図、写真図版16）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層下面である。南西をCⅣｆ６②土坑に切られている。平面形は開口部が長軸を北東－南西にもつ不整楕円形で、底部はほぼ円形である。壁は南西側で直立し、北東側では内傾して立ち上がり崩落して外傾する。断面形はフラスコ形であろう。規模は、開口部短軸径224cm、頸部径192cm×182cm、底部径222cm×216cm、深さは中心部で164cmである。底面はⅢ層下面で、やや北東寄りに開口部直径30cm、底部直径18cm、深さ22cmの副穴１個がある。副穴から２条の溝が直線的にのびる。溝１は北東壁際に延び長さ42cm、最大幅14cm、深さ最大７cm、溝２は南西壁に延び長さ126cm、最大幅20cm、深さ最大９cmである。溝は副穴に向かって９cm～４cm下る。また、底面も副穴に向かって５cmほど下る。埋土は13層に細分され、上位は黒色土、中位は暗褐色土、下位は褐色土主体で構成される。大部分の層に浮石粒が含まれる。また、６～８層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。


CⅣd6土坑
溝1
溝2
溝3
溝4
溝5
A
B
L=91.900m
1. 10YR 3/1 黒色 浮石少量含む
2. 10YR 2/1 黒色
3. 10YR 3/4 褐色 黒色土ブロック混入 浮石多量に含む
4. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
5. 10YR 3/2 黒褐色
6. 10YR 5/6 黄褐色 粘性あり しまる
7. 10YR 3/3 暗褐色 褐色・黒褐色土混入 浮石多量に含む
8. 10YR 5/6 黄褐色浮石 黒褐色土含む
9. 10YR 3/3 暗褐色 褐色土含む
10. 10YR 3/4 暗褐色 褐色土ブロック混入
11. 10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
12. 10YR 5/4 にぶい黄橙色粘土
CⅣe6土坑
L=92.700m
1. 10YR 3/2 黒褐色
2. 10YR 3/4 褐色 明黄褐色土混入 浮石含む
3. 10YR 5/6 褐色
4. 10YR 3/3 暗褐色 浮石少量含む
CⅣe7土坑
L=92.000m
BⅡh6溝跡
1. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
2. 10YR 3/4 褐色 黒褐色土混入 浮石含む
3. 10YR 5/8 黄褐色浮石 もろい
4. 10YR 3/3 黒褐色 浮石多量に含む
5. 10YR 3/3 暗褐色
6. 10YR 5/6 黄褐色 暗褐色土混入
7. 10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
8. 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土 浮石含む
CⅣe8土坑
L=91.700m
黒褐色土ブロック
1. 10YR 5/6 明黄褐色浮石 固い塊 黒褐色土混入
2. 10YR 3/3 暗褐色 黒褐色土混入 浮石多量に含む
3. 10YR 5/6 黄褐色浮石 黒褐色土混入
4. 10YR 3/2 黒褐色
5. 10YR 4/6 褐色粘土
6. 10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土 しまる
0
2m

第19図 土坑 (10)

CⅣｆ６②土坑

遺構（第20図、写真図版17）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層下面である。北東でCⅣｆ６①土坑を切っている。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、平面形は、開口部・底部とも長軸を北東－南西にもつ楕円形と考えられる。断面形はビーカー形であろう。規模は、開口部短軸径140cm、底部短軸径116cm、深さは中央部で56cmである。底面はⅢ層上面で、水平かつ平坦である。埋土は４層に細分され、黒褐色土と褐色土が主体である。２・５層には浮石粒が、５層は炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第20図、写真図版57）

埋土上位から37の台付鉢形土器が出土している。口唇部に２個１対の突起をもち、口縁部には４条の並行沈線が巡り、その間に部分的に刻目が施されている。２条沈線で体部上下を区画し、体部上半は雲形文が施文される。体部下半はＬＲ単節縄文を地文とし斜行または横走する。口縁部内面には１条の沈線が巡る。これは、第Ⅲ群土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器、遺構の規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｆ６③土坑

遺構（第20図、写真図版17）

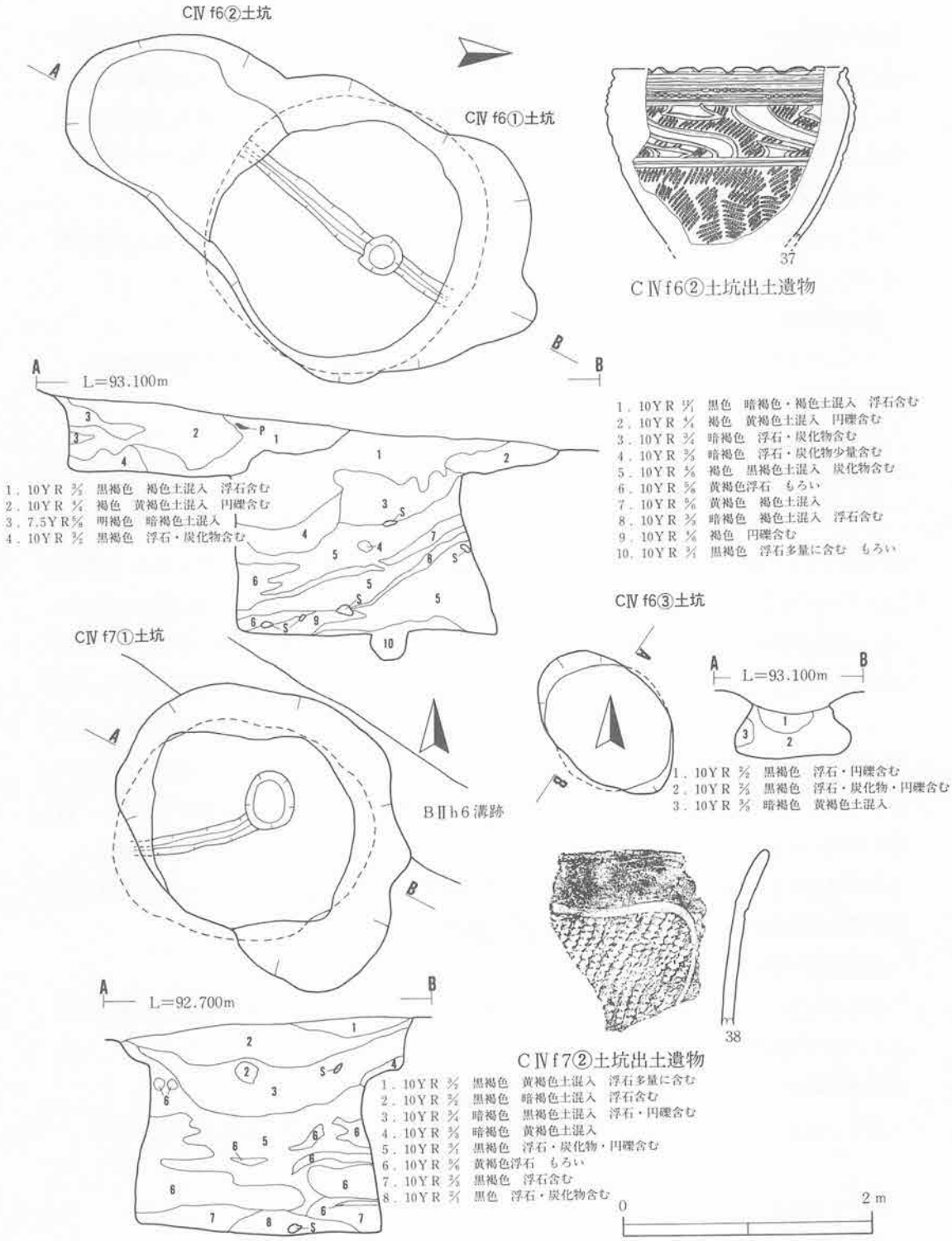
調査区中央の上位面斜面寄りに位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともに長軸を北東―南西にもつ楕円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径124cm×86cm、底部径110cm×96cm、深さは中心部で56cmである。底面はⅡ層で、中央部がやや窪んでいるがほぼ平担である。埋土は、黒褐色土と暗褐色土で構成され、１・２層には浮石粒が、２層には炭化物粒が含まれる。自然堆積と考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

CⅣｆ７①土坑

遺構（第20図、写真図版17）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層下面である。北側をＢⅡｈ６溝に切られている。平面形は開口部が長軸を北西－南東に持つ不整楕円形で、底部は長軸を東西に持つ楕円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の上位から中位にかけてくびれる。規模は、開口部径190cm×162cm、頸部径170cm×152cm、底部径210cm×174cm、深さは中心部で174cmである。底面はⅢ層下面で、やや南寄りに開口部径44cm×38cm、底部径32cm×28cm、深さ25cm


CⅣ f6②土坑
CⅣ f6①土坑
A
B
37
CⅣ f6②土坑出土遺物
L=93.100m
1．10YR 3/4 黒色 暗褐色・褐色土混入 浮石含む
2．10YR 4/4 褐色 黄褐色土混入 円礫含む
3．10YR 3/4 暗褐色 浮石・炭化物含む
4．10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物少量含む
5．10YR 5/6 褐色 黒褐色土混入 炭化物含む
6．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7．10YR 5/6 黄褐色 褐色土混入
8．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
9．10YR 4/6 褐色 円礫含む
10．10YR 3/4 黒褐色 浮石多量に含む もろい
1．10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入 浮石含む
2．10YR 4/4 褐色 黄褐色土混入 円礫含む
3．7.5YR 5/6 明褐色 暗褐色土混入
4．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
CⅣ f6③土坑
L=93.100m
1．10YR 3/2 黒褐色 浮石・円礫含む
2．10YR 2/3 黒褐色 浮石・炭化物・円礫含む
3．10YR 3/3 暗褐色 黄褐色土混入
CⅣ f7①土坑
BⅡh6溝跡
L=92.700m
38
CⅣ f7②土坑出土遺物
1．10YR 3/2 黒褐色 黄褐色土混入 浮石多量に含む
2．10YR 3/4 黒褐色 暗褐色土混入 浮石含む
3．10YR 3/4 暗褐色 黒褐色土混入 浮石・円礫含む
4．10YR 3/3 暗褐色 黄褐色土混入
5．10YR 3/4 黒褐色 浮石・炭化物・円礫含む
6．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7．10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
8．10YR 3/1 黒色 浮石・炭化物含む
0
2 m

第20図 土坑（11）

の副穴１個があり、Ⅳ層に達する。副穴から東へ１条の溝がのびる。溝は長さ98cm、最大幅16cm、深さ最大４cmで、副穴に向かって２cm下る。底面はほぼ平坦である。埋土は８層に細分され、黒褐色土を主体に構成される。中位には暗褐色土、最下位には黒色土があり、壁際には壁の崩落土が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれ、５層には円礫と炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第20図、写真図版57）

埋土から38の土器片が出土している。ＲＬＲ複節斜縄文を地文とし沈線区画される口縁部片で、緩く外反する。これは、第Ⅲ群３類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器、遺構の規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅣｆ７②土坑

遺構（第21図、写真図版17）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層下面である。南西をＣⅣｇ７土坑と重複する。新旧関係は不明である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径252cm×218cm、頸部径204cm×194cm、底部径220cm×204cm、深さは中心部で180cmである。底面ではⅢ層下面で、中央に開口部直径42cm、底部直径25cm、深さ22cmの副穴１個がある。副穴から２条の溝が直線的に延びる。溝１は北壁に伸び長さ100cm、最大幅28cm、深さ最大９cm、溝２は南壁に伸び長さ75cm最大幅24cm、深さ最大９cmである。さらに溝２の中央付近から溝３が南東壁に分岐して延びる。溝３の長さ70cm、最大幅20cm、深さ最大５cmである。溝は副穴に向かって１cm～５cm下る。また、底面も副穴に向かってわずかに下る。埋土は９層に細分され、上位は黒色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土主体で構成される。壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。また、大部分の層に浮石粒が含まれ、１・４・５・８層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第21図、写真図版57）

埋土から39の土器片と40の剝片が出土している。39はＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片であり、胎土や地文から第Ⅱ群３類土器に属するものと考えられる。

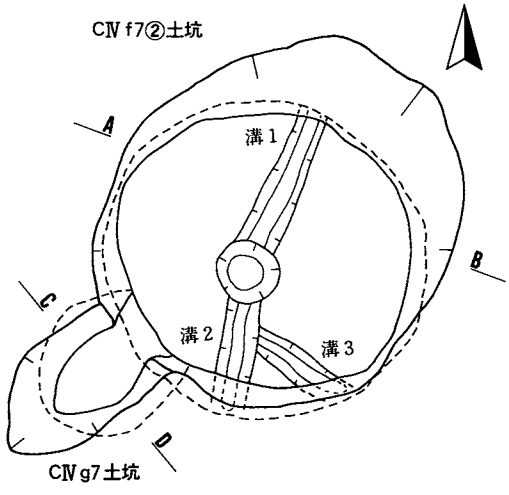
遺構の時期

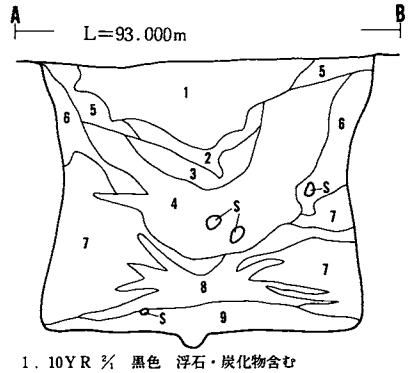
出土した土器、遺構の規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅣｆ８①土坑

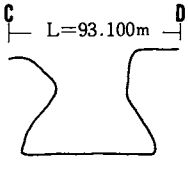
遺構（第21図、写真図版18）

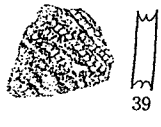
調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層下面である。平面形は開口部が

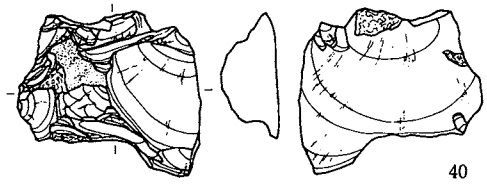




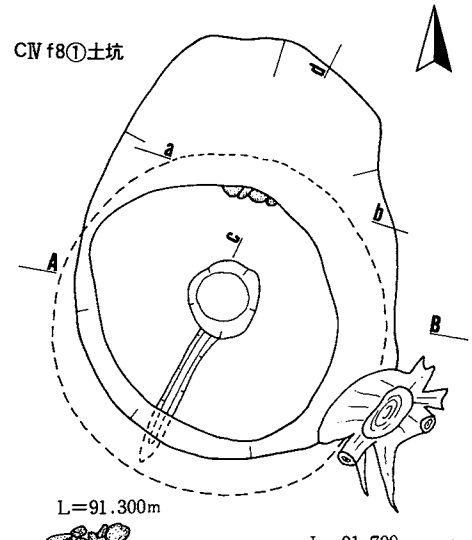
1．10YR 3/1　黒色　浮石・炭化物含む
2．10YR 3/1　黒褐色　暗褐色土混入　浮石多量に含む
3．10YR 4/4　褐色　黄褐色土混入　浮石含む
4．10YR 3/4　暗褐色　浮石・炭化物・円礫含む
5．10YR 3/3　暗褐色　黒褐色土混入　炭化物含む
6．10YR 4/6　褐色　暗褐色土混入
7．10YR 5/6　黄褐色浮石　黄褐色土混入　もろい
8．10YR 3/2　黒褐色　浮石・炭化物含む
9．10YR 3/3　黒褐色　浮石少量含む

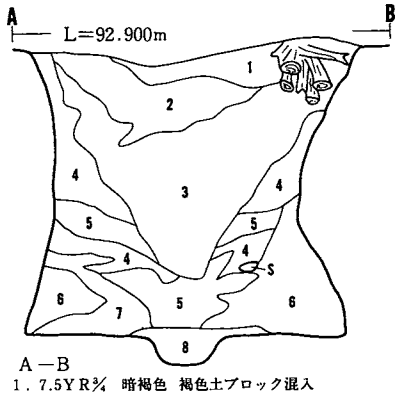






CⅣf7②土坑出土遺物





A－B
1．7.5YR 3/4　暗褐色　褐色土ブロック混入
2．7.5YR 2/1　黒色　浮石含む
3．7.5YR 4/3　褐色　褐色土混入　浮石多量に含む
4．7.5YR 5/6　明褐色
5．7.5YR 5/4　褐色　明褐色土混入　炭化物少量含む
6．7.5YR 6/8　橙色浮石　もろい
7．7.5YR 5/6　明褐色　灰褐色土混入　浮石含む
8．7.5YR 4/3　褐色　炭化物多量に含む　もろい

c －d
1．10YR 3/4　暗褐色　円礫含む　もろい
2．10YR 5/6　黄褐色　地山崩壊　もろい

0　2 m

第21図　土坑（12）

長軸を南北にもつ楕円形で、底部は円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。北壁上位は崩落し外傾する。規模は、開口部径280cm×230cm、頸部径180×172cm、底部径220cm×212cm、深さは中心部で194cmである。底部はIII層下面で、ほぼ平坦である。中央に開口部径52cm×46cm、底部直径36cm、深さ18cmの副穴１個があり、IV層上面に達する。副穴から１条の溝が南西にのびる。溝は長さ96cm、最大幅12cm、深さ最大５cmであり、副穴に向かってわずかに下る。また、北壁の中位から下位にかけて幅130cm、高さ70cmにわたり、長さ45cm～５cmの円礫を30個以上使って補強している。埋土は８層に細分される。上位は暗褐色土と黒色土、以下は褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。また、部分的に浮石粒と炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第22図、写真図版57）

底部から41・42の土器片と43の石器が出土している。41は１条の沈線文が垂下する体部片である。42は口縁部片であるが、磨滅しており詳細は不明である。これらは第Ⅴ群土器に属するものである。43は磨石である。楕円形の偏平な自然礫で、表面と縁辺に使用痕をもつ。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｆ８②土坑

遺構（第22図、写真図版18）

調査区中央の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の上位がくびれる。規模は、開口部径220cm×218cm、底部径184cm×166cm、深さは中心部で200cmである。底面はIV層で、中央部に開口部直径28cm、底部直径12cm、深さ22cmの副穴１個がある。底面は凹凸が見られ、副穴に向かってわずかに下る。埋土は５層に細分される。暗褐色土を主体に構成され、壁際に壁の崩落土が見られる。３層は浮石塊であり、４層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｆ９①土坑

遺構（第22図、写真図版18）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が

長軸を南北にもつ不整な楕円形で、底部はほぼ円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径208cm×175cm、底部径182cm×170cm、深さは中心部で150cmである。底面はIV層上面で平坦である。埋土は7層に細分される。上位は褐色土、中位は黄褐色浮石塊、下位は暗褐色土で壁際下位に壁の崩落土が見られる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物（第22図、写真図版57）

埋土上位から44の土器が出土している。無文の底部片である。これは、第V群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CIVｆ９②土坑

遺構（第22図、写真図版38）

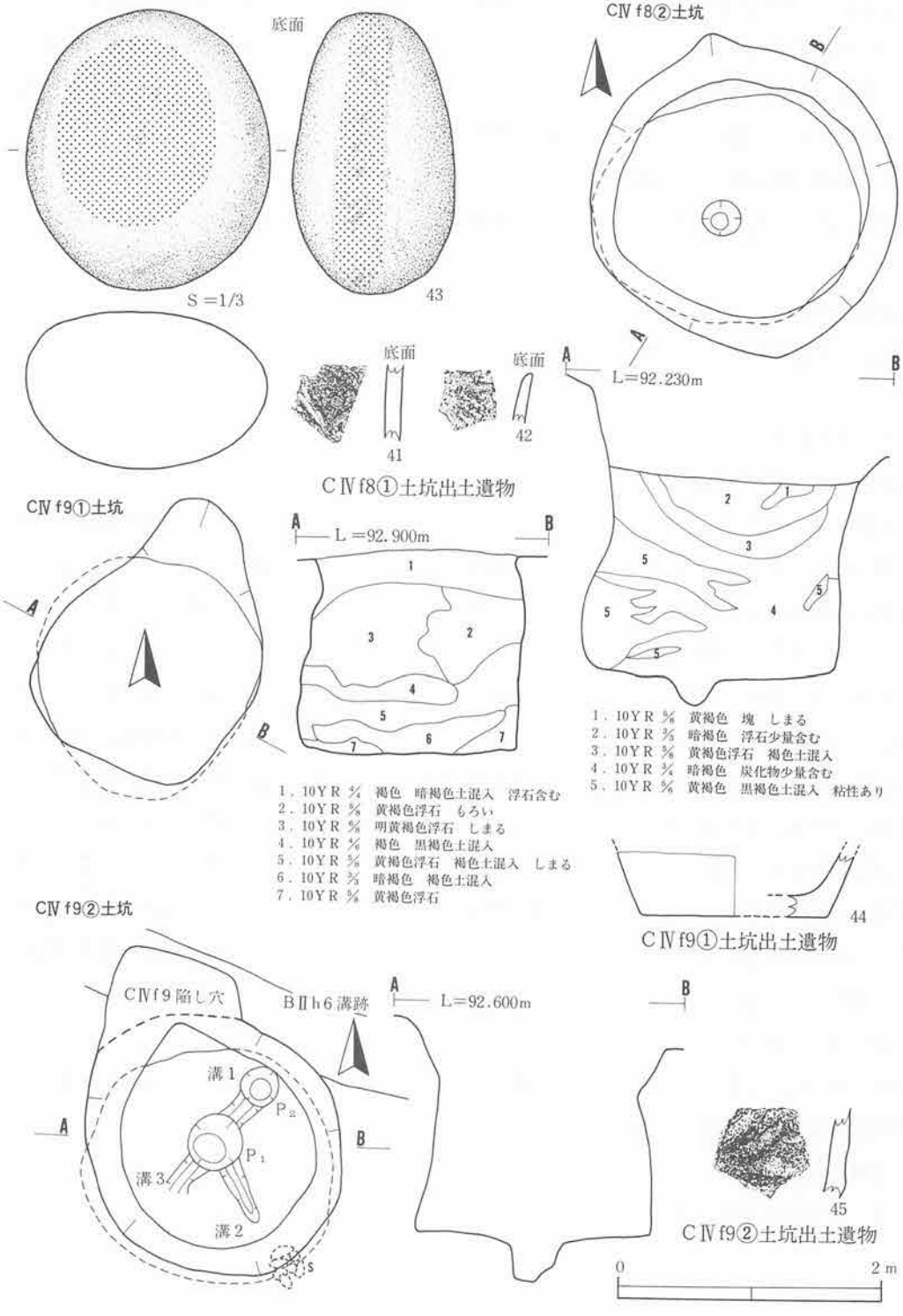
調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。北側をBIIｈ６溝に切られている。さらにCIVｆ９陥し穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は上位が暗褐色土、中位が褐色土、下位が黒褐色土主体である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径200cm×190cm、頸部径152cm×144cm、底部径184cm×180cm、深さは中心部で170cmである。底部はIII層でほぼ平坦である。中央部と北東壁際に２個の副穴が見られる。Ｐ１は開口部直径40cm、底部径28cm×20cm、深さ30cm、Ｐ２は開口部直径28cm、底部直径16cm、深さ20cmである。Ｐ１とＰ２は溝１で結ばれる。溝１の長さ20cm、最大幅20cm、深さ最大10cmでＰ１に向かってわずかに下る。さらに、Ｐ１から２条の溝が延びる。溝２は南東方面に延び長さ50cm、最大幅16cm、深さ最大８cm、溝３は南西方面に延び長さ30cm、最大幅20cm、深さ最大６cmで、それぞれＰ１に向かってわずかに下る。また、南東壁の下位を円礫数個で補強している。

出土遺物（第22図、写真図版57）

埋土から45の土器片が出土している。地文はなく、低い隆帯が巡る体部片である。これは、第II群３類土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。


底面
S＝1/3
43
底面
底面
41
42
CⅣf8①土坑出土遺物
CⅣf8②土坑
L＝92.230m
CⅣf9①土坑
L＝92.900m
1．10YR 5/4 褐色 暗褐色土混入 浮石含む
2．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
3．10YR 5/4 明黄褐色浮石 しまる
4．10YR 5/4 褐色 黒褐色土混入
5．10YR 5/6 黄褐色浮石 褐色土混入 しまる
6．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入
7．10YR 5/6 黄褐色浮石
1．10YR 5/6 黄褐色 塊 しまる
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石少量含む
3．10YR 5/6 黄褐色浮石 褐色土混入
4．10YR 3/4 暗褐色 炭化物少量含む
5．10YR 5/6 黄褐色 黒褐色土混入 粘性あり
44
CⅣf9①土坑出土遺物
CⅣf9②土坑
CⅣf9陥し穴
BⅡh6溝跡
L＝92.600m
溝1
P2
P1
溝3
溝2
S
45
CⅣf9②土坑出土遺物
0
2m

第22図　土坑（13）

CⅣｇ７土坑

遺構（第21図、写真図版38）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。北東でCⅣｆ７②土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、平面形は、開口部・底部とも長軸を北東－南西にもつ楕円形と考えられる。断面形はフラスコ形であろう。規模は、開口部短軸径70cm、頸部短軸径44cm、底部短軸径88cm、深さは中心部で70cmである。底部はIII層で平坦である。埋土は、黒褐色土と褐色土が主体である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｇ８土坑

遺構（第23図、写真図版18）

調査区中央の上位面斜面寄りに位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部が長軸を南北にもつ楕円形で、底部が長軸を東西にもつ楕円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。南壁上位は崩落し外傾する。規模は、開口部径220cm×154cm、頸部径154cm×134cm、底部径186cm×168cm、深さは中心部で122cmである。底面はIII層下面で、ほぼ平坦である。南西隅に開口部直径28cm、底部直径18cm、深さ18cmの副穴１個があり、副穴から１条の溝が北東壁にのびる。溝の長さは144cm、最大幅８cm、深さ最大２cmで副穴に向かってわずかに下る。埋土は11層に細分される。上位は黒褐色土、以下は褐色土～明褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。また、部分的に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第23図、写真図版58）

埋土下位から46～49の土器が出土している。46は口縁部上端を欠く深鉢形土器である。頸部は「く」の字状にやや張り出し、隆帯が巡り口縁部と体部を区画する。隆帯は４単位に口縁項部に延び、側面に刺突文が施される。口縁部は地文はなく沈線が波状に描かれる。体部にはＬＲ単節斜縄文が施文され、部位的に櫛歯状工具によって条線が施される。上端欠損部は再加工されている。底部外面はケズリ調整されている。47～49は同一個体と考えられる体部片である。地文はＲＩ段の撚糸文である。47は隆帯が、48は沈線が巡る。これらは、第II群３類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

CⅣｇ９土坑

遺構（第23図、写真図版19）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、北壁の中位がくびれる。規模は、開口部径218cm×216cm、頸部径206cm×194cm、底部径198cm×194cm、深さは中心部で178cmである。底面はⅡ層下面で、中央部に開口部直径40cm、底部直径20cm、深さ20cmの副穴１個があり、副穴から４条の溝が十字状にのびる。溝１は北に延び長さ60cm、最大幅16cm、深さ最大２cm、溝２は東に延び長さ60cm、最大幅28cm、深さ最大２cm、溝３は東に延び長さ55cm、最大幅18cm、深さ最大５cm、溝４は西に延び長さ50cm、最大幅16cm、深さ最大３cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。埋土は９層に細分される。上位は黒色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には崩落した浮石や黄褐色土が見られる。全体に浮石粒・炭化物粒が多く含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

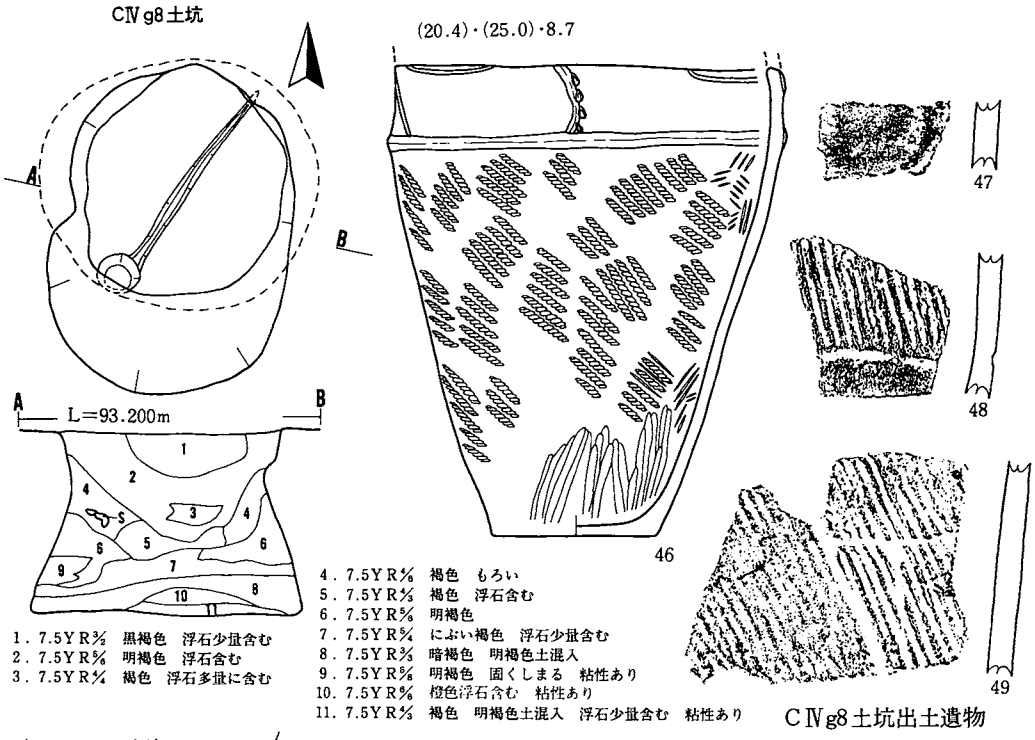
CⅣｈ８土坑

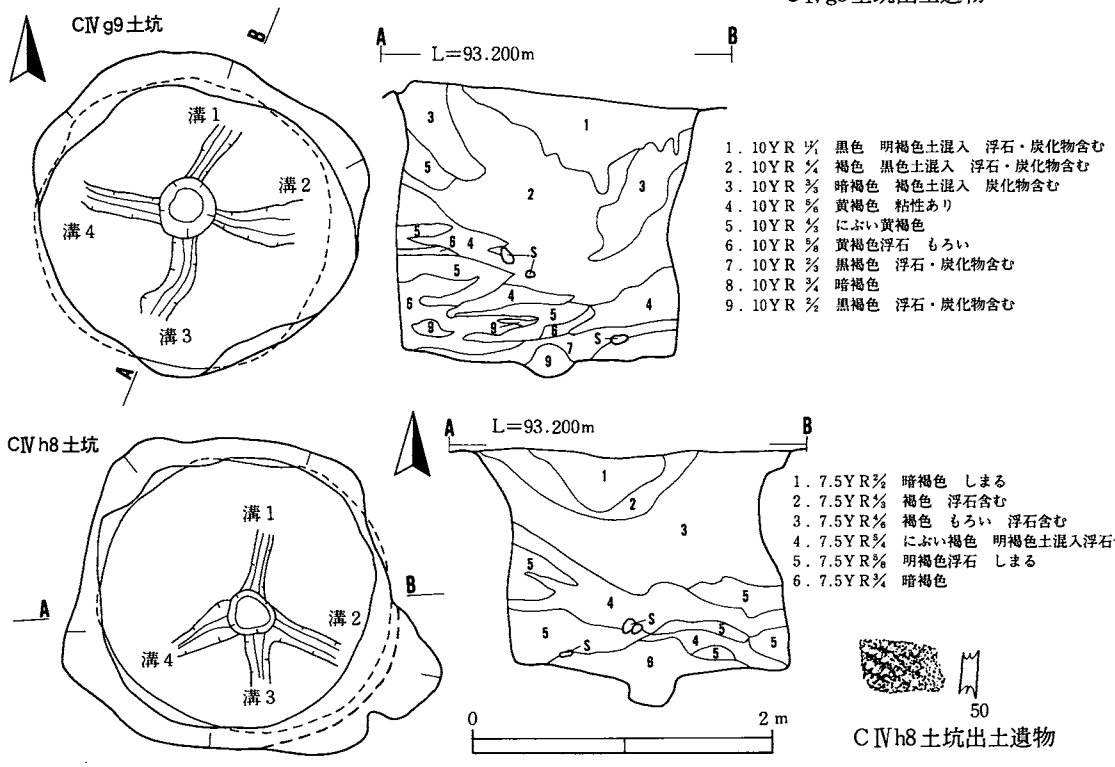
遺構（第23図、写真図版19）

調査区中央の上位面斜面寄りに位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部が不整な円形で、底部が円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径210cm×206cm、頸部径182cm×180cm、底部径196cm×180cm、深さは中心部で150cmである。底面はⅢ層下面で、南西隅に開口部直径28cm、底部直径18cm、深さ25cmの副穴１個があり、副穴から４条の溝が十字状にのびる。溝１は北に延び長さ42cm、最大幅12cm、深さ最大３cm、溝２は南東に延び長さ50cm、最大幅15cm、深さ最大２cm、溝３は南に延び長さ30cm、最大幅15cm、深さ最大３cm、溝４は南西に延び長さ45cm最大幅24cm、深さ最大５cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。底面もまた、副穴に向かって３cm～８cm傾斜する。埋土は６層に細分される。上位と下位は暗褐色土、中位は褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。また、２～４層に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第23図、写真図版58）

埋土から50の土器片が出土している。ＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片で、外面に炭化物が付着する。これは、第Ⅱ群に属するものである。


CⅣg8土坑
(20.4)・(25.0)・8.7
A
B
L=93.200m
1. 7.5YR3/2 黒褐色 浮石少量含む
2. 7.5YR5/6 明褐色 浮石含む
3. 7.5YR4/4 褐色 浮石多量に含む
4. 7.5YR4/6 褐色 もろい
5. 7.5YR4/3 褐色 浮石含む
6. 7.5YR5/6 明褐色
7. 7.5YR5/4 にぶい褐色 浮石少量含む
8. 7.5YR3/3 暗褐色 明褐色土混入
9. 7.5YR5/8 明褐色 固くしまる 粘性あり
10. 7.5YR5/6 橙色浮石含む 粘性あり
11. 7.5YR5/3 褐色 明褐色土混入 浮石少量含む 粘性あり
46
47
48
49
CⅣg8土坑出土遺物


CⅣg9土坑
溝1
溝2
溝3
溝4
A
B
L=93.200m
1. 10YR 1/1 黒色 明褐色土混入 浮石・炭化物含む
2. 10YR 2/4 褐色 黒色土混入 浮石・炭化物含む
3. 10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入 炭化物含む
4. 10YR 5/6 黄褐色 粘性あり
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色
6. 10YR 5/8 黄褐色浮石 もろい
7. 10YR 2/3 黒褐色 浮石・炭化物含む
8. 10YR 3/4 暗褐色
9. 10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
CⅣh8土坑
溝1
溝2
溝3
溝4
1. 7.5YR3/2 暗褐色 しまる
2. 7.5YR4/3 褐色 浮石含む
3. 7.5YR4/6 褐色 もろい 浮石含む
4. 7.5YR5/4 にぶい褐色 明褐色土混入浮石含む
5. 7.5YR5/6 明褐色浮石 しまる
6. 7.5YR3/4 暗褐色
0
2 m
50
CⅣh8土坑出土遺物

第23図 土坑 (14)

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣh 9 土坑

遺構（第24図、写真図版19）

調査区中央の斜面よりに位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部が長軸を北東－東西にもつ楕円形、底部は長軸を東西にもつ楕円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径188cm×160cm、底部径180cm×164cm、深さは中心部で156cmである。底面はⅡ層下面で平坦である。南壁寄りには開口部直径30cm、底部直径10cm深さ17cmの副穴１個がある。埋土は９層に細分される。上位は黒色土、中位が褐色土、下位はにぶい黄褐色土主体で構成される。大部分に浮石粒が見られる。７層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣj 9 土坑

遺構（第24図、写真図版38）

調査区中央の上位面に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部が長軸を南北にもつ楕円形、底部は円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。南壁上位は崩落して外傾する。規模は、開口部径194cm×146cm、頸部径132cm×128cm、底部径158cm×154cm、深さは中心部で170cmである。底面はⅡ層下面で、中央部には開口部直径30cm、底部直径16cm、深さ17cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かってわずかに下る。埋土は７層に細分される。上位は黒色土、中位から下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。大部分に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第24図、写真図版58）

埋土から51の土器が出土している。ＲＬＲ複節斜縄文を地文とする体部片である。これは、第Ⅴ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ０①土坑

遺構（第24図、写真図版19）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形フラスコ形である。規模は、開口部径224cm×210cm、頸部径196cm×188cm、底部径226cm×220cm、深さは中心部で172cmである。底面はIII層下面で、中央部と南壁寄りに２個の副穴がある。Ｐ１は開口部径85cm×80cm、底部径38cm×30cm、深さ30cm、Ｐ２は開口部径28cm×22cm、底部径20×18cm、深さ18cmでIV層に達する。底面は副穴に向かってわずかに下る。埋土は６層に細分される。上位は黒色土、中位は褐色土と黄褐色土、下位は暗褐色土である。壁際に崩落した浮石が見られる。１～３層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ０②土坑

遺構（第24図、写真図版20）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径214cm×210cm、頸部径194cm×174cm、底部径206cm×186cm、深さは中心部142cmである。底面はIII層下面でやや凸凹が見られるものの平坦である。埋土は７層に細分される。上位は暗褐色土が多く、以下は黒褐色土で構成される。実際には崩落した浮石や褐色土が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

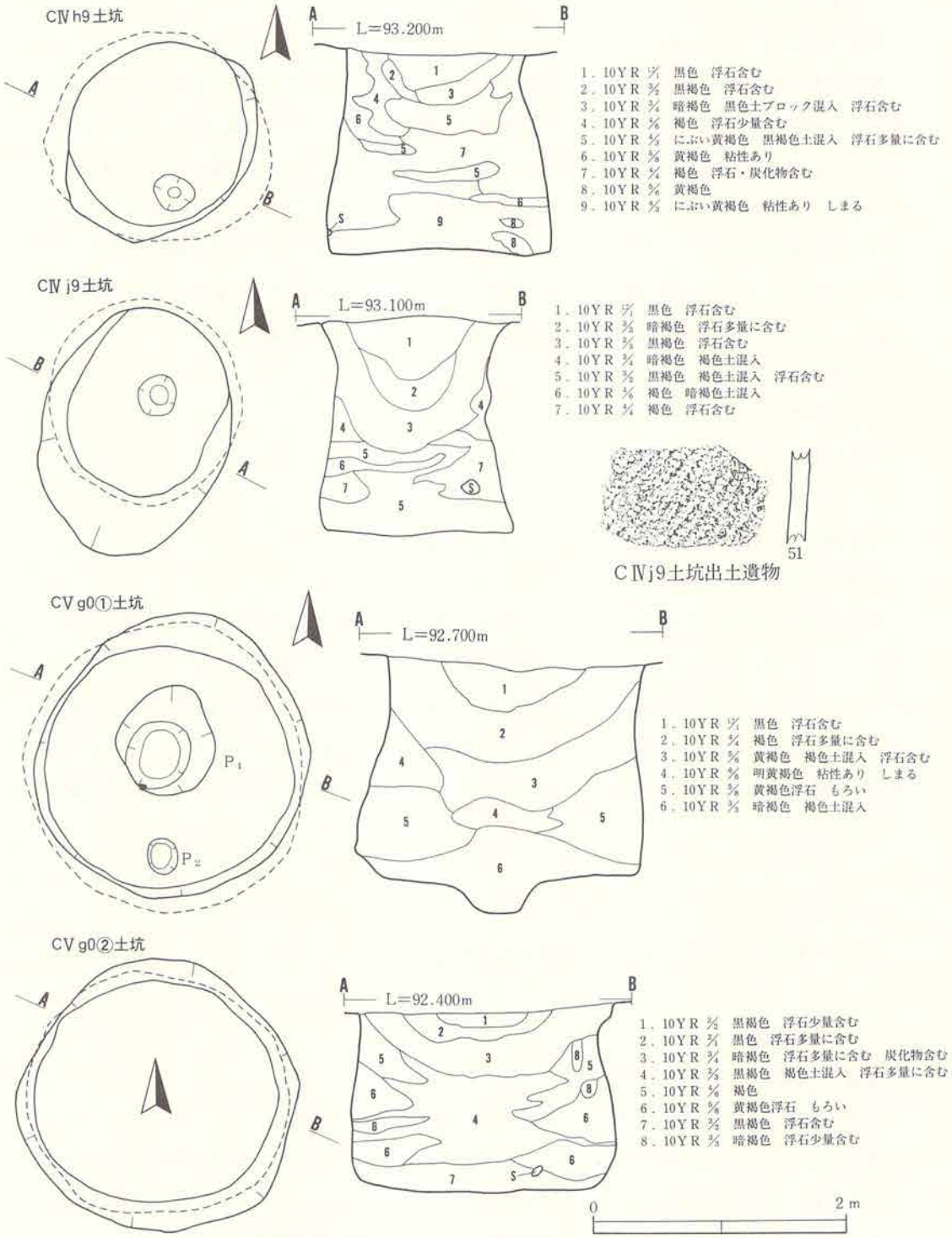
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ１①土坑

遺構（第25図、写真図版20）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はIII層上面である。南西でＣＶｇ１②土坑を切る。平面形は、開口部・底部ともに東西に長軸をもつ楕円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径108cm×92cm、底部径84cm×76cm、深さは中心部で64cmである。底面はIII層で平坦である。埋土は５層に細分され、黒色土主体で構成される。全層に浮石粒が含まれ、１層に炭化物粒が含まれる。


CⅣh9土坑
A
B
L=93.200m
1. 10YR 7/1 黒色 浮石含む
2. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
3. 10YR 3/4 暗褐色 黒色土ブロック混入 浮石含む
4. 10YR 3/3 褐色 浮石少量含む
5. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 黒褐色土混入 浮石多量に含む
6. 10YR 5/6 黄褐色 粘性あり
7. 10YR 3/3 褐色 浮石・炭化物含む
8. 10YR 5/6 黄褐色
9. 10YR 5/3 にぶい黄褐色 粘性あり しまる
CⅣj9土坑
L=93.100m
1. 10YR 7/1 黒色 浮石含む
2. 10YR 3/3 暗褐色 浮石多量に含む
3. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
4. 10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入
5. 10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入 浮石含む
6. 10YR 3/4 褐色 暗褐色土混入
7. 10YR 3/4 褐色 浮石含む
51
CⅣj9土坑出土遺物
CⅤg0①土坑
L=92.700m
P1
P2
1. 10YR 7/1 黒色 浮石含む
2. 10YR 3/4 褐色 浮石多量に含む
3. 10YR 5/6 黄褐色 褐色土混入 浮石含む
4. 10YR 5/6 明黄褐色 粘性あり しまる
5. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
6. 10YR 3/2 暗褐色 褐色土混入
CⅤg0②土坑
L=92.400m
1. 10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
2. 10YR 3/1 黒色 浮石多量に含む
3. 10YR 3/4 暗褐色 浮石多量に含む 炭化物含む
4. 10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入 浮石多量に含む
5. 10YR 3/6 褐色
6. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
8. 10YR 3/3 暗褐色 浮石少量含む
0
2 m

第24図 土坑（15）

出土遺物（第25図、写真図版58）

埋土から52の無文の体部片が出土している。これは、第Ⅴ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ１②土坑

遺構（第25図、写真図版20）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はⅢ層上面である。北東をＣＶｇ１①土坑に切られる。平面形は、開口部・底部ともに北東－南西に長軸をもつ楕円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径200cm×165cm、底部径226cm×220cm、深さは中心部で184cmである。底面はⅢ層で平坦である。中央部に開口部直径48cm、底部径28cm×22cm、深さ17cmの副穴１個がある。埋土は５層に細分される。主に上位は暗褐色土～褐色土、下位は浮石塊で構成される。ほとんどの層に浮石粒と炭化物粒が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ１③土坑

遺構（第25図、写真図版39）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅡ層下面である。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は、上位が暗褐色土と褐色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土で構成される。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径256cm×236cm、底部径230cm×220cm、深さは中心部で134cmである。底面はⅢ層下面で平坦である。

出土遺物はない。

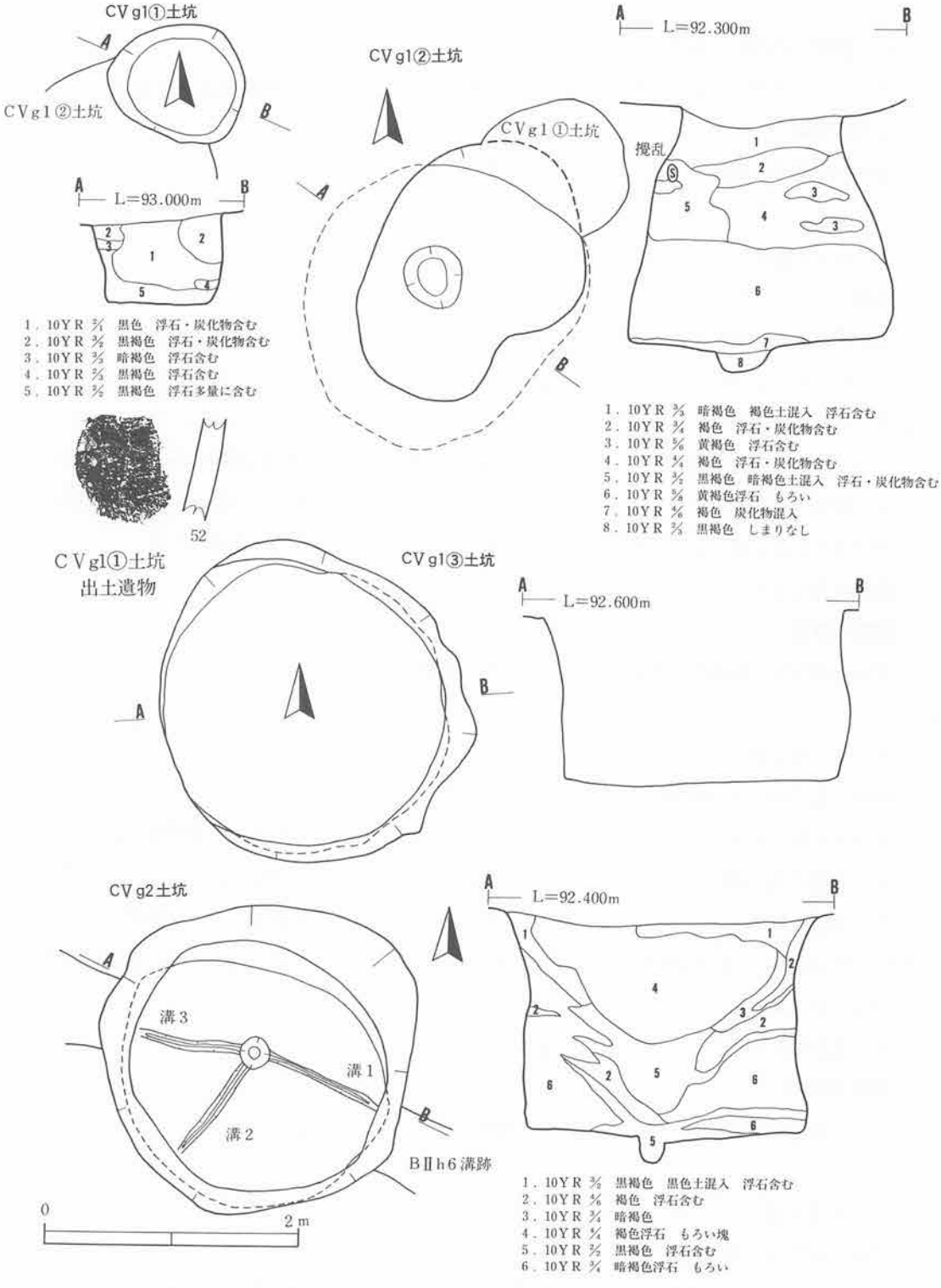
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ２土坑

遺構（第25図、写真図版20）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はⅡ層下面である。平面図は開口部が東西に長軸をもつ楕円形、底部はほぼ円形である。中央部を東西にＢⅡｈ６溝跡に切られてい


CVg1①土坑
CVg1②土坑
A
B
L=93.000m
1．10YR 3/1 黒色 浮石・炭化物含む
2．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
4．10YR 5/3 黒褐色 浮石含む
5．10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む
52
CVg1①土坑
出土遺物
CVg1②土坑
CVg1①土坑
L=92.300m
撹乱
1．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
2．10YR 3/4 褐色 浮石・炭化物含む
3．10YR 5/6 黄褐色 浮石含む
4．10YR 5/4 褐色 浮石・炭化物含む
5．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入 浮石・炭化物含む
6．10YR 5/8 黄褐色浮石 もろい
7．10YR 5/6 褐色 炭化物混入
8．10YR 3/3 黒褐色 しまりなし
CVg1③土坑
L=92.600m
CVg2土坑
溝3
溝1
溝2
BⅡh6溝跡
0
2m
L=92.400m
1．10YR 3/3 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
2．10YR 5/6 褐色 浮石含む
3．10YR 3/4 暗褐色
4．10YR 5/4 褐色浮石 もろい塊
5．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
6．10YR 3/4 暗褐色浮石 もろい

第25図 土坑（16）

る。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がややくびれる。規模は、開口部径216cm×193cm、頸部径184cm×178cm、底部径232cm×224cm、深さは中心部で170cmである。底面はIII層下面で、中央やや北側に開口部直径24cm、底部直径10cm、深さ24cmの副穴1個があり、副穴から3条の溝が延びる。溝1はほぼ南東に延び長さ94cm、最大幅6cm、深さ最大4cm、溝2は南西方向に延び長さ90cm、最大幅8cm、深さ最大6cm、溝3は西方面に延び長さ82cm、最大幅8cm、深さ最大3cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。底面もまた、副穴に向かって2cm～5cm下る。埋土は6層に細分される。上位は褐色浮石、下位は黒褐色土主体で構成される。壁際には崩落した浮石や暗褐色土、褐色土が見られる。大部分に浮石粒が含まる。4層は人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｈ０土坑

遺構（第26図、写真図版21）

調査区東側上位面の斜面寄りに位置する。検出面はII層上面である。西を南北にＣＶｈ０陥し穴状遺構に切られる。平面形は、開口部が南北に長軸をもつ楕円形、底部は円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径148cm×134cm、底部径172cm×170cm、深さは中心部で146cmである。底面はIII層下面で平坦で、南西壁に半円形の副穴がある。規模は、開口部直径44cm、底部直径24cm、深さ15cmである。埋土は5層に細分される。上位は黒色土～暗褐色土、中位は褐色土、下位は暗褐色土である。全層に浮石粒が含まれる。また、3・4層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第26図、写真図版58）

埋土下位から53・54の土器が出土している。53は沈線文で区画された磨消縄文をもつ体部片であり、地文はＲＬ単節斜縄文である。54はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片であり、外面に炭化物が付着する。これらは、第II群3類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＣＶｈ１土坑

遺構（第26図、写真図版39）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・

底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がややくびれる。規模は、開口部径210cm×208cm、頸部径196cm×182cm、底部径208cm×206cm、深さは中心部で176cmである。底面はIII層下面で、北東壁寄りに開口部直径46cm、底部直径25cm、深さ20cmの副穴１個があり、副穴から３条の溝が延びる。溝１はほぼ南方面に延び長さ80cm、最大幅12cm、深さ最大３cm、溝２は南西方向に延び長さ94cm、最大幅14cm、深さ最大４cmで先端が左右に分岐する。溝３は西方向に延び長さ80cm、最大幅16cm、深さ最大２cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。底面もまた、副穴に向かって２cm～６cm下る。また、南壁下位を円礫６個で補強している。埋土は９層に細分される。上位は黒色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土主体で構成される。壁際には崩落した浮石や暗褐色土、黄褐色土が見られる。大部分に浮石粒が含まれ、１・２・９層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第26図、写真図版58）

埋土上位から55の土器が出土した。口縁部は強く外反し、口縁部から体部にかけて膨みをもつ。口唇部は肥厚し原体圧痕文を伴う波状の隆帯が施される。体部上半はＲＬＲ複節斜縄文を地文とし、隆帯が菱形状に施され、隆帯に沿って原体圧痕を施す。口縁部には、部位的に渦巻状の原体圧痕文が見られる。内面はミガキ調整が施される。これは、第II群１類土器に属するものである。

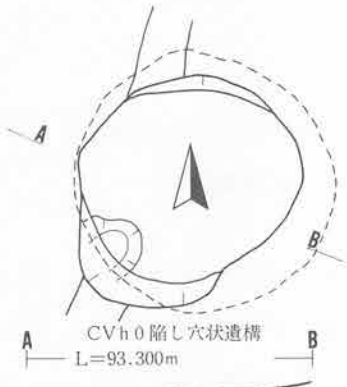
遺構の時期

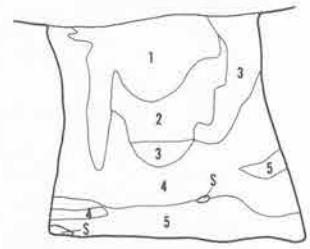
規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｈ２土坑

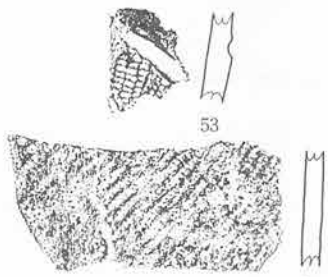
遺構（第26図、写真図版21）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径216cm×193cm、頸部径184cm×178cm、底部径232cm×223cm、深さは中心部で170cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。中央部と北東部に２個の副穴が見られる。Ｐ１は開口部直径40cm、底部直径20cm、深さ25cm、Ｐ２は開口部直径32cm、底部直径22cm、深さ26cmである。Ｐ１から２条の溝が南北に延びる。溝１は南方向に延び長さ68cm、最大幅14cm、深さ最大４cm、溝２はＰ２と連結し長さ30cm、最大幅10cm、深さ最大３cmでＰ１に向かってわずかに下る。さらに、Ｐ２からはＰ１との連結溝以外に５条の溝が放射状に延びる。溝３は南西壁に延び長さ130cm、最大幅12cm、深さ最大６cm、溝４は北西方向に延び長さ52cm、最大幅12cm、深さ最大４cm、溝５は北東壁に延び長さ40cm、最大幅10cm、深さ最大３cm、溝６は南東方向に延び長さ76cm、最大幅８cm、深さ最大４cmである。これらの溝はＰ２に向かってわずかに下る。東壁と西壁の下

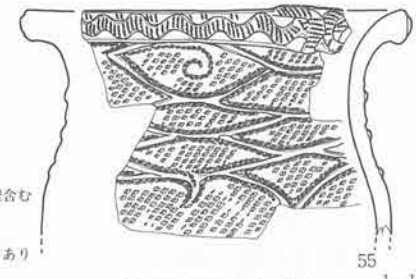




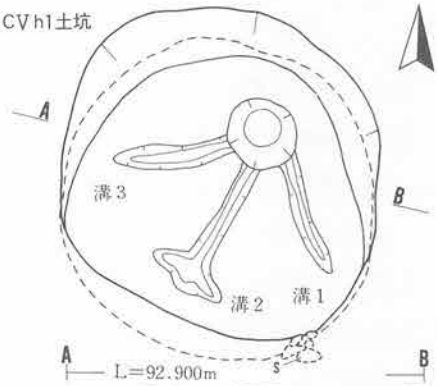
1．10YR 7/1 黒色 浮石含む
2．10YR 3/1 黒褐色 黒色土混入 浮石・円礫含む
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物含む
4．10YR 5/6 褐色 浮石・炭化物含む
5．10YR 3/4 暗褐色 浮石含む 粘性・しまりあり

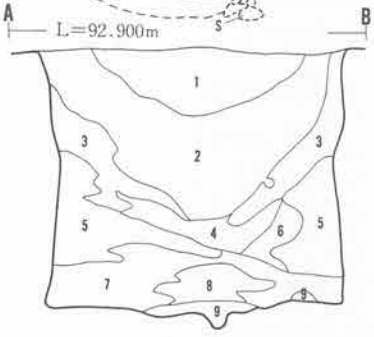


CVh0土坑出土遺物

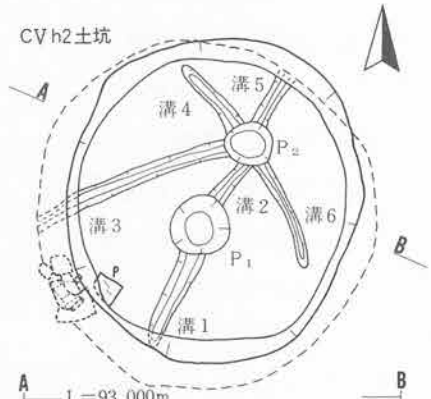


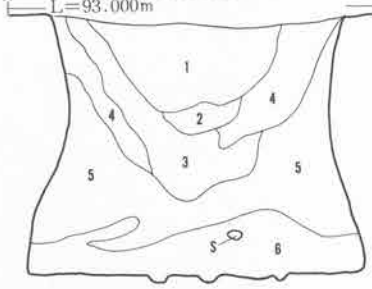
CVh1土坑出土遺物





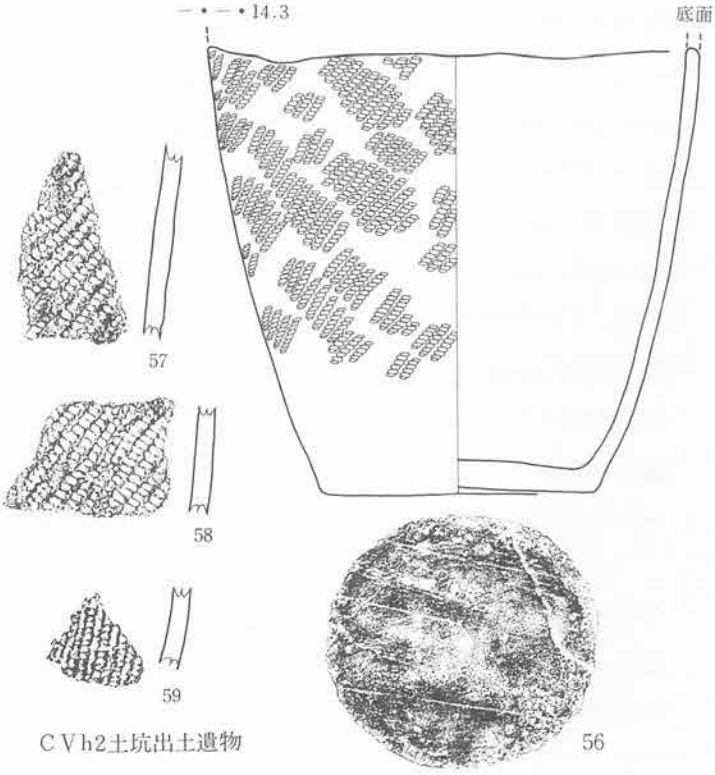
1．10YR 3/1 黒色 浮石・炭化物含む
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物含む
3．10YR 5/6 黄褐色 浮石含む
4．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
5．10YR 4/4 褐色浮石 暗褐色土 混入
6．10YR 3/4 暗褐色
7．10YR 2/1 黒褐色 もろい
8．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
9．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む





1．10YR 7/1 黒色 浮色含む
2．10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む しまる
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石多量に含む しまる
4．10YR 5/4 褐色 浮石少量含む
5．10YR 5/6 黄褐色 粘性あり しまる
6．10YR 5/4 にぶい黄褐色 粘性あり 固くしまる

0 2 m



CVh2土坑出土遺物

第26図 土坑 (17)

位２箇所を数個の円礫で補強している。埋土は６層に細分される。上位は黒色土、中位は暗褐色土と黄褐色土、下位はにぶい黄褐色土で構成される。上位には浮石粒が多く含まれる。

出土遺物（第26図、写真図版59）

底面から56～59の土器が出土している。56は体部下半～底部が残存する粗製深鉢である。ＲＬ単節斜縄文を地文とし、底部には木葉痕がある。内外面に炭化物が付着している。上端欠損部は再加工されている。57・58は同一個体であり、59とともにＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片である。これらは、第II群３類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＣＶｈ３①土坑

遺構（第27図、写真図版21）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層上面である。南を２号溝に切られ、北東にＣＶｈ３陥し穴が隣接する。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径224cm×222cm、頸部径226cm×214cm、底部径252cm×246cm、深さは中心部で144cmである。底面はIII層下面で、北壁際に開口部径50cm×46cm、底部直径28cm、深さ23cmの副穴１個がある。副穴から３条の溝が延びる。溝１は北壁際から西壁際を巡り、南西壁寄りで溝２と合流し、長さ370cm、最大幅26cm、深さ最大３cm、溝２は北壁際から東壁際を巡り、南西壁寄りで溝１と合流し長さ362cm、最大幅12cm、深さ最大３cm、溝３は副穴から合流点まで真っ直ぐに延び長さ120cm、最大幅８cm、深さ最大４cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。底面も副穴に向かって最大で15cm下る。埋土は８層に細分される。上位は黒褐色土主体、下位は暗褐色土で構成され、壁際には崩落土した浮石や褐色土が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｈ３②土坑

遺構（第27図、写真図版21）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。北半を２号溝に切られる。平面形は開口部は円形、底部は東西に長軸をもつ楕円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の上位がくびれる。規模は、開口部径230cm×224cm、頸部径176cm×160cm、底部径

208cm×180cm、深さは中心部で176cmである。底面はIII層下面で、中央に開口部径42cm×38cm、底部径28cm×23cm、深さ22cmの副穴１個がある。副穴から４条の溝が延びる。溝１は東に延び長さ８cm、最大幅８cm、深さ最大２cm、溝２は南に延び長さ16cm、最大幅６cm、深さ最大３cm、溝３は西に延び長さ10cm、最大幅９cm、深さ最大１cmである。溝４も西の延び長さ９cm、最大幅12cm、深さ最大４cmで、溝は副穴に向かってわずかに下る。底面も副穴に向かって最大で５cm下る。埋土は７層に細分され、黄褐色浮石と黒褐色土と暗褐色土の互層になっている。壁際には崩落した浮石や褐色土が見られる。ほとんどの層に浮石粒が、３・７層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｈ４土坑

遺構（第27図、写真図版22）

調査区東側の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はII層下面である。南側でＣＶｉ５①土坑と隣接する。平面形は開口部が長軸を南北にもつ楕円形、底部は円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径210cm×180cm、頸部径160cm×144cm、底部径206cm×204cm、深さは中心部で122cmである。底面はIII層下面でほぼ平坦である。北寄りに中央部に開口部径48cm×43cm、底部径25cm×22cm、深さ27cmの副穴１個がある。南壁下位から底部を最大90cmの円礫10数個を組んで補強している。埋土は11層に細分される。上位は黒色土～黒褐色土とにぶい黄褐色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土主体で構成される。大部分の層に浮石粒が、２・８・９層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

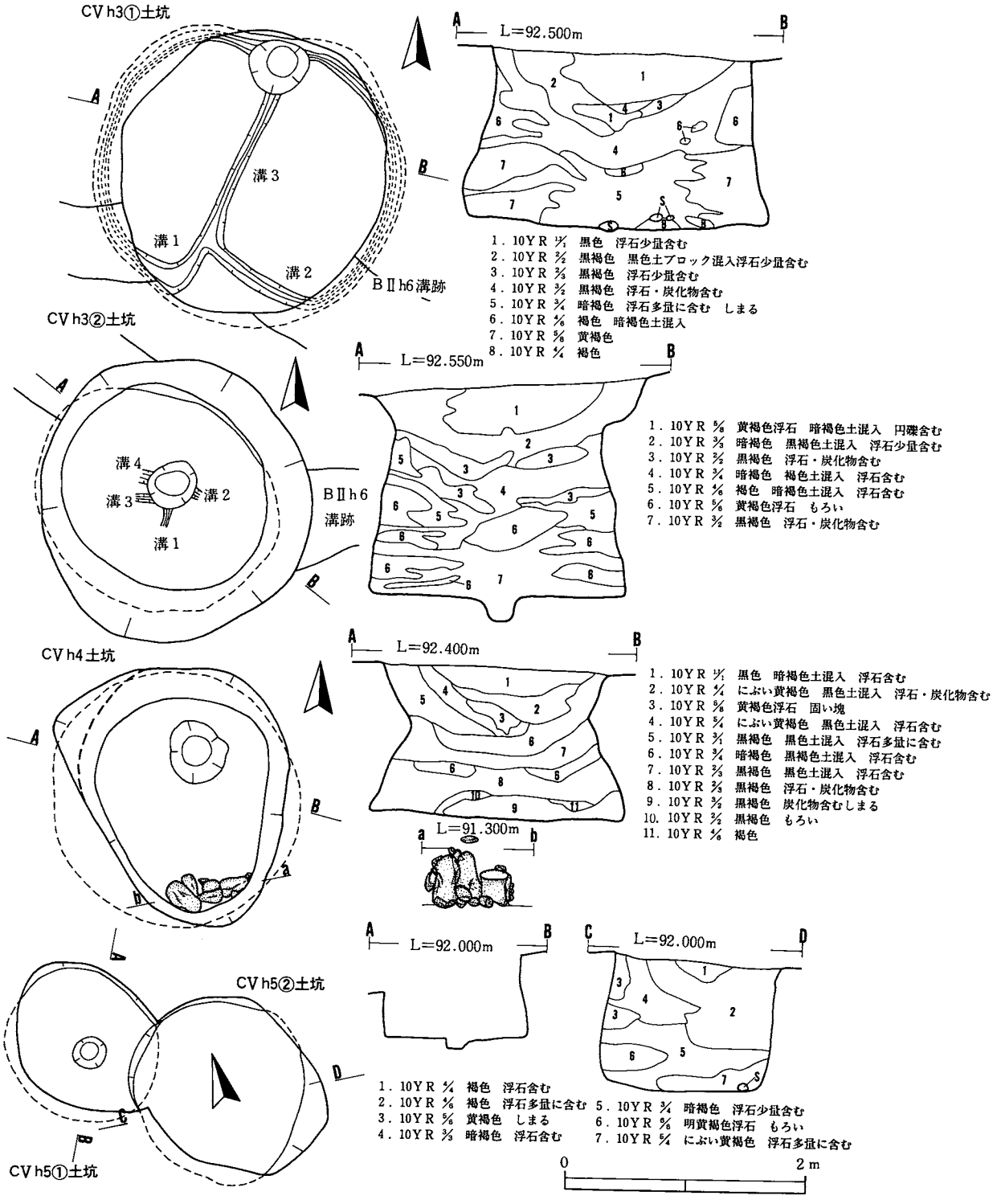
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｈ５①土坑

遺構（第27図、写真図版22）

調査区東側の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はII層下面である。南東側でＣＶｈ５②土坑と重複する。底面重複部に浮石による張り床が認識されたことから本遺構の方が新しいと考えられる。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は暗褐色土主体で浮石粒をふくむ。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はビーカー形である。規模は、


CV h3①土坑
溝 1
溝 2
溝 3
BⅡh6溝跡
L=92.500m
1. 10YR 1/1 黒色 浮石少量含む
2. 10YR 3/2 黒褐色 黒色土ブロック混入浮石少量含む
3. 10YR 3/3 黒褐色 浮石少量含む
4. 10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
5. 10YR 3/4 暗褐色 浮石多量に含む しまる
6. 10YR 4/6 褐色 暗褐色土混入
7. 10YR 5/8 黄褐色
8. 10YR 4/4 褐色
CV h3②土坑
溝 1
溝 2
溝 3
溝 4
BⅡh6
溝跡
L=92.550m
1. 10YR 5/8 黄褐色浮石 暗褐色土混入 円礫含む
2. 10YR 3/3 暗褐色 黒褐色土混入 浮石少量含む
3. 10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
4. 10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
5. 10YR 4/6 褐色 暗褐色土混入 浮石含む
6. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7. 10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
CV h4土坑
L=92.400m
1. 10YR 1/1 黒色 暗褐色土混入 浮石含む
2. 10YR 4/4 にぶい黄褐色 黒色土混入 浮石・炭化物含む
3. 10YR 6/6 黄褐色浮石 固い塊
4. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 黒色土混入 浮石含む
5. 10YR 3/1 黒褐色 黒色土混入 浮石多量に含む
6. 10YR 3/4 暗褐色 黒褐色土混入 浮石含む
7. 10YR 3/3 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
8. 10YR 3/3 黒褐色 浮石・炭化物含む
9. 10YR 3/2 黒褐色 炭化物含むしまる
10. 10YR 3/2 黒褐色 もろい
11. 10YR 4/6 褐色
L=91.300m
CV h5②土坑
CV h5①土坑
L=92.000m
L=92.000m
1. 10YR 3/4 褐色 浮石含む
2. 10YR 4/6 褐色 浮石多量に含む
3. 10YR 5/6 黄褐色 しまる
4. 10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
5. 10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
6. 10YR 5/6 明黄褐色浮石 もろい
7. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 浮石多量に含む
0
2 m

第27図 土坑 (18)

開口部径130cm×112cm、底部径130cm×116cm、深さは中心部で55cmである。底面はIII層で平坦である。中央部に開口部径30cm×26cm、底部径18cm×13cm、深さ11cmの副穴１個がある。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｈ５②土坑

遺構（第27図、写真図版39）

調査区東側の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はII層下面である。北西側でＣＶｈ５①土坑に切られる。平面形は開口部が北西－南東に長軸をもつ楕円形、底部はほぼ円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径162cm×140cm、底部径148cm×142cm、深さは中心部で106cmである。底面はIII層で平坦である。埋土は７層に細分される。上位は褐色土、中位は暗褐色土、下位はにぶい黄褐色土主体で構成され、西壁際には崩落した浮石や黄褐色土が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ０土坑

遺構（第28図、写真図版22）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の上位がくびれる。規模は、開口部径176cm×166cm、頸部直径132cm、底部径176cm×166cm、深さは中心部で164cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部直径36cm、底部直径24cm、深さ25cmの副穴１個がある。底面は、副穴に向かって５cmほど下る。副穴から４条の溝が十字状にのびる。溝１は東壁に延び長さ65cm、最大幅14cm、深さ最大２cm、溝２は南壁に延び長さ60cm、最大幅10cm、深さ最大１cm、溝３は西壁に延び長さ66cm、最大幅14cm、深さ最大１cm、溝４は北壁に延び長さ74cm、最大幅12cm、深さ最大３cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。埋土は８層に細分される。上位は黒色土～暗褐色土、以下は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。大部分に浮石粒が含まれ、８層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ１①土坑

遺構（第28図、写真図版22）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径216cm×200cm、頸部径194cm×176cm、底部径216cm×208cm、深さは中心部で168cmである。底面はIII層下面で平坦である。ほぼ中央に開口部径38cm×32cm、底部直径20cm、深さ24cmの副穴１個があり、副穴から３条の溝が延びる。溝１は南東壁に延び長さ84cm、最大幅８cm、深さ最大３cm、溝２は南西壁に延び長さ72cm、最大幅10cm、深さ最大４cm、溝３は西壁に延び長さ74cm、最大幅８cm、深さ最大５cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。埋土は10層に細分される。上位は黒色土、中位は黒褐色土、下位は浮石塊と黒褐色土主体で構成される。壁際には崩落した浮石や暗褐色土、褐色土が見られる。大部分に浮石粒が、３・10層には炭化物粒が含まれる。また、８層には、最大10cmの円礫が見られる。

出土遺物（第28図、写真図版59）

60～66の土器と67の剝片が出土している。これらのうち60～62・64は埋土下位から、63・65～67は埋土から出土したものである。60～62は同一個体と考えられ、ＲＬ単節斜縄文を地文とする。60は波状を呈する口縁部～体部上部片で、口縁部は緩く「く」の字状に内湾し無文である。頸部に隆帯が巡り口縁部と体部を区画し、体部は沈線文で区画された磨消縄文をもつ。63・64はＬＲ単節斜縄文を地文とする口縁部片であり、63は口唇部に刻目が施され、２本の平行沈線が巡る。65はＲＬ単節斜縄文、66はＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片である。これら出土遺物のうち、60～63は第II群３類土器に、64～66は第Ｖ群土器に属するものである。

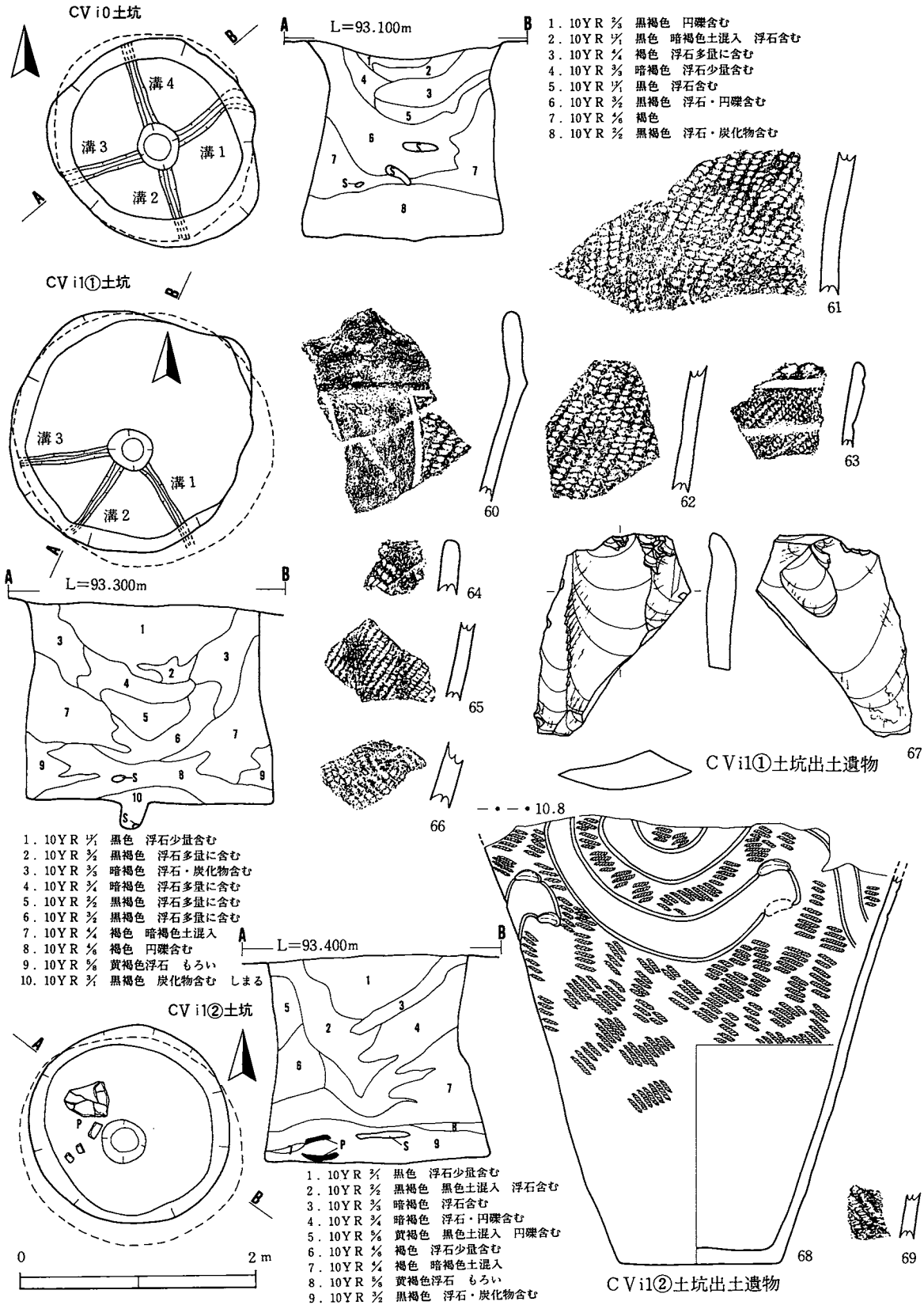
遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＣＶｉ１②土坑

遺構（第28図、写真図版23）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。平面形は、開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形で、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径170cm×166cm、頸部径150cm×136cm、底部径190cm×178cm、深さは中心部で172cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部直径36cm、底部直径24cm、深さ16cmの副穴１個がある。底面は、この副穴に向か


CVi0土坑
溝1
溝2
溝3
溝4
L=93.100m
1．10YR 5/3 黒褐色 円礫含む
2．10YR 7/1 黒色 暗褐色土混入 浮石含む
3．10YR 5/4 褐色 浮石多量に含む
4．10YR 3/3 暗褐色 浮石少量含む
5．10YR 7/1 黒色 浮石含む
6．10YR 3/2 黒褐色 浮石・円礫含む
7．10YR 5/6 褐色
8．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
CVi1①土坑
溝1
溝2
溝3
L=93.300m
1．10YR 7/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 3/4 黒褐色 浮石多量に含む
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物含む
4．10YR 3/4 暗褐色 浮石多量に含む
5．10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む
6．10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む
7．10YR 5/4 褐色 暗褐色土混入
8．10YR 5/6 褐色 円礫含む
9．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
10．10YR 3/1 黒褐色 炭化物含む しまる
CVi1②土坑
L=93.400m
1．10YR 3/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
4．10YR 3/4 暗褐色 浮石・円礫含む
5．10YR 5/6 黄褐色 黒色土混入 円礫含む
6．10YR 5/4 褐色 浮石少量含む
7．10YR 5/4 褐色 暗褐色土混入
8．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
9．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
10.8
CVi1①土坑出土遺物
CVi1②土坑出土遺物
0
2 m

第28図 土坑（19）

ってわずかに下る。埋土は5層に細分される。上位は黒色土、中位は暗褐色土と褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。大部分の層に浮石粒が、9層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第28図、写真図版60）

底面から68・69の土器が出土している。68は底部から直線的に外傾する深鉢で沈線文で区画された磨消縄文が渦巻状に展開し、渦巻端部には鰭状突起が付される。地文はＬＲ単節斜縄文である。69はＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片である。これらは、第II群3類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構である。

ＣＶｉ２①土坑

遺構（第29図、写真図版23）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。北西でＣＶｉ１②土坑を切る。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、平面形は、開口部・底部ともほぼ円形と考えられる。断面形はビーカー形であろう。規模は、開口部直径98cm、底部直径84cm、深さは中心部で90cmである。底面はIII層上面で平坦である。埋土は、黒褐色土主体で3層に細分される。下層には浮石粒が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ２②土坑

遺構（第29図、写真図版23）

調査区東側上位面の南寄りに位置する。検出面はII層上面である。南東をＣＶｉ１①土坑に切られる。平面形は、開口部が不正円・底部は円形である。断面形はフラスコ形で、壁の中位がややくびれる。規模は、開口部径210cm×190cm、頸部径180cm×170cm、底部径210cm×200cm、深さは中心部で162cmである。底面はIII層下面で平坦で、中央部に開口部径32cm×28cm、底部直径16cm、深さ15cmの副穴1個がある。底面は、副穴に向かってわずかに下る。埋土は4層に細分される。上位は黒色土、以下は褐色土、壁際は黄橙色土で構成される。2層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ３土坑

遺構（第29図、写真図版23）

調査区東側の斜面寄りに位置する。検出面はII層上面である。平面形は、開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径126cm×120cm、底部径134cm×132cm、深さは中心部で54cmである。底面はIII層上面で平坦である。埋土は７層に細分され、上位は黒褐色土、中位は暗褐色土、下位は褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ４①土坑

遺構（第29図、写真図版24）

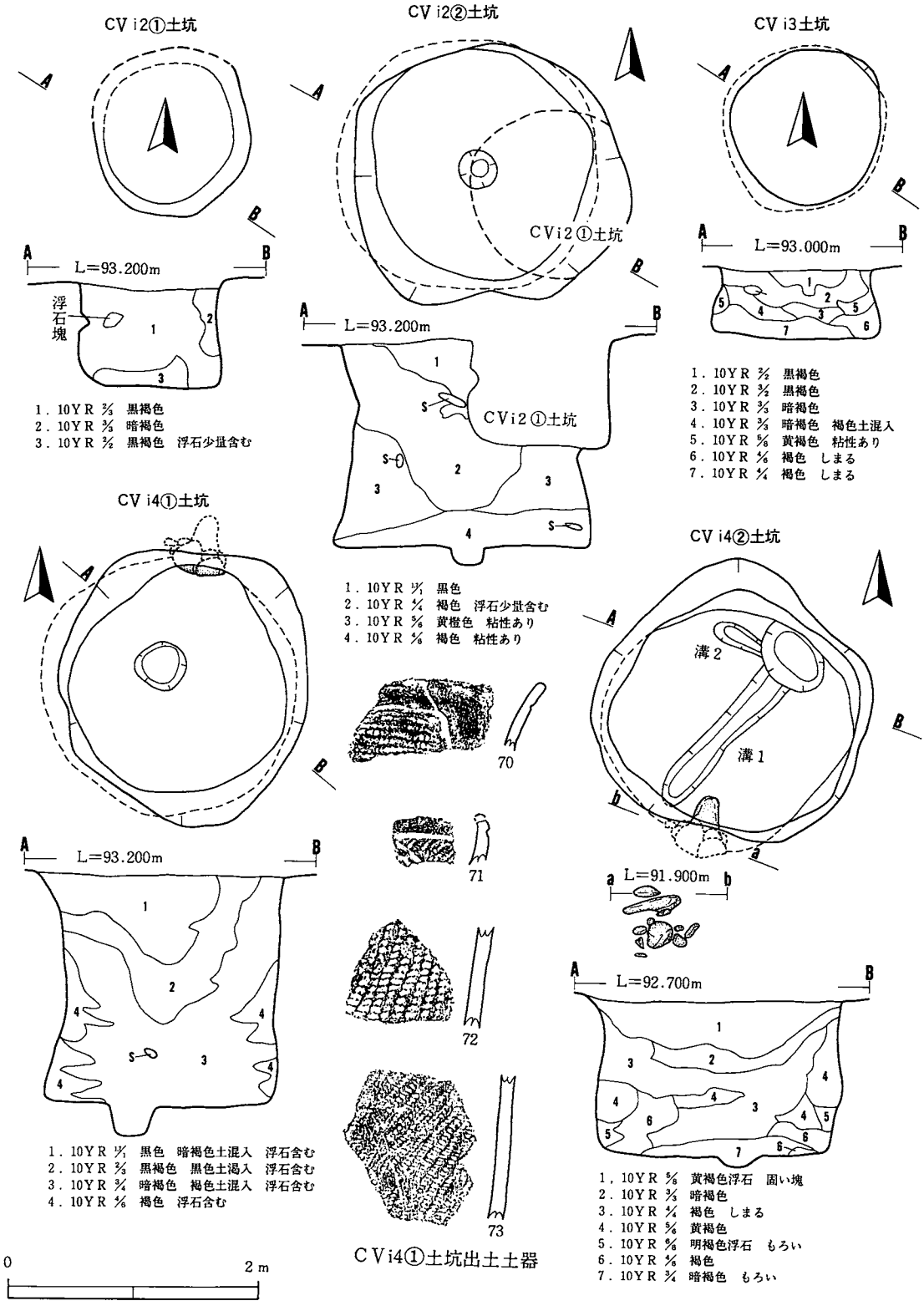
調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。北側でＣＶｉ４②土坑と隣接する。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径222cm×202cm、頸部径168cm×164cm、底部径206cm×196cm、深さは中心部で186cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部径42cm×34cm、底部直径30cm、深さ23cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かって最大６cm下る。北壁下位から底部に最大90cmの円礫10数個の石組が見られる。これは隣接するＣＶｉ４②土坑側からの補強のための石組である。埋土は４層に細分される。上位は黒色土、中位は黒褐色土、下位は暗褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。全層に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第29図、写真図版60）

埋土から70～73の土器が出土している。70は緩く外反する、71は内湾する口縁部片で、沈線文で区画された磨消縄文が施されている。口縁部は無文となっている。地文は70がＬＲ、71はＲＬ単節斜縄文である。72・73はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片である。これら出土遺物のうち、70・71は第II群３類土器に、72・73は第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。


CV i2①土坑
A
B
L=93.200m
浮石塊
1
2
3
1．10YR 3/3 黒褐色
2．10YR 3/3 暗褐色
3．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
CV i2②土坑
CVi2①土坑
L=93.200m
S
1．10YR 2/1 黒色
2．10YR 3/4 褐色 浮石少量含む
3．10YR 5/6 黄橙色 粘性あり
4．10YR 5/6 褐色 粘性あり
CV i3土坑
L=93.000m
1．10YR 3/2 黒褐色
2．10YR 3/2 黒褐色
3．10YR 3/3 暗褐色
4．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入
5．10YR 5/8 黄褐色 粘性あり
6．10YR 5/6 褐色 しまる
7．10YR 5/4 褐色 しまる
CV i4①土坑
L=93.200m
1．10YR 2/1 黒色 暗褐色土混入 浮石含む
2．10YR 3/3 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
3．10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
4．10YR 5/6 褐色 浮石含む
70
71
72
73
CVi4①土坑出土土器
CV i4②土坑
溝2
溝1
a
b
L=91.900m
L=92.700m
1，10YR 5/8 黄褐色浮石 固い塊
2．10YR 3/3 暗褐色
3．10YR 5/4 褐色 しまる
4．10YR 5/6 黄褐色
5．10YR 5/8 明褐色浮石 もろい
6．10YR 5/6 褐色
7．10YR 3/4 暗褐色 もろい
0
2 m

第29図 土坑（20）

ＣＶｉ４②土坑

遺構（第29図、写真図版24）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。南側でＣＶｉ４①土坑と隣接する。平面形は開口部が不整な円形、底部は円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は開口部径216cm×204cm、頸部径182cm×170cm、底部径188cm×176cm、深さは中心部で122cmである。底面はIII層下面で平坦である。南西壁際に開口部径60cm×43cm、底部径44cm×27cm、深さ20cmの副穴１個がある。さらに、この副穴からは２条の溝が延びる。溝１は南西壁際に延び長さ144cm、最大幅25cm、深さ最大10cm、溝２は北西壁際に延び長さ40cm、最大幅18cm、深さ最大３cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。南壁下位から底部に最大90cmの円礫10数個の石組が見られる。これは隣接するＣＶｉ４①土坑との隣接部補強のための石組であり、本遺構の方が新しいと考えられる。埋土は７層に細分される。上位は黄褐色浮石と暗褐色土、中位は褐色土、下位は暗褐色土で構成され、壁際には崩落した浮石や黄褐色土が見られる。１層は投げ込み層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ４③土坑

遺構（第30図、写真図版24）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径106cm×102cm、底部径110cm×108cm、深さは中心部で74cmである。底面はIII層上面で木根による凸凹がわずかに見られる。埋土は５層に細分され、黒褐色土と明褐色土主体に構成される。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ５①土坑

遺構（第30図、写真図版24）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。平面形はII層下面である。西をＣＶｉ５①土

坑と重複する。新旧関係は不明である。平面形は開口部が東西に長軸をもつ楕円形、底部はほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径235cm×218cm、頸部径212cm×206cm、底部径230cm×225cm、深さは中心部で195cmである。底面はIII層下面である。北西壁寄りに開口部92cm×68cm、底部直径25cm、深さ38cmの副穴1個がある。副穴はIV層に達する。底面はこの副穴に向かって最大14cm下る。北壁と南壁の下位から底部には最大20cmの円礫が散らばっている。これは補強のための石組が崩れたためのものである。埋土は10層に細分され、上位は黒色土と暗褐色土、中位は褐色土と黒褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には崩落した浮石や褐色土が見られる。大部分の層に浮石粒が含まれ、1・6・10層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第30図、写真図版60）

埋土から74の土器が出土している。無文の口縁部片で上端に不明瞭な段をもつ。これは第V群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ５②土坑

遺構（第30図、写真図版25）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。東でＣＶｉ５①土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、平面形は、開口部・底部とも円形と考えられる。断面形はフラスコ形であろう。規模は、開口部直径100cm、頸部直径86cm、底部直径94cm、深さは中心部で88cmである。底面はIII層で平坦である。埋土は黒褐色土が主体で、3層に細分される。1・2層に炭化物粒を含む。

出土遺物はない。

遺構の時期

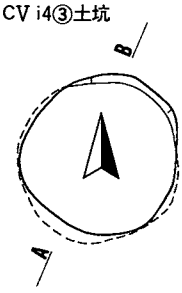
規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

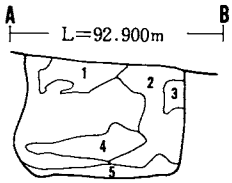
ＣＶｉ５③土坑

遺構（第30図、写真図版25）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径140cm×128cm、底部径128cm×124cm、深さは中心部で140cmである。底面はIII層で、中央部と北壁に2個の副穴がある。Ｐ1は開口部直径22cm、底

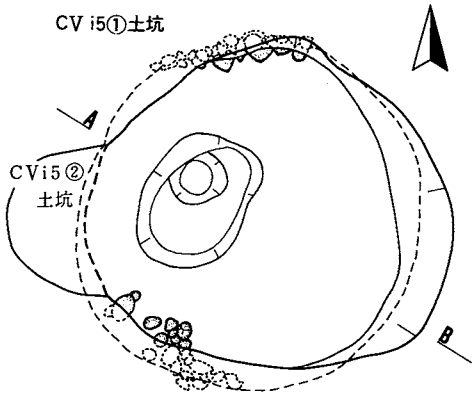
CV i4③土坑

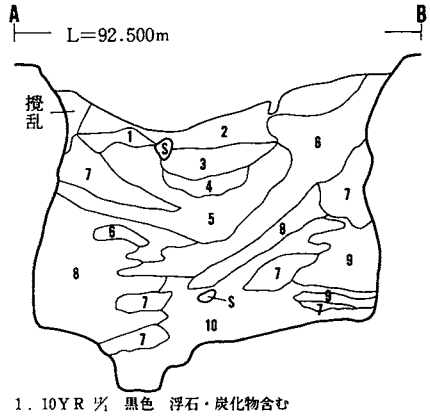




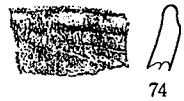
1．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入
2．10YR 5/6 褐色 しまる
3．7.5YR5/6 明褐色 粘性あり
4．10YR 3/1 褐色
5．10YR 3/2 黒褐色

CV i5①土坑





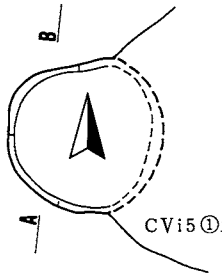
1．10YR 1/1 黒色 浮石・炭化物含む
2．10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
3．10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む
4．10YR 5/6 黄褐色浮石 固くしまる
5．10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
6．10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物含む
7．10YR 5/4 褐色
8．10YR 5/4 褐色 浮石含む
9．10YR 5/4 褐色浮石 褐色土混入 もろい
10．10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入 炭化物・円礫含む



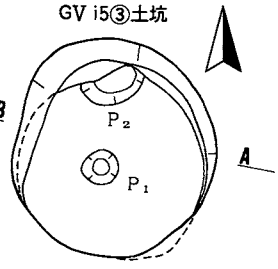
74

CVi5①土坑出土遺物

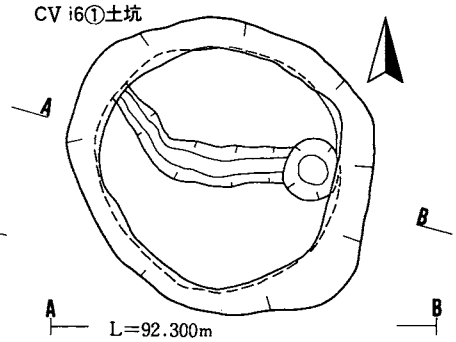
CV i5②土坑

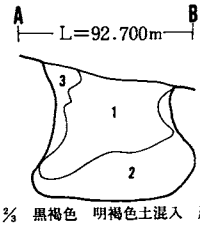


GV i5③土坑

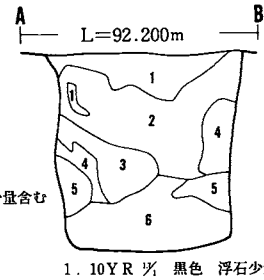


CV i6①土坑

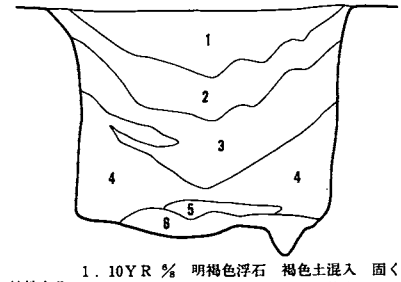




1．10YR 3/3 黒褐色 明褐色土混入 炭化物少量含む
2．10YR 3/2 黒褐色 炭化物少量含む
3．7.5YR5/6 明褐色



1．10YR 1/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 5/6 褐色 浮石少量含む
3．10YR 5/4 褐色 浮色少量含む 粘性あり
4．10YR 5/6 黄褐色 粘性あり
5．10YR 5/6 明黄褐色浮石 もろい
6．10YR 3/4 暗褐色 粘性あり



1．10YR 5/6 明褐色浮石 褐色土混入 固くしまる
2．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
3．10YR 5/4 褐色 炭化物少量含む
4．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
5．10YR 3/3 黒褐色 しまりなし
6．10YR 5/6 褐色 浮石・炭化物含む

0 2 m

第30図 土坑 (21)

部直径10cm、深さ20cm、Ｐ２は半円形で開口部直径40cm、底部直径27cm、深さ16cmである。底面はＰ１に向かって最大10cm下る。埋土は６層に細分される。上位は黒色土、中位は褐色土、下位は暗褐色土主体で構成され、壁際には崩落した浮石や黄褐色土が見られる。大部分の層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ６①土坑

遺構（第30図、写真図版25）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。壁の上位がやや外傾する。規模は、開口部径204cm×190cm、頸部径160cm×156cm、底部径166cm×162cm、深さは中心部で150cmである。底面はIII層下面で、東壁際に開口部径40cm×35cm、底部直径18cm、深さ20cmの副穴１個がある。この副穴からは１条の溝が南西壁に湾曲して延びる。溝の長さ123cm、最大幅27cm、深さ最大10cmである。溝は副穴に向かって10cm下る。底部も副穴に向かって最大で10cm下る。埋土は６層に細分される。上位は明褐色浮石と黒褐色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土と褐色土で構成され、壁際には崩落した浮石が見られる。１層は投げ込み層である。２・６層には浮石粒が、２・３・６層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ６②土坑

遺構（第31図、写真図版25）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。中央部をＢIIｈ６溝に切られる。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径134cm×132cm、頸部径126cm×116cm、底部径142cm×140cm、深さは中心部で120cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。中央部に開口部直径25cm、底部直径16cm、深さ17cmの副穴１個がある。埋土は６層に細分される。上位と下位は黒褐色土、中位は褐色土で構成され、壁際には崩落した浮石が見られる。全層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ６③土坑

遺構（第31図、写真図版26）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。北東部でＣＶｉ６④土坑を切る。また、中央部を２号溝に切られる。平面形は開口部が残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。壁は東側では底部から直立し、西側では内傾して断面形は底が西に広がるフラスコ形である。規模は、開口部直径130cm、頸部直径110cm、底部径214cm×190cm、深さは中心部で194cmである。底面はIII層下面でほぼ平坦である。北東壁際に開口部径62cm×57cm、底部直径40cm、深さ27cmの副穴１個がある。この副穴から１条の溝が延び、この溝の中央付近をもう１条の溝が交差して延びる。溝１は南西壁に延び長さ128cm、最大幅50cm、深さ最大17cm、溝２は溝１の中央から分岐して南東壁に延び長さ80cm、最大幅16cm、深さ最大３cm、溝３は溝１の中央から分岐して北西壁に延び長さ86cm、最大幅14cm、深さ最大４cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。埋土は５層に細分される。上位は黄褐色土が多く、中位は明褐色浮石、下位はにぶい黄褐色土で構成される。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

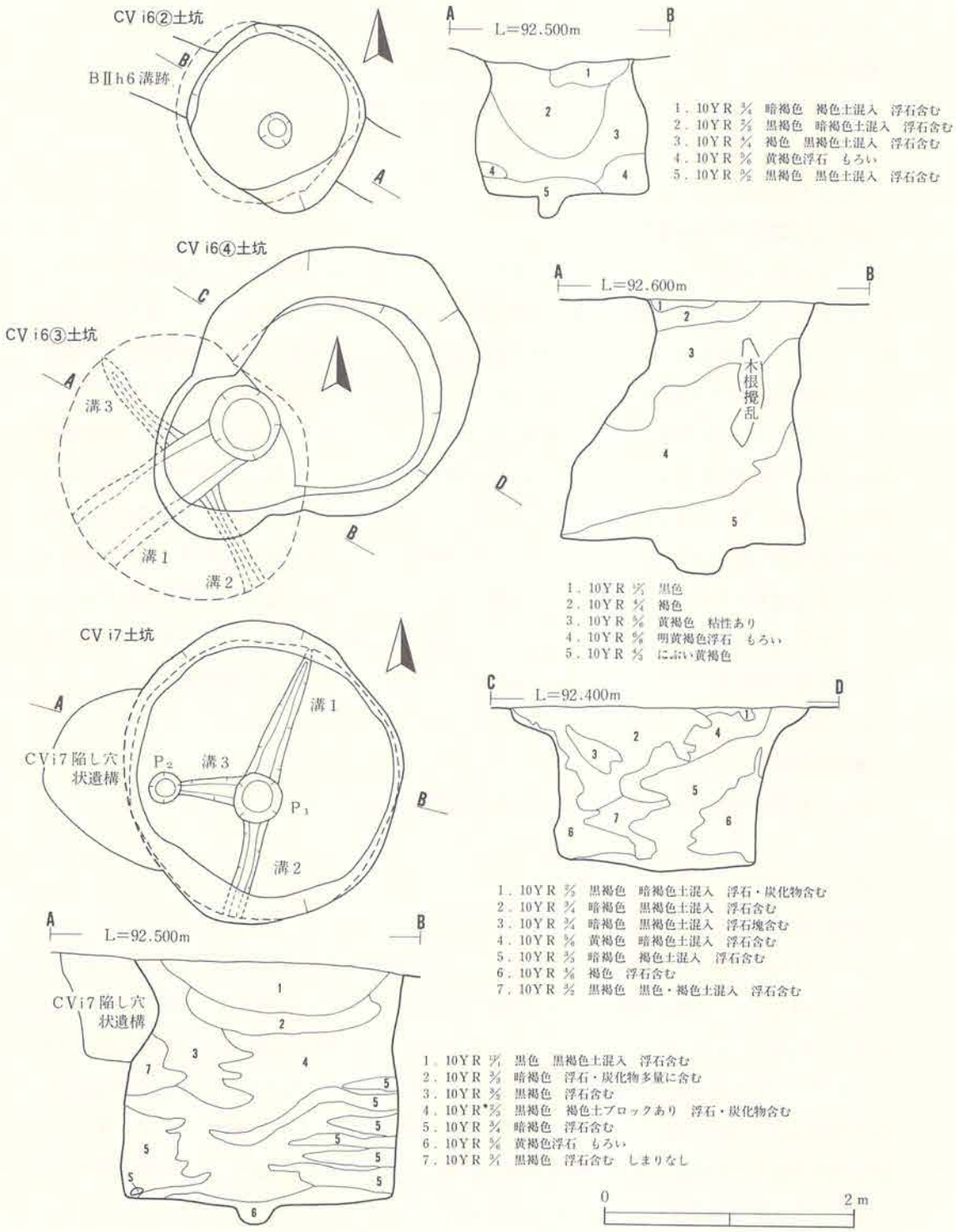
規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ６④土坑

遺構（第31図、写真図版26）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。南西部がＣＶｉ６③土坑に切られる。また、西側をＢIIｈ６溝跡に切られる。平面形は残存する部分から開口部・底部とも円形と考えられる。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径226cm×212cm、頸部直径164cm、底部直径150cm、深さは中心部で130cmである。底面はIII層で中央部に向かってわずかに傾斜している。埋土は７層に細分される。暗褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。全層に浮石粒が、１層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。


CV i6②土坑
BⅡh6溝跡
A
B
L=92.500m
1. 10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
2. 10YR 3/3 黒褐色 暗褐色土混入 浮石含む
3. 10YR 3/4 褐色 黒褐色土混入 浮石含む
4. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
5. 10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
CV i6④土坑
CV i6③土坑
C
D
溝3
溝1
溝2
L=92.600m
木根撹乱
1. 10YR 2/3 黒色
2. 10YR 4/4 褐色
3. 10YR 5/6 黄褐色 粘性あり
4. 10YR 6/6 明黄褐色浮石 もろい
5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色
CV i7土坑
CVi7陥し穴状遺構
P2
P1
L=92.400m
1. 10YR 3/3 黒褐色 暗褐色土混入 浮石・炭化物含む
2. 10YR 3/4 暗褐色 黒褐色土混入 浮石含む
3. 10YR 3/4 暗褐色 黒褐色土混入 浮石塊含む
4. 10YR 3/6 黄褐色 暗褐色土混入 浮石含む
5. 10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
6. 10YR 3/6 褐色 浮石含む
7. 10YR 3/2 黒褐色 黒色・褐色土混入 浮石含む
1. 10YR 2/1 黒色 黒褐色土混入 浮石含む
2. 10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物多量に含む
3. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
4. 10YR*3/3 黒褐色 褐色土ブロックあり 浮石・炭化物含む
5. 10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
6. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7. 10YR 3/1 黒褐色 浮石含む しまりなし
0
2 m

第31図 土坑 (22)

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ７土坑

遺構（第31図、写真図版26）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層下面である。西でＣＶｉ７陥し穴状遺構を切る。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径232cm×220cm、頸部径204cm×186cm、底部径220cm×214cm、深さは中心部で196cmである。底面はIV層上面で、中央部と西壁寄りに２個の副穴がある。Ｐ１は開口部直径38cm、底部直径23cm、深さ18cm、Ｐ２は開口部直径25cm、底部直径16cm、深さ17cmである。さらにＰ１から３条の溝が延びる。溝１は北壁に延び長さ104cm、最大幅24cm、深さ最大５cm、溝２は南壁に延び長さ80cm、最大幅20cm、深さ最大７cm、溝３はＰ１とＰ２を連結し長さ42cm、最大幅22cm、深さ最大４cmである。これらの溝はＰ１に向かってわずかに下る。底面もＰ１に向かって最大で12cm下る。埋土は７層に細分される。上位は黒色土と暗褐色土、中位～下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には崩落した浮石や暗褐色土が見られる。すべての層に浮石粒が、２層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ８①土坑

遺構（第32図、写真図版26）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層下面である。南東でＣＶｉ８④土坑と隣接する。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径206cm×182cm、頸部径174cm×152cm、底部径184cm×166cm、深さは中心部で198cmである。底面はIV層上面に達し、平坦である。中央部に開口部径42cm×37cm、底部直径16cm、深さ14cmの副穴が１個ある。この副穴から２条の溝が延びる。溝１は南壁に延び長さ80cm、最大幅12cm、深さ最大２cm、溝２は西に延び長さ47cm、最大幅10cm、深さ最大15cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。南東壁下位から底部に最大20cmの円礫が10数個見られる。これは隣接するＣＶｉ８④土坑側からの補強のための石である。また、北壁のIII層とIV層の境目を最大10cmの円礫５個を横に並べて補強している。埋土は６層に細分される。上位は黒色土と暗褐色土、以下は黒褐色土主体で

構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が、２層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第32図、写真図版60）

埋土から75の土器が出土している。ＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片である。これは第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ８②土坑

遺構（第32図、写真図版27）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径172cm×170cm、底部径176cm×174cm、深さは中心部で105cmである。底面はIII層下面で、若干凸凹がみられるものの平坦である。中央部に開口部径37cm×32cm、底部径22cm×18cm、深さ16cmの副穴１個がある。埋土は５層に細分される。上位は黒色土、以下は褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ８③土坑

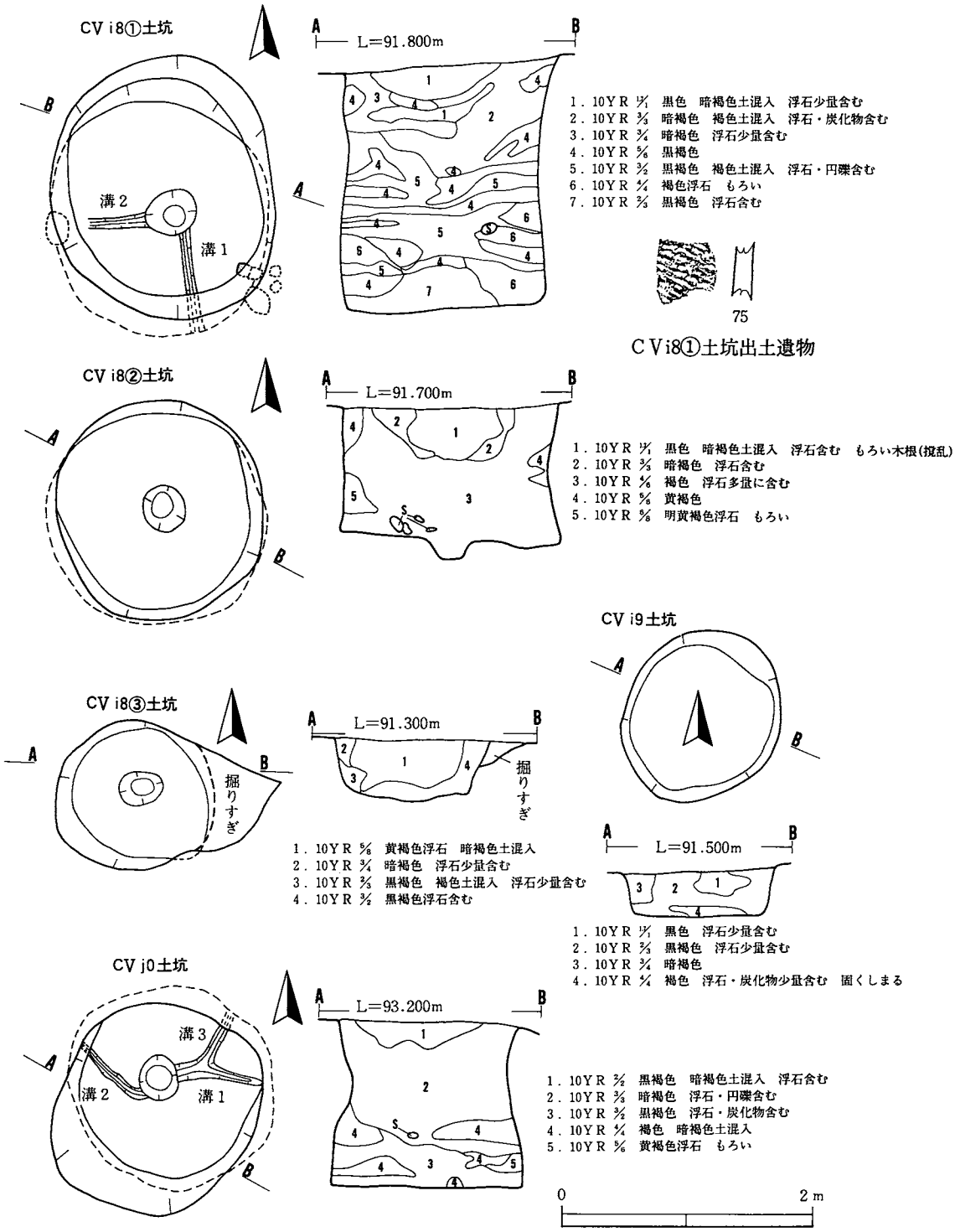
遺構（第32図、写真図版27）

調査区東側の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部直径120cm、底部径107cm×102cm、深さは中心部で52cmである。底面はIII層上面で、やや凸凹が見られる。中央部に開口部径35cm×27cm、底部径18cm×13cm、深さ10cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かって最大で12cm下る。埋土は４層に細分され、黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土で構成される。全層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。


CV i8①土坑
溝2
溝1
A
B
L=91.800m
1．10YR 7/1 黒色 暗褐色土混入 浮石少量含む
2．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入 浮石・炭化物含む
3．10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
4．10YR 5/6 黒褐色
5．10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入 浮石・円礫含む
6．10YR 4/4 褐色浮石 もろい
7．10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
75
CVi8①土坑出土遺物
CV i8②土坑
L=91.700m
1．10YR 7/1 黒色 暗褐色土混入 浮石含む もろい木根(撹乱)
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
3．10YR 4/6 褐色 浮石多量に含む
4．10YR 5/6 黄褐色
5．10YR 5/8 明黄褐色浮石 もろい
CV i8③土坑
掘りすぎ
L=91.300m
1．10YR 5/8 黄褐色浮石 暗褐色土混入
2．10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
3．10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入 浮石少量含む
4．10YR 3/2 黒褐色浮石含む
CV i9土坑
L=91.500m
1．10YR 7/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 3/3 黒褐色 浮石少量含む
3．10YR 3/4 暗褐色
4．10YR 4/4 褐色 浮石・炭化物少量含む 固くしまる
CV j0土坑
溝3
溝2
溝1
L=93.200m
1．10YR 3/2 黒褐色 暗褐色土混入 浮石含む
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石・円礫含む
3．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
4．10YR 4/4 褐色 暗褐色土混入
5．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
0
2 m

第32図 土坑（23）

ＣＶｉ９土坑

遺構（第32図、写真図版27）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径140cm×120cm、底部径120cm×110cm、深さは中心部で34cmである。底面はIII層上面で平坦である。埋土は４層に細分され、黒褐色土主体で構成される。１・２・４層には浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ０土坑

遺構（第32図、写真図版27）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径158cm×152cm、頸部径140cm×134cm、底部径170cm×158cm、深さは中心部で134cmである。底面はIII層下面で、中央に開口部直径35cm、底部直径20cm、深さ18cmの副穴がある。副穴から２条の溝が延び、さらに東の溝の中央付近から北東へ分岐して延びる。溝１は東壁に延び長さ70cm、最大幅14cm、深さ最大３cm、溝２は北西壁に延び長さ70cm、最大幅８cm、深さ最大７cm、溝３は北東壁に分岐し長さ45cm、最大幅６cm、深さ最大２cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。底面もまた、副穴に向かって３cm～６cm下る。埋土は５層に細分され、上位と下位は黒褐色土、中位は暗褐色土で、壁際には崩落した浮石や褐色土が見られる。また、全層に浮石粒が含まれ、３層には炭化物粒が含まれる。自然堆積後、上位は人為的に埋められた可能性がある。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ１①土坑

遺構（第33図、写真図版28）

調査区東側上位面の南寄りに位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部が北東－南西を長軸にもつ楕円形、底部は円形である。断面形はフラスコ形であり、南西壁は中位から大きく外傾している。規模は、開口部径232cm×194cm、頸部径184cm×172cm、底部径204cm×190cm、深さは中心部で172cmである。底面はIII層下面で、ほぼ中央に開口部径40cm×34cm、底部径

26cm×20cm、深さ12cmの副穴１個があり、副穴から２条の溝が延びる。溝１は南東壁に延び長さ90cm、最大幅８cm、深さ最大２cm、溝２は南西壁に延び長さ64cm、最大幅10cm、深さ最大４cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。底面もまた、副穴に向かって２cm～６cm下る。埋土は９層に細分される。上位は黒褐色土が多く、下位では褐色土が多い。壁際には崩落した浮石や褐色土が見られる。４層には浮石粒と炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ１②土坑

遺構（第33図、写真図版39）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層下面である。平面形は、開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形で、壁の上位がくびれる。規模は、開口部径195cm×180cm、頸部径174cm×162cm、底部径198cm×174cm、深さは中心部で126cmである。底面はIII層下面で平坦である。中央部に開口部径32cm×28cm、底部径16cm×12cm、深さ14cmの副穴１個がある。埋土は５層に細分される。上位は黒褐色土～褐色土、下位は暗褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。全層に浮石粒が含まれる。また、３層には炭化物粒、５層には円礫が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ２土坑

遺構（第33図、写真図版28）

調査区東側上位面に位置する。遺構は、上部を新しい墓拡によって削られており、墓坑底部で検出した。検出面はII層下面である。平面形は開口部が不整形で、底部は長軸を南北にもつ楕円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径180cm×162cm、頸部径145cm×130cm、底部径178cm×160cm、深さは中心部で144cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部直径30cm、底部直径14cm、深さ14cmの副穴１個がある。副穴から４条の溝が十字状に延びる。溝１は北東壁に延び長さ55cm、最大幅10cm、深さ最大３cm、溝２は南東壁に延び長さ100cm、最大幅８cm、深さ最大１cm、溝３は南西壁に延び長さ78cm、最大幅８cm、深さ最大２cm、溝４は北西壁に延び長さ70cm、最大幅８cm、深さ最大２cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。

底面も副穴に向かって最大で10cm下る。埋土は4層に細分される。上位は暗褐色土、中位は浮石塊、下位は褐色土で構成される。1層には浮石粒が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ３土坑

遺構（第33図、写真図版28）

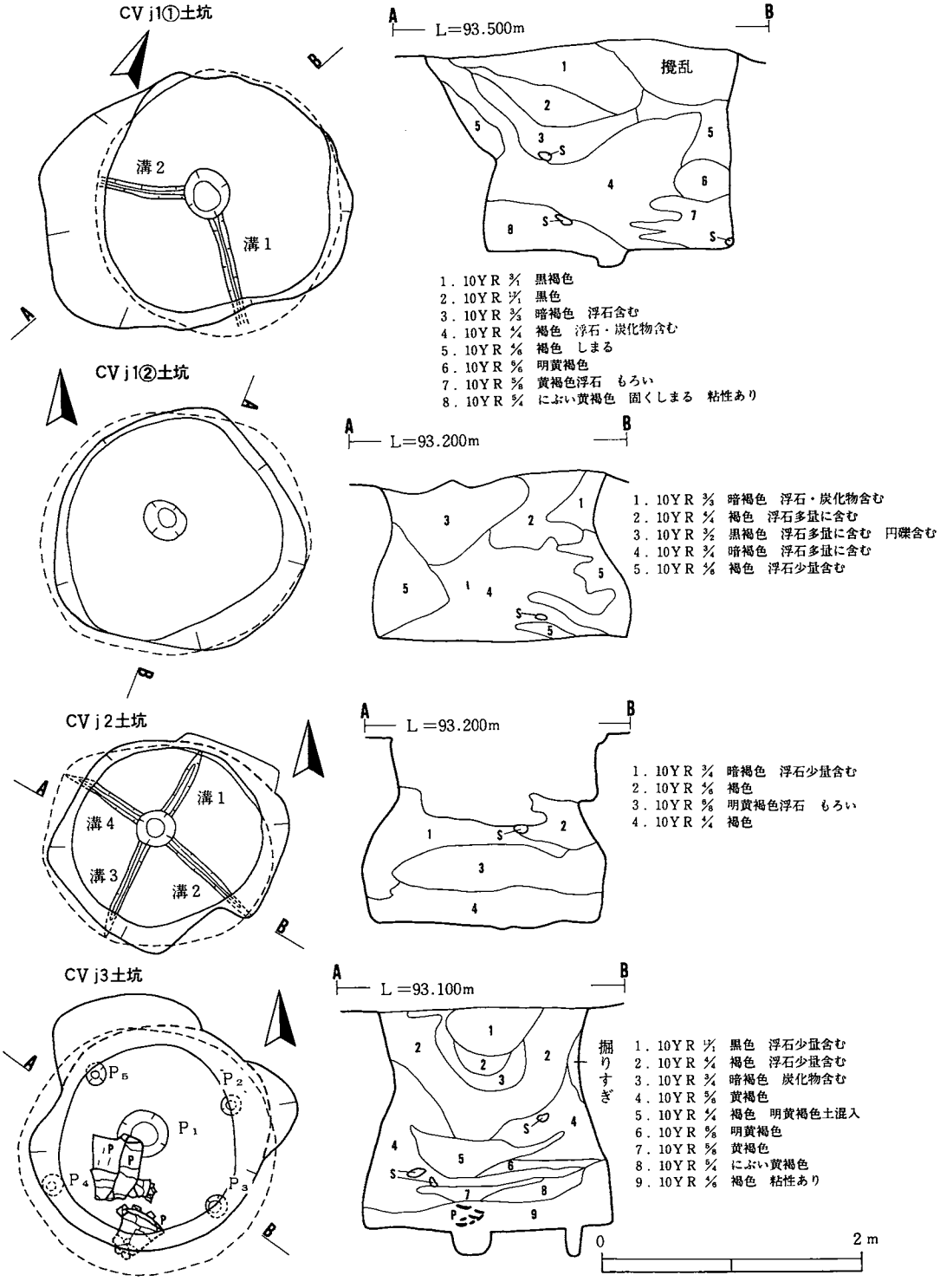
調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部が重機による撹乱を受け不整であるが開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径180cm×162cm、頸部径148cm×142cm、底部径198cm×190cm、深さは中心部で172cmである。底面はIII層下面で、中央部に1個とその周囲に4個の副穴がある。Ｐ１は開口部直径35cm、底部直径22cm、深さ22cm、Ｐ２～Ｐ５は開口部直径13cm～17cm、底部直径2cm～8cm、深さ18cm～29cmである。埋土は9層に細分され、上位が黒色土で以下は褐色土と黄褐色土の互層になっている。1・2層には浮石粒が、3層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第34図、写真図版60・61）

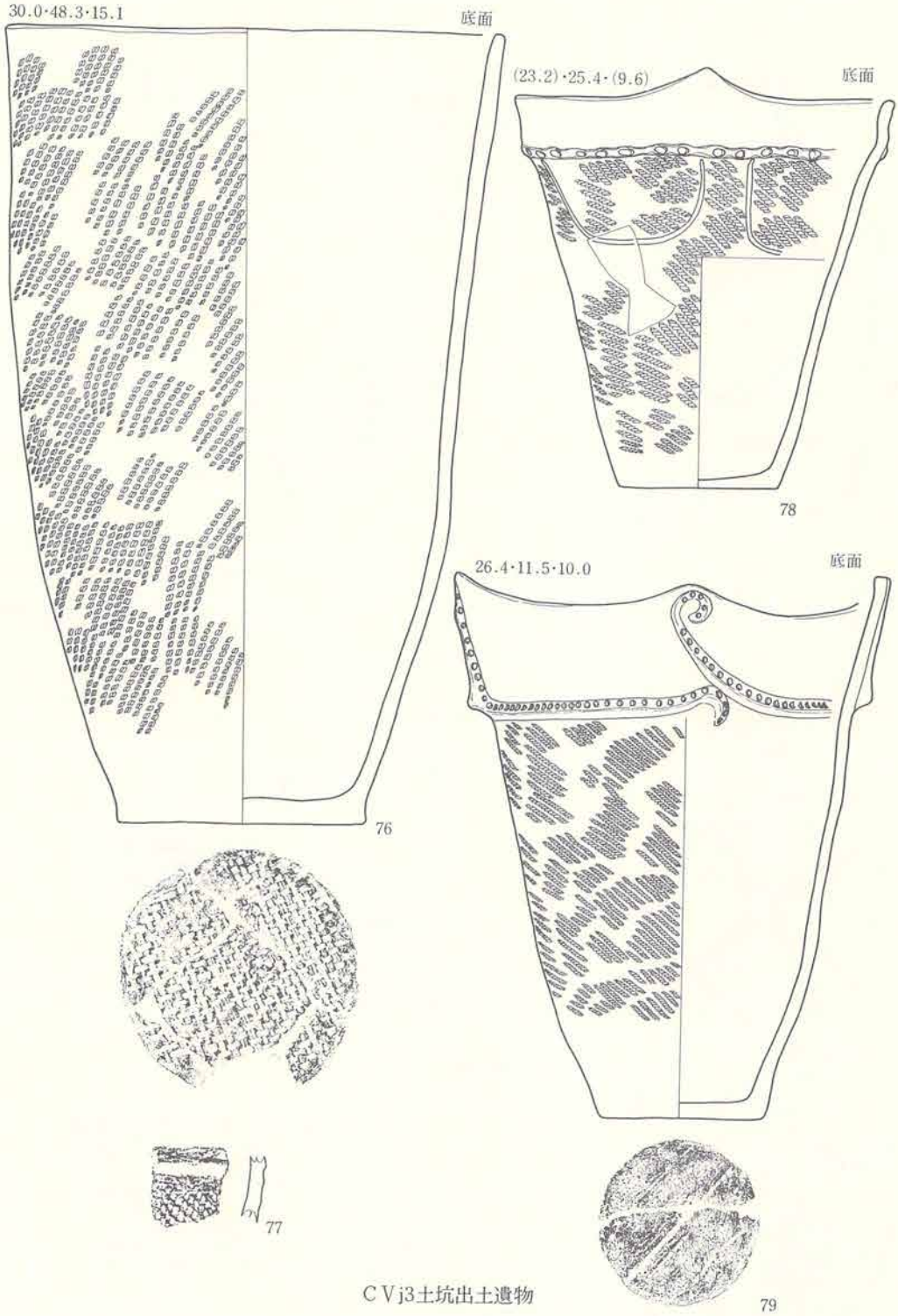
底面から76～79の土器が出土している。76はほぼ完形に復元された粗製の大型深鉢である。器形は底部から直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に最大径を有する。地文はＬＲＬ複節斜縄文で、体部上半外面に炭化物が付着する。底部には網代痕がある。77はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片で沈線が巡る。78は1/2が残存する深鉢である。器形は底部から直線的に外傾し口縁部がほぼ直立する。頸部には隆帯と刺突文が施され、口縁部と体部を区画する。口縁部は波状口縁を呈し無文である。体部はＬＲ単節斜縄文を地文とし、上半には沈線がＵ字状に巡る。79はほぼ完形に復元された深鉢で、底部からほぼ直線的に開く器形である。口縁部は4単位の波状口縁を呈し無文で、下端に隆帯が巡り体部を区画する。波状口縁部分は、頂部に垂直に延びる隆帯と渦巻状に延びる隆帯が向き合い対をなす。また、隆帯に沿って刺突文が施される。体部はＬＲ単節斜縄文を地文とする。底部には植物の葉脈痕がある。体部下半に炭化物が付着する。こられの土器は第II群3類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。


CV j1①土坑
溝2
溝1
A
B
L=93.500m
撹乱
1. 10YR 3/1 黒褐色
2. 10YR 2/1 黒色
3. 10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
4. 10YR 5/4 褐色 浮石・炭化物含む
5. 10YR 4/6 褐色 しまる
6. 10YR 5/6 明黄褐色
7. 10YR 5/8 黄褐色浮石 もろい
8. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 固くしまる 粘性あり
CV j1②土坑
L=93.200m
1. 10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物含む
2. 10YR 5/4 褐色 浮石多量に含む
3. 10YR 3/2 黒褐色 浮石多量に含む 円礫含む
4. 10YR 3/4 暗褐色 浮石多量に含む
5. 10YR 4/6 褐色 浮石少量含む
CV j2土坑
溝1
溝4
溝3
溝2
L=93.200m
1. 10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
2. 10YR 4/6 褐色
3. 10YR 5/8 明黄褐色浮石 もろい
4. 10YR 5/4 褐色
CV j3土坑
P1
P2
P3
P4
P5
L=93.100m
掘りすぎ
1. 10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
2. 10YR 5/4 褐色 浮石少量含む
3. 10YR 3/4 暗褐色 炭化物含む
4. 10YR 5/6 黄褐色
5. 10YR 4/4 褐色 明黄褐色土混入
6. 10YR 5/8 明黄褐色
7. 10YR 5/6 黄褐色
8. 10YR 5/4 にぶい黄褐色
9. 10YR 4/6 褐色 粘性あり
0
2 m

第33図 土坑 (24)



CⅤj3土坑出土遺物

第34図　土坑（25）

ＣＶｊ４①土坑

遺構（第35図、写真図版28）

調査区東側上位面に位置する。遺構は、上部を新しい墓域を区画する溝によって削られており、溝底部で検出した。検出面はII層上面である。北東にＣＶｊ４②土坑と隣接する。平面形は開口部が南北に長軸をもつ楕円形で、底部は円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径152cm×136cm、頸部径138cm×125cm、底部径176cm×170cm、深さは中心部で124cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。中央東寄りと西壁際に２個の副穴がある。Ｐ１は開口部径62cm×59cm、底部径44cm×40cm、深さ20cm、Ｐ２は開口部径52cm×35cm、底部径32cm×20cm、深さ20cmである。また、周囲の壁の下位４か所を２～４個の円礫で補強している。埋土は５層に細分される。上位と下位は黒褐色土、中位は暗褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。大部分の層に浮石粒が含まれ、２層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第35図、写真図版61）

埋土からの80の土器が出土している。Ｌ１段燃糸文を地文とし、沈線文で区画された磨消縄文が展開する体部片である。これは、第II群３類土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ４②土坑

遺構（第35図、写真図版29）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層下面である。南西でＣＶｊ４①土坑と隣接する。平面形は開口部が北東－南西を長軸にもつ楕円形で、底部は円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径170cm×146cm、頸部径146cm×132cm、底部径142cm×138cm、深さは中心部で106cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。埋土は５層に細分される。褐色土と暗褐色土主体で構成される。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ５土坑

遺構（第35図、写真図版29）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は、開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形で、北西壁は中位から外傾する。規模は、開

口部直径130cm、頸部直径122cm、底部直径130cm、深さは中心部で60cmである。底面はIII層上面で平坦である。埋土は黒褐色土が主体で、５層に細分される。５層は明黄褐色土で浮石粒を含む。

出土遺物（第35図、写真図版61）

埋土から81の土器が出土している。緩く外反する口縁部下端～体部上部の破片である。口縁部と体部を区画する沈線が巡り沈線上部に刺突文が施される。体部はＲＬ単節斜縄文を地文とする。これは、第II群３類土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ６土坑

遺構（第35図、写真図版29）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。東にＣＶｊ６②土坑と隣接する。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径192cm×180cm、底部径194cm×192cm、深さは中心部で148cmである。底面はIII層で中央部に開口部直径48cm、底部直径20cm、深さ25cmの副穴が１個ある。この副穴から４条の溝が延びる。溝１は南に延び長さ60cm、最大幅８cm、溝２も南に延び長さ52cm、最大幅８cm、溝３は南西壁に延び長さ72cm、最大幅13cmで先端が左右に分岐する。溝４は西に延び長さ60cm、最大幅13cm、溝５は溝４の先端から分岐して南西壁に延び長さ44cm、最大幅10cmである。深さはすべて１cm以下である。底面は副穴に向かって最大７cm下る。埋土は５層に細分される。上位は黒色土、以下は暗褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。２層中に最大で50cmの円礫約50個の投げ込みがあった。２・４層には浮石粒と炭化物粒が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

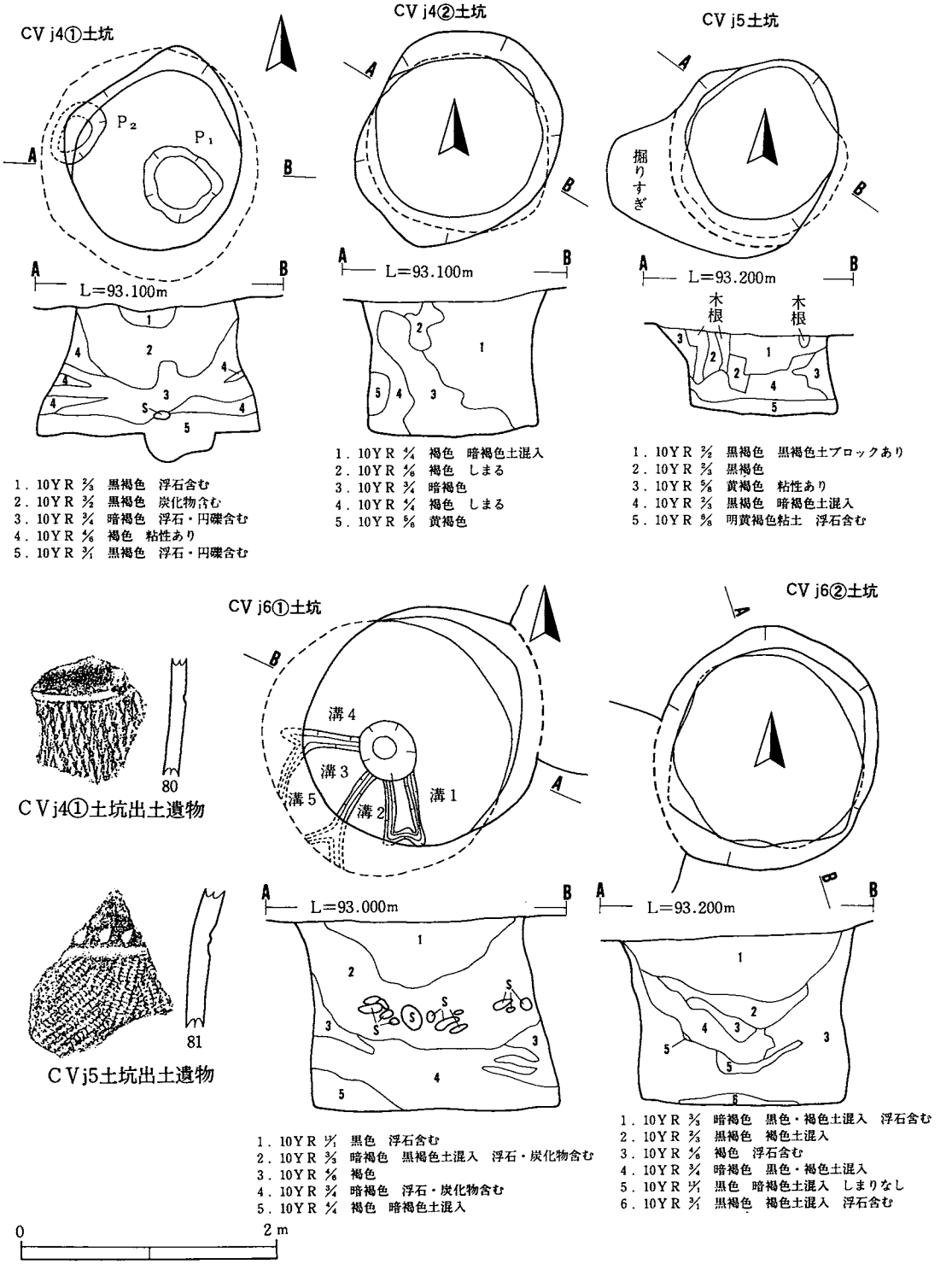
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ６②土坑

遺構（第35図、写真図版29）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。西でＣＶｊ６①土坑と隣接する。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径188cm×166cm、頸部径156cm×148cm、底部径150cm×146cm、深さは中心部で132cmであ


CV j4①土坑
P2
P1
A
B
L=93.100m
1. 10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
2. 10YR 3/2 黒褐色 炭化物含む
3. 10YR 3/4 暗褐色 浮石・円礫含む
4. 10YR 4/6 褐色 粘性あり
5. 10YR 3/1 黒褐色 浮石・円礫含む
CV j4②土坑
L=93.100m
1. 10YR 4/4 褐色 暗褐色土混入
2. 10YR 4/6 褐色 しまる
3. 10YR 3/4 暗褐色
4. 10YR 4/4 褐色 しまる
5. 10YR 5/6 黄褐色
CV j5土坑
掘りすぎ
L=93.200m
木根
木根
1. 10YR 3/2 黒褐色 黒褐色土ブロックあり
2. 10YR 3/3 黒褐色
3. 10YR 5/8 黄褐色 粘性あり
4. 10YR 3/3 黒褐色 暗褐色土混入
5. 10YR 6/8 明黄褐色粘土 浮石含む
80
CVj4①土坑出土遺物
81
CVj5土坑出土遺物
CV j6①土坑
溝4
溝3
溝5
溝2
溝1
L=93.000m
1. 10YR 2/1 黒色 浮石含む
2. 10YR 3/3 暗褐色 黒褐色土混入 浮石・炭化物含む
3. 10YR 4/6 褐色
4. 10YR 3/4 暗褐色 浮石・炭化物含む
5. 10YR 4/4 褐色 暗褐色土混入
CV j6②土坑
L=93.200m
1. 10YR 3/3 暗褐色 黒色・褐色土混入 浮石含む
2. 10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入
3. 10YR 4/6 褐色 浮石含む
4. 10YR 3/4 暗褐色 黒色・褐色土混入
5. 10YR 2/1 黒色 暗褐色土混入 しまりなし
6. 10YR 3/1 黒褐色 褐色土混入 浮石含む
0
2 m

第35図 土坑（26）

る。底面はIII層で平坦である。埋土は6層に細分される。上位は暗褐色土、以下は褐色土主体で構成される。1・3・6層に浮石粒が、1層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ７①土坑

遺構（第36図、写真図版30）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。西部でＣＶｊ７②土坑を切り、北東部でＣＶｊ７③土坑とＣＶｊ８③に隣接する。平面形は開口部が残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部直径170cm、底部径162cm×148cm、深さは中心部で68cmである。底面はIII層上面で、中央部に開口部径42cm×34cm、底部径14cm×26cm、深さ15cmの副穴1個がある。底面は副穴に向かってわずかに下る。また、ＣＶｊ７②土坑との重複部を浮石塊で貼床している。埋土は黒色土と暗褐色土の2層で構成され、浮石粒を含む。

出土遺物（第36図、写真図版61）

82～86の土器が出土している。これらのうち82は底面から、83・84・85は埋土中位から、86は埋土から出土したものである。82は底部から強く外傾する鉢である。口縁部は小波状を呈し、三叉文が施される。口縁部下端には2本の平行沈線が巡り、体部を区画する。体部には羽状縄文が施される。83は体部が内湾し、頸部から外反し口縁部に続く台付鉢である。頸部には2本の平行沈線が巡る。口縁部の限られた幅に三叉状の文様を施し、その直下に2条の平行沈線を巡らせている。体部はＲＬ単節斜縄文を地文とする。84・85はキャリパー形の口縁部片で、隆沈線による区画文をもつ。ＬＲ単節斜縄文を地文とする。86はくびれをもつ体部片である。ＲＬ単節斜縄文を地文とし、2～3本一組の沈線が区画文を構成する。部位的に渦巻状の文様を描く。これら出土遺物のうち、82・83は第III群土器に、84～86は第II群2類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

ＣＶｊ７②土坑

遺構（第36図、写真図版30）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。東をＣＶｊ７①土坑に切られる。平面形は開口部が残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。

断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部直径205cm、頸部径185cm×172cm、底部径190cm×176cm、深さは中心部で170cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部径44cm×40cm、底部径30cm×25cm、深さ25cmの副穴1個がある。この副穴から5条の溝が放射状に延びる。溝1は東壁に延び長さ65cm、最大幅14cm、深さ最大3cm、溝2は南東壁に延び長さ72cm、最大幅18cm、深さ最大6cm、溝3は南西壁に延び長さ72cm、最大幅15cm、深さ最大4cm、溝4は北西壁に延び長さ70cm、最大幅12cm、深さ最大6cm、溝5は北東壁に延び長さ50cm、最大幅16cm、深さ最大4cmである。これらの溝は副穴に向かってわずかに下る。底面も副穴に向かって最大6cm下る。埋土は8層に細分される。上位は黒褐色土、中位は褐色土と黄褐色土、下位は暗褐色土と褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。1・4層には浮石粒が、3層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第36図、写真図版61）

埋土から87・88の土器が出土している。いずれもＬＲ単節斜縄文を地文とする口縁部片である。これらは、第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ７③土坑

遺構（第36図、写真図版30）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。北にＣＶｊ７①土坑と隣接し、北東でＣＶｊ８③と重複する。新旧関係は不明である。平面形は開口部が重複のため不明であるが、残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部直径92cm、底部直径110cm、深さは中心部で82cmである。底面はII層上面で平坦である。埋土は褐色土を主体に6層に細分される。6層には浮石粒が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

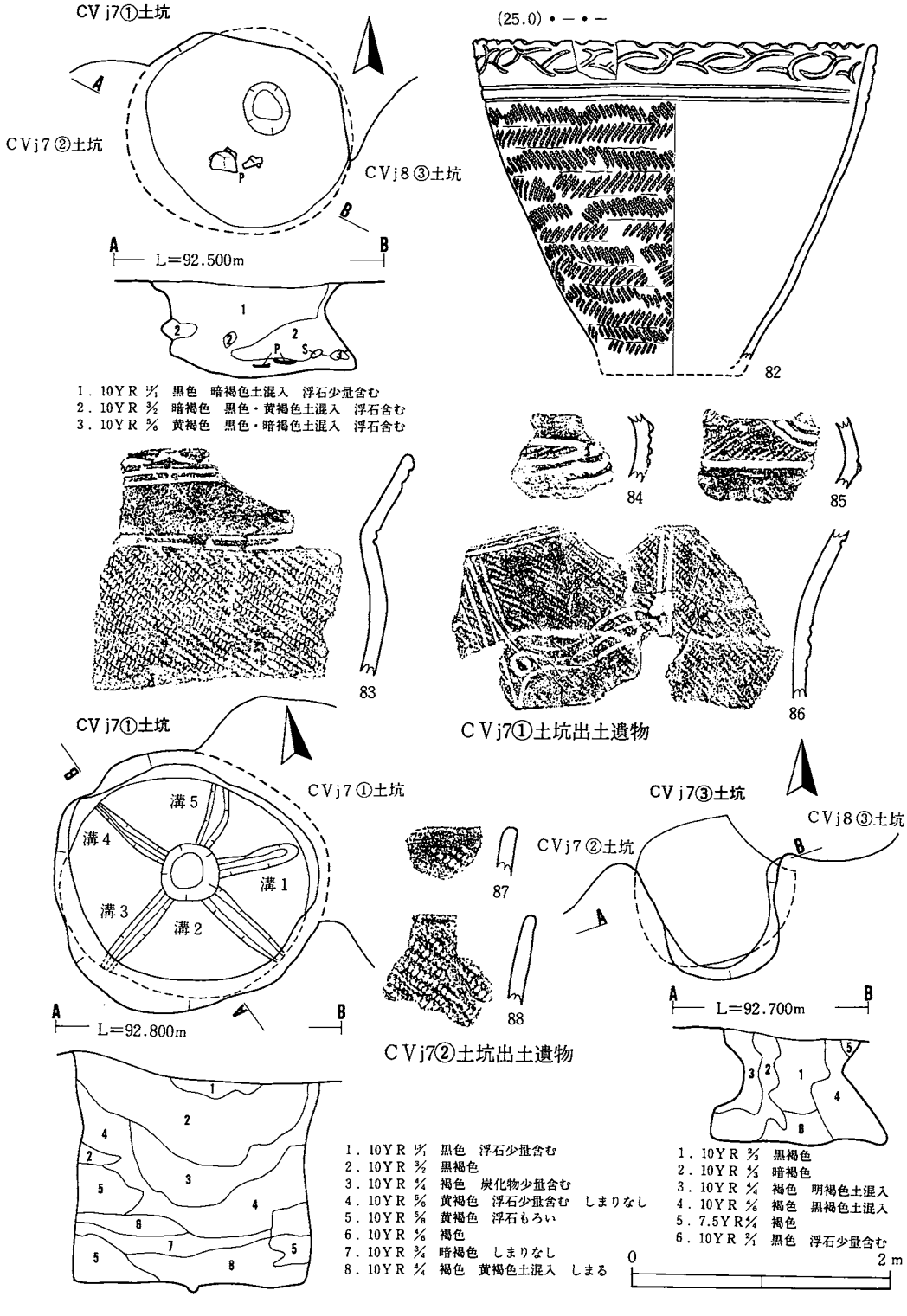
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ８①土坑

遺構（第37図、写真図版30）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。西でＣＶｊ８②土坑を切る。平面形は残存する部分から開口部・底部ともに不正な円形と考えられる。断面形は


CVj7①土坑
CVj7②土坑
CVj8③土坑
A
B
L=92.500m
1
2
P
S
1．10YR 7/1 黒色 暗褐色土混入 浮石少量含む
2．10YR 3/2 暗褐色 黒色・黄褐色土混入 浮石含む
3．10YR 5/6 黄褐色 黒色・暗褐色土混入 浮石含む
(25.0)
82
83
84
85
86
CVj7①土坑出土遺物
CVj7①土坑
溝5
溝4
溝1
溝3
溝2
L=92.800m
87
88
CVj7②土坑出土遺物
CVj7②土坑
CVj7③土坑
CVj8③土坑
L=92.700m
1．10YR 7/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 3/2 黒褐色
3．10YR 4/4 褐色 炭化物少量含む
4．10YR 5/6 黄褐色 浮石少量含む しまりなし
5．10YR 5/8 黄褐色 浮石もろい
6．10YR 4/6 褐色
7．10YR 3/4 暗褐色 しまりなし
8．10YR 4/4 褐色 黄褐色土混入 しまる
1．10YR 3/3 黒褐色
2．10YR 4/3 暗褐色
3．10YR 4/4 褐色 明褐色土混入
4．10YR 4/6 褐色 黒褐色土混入
5．7.5YR 5/4 褐色
6．10YR 3/1 黒色 浮石少量含む
0
2 m

第36図 土坑（27）

フラスコ形である。規模は、開口部直径114cm、頸部直径100cm、底部直径116cm、深さは中心部で52cmである。底面はIII層で平坦である。埋土は4層に細分され、上位が暗褐色土、下位が黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる

ＣＶｊ８②土坑

遺構（第37図、写真図版31）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面は、III層上面である。東をＣＶｊ８①土坑に切られる。平面形は開口部が残存する部分から円形と考えられる。底部も円形である。断面形はフラスコ形であろう。規模は、開口部直径160cm、頸部直径126cm、底部径156cm×146cm、深さは中心部で86cmである。底面はIII層でやや凸凹が見られるが平坦である。中央部や西寄りに開口部直径35cm、底部径22cm×18cm、深さ10cmの副穴が1個ある。この副穴から2条の溝が延びる。溝1は南西壁に延び長さ50cm、最大幅8cm、深さ最大3cm、溝2は西壁に延び、長さ46cm、最大幅8cm、深さ最大2cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。埋土は暗褐色土主体で3層に細分される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ８③土坑

遺構（第37図、写真図版31）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。南西部でＣＶｊ７③土坑と重複する。新旧関係は不明である。また、西部でＣＶｊ７①土坑と隣接する。平面形は開口部が残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部直径154cm、底部径156cm×150cm、深さは中心部で86cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。北東壁際に開口部直径22cm、底部直径10cm、深さ17cmの副穴1個がある。この副穴から1条の溝が延び、この溝の中央付近を2条の溝が交差して延びる。溝1は南西壁に延び長さ125cm、最大幅10cm、深さ最大5cm、溝2は溝1の中央から分岐して南東壁に延び長さ60cm、最大幅12cm、深さ2cm、溝3は溝1の中央から分岐して北西壁に延び長さ73cm、最大幅10cm、深さ最大3cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。埋土は褐色土、

暗褐色土、にぶい黄褐色土主体で構成され、6層に細分される。1・2層には浮石粒が、2層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ８④土坑

遺構（第37図、写真図版31）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。南西部でＣＶ８①土坑と隣接する。平面形は開口部・底部とも円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径210cm×206cm、頸部径182cm×180cm、底部径226cm×220cm、深さは中心部で198cmである。底面はIV層上面でほぼ平坦である。中央部に開口部径47cm×40cm、底部径34cm×26cm、深さ22cmの副穴1個ある。この副穴から5条の溝が放射状に延びる。溝1は南東壁に延び長さ78cm、最大幅15cm、深さ最大3cm、溝2は、南壁に延び長さ76cm、最大幅13cm、深さ最大4cm、溝3は西壁に延び長さ85cm、最大幅14cm、深さ最大4cm、溝4は北西壁に延び長さ90cm、最大幅11cm、深さ最大3cm、溝5は北東壁に延び長さ90cm、最大幅22cm、深さ最大5cmである。これらの溝は副穴に向かってわずかに下る。北西壁の下位から底部には20cm前後の円礫が20数個見られる。これは、ＣＶｊ８①土坑との隣接部の補強のための石組が崩れたためのものである。また、壁面周囲のIII層とIV層の境目を円礫で補強している。埋土は5層に細分される。上位は黒色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。1・2層には浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

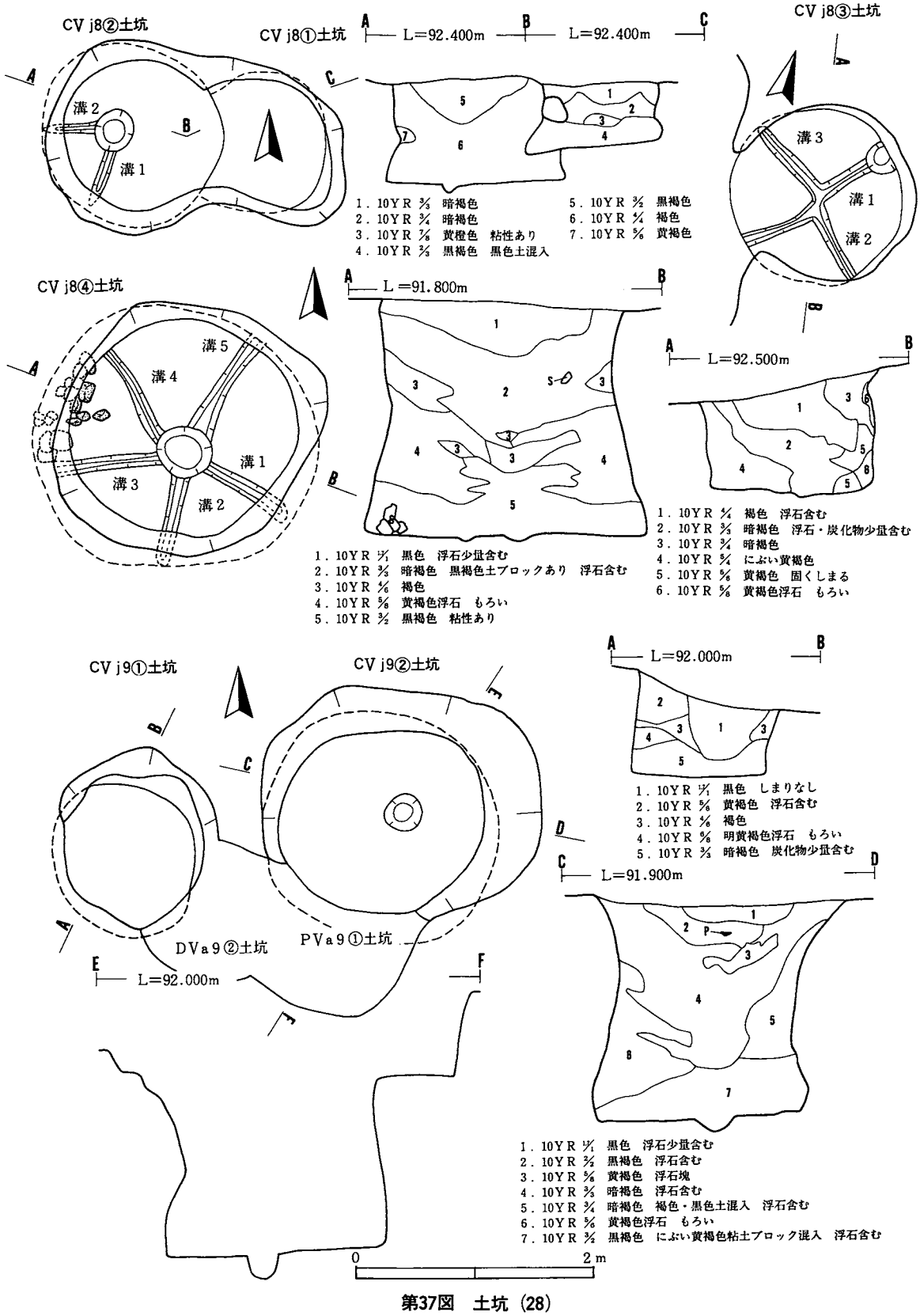
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる

ＣＶｊ９①土坑

遺構（第37図、写真図版31）

調査区東側の北西に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。東部でＤＶ９②土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明であるが、残存する部分から、平面形は開口部・底部とに円形と考えられる。断面形はビーカー形である。規模は、開口部直径136cm、底部径134cm×118cm、深さは中心部で85cmである。底面はIII層で平坦である。埋土は上位が黒色土と黄褐色土、下位が暗褐色土主体で構成される。2層には浮石粒


CV j8②土坑
CV j8①土坑
A L=92.400m B L=92.400m C
溝2
溝1
1. 10YR 3/3 暗褐色
2. 10YR 3/4 暗褐色
3. 10YR 7/6 黄橙色 粘性あり
4. 10YR 3/3 黒褐色 黒色土混入
5. 10YR 3/2 黒褐色
6. 10YR 4/4 褐色
7. 10YR 5/6 黄褐色
CV j8③土坑
溝3
溝1
溝2
CV j8④土坑
溝5
溝4
溝1
溝3
溝2
A L=91.800m B
1. 10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
2. 10YR 3/3 暗褐色 黒褐色土ブロックあり 浮石含む
3. 10YR 4/6 褐色
4. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
5. 10YR 3/2 黒褐色 粘性あり
A L=92.500m B
1. 10YR 4/4 褐色 浮石含む
2. 10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物少量含む
3. 10YR 3/4 暗褐色
4. 10YR 5/4 にぶい黄褐色
5. 10YR 5/6 黄褐色 固くしまる
6. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
CV j9①土坑
CV j9②土坑
DVa9②土坑
PVa9①土坑
E L=92.000m F
A L=92.000m B
1. 10YR 2/1 黒色 しまりなし
2. 10YR 5/6 黄褐色 浮石含む
3. 10YR 5/6 褐色
4. 10YR 6/6 明黄褐色浮石 もろい
5. 10YR 3/3 暗褐色 炭化物少量含む
C L=91.900m D
1. 10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
2. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
3. 10YR 5/6 黄褐色 浮石塊
4. 10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
5. 10YR 3/4 暗褐色 褐色・黒色土混入 浮石含む
6. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7. 10YR 3/2 黒褐色 にぶい黄褐色粘土ブロック混入 浮石含む
0 2m

第37図 土坑 (28)

が、５層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物（第38図、写真図版62）

埋土から89・90の土器が出土している。89はＲＬ単節斜縄文を地文とし、沈線文が描かれた体部片である。90はケズリ調整が施された無文の底部片である。これらは第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｊ９②土坑

遺構（第37図、写真図版32）

調査区東側の北西に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。南西部でＤＶａ９①土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形は不明であるが残存する部分から、平面形は開口部が東西を長軸にもつ楕円形、底部が円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部長軸径232cm、頸部直径174cm、底部径204cm×190cm、深さは中心部で180cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部直径30cm、底部直径14cm深さ22cmの副穴が１個ある。底面はこの副穴に向かって最大で６cm下る。埋土は７層に細分される。上位は黒色土～黒褐色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。全層に浮石粒が含まれる。３層は浮石塊である。

出土遺物（第38図、写真図版62）

埋土上位から91の土器が出土している。体部～底部の大型深鉢で、ややふくらみをもって直立する。体部中央に沈線が巡る。体部上部はＲＬ単節斜縄文を地文とし、沈線文で区画されたＵ字状の磨消縄文が描かれ、無文帯間下半に刺突文が施される。体部下部にはＲＬ単節の綾絡文が施文される。底部には網代痕があり、上からケズリ調整が施される。これは、第II群３類土器に属するものである。

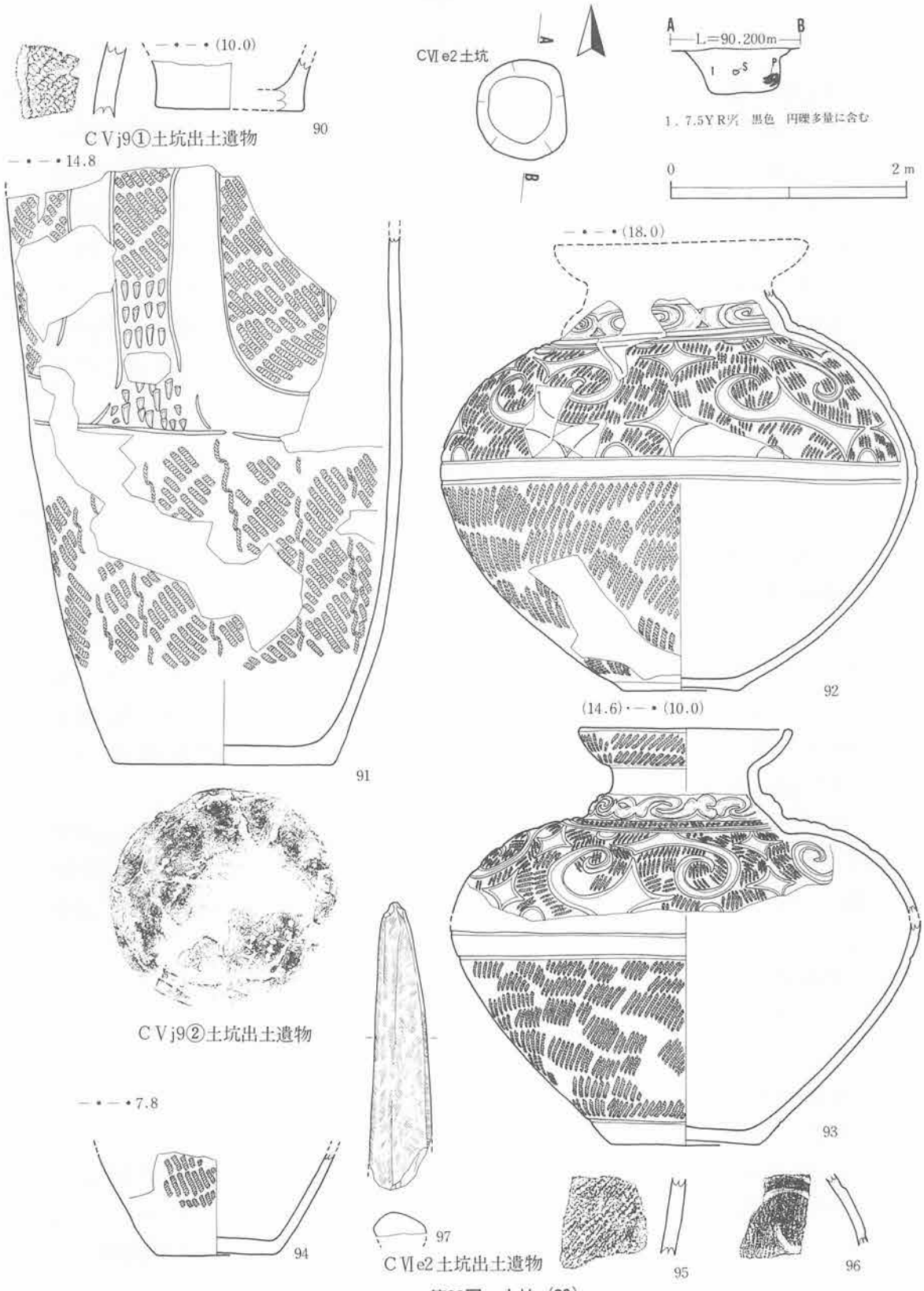
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる

ＣＶＩｅ２土坑

遺構（第38図、写真図版32）

調査区下位面東端に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形は浅皿形である。規模は開口部径85cm×76cm、底部径56cm×54cm、深さは中心部で40cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。埋土は、円礫を多量に含む黒色土の単層である。


CⅤj9①土坑出土遺物
90
14.8
91
CⅥe2土坑
A
B
L=90.200m
1. 7.5YR灰 黒色 円礫多量に含む
0
2 m
(18.0)
92
(14.6)
(10.0)
93
CⅤj9②土坑出土遺物
7.8
94
97
CⅥe2土坑出土遺物
95
96

第38図 土坑（29）

出土遺物（第38図、写真図版62・63）

埋土全面から92～96の土器と97の石器が出土している。92は口縁部を欠く壺型土器である。肩部と最脹部に２本の平行沈線を巡らし、その間に菱形状入組文が描かれる。口頸部下位には隆起するx字文が施される。地文はＬＲ単節で体部上半は充填、下半は斜縄文である。93は平縁に緩く外反した２段にくびれた短い頸部をもつ壺型土器であり、体部中央が欠損する。文様・地文は92と同様である。94・95はＲＬ単節斜縄文を地文とする深鉢底部片と体部片である。96は沈線による渦巻文が描かれた壺型土器の体部片である。97は片面が欠損する石剣先端部である。これら出土遺物のうち92・93・96は第Ⅲ群土器に、94・95は第Ⅴ群土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

ＣⅥｉ０土坑

遺構（第39図、写真図版32）

調査区東端の北西に下る斜面下位に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は開口部径170cm×158cm、底部径154cm×152cm、深さは中心部で72cmである。底面はⅢ層で木根痕の凸凹がみられる埋土は７層に細分される。東側と西側は黒褐色土、中央は黒色土主体で構成される。人為的堆積層である。

出土遺物（第39図、写真図版63）

埋土上位から98～102の土器が出土している。98～100は同一個体の体部片と考えられ、沈線文で区画された磨消縄文が施される。地文はＬＲ単節斜縄文である。101は２本の隆帯が巡る体部片、102はＲＬＲ複節縄文を地文とする体部片である。これらの土器は第Ⅱ群３類土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅥｊ０土坑

遺構（第39図、写真図版32）

調査区東端の北西に下る斜面中位に位置する。検出面はⅡ層下面である。平面形は開口部が長軸を東西にもつ楕円形。底部が円形である。断面形はビーカー形であり壁の上位が外傾する。規模は、開口部径162cm×124cm、頸部径104cm×94cm、底部径112cm×100cm、深さは中心部で72cmである。底面はⅢ層で平坦である。中央部に開口部径30cm×25cm、底部径12cm×８cm、深さ

7㎝の副穴がある。埋土は3層に細分され、黒色土主体で構成される。1・3層に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第39図、写真図版63）

埋土から103～105の土器が出土している。103はＬＲ単節斜縄文、104･105はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片である。これらは、第Ⅴ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ０①土坑

遺構（第39図、写真図版39）

調査区東側上位面の南端に位置する。検出面はII層上面である。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は主に暗褐色土と褐色土で構成される。平面形は開口部が長軸を南北に楕円形、底部は円形である。壁は、南側では外傾し北側では内傾して、断面形は底が北に広がるフラスコ形である。規模は、開口部径190㎝×178㎝、頸部径180㎝×176㎝、底部径180㎝×176㎝、深さは中心部で164㎝である。底面は、III層で、中央部に開口部直径35㎝、底部直径15㎝、深さ22㎝の副穴1個がある。底面は副穴に向かって3㎝～6㎝下る。

出土遺物（第39図、写真図版63）

埋土から106・107の土器が出土している。106はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片、107は無文の頸部片である。これらは、第IV群1類土器に属するものである。

遺構の時期

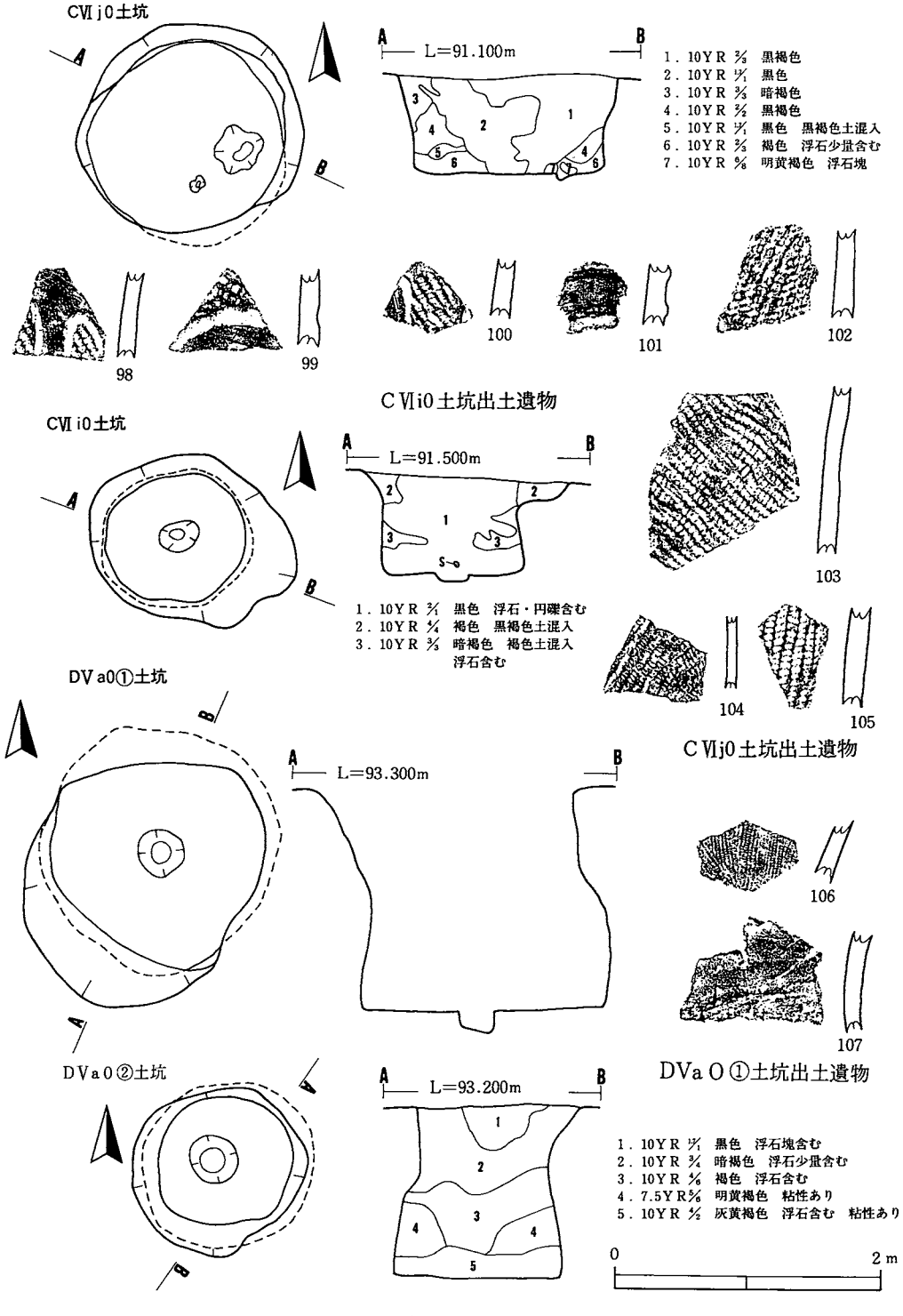
規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ０②土坑

遺構（第39図、写真図版33）

調査区上位面の南寄りに位置する。検出面はII層上面である。平面形は、開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形で、壁の中位がくびれる。規模は、開口部直径125㎝、頸部直径104㎝×102㎝、底部径130㎝×126㎝、深さは中心部で130㎝である。底面はIII層下面で平坦である。中央部に開口部直径38㎝、底部直径20㎝、深さ22㎝の副穴1個がある。底面は、この副穴に向かって最大6㎝下る。埋土は5層に細分される。上位は黒色土と暗褐色土、中位は明黄褐色土、下位は灰黄褐色土である。大部分に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。


CⅥj0土坑
A
B
L=91.100m
1．10YR 3/3 黒褐色
2．10YR 1/1 黒色
3．10YR 3/3 暗褐色
4．10YR 3/2 黒褐色
5．10YR 1/1 黒色 黒褐色土混入
6．10YR 3/3 褐色 浮石少量含む
7．10YR 6/6 明黄褐色 浮石塊
98
99
100
101
102
CⅥi0土坑出土遺物
CⅥi0土坑
L=91.500m
1．10YR 3/1 黒色 浮石・円礫含む
2．10YR 4/4 褐色 黒褐色土混入
3．10YR 3/3 暗褐色 褐色土混入 浮石含む
103
104
105
CⅥj0土坑出土遺物
DⅤa0①土坑
L=93.300m
106
107
DⅤa0①土坑出土遺物
DⅤa0②土坑
L=93.200m
1．10YR 1/1 黒色 浮石塊含む
2．10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
3．10YR 4/6 褐色 浮石含む
4．7.5YR 5/6 明黄褐色 粘性あり
5．10YR 4/2 灰黄褐色 浮石含む 粘性あり
0
2m

第39図 土坑（30）

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ１土坑

遺構（第40図、写真図版33）

調査区東側上位面の南寄りに位置する。検出面はII層上面である。平面形は、開口部が不整な円形、底部は円形である。断面形はフラスコ形で、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径162cm×160cm、頸部直径154cm、底部径202cm×186cm、深さは中心部で166cmである。底面はIII層下面で平坦である。中央部に開口部径36cm×30cm、底部直径10cm、深さ25cmの副穴１個がある。埋土は５層に細分される。上位は黒色土と暗褐色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には崩落した浮石が見られる。１・２・６層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ２土坑

遺構（第40図、写真図版33）

調査区東側上位面の南寄りに位置する。検出面はII層である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径160cm×156cm、底部径166cm×160cm、深さは中心部で94cmである。底面はIII層で平坦である。中央部に開口部直径32cm、底部直径20cm、深さ13cmの副穴１個がある。埋土は７層に細分される。上位は明黄褐色浮石、中位は暗褐色土、下位は、黄褐色土主体で構成される。ほとんどの層に浮石粒と炭化物粒が含まれている。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ３①土坑

遺構（第40図、写真図版33）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径174cm×168cm、頸部径178cm×160cm、底部径194cm×192cm、深さは中心部で160cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部径

35cm×28cm、底部直径20cm×15cm、深さ24cmの副穴１個がある。副穴から２条の溝が延びる。溝１は北東壁際に延び長さ60cm、最大幅20cm、深さ最大３cm、壁際で左右に分岐して壁に達する。溝２は南壁に延び長さ100cm、最大幅16cm、深さ最大６cmで壁際は幅70cmに広がる。溝は副穴に向かってわずかに下る。底面も副穴に向かって最大で４cm下る。底面中央で長さ125cm、幅10cm、厚さ２cmの炭化材が検出された。埋土は６層に細分される。上位は黒色土と黒褐色土、中位が暗褐色土、下位は黒褐色土と褐色土で構成され、壁際には崩落した浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ３②土坑

遺構（第40図、写真図版34）

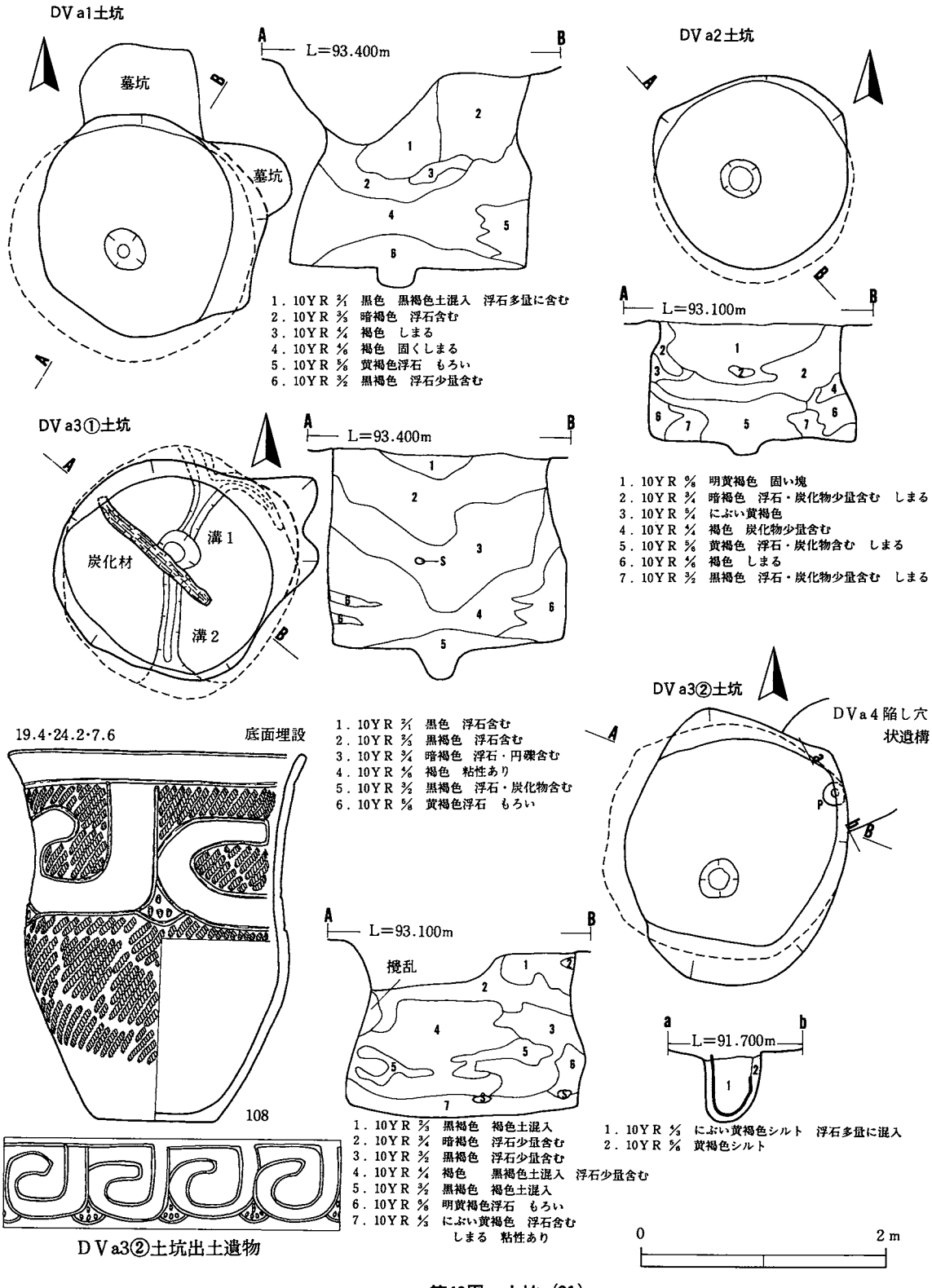
調査区東側上位面の南寄りに位置する。遺構は、上部を新しい墓域を区画する溝によって削られており、溝底部で検出した。検出面は、II層上面である。北東でＤＶａ４陥し穴状遺構と重複する。新旧関係は不明である。平面形は開口部が南北に長軸をもつ楕円形で、底部は円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径216cm×176cm、頸部径166cm×164cm、底部径196cm×190cm、深さは中心部で138cmである。底面はIII層で、南寄りに開口部直径30cm、底部直径16cm、深さ13cmの副穴１個がある。底面はこの副穴に向かって最大６cm下る。また、北東壁際に埋設土器が検出された。ほぼ完形の深鉢形土器が正立の状態で埋設されている。埋土は７層に細分される。上位から中位は、黒褐色土が多く、下位はにぶい黄褐色土である。大部分の層に浮石粒が含まれる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物（第40図、写真図版63）

底面から108の土器が出土している。底面北東壁際の埋設土器である。体部下半が僅かにふくらみをもち、口縁部が緩く外反する深鉢である。口縁部は下端に沈線が巡り無文となる。体部上半は沈線文で区画されたＪ字状の磨消縄文が４単位に連続して構成され、無文帯接点下部には刺突文が施される。地文はＬＲ単節斜縄文である。これは、第II群３類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。


DV a1土坑
墓坑
墓坑
A
B
L=93.400m
1. 10YR 2/1 黒色 黒褐色土混入 浮石多量に含む
2. 10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
3. 10YR 3/4 褐色 しまる
4. 10YR 5/6 褐色 固くしまる
5. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
6. 10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
DV a2土坑
L=93.100m
1. 10YR 3/3 明黄褐色 固い塊
2. 10YR 3/4 暗褐色 浮石・炭化物少量含む しまる
3. 10YR 5/4 にぶい黄褐色
4. 10YR 4/4 褐色 炭化物少量含む
5. 10YR 5/6 黄褐色 浮石・炭化物含む しまる
6. 10YR 5/6 褐色 しまる
7. 10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物少量含む しまる
DV a3①土坑
炭化材
溝1
溝2
L=93.400m
1. 10YR 3/1 黒色 浮石含む
2. 10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
3. 10YR 3/4 暗褐色 浮石・円礫含む
4. 10YR 5/6 褐色 粘性あり
5. 10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
6. 10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
19.4・24.2・7.6
底面埋設
108
DV a3②土坑出土遺物
DV a3②土坑
DV a4陥し穴状遺構
L=93.100m
撹乱
1. 10YR 3/3 黒褐色 褐色土混入
2. 10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
3. 10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
4. 10YR 4/4 褐色 黒褐色土混入 浮石少量含む
5. 10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入
6. 10YR 5/6 明黄褐色浮石 もろい
7. 10YR 3/3 にぶい黄褐色 浮石含む しまる 粘性あり
L=91.700m
1. 10YR 3/3 にぶい黄褐色シルト 浮石多量に混入
2. 10YR 5/6 黄褐色シルト
0
2m

第40図 土坑（31）

ＤＶａ３③土坑

遺構（第41図、写真図版34）

調査区東側上位面の南寄りに位置する。遺構は、上部を新しい墓域を区画する溝によって削られており、溝底部で検出した。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径160cm×146cm、底部径182cm×180cm、深さは中心部で120cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。中央部と北西壁際に２個の副穴がある。Ｐ１は開口部直径24cm、底部直径10cm、深さ９cm、Ｐ２は開口部径27cm、底部径12cm、深さ10cmである。また、Ｐ２からは北東に向かって長さ20cm、幅10cm、深さ４cmの溝がのびる。埋土は７層に細分される。暗褐色土と褐色土主体で構成され、壁際に崩落した浮石や黄褐色土が見られる。大部分の層に浮石粒が含まれ、１層には炭化物粒が含まれる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ４①土坑

遺構（第41図、写真図版34）

調査区東側上位面南寄りに位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径210cm×198cm、頸部径193cm×168cm、底部径210cm×208cm、深さは中心部で162cmである。底面はIII下面で、中央部に開口部径36cm×33cm、底部径17cm×12cm、深さ17cmの副穴１個がある。底面は副穴に向かって最大10cm下る。埋土は６層に細分される。上位は黒色土、中位は褐色土、下位は黄褐色土主体で構成される。２～５層に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第41図、写真図版63）

109～112の土器が出土している。これらのうち109は底面から、110～112は埋土から出土したものである。109はほぼ直線的に外傾する深鉢の体部～底部である。Ｒ１段撚糸文を地文とし、体部上端に沈線が巡る。110は沈線で区画された磨消縄文が施される体部片であり、ＲＬ単節斜縄文を地文とする。111はＲＬ単節斜縄文が横走する体部片である。112は無文の体部下端の破片である。これら出土遺物のうち109・110は第II群３類土器に、111・112は第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＤＶａ４②土坑

遺構（第41図、写真図版34）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに東西を長軸とする楕円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径166cm×165cm、底部径160cm×155cm、深さは中心部で109cmである。底面は、III層下面である。ほぼ中央に開口部径32cm×26cm、底部径16cm×13cm、深さ14cmの副穴１個がある。さらに、この副穴からは２条の溝が延びる。溝１は南東壁際に延び長さ50cm、最大幅6cm、深さ最大３cm、溝２は北西壁際に延び長さ68cm、最大幅６cm、深さ最大３cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。また、底面も副穴に向かって最大８cm下る。埋土は５層に細分される。南側は黒褐色土と黄褐色土、北側は褐色土で構成される。ほとんどの層に浮石粒が見られる。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ６土坑

遺構（第41図、写真図版36）

調査区東側上位面中央に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径86cm×84cm、底部径72cm×68cm、深さは中心部で40cmである。底面はII層で平坦である。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は主に暗褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はない。

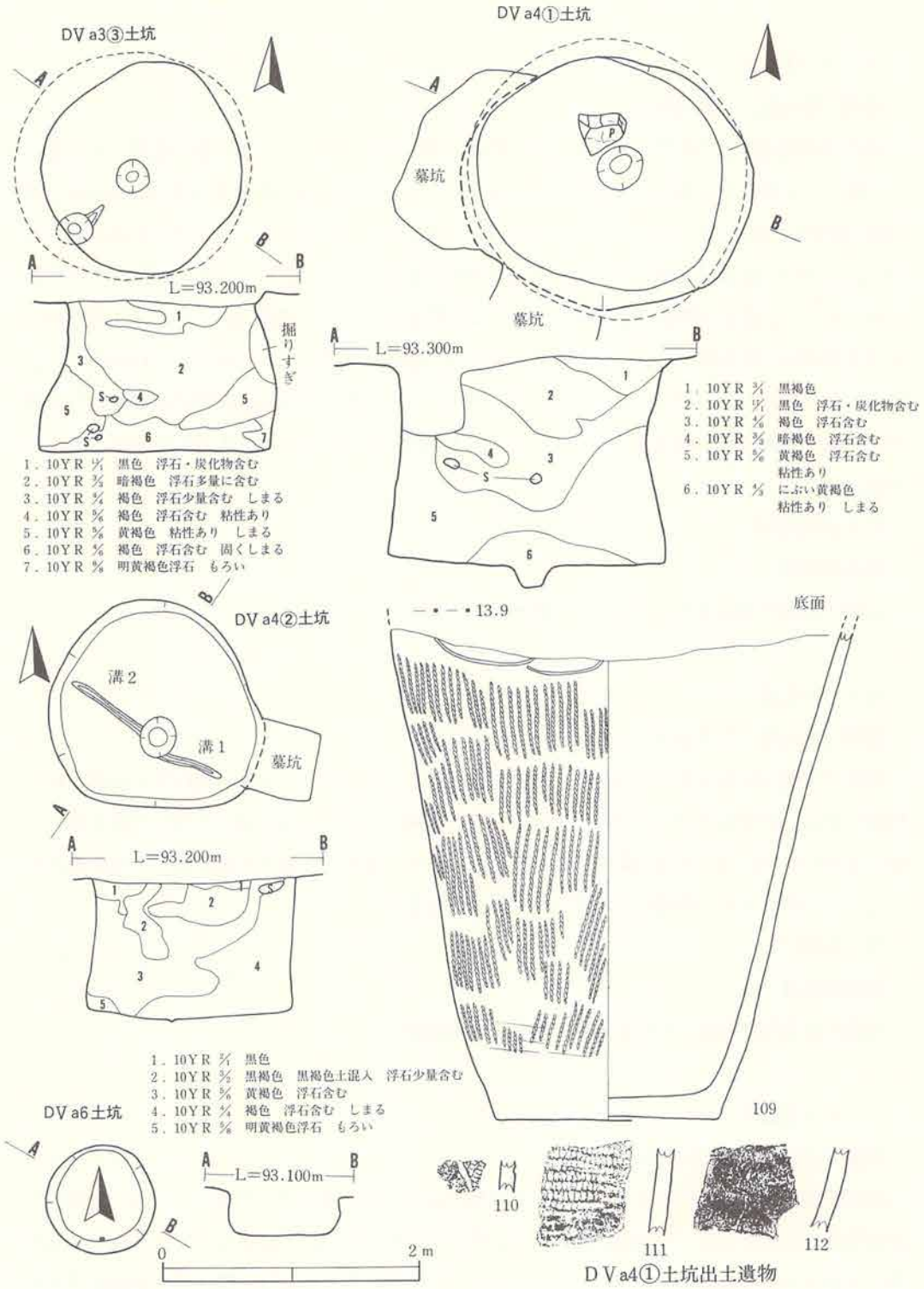
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ８①土坑

遺構（第42図、写真図版35）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。東部でＤＶａ８②土坑と重複する。新旧関係は不明である。平面形は開口部・底部とも円形である。断面形はビーカー形であるが、壁の崩落土を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径255cm×250cm、底部径230cm×220cm、深さは中心部で166cmである。底面はIII層下面でほぼ平坦である。中央部に開口部径46cm×43cm、底部径26cm×23cm、深さ35cmの副穴が１個ある。この副穴から７条


DV a3③土坑
A
B
L=93.200m
掘りすぎ
1．10YR 7/1 黒色 浮石・炭化物含む
2．10YR 3/3 暗褐色 浮石多量に含む
3．10YR 3/4 褐色 浮石少量含む しまる
4．10YR 5/6 褐色 浮石含む 粘性あり
5．10YR 5/6 黄褐色 粘性あり しまる
6．10YR 5/6 褐色 浮石含む 固くしまる
7．10YR 5/8 明黄褐色浮石 もろい
DV a4①土坑
墓坑
墓坑
L=93.300m
1．10YR 3/1 黒褐色
2．10YR 7/1 黒色 浮石・炭化物含む
3．10YR 3/4 褐色 浮石含む
4．10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
5．10YR 5/6 黄褐色 浮石含む 粘性あり
6．10YR 4/3 にぶい黄褐色 粘性あり しまる
DV a4②土坑
溝2
溝1
墓坑
L=93.200m
1．10YR 3/1 黒色
2．10YR 3/2 黒褐色 黒褐色土混入 浮石少量含む
3．10YR 5/6 黄褐色 浮石含む
4．10YR 3/4 褐色 浮石含む しまる
5．10YR 5/6 明黄褐色浮石 もろい
13.9
底面
109
DV a6土坑
L=93.100m
0
2 m
110
111
112
DV a4①土坑出土遺物

第41図 土坑（32）

の溝が放射状に延びる。溝１は東壁に延び長さ85cm、最大幅22cm、深さ最大６cm、溝２は南南東壁に延び長さ86cm、最大幅18cm、深さ最大５cm、溝３は南南西壁に延び長さ80cm、最大幅10cm、深さ最大３cm、溝４は南西壁に延び長さ88cm、最大幅17cm、深さ最大４cm、溝５は西壁に延び長さ94cm、最大幅14cm、深さ最大４cmである。溝６は北西壁に延び長さ82cm、最大幅11cm、深さ最大３cm、溝７は北壁に延び長さ100cm、最大幅18cm、深さ最大８cmである。これらの溝は副穴に向かってわずかに下る。埋土は11層に細分される。上位は黒色土、中位は褐色土、下位は暗褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。全層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ８②土坑

遺構（第41図、写真図版39）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。西部でＤＶａ８①土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、平面形は、開口部・底部とに円形と考えられる。断面形は木根のため歪んでいるがフラスコ形である。規模は、開口部直径82cm、頸部直径63cm、底部直径85cm、深さは中心部で60cmである。底面はIII層で凸凹が激しい。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は主に暗褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ８③土坑

遺構（第42図、写真図版39）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層下面である。東部でＤＶａ９④土坑を切る。平面形は開口部・底部とも円形である。壁は木根の攪乱により歪んで立ち上がるが、断面形はビーカー形であったと思われる。規模は、開口部径188cm×182cm、底部径160cm×152cm、深さは中心部で110cmである。底面はIII層下面でほぼ平坦である。埋土は５層に細分される。上位と下位は暗褐色土、中位は黒褐色土主体で構成され、ほとんどの層に浮石粒が含まれる。

出土遺物（第42図、写真図版64）

埋土から113～118の土器が出土している。113は口縁部～体部上端の破片である。口縁部には隆帯と刺突文が施され、隆帯と沈線に挟まれた無文帯が体部を区画する。114～117は無文の口縁部片である。118はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片である。これら出土遺物のうち113は第II群３類土器に、114～118は第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ９①土坑

遺構（第42図、写真図版40）

調査区東側の北西に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。北東部でＣＶｊ９②土坑と、東部でＤＶａ９②土坑と重複する。新旧関係はいずれも不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明であるが、残存する部分から、平面形は開口部・底部とに円形と考えられる。断面形はビーカー形である。規模は、開口部直径150cm、頸部直径112cm、底部直径103cm、深さは中心部で72cmである。底面III層で平坦である。木根による攪乱のため土層断面は省略したが、埋土は主に暗褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ９②土坑

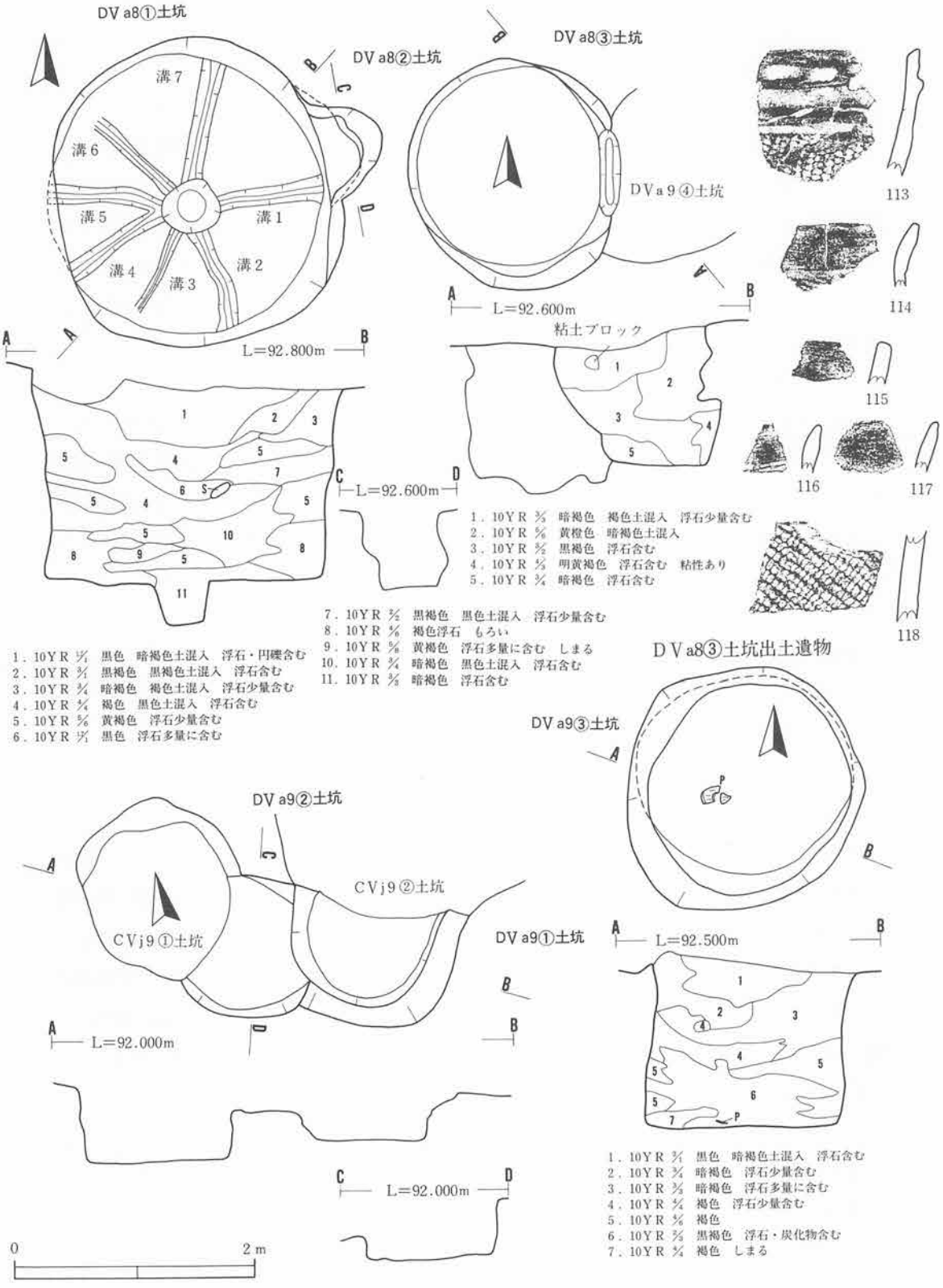
遺構（第42図、写真図版40）

調査区東側の北西に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。東部でＤＶａ９①土坑と、西部でＣＶｊ９①土坑と重複する。新旧関係はいずれも不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明であるが、残存する部分から、平面形は開口部・底部とに円形と考えられる。断面形はビーカー形である。規模は開口部直径116cm、底部直径102cm、深さは中心部で36cmである。底面はIII層で平坦である。木根による攪乱のため土層断面は省略したが、埋土は主に暗褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。


DV a8①土坑
DV a8②土坑
DV a8③土坑
DVa9④土坑
溝1
溝2
溝3
溝4
溝5
溝6
溝7
L=92.800m
L=92.600m
粘土ブロック
113
114
115
116
117
118
1．10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入 浮石少量含む
2．10YR 5/6 黄橙色 暗褐色土混入
3．10YR 3/3 黒褐色 浮石含む
4．10YR 5/3 明黄褐色 浮石含む 粘性あり
5．10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
1．10YR 3/1 黒色 暗褐色土混入 浮石・円礫含む
2．10YR 3/1 黒褐色 黒褐色土混入 浮石含む
3．10YR 3/4 暗褐色 褐色土混入 浮石少量含む
4．10YR 3/4 褐色 黒色土混入 浮石含む
5．10YR 5/6 黄褐色 浮石少量含む
6．10YR 3/1 黒色 浮石多量に含む
7．10YR 3/2 黒褐色 黒色土混入 浮石少量含む
8．10YR 5/4 褐色浮石 もろい
9．10YR 5/6 黄褐色 浮石多量に含む しまる
10．10YR 3/4 暗褐色 黒色土混入 浮石含む
11．10YR 3/3 暗褐色 浮石含む
DV a8③土坑出土遺物
DV a9③土坑
L=92.500m
1．10YR 3/1 黒色 暗褐色土混入 浮石含む
2．10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
3．10YR 3/3 暗褐色 浮石多量に含む
4．10YR 5/4 褐色 浮石少量含む
5．10YR 5/4 褐色
6．10YR 3/3 黒褐色 浮石・炭化物含む
7．10YR 5/4 褐色 しまる
DV a9②土坑
CVj9①土坑
CVj9②土坑
DV a9①土坑
L=92.000m
0
2 m

第42図 土坑（33）

ＤＶａ９③土坑

遺構（第42図、写真図版35）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部とに円形である。断面形はビーカー形であり、壁の上位が外傾する。規模は、開口部径210cm×198cm、頸部径178cm×164cm、底部径180cm×162cm、深さは中心部で138cmである。底面はIII層底面で平坦である。埋土は７層に細分される。上位は黒色土と暗褐色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。１～６層に浮石粒が、６層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第43図、写真図版64）

119～122の土器が出土している。これらのうち119～121は底面から、122は埋土上位から出土したものである。119は体部から口縁部にかけて緩く外反する深鉢である。口縁部は沈線が巡り無文である。体部は沈線文で区画された磨消縄文が縦横に展開し、部分的に三日月状の突起が付される。地文はＬ１段の撚糸文である。120～122はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片であり、120・121は同一個体である。121の上・下端には沈線が横走する。これら出土遺物のうち119～121は第II群３類土器に、122は第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＤＶａ９④土坑

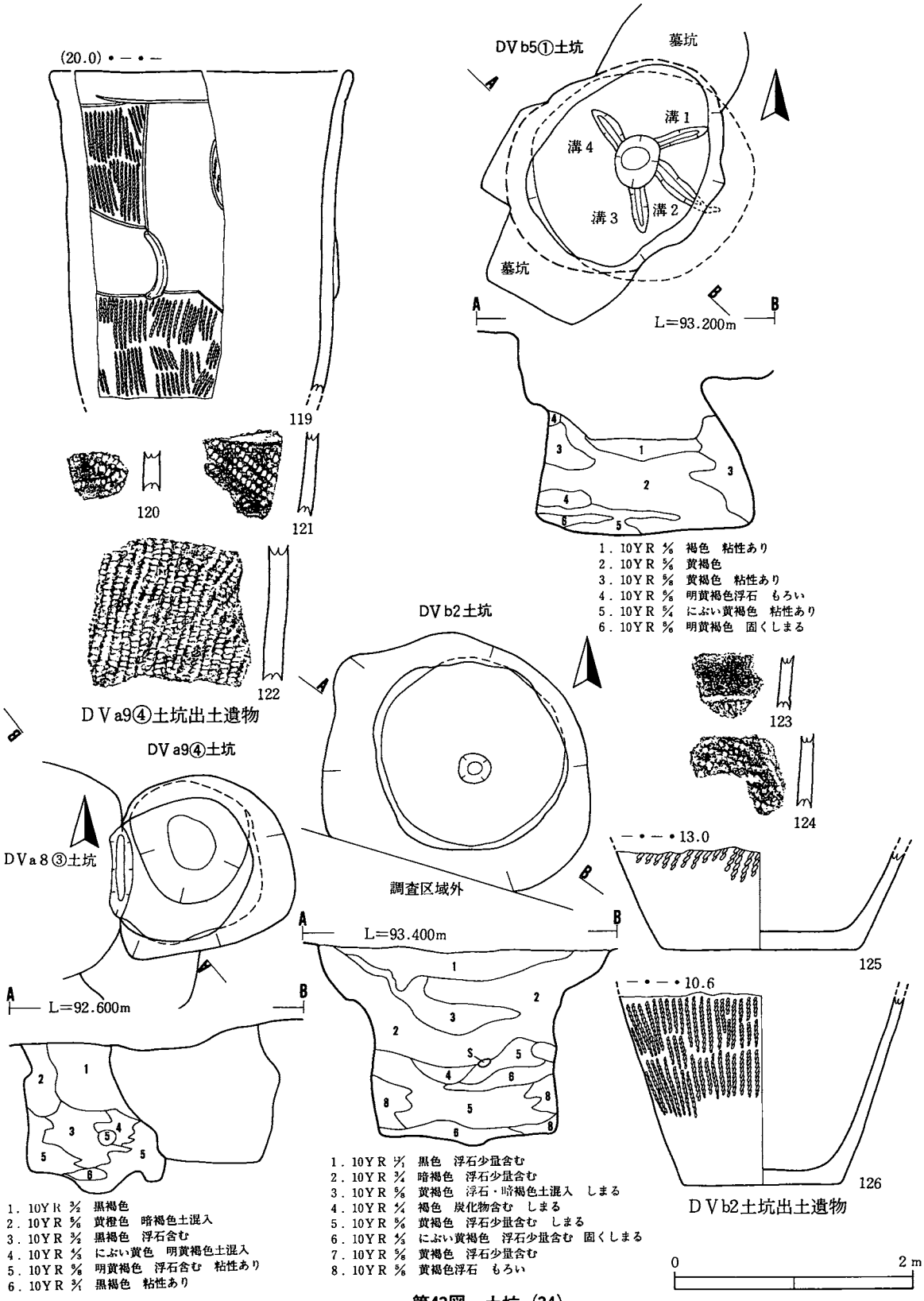
遺構（第43図、写真図版35）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層下面である。西部でＤＶａ８③に切られ、南東部でＤＡｂ９土坑と隣接する。また、南部でＤＶｂ９陥し穴状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は残存する部分から開口部・底部ともほぼ円形である。断面形はビーカー形であろう。規模は、開口部直径152cm、頸部直径116cm、底部直径132cm、深さは中心部で10cmである。底面はIII層底面で、木根による攪乱と思われる窪みが２か所見られる。埋土は６層に細分される。上位は黒褐色土、中位は黒褐色土、下位は明黄褐色土主体で構成される。４・６層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時間

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。


(20.0)
119
120
121
122
DⅤa9④土坑出土遺物
DⅤb5①土坑
墓坑
溝1
溝2
溝3
溝4
墓坑
A
B
L=93.200m
1. 10YR 4/6 褐色 粘性あり
2. 10YR 5/6 黄褐色
3. 10YR 5/8 黄褐色 粘性あり
4. 10YR 5/8 明黄褐色浮石 もろい
5. 10YR 5/4 にぶい黄褐色 粘性あり
6. 10YR 5/8 明黄褐色 固くしまる
DⅤb2土坑
調査区域外
L=93.400m
1. 10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
2. 10YR 3/4 暗褐色 浮石少量含む
3. 10YR 5/8 黄褐色 浮石・暗褐色土混入 しまる
4. 10YR 4/4 褐色 炭化物含む しまる
5. 10YR 5/4 黄褐色 浮石少量含む しまる
6. 10YR 4/3 にぶい黄褐色 浮石少量含む 固くしまる
7. 10YR 5/6 黄褐色 浮石少量含む
8. 10YR 5/8 黄褐色浮石 もろい
DⅤa9④土坑
DⅤa8③土坑
L=92.600m
1. 10YR 3/2 黒褐色
2. 10YR 5/6 黄橙色 暗褐色土混入
3. 10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
4. 10YR 4/3 にぶい黄色 明黄褐色土混入
5. 10YR 5/8 明黄褐色 浮石含む 粘性あり
6. 10YR 3/1 黒褐色 粘性あり
123
124
125
126
13.0
10.6
DⅤb2土坑出土遺物
0
2 m

第43図 土坑 (34)

ＤＶｂ２土坑

遺構（第43図、写真図版35）

調査区東側上位面の南端境界付近に位置する。遺構は、上部を新しい墓域を区画する溝によって削られており、溝底部で検出した。検出面はIII層上面である。平面形は、開口部南側が境界線にかかり、正確には把握できないが、残存する部分からほぼ円形であろう。底部は円形である。断面形はフラスコ形で壁上位が外傾する。規模は、開口部直径255cm、頸部径158cm×154cm、底部直径154cm、深さは中心部で160cmである。底面はIII層で、中央部に開口部直径28cm、底部直径12cm、深さ12cmの副穴１個がある。底部は副穴に向かって最大10cm下る。埋土は８層に細分される。上位は黒色土、中位は暗褐色土、下位は黄褐色土主体で構成され、壁際は崩落した浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれている。４層には炭化物粒が含まれる。また、３層は浮石塊である。人為的堆積層と考えられる。

出土遺物（第43図、写真図版64）

埋土中位から123～126の土器が出土している。123は沈線文で区画された磨消縄文が施される体部片である。124はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片で、右端に沈線が施される。125･126は底部～体部下半の深鉢である。ともにＬ１段の撚糸文を地文とする。これらは、第II群３類土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶｂ５①土坑

遺構（第43図、写真図版36）

調査区東側上位面の南端に位置する。遺構は、上部を新しい墓域を区画する溝によって削られており、溝底部で検出した。検出面はII上面である。平面形は開口部が北東部・南西部・北西部を新しい墓坑で壊されているため不明であるが、残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部直径166cm、頸部径176cm×128cm、底部径178cm×176cm、深さは中心部で160cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部径43cm×36cm、底部径22cm×20cm、深さ25cmの副穴１個がある。副穴から４条の溝が延びる。溝１は東に延び長さ42cm、最大幅15cm、深さ最大３cm、溝２は南東に延び長さ60cm、最大幅15cm、深さ最大３cm、溝３は南に延び長さ40cm、最大幅14cm、深さ最大４cm、溝４は北西に延び長さ38cm、最大幅12cm、深さ最大５cmで、溝は幅穴に向かってわずかに下る。底面も幅穴に向かって最大10cm下る。埋土は６層に細分される。上位は褐色土、下位は黄褐色土主体で構成される。壁際には崩落した浮石や黄褐色土が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶｂ５②土坑

遺構（第44図、写真図版36）

調査区東側上位面の南端に位置する。検出面はII層上面である。西部でＤＶｃ５土坑と重複する。新旧関係は不明である。また、北東部を新しい墓坑に壊されている。平面形は開口部が残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径266cm×254cm、頸部径184cm×176cm、底部径226cm×210cm、深さは中心部で186cmである。底面はIII層下面で、ほぼ平坦である。北西壁際に開口部径30cm×26cm、底部直径14cm、深さ12cmの副穴１個がある。埋土は10層に細分される。上位は黒色土、中位は暗褐色土、下位は黄褐色土主体で構成され，壁際には崩落した浮石や黒褐色土・暗褐色土が見られる。２・６・10層に浮石粒が、６層には炭化物粒が含まれる。７層は浮石塊である。人為的推積層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶｂ６土坑

遺構（第44図、写真図版36）

調査区東側上位面の南寄りに位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はビーカー形であるが、壁面の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径198cm×192cm、底部径194cm×186cm、深さは中心部で136cmである。底面はIII層下面で、中央部に開口部直径28cm、底部直径18cm、深さ15cmの副穴１個がある。この幅穴からは１条の溝が北東壁に延びる。溝の長さ87cm、最大幅６cm、深さ最大２cmである。溝は副穴に向かってわずかに下る。底面も副穴に向かって最大で６cm下る。埋土は９層に細分される。上位は黒色土と褐色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土と黄褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が、６・９層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶｂ７①土坑

遺構（第44図、写真図版36）

調査区東側上位面に位置する。遺構は、上部を新しい墓域を区画する溝によって切られており、溝底部で検出した。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が東西を長軸にもつ楕円形で、底部は円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれている。規模は、開口部径195cm×162cm、底部径218cm×215cm、深さは中心部で142cmである。底面はIII層下面で、中央部に１個と底面壁際に６個の副穴がある。Ｐ１は開口部径46cm×42cm、底部直径32cm、深さ20cmで溝が南西方向に延びる。溝の長さは45cm、深さ２cmで副穴に向かってわずかに下る。Ｐ２～Ｐ６は開口部直径20cm～33cm、底部直径12cm～18cm、深さ25cm～28cmである。底面は副穴に向かって最大５cm下る。埋土は５層に細分され、上位と下位が黒褐色土、中位が褐色土である。５層に浮石粒含まれる。人為的堆積層である。

出土遺物（第44図、写真図版64）

埋土から127～131の土器が出土している。127･128は口縁部片である。127は刺突文が２段に並び下端に沈線が巡る。128はＲＬ単節斜縄文を地文とし、上端に沈線が巡る。129･130は沈線文で区画された磨消縄文をもつ体部片である。131は底部のみ残存し、ＲＬ単節斜縄文とする。これら出土遺物のうち127～130は第II群３類土器に、131は第Ｖ群土器に属するものである。

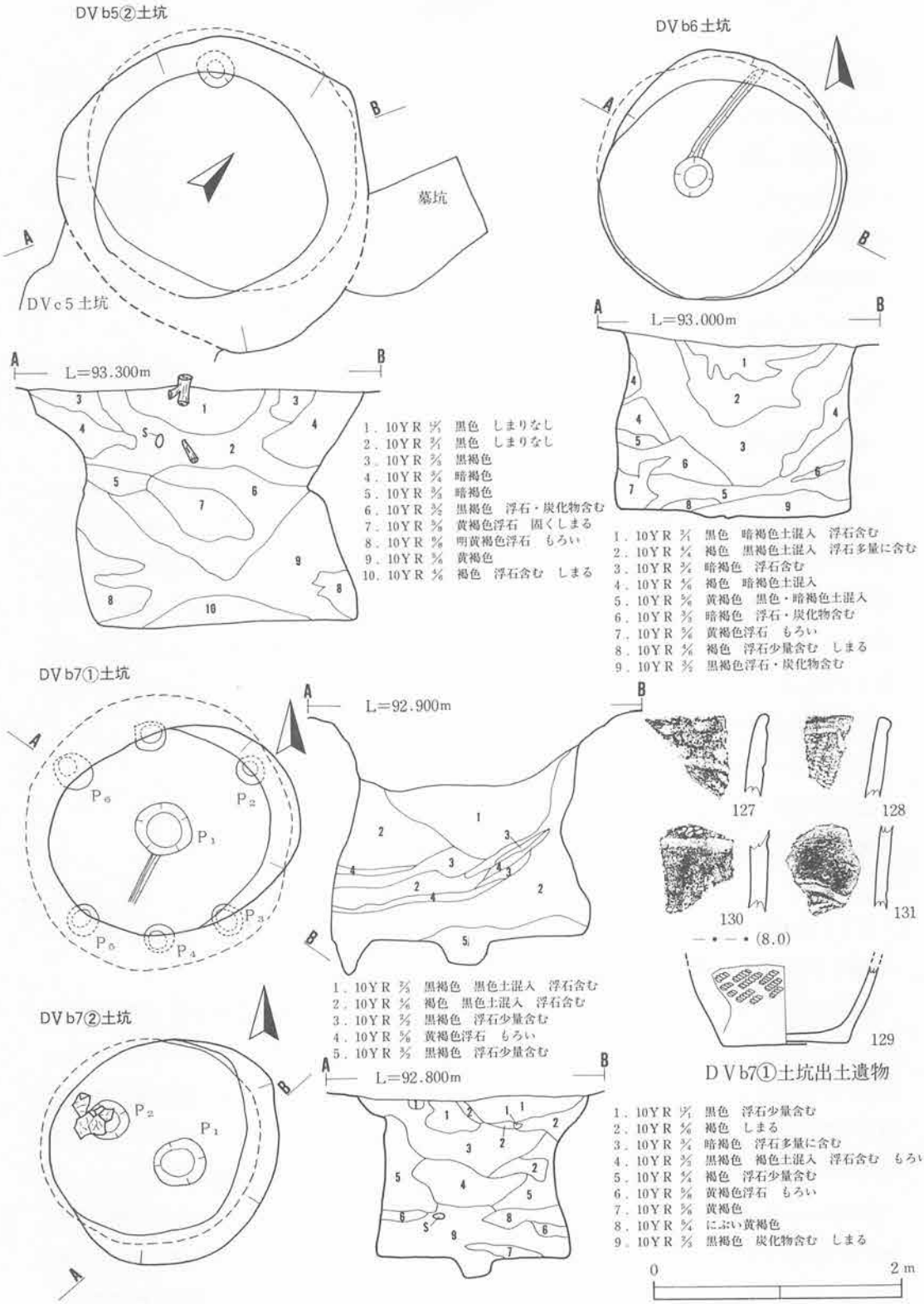
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶｂ７②土坑

遺構（第44図、写真図版37）

調査区東側上位面の南寄りに位置する。遺構は上部を新しい墓域を区画する溝によって切られており、溝底部で検出した。検出面はII層上面である。平面形は開口部・底部とも円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径182cm×176cm、頸部径162cm×148cm、底部径172cm×166cm、深さは中心部で130cmである。底面はIII層下面で、南東寄りと北西寄りに２個の副穴がある。Ｐ１は開口部径42cm×38cm、底部径28cm×24cm、深さ20cm、Ｐ２は開口部直径35cm～30cm、底部直径20cm～17cm、深さ13cmである。底面は副穴に向かって最大８cm下る。埋土は９層に細分される。上位が黒色土と暗褐色土、以下は黒褐色土主体


DⅤb5②土坑
DⅤc5土坑
墓坑
A
B
L=93.300m
1．10YR 2/1 黒色 しまりなし
2．10YR 3/1 黒色 しまりなし
3．10YR 3/3 黒褐色
4．10YR 3/4 暗褐色
5．10YR 3/3 暗褐色
6．10YR 3/2 黒褐色 浮石・炭化物含む
7．10YR 5/6 黄褐色浮石 固くしまる
8．10YR 5/6 明黄褐色浮石 もろい
9．10YR 5/6 黄褐色
10．10YR 5/6 褐色 浮石含む しまる
DⅤb6土坑
L=93.000m
1．10YR 3/1 黒色 暗褐色土混入 浮石含む
2．10YR 4/4 褐色 黒褐色土混入 浮石多量に含む
3．10YR 3/4 暗褐色 浮石含む
4．10YR 4/6 褐色 暗褐色土混入
5．10YR 5/6 黄褐色 黒色・暗褐色土混入
6．10YR 3/3 暗褐色 浮石・炭化物含む
7．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
8．10YR 4/6 褐色 浮石少量含む しまる
9．10YR 3/2 黒褐色浮石・炭化物含む
DⅤb7①土坑
P1
P2
P3
P4
P5
P6
L=92.900m
1．10YR 3/3 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
2．10YR 4/4 褐色 黒色土混入 浮石含む
3．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
4．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
5．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む
DⅤb7②土坑
L=92.800m
1．10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 4/6 褐色 しまる
3．10YR 3/4 暗褐色 浮石多量に含む
4．10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入 浮石含む もろい
5．10YR 4/4 褐色 浮石少量含む
6．10YR 5/6 黄褐色浮石 もろい
7．10YR 5/6 黄褐色
8．10YR 5/4 にぶい黄褐色
9．10YR 3/3 黒褐色 炭化物含む しまる
127
128
129
130
131
(8.0)
DⅤb7①土坑出土遺物
0
2 m

第44図 土坑（35）

で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。ほとんどの層に浮石粒が含まれ、９層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第45図、写真図版65）

底面から132の土器が出土している。ほぼ直立する粗製深鉢の体部片であり、Ｌ１段の撚糸文を地文とする。これは第II群３類土器に属するものである

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＤＶｂ９土坑

遺構（第45図、写真図版37）

調査区東側の南東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。北西部でＤＶａ９④土坑と隣接する。平面形は開口部、底部ともにほぼ円形である。断面形はビーカー形であるが壁の崩落を考えると本来はフラスコ形であったと思われる。規模は、開口部径190cm×170cm、底部径164cm×162cm、深さ中心部で170cmである。底面はIII層下面で平坦である。中央部に開口部直径30cm、底部直径24cm、深さ20cmの幅穴が１個ある。埋土は10層に細分される。上位は黒色土と褐色土、以下は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。大部分の層に浮石粒が、４・８には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

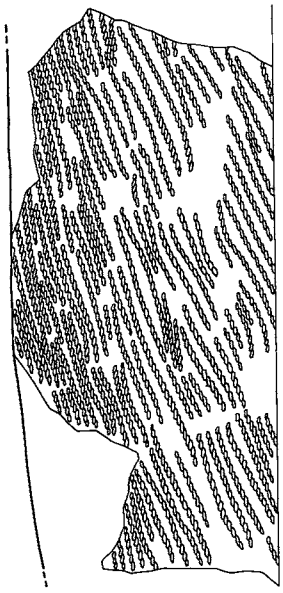
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶｃ５土坑

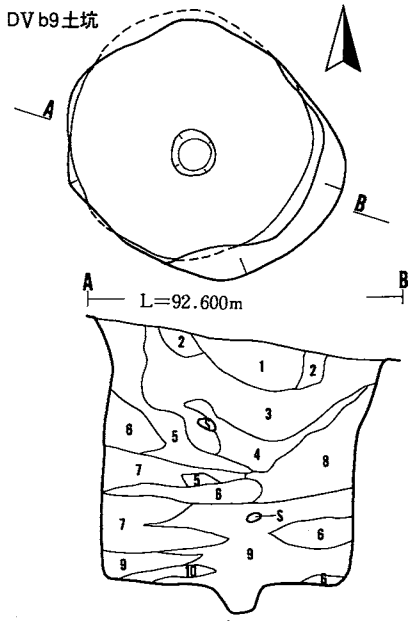
遺構（第45図、写真図版37）

調査区東側上位面の南端に位置する。検出面はII層上面である。北部でＤＶｂ５②土坑と重複する。新旧関係は不明である。平面形は開口部が残存する部分からほぼ円形と考えられる。底部も円形である。壁は東側では底部から内傾し、西側では外傾して断面形は底が東にやや広がるフラスコ形である。規模は、開口部直径170cm、頸部直径142cm、底部径184cm×174cm、深さは中心部で160cmである。底面はIII層下面で、ほぼ平坦である。中央部に開口部直径32cm、底部直径16cm、深さ20cmの副穴１個がある。この副穴から３条の溝が延びる。溝１は南壁に延び長さ74cm、最大幅10cm、深さ最大３cm、溝２は南西壁際に延び長さ60cm、最大幅12cm、深さ最大６cm、溝３は北西壁に延び長さ75cm、最大幅10cm、深さ最大３cmである。溝はそれぞれ副穴に向かってわずかに下る。埋土は10層に細分される。上位は黒色土と黒褐色土、中位は暗褐色

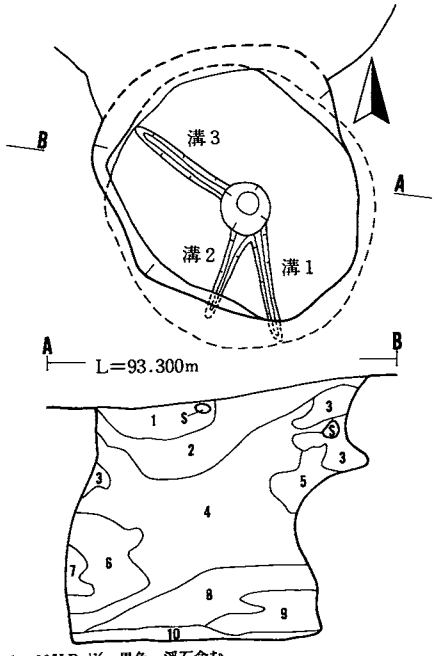


ＤＶb②土坑出土遺物

132



1．10YR 3/2　黒褐色
2．10YR 1/1　黒色　浮石・炭化物含む
3．10YR 3/3　黒褐色　暗褐色土混入　しまりなし
4．10YR 3/4　暗褐色　浮石・炭化物含む　しまる
5．10YR 5/6　黄褐色　しまる
6．10YR 5/6　黄褐色　粘性あり
7．10YR 5/8　明黄褐色浮石　もろい
8．10YR 5/6　黄褐色　浮石含む
9．10YR 5/8　明黄褐色浮石　黄褐色土混入
10．10YR 4/3　にぶい黄褐色　しまる

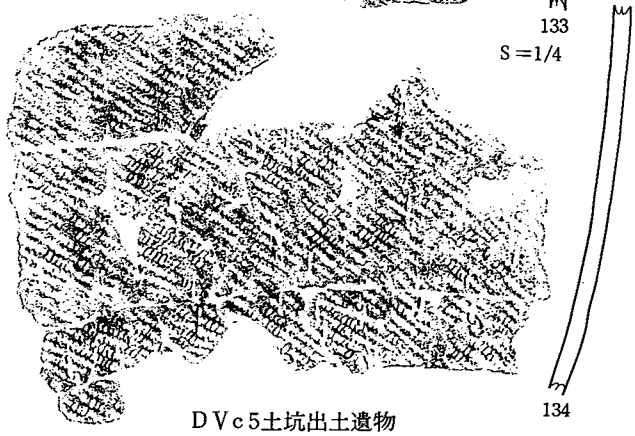


1．10YR 1/1　黒色　浮石含む
2．10YR 3/3　にぶい黄褐色　黒褐色土混入　浮石含む
3．10YR 3/4　褐色　黒色土混入　浮石多量に含む　しまりなし
4．10YR 3/3　黒褐色　炭化物・円礫含む
5．10YR 3/3　暗褐色　浮石少量含む
6．10YR 3/4　褐色　浮石少量含む
7．10YR 5/6　褐色浮石　もろい
8．10YR 3/2　黒褐色　黒色・褐色土混入　浮石・炭化物含む
9．10YR 3/2　黒褐色　浮石・炭化物含む
10．10YR 2/1　黒色　浮石多量に含む

0　2 m

133

S＝1/4



134

ＤＶc５土坑出土遺物

第45図　土坑（36）

土、下位は黄褐色土主体で構成され、壁際には崩落した浮石や黄褐色土が見られる。２・４層に浮石粒が、２層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第46図、写真図版65）

埋土から133～138の土器と139･140の剝片が出土している。133～137は同一深鉢の口縁部～体部の破片である。ＲＬ単節斜縄文を地文とし、綾絡文が施される。138は底部のみが残存する。ＲＬ単節斜縄文を地文とし、底部に植物の葉脈痕がある。139・140は側縁部に刃こぼれ状の微小な剝離痕がある。これら出土遺物のうち、133～137は第II群３類土器に、138は第Ｖ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶＩａ０①土坑

遺構（第46図、写真図版37）

調査区上位面の東端に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形であり、壁の中位がくびれる。規模は、開口部径210cm×206cm、頸部径165cm×150、底部径178cm×170cm、深さは中心部で182cmである。底面はＶ層上面に達する。中央部に開口部直径22cm、深さ16cmの副穴がある。底面は副穴に向かって最大７cm下る。埋土は５層に細分される。上位は黒色土、以下は黒褐色土主体で構成され、壁際には壁から崩落した浮石が見られる。前層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶＩａ０②土坑

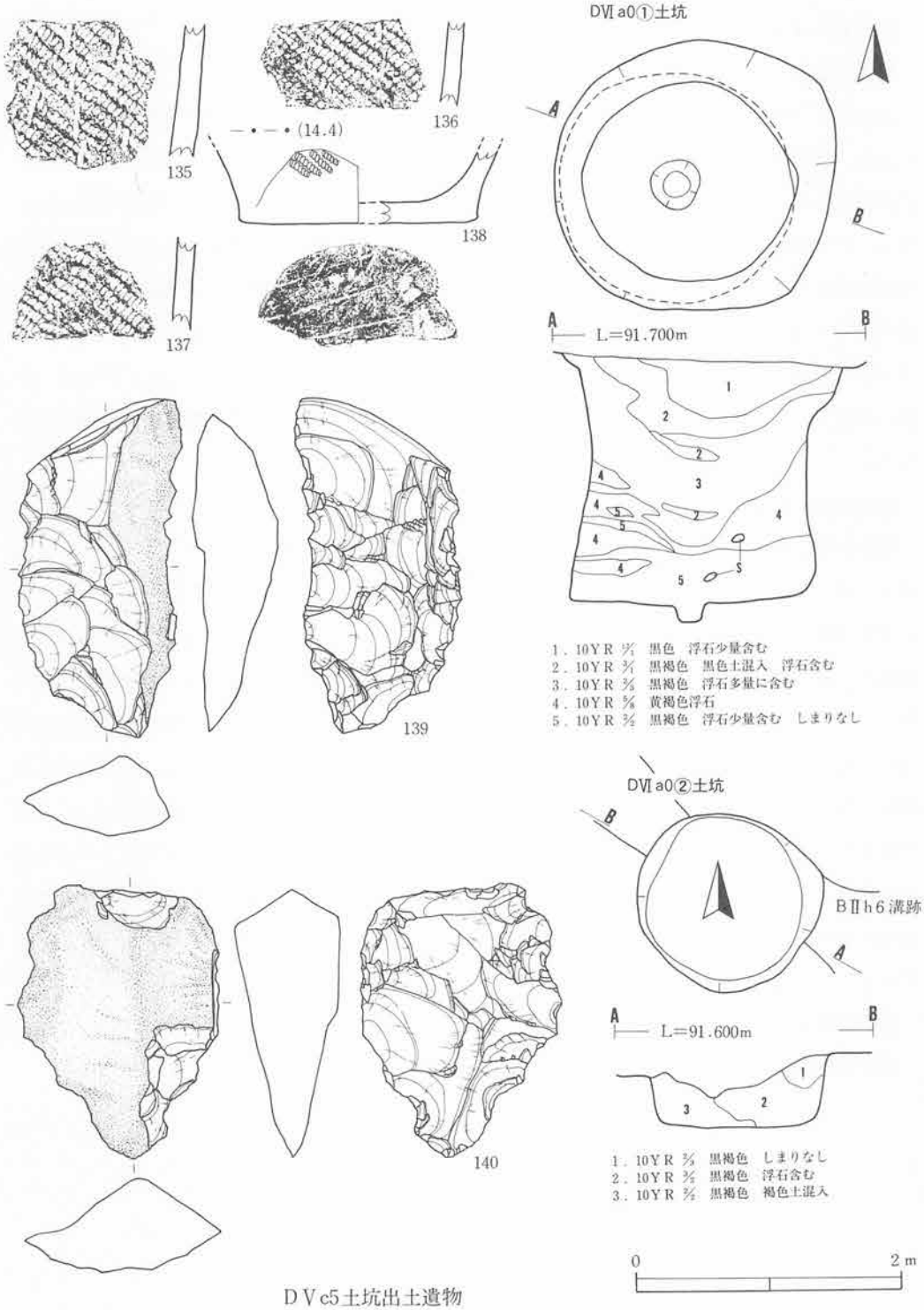
遺構（第46図、写真図版38）

調査区上位面の東端に位置する。検出面はIII層上面である。北半をＢIIｈ６溝跡に切られる。平面形は開口部･底部ともに円形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径137cm×134cm、底部径124cm×118cm、深さは中心部で48cmである。底面はIII層で中央部に向かって最大で８cm下る。埋土は３層に細分され、黒褐色土で構成される。５層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。


DⅥa0①土坑
A
B
L=91.700m
1
2
3
4
5
S
1．10YR 2/1 黒色 浮石少量含む
2．10YR 3/1 黒褐色 黒色土混入 浮石含む
3．10YR 3/3 黒褐色 浮石多量に含む
4．10YR 5/4 黄褐色浮石
5．10YR 3/2 黒褐色 浮石少量含む しまりなし
DⅥa0②土坑
BⅡh6溝跡
L=91.600m
1．10YR 3/2 黒褐色 しまりなし
2．10YR 3/2 黒褐色 浮石含む
3．10YR 3/2 黒褐色 褐色土混入
0
2 m
135
136
137
138
139
140
(14.4)
DⅤc5土坑出土遺物

第46図　土坑（37）

ＤⅥｂ０土坑

遺構（第47図、写真図版40）

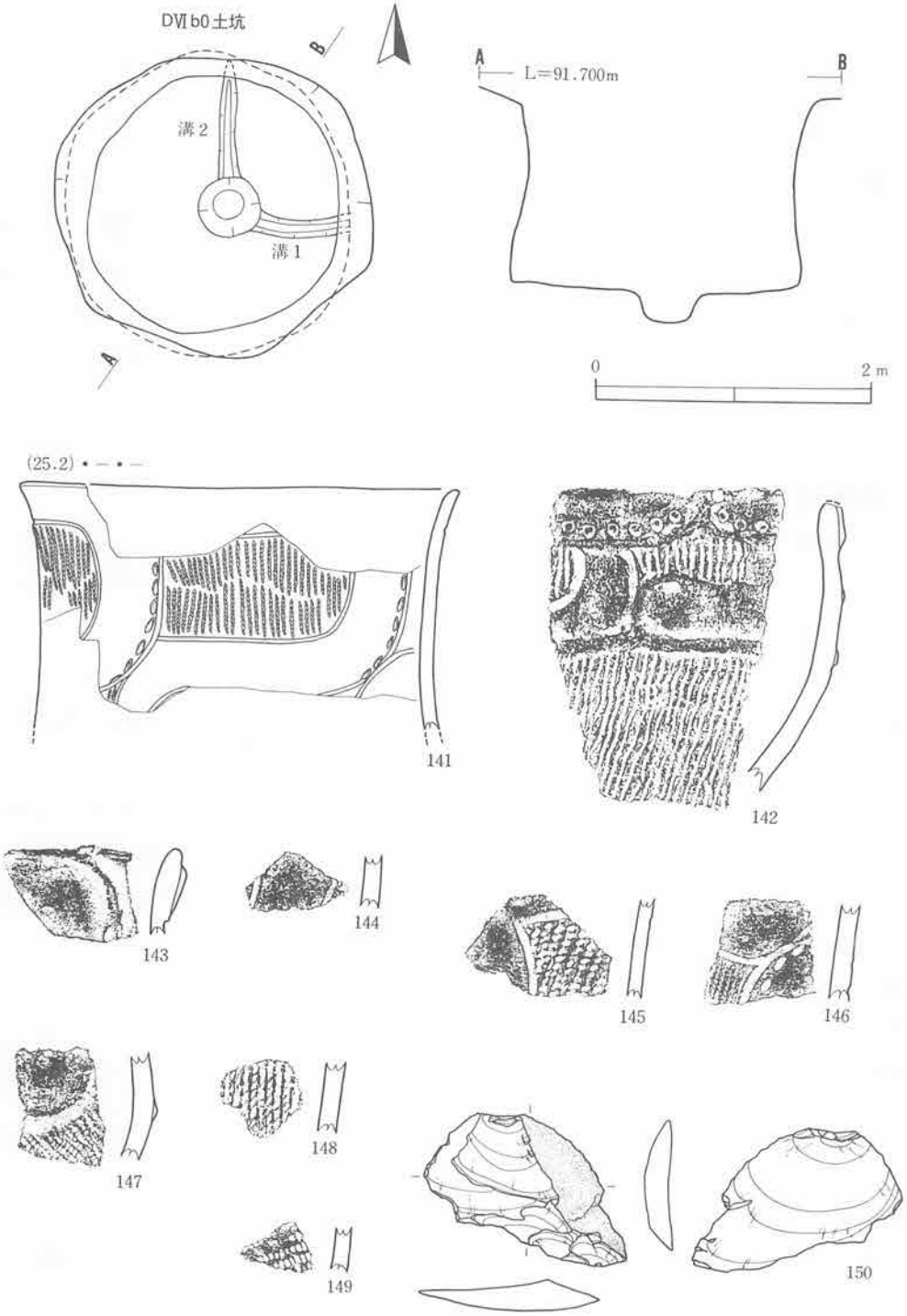
調査区上位面東端に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ形である。規模は、開口部径220cm×205cm、頸部径186cm×180cm、底部径220cm×205cm、深さは中心部で145cmである。底面はⅢ層下面で、中央部に開口部径46cm×42cm、底部径24cm×21cm、深さ19cmの副穴が１個ある。この副穴から２条の溝が延びる。溝１は東壁に延び長さ66cm、最大幅14cm、深さ最大７cm、溝２は北壁に延び長さ87cm、最大幅15cm、深さ最大３cmである。これらの溝は副穴に向かって最大６cm下る。底面も副穴に向かって最大13cm下る。副穴はⅣ層に達する。遺構中央部に木根があり土層断面は省略したが、埋土は、上位は黒色土、中位は暗褐色土、下位は黒褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。

出土遺物（第47図、写真図版66）

埋土から141～149の土器と150の剝片が出土している。141は口縁部～体部上位が残存する深鉢で、緩く外反する。沈線文区画された磨消縄文が展開し、屈曲部には刺突文が施される。地文はＬ１段の撚糸文である。142は内湾する口縁部～体部上部が残存する深鉢である。口縁部には隆帯と刺突文が施され、体部上端には隆帯によるＪ字形の区画文をつくる。地文はＲ１段の撚糸文である。143･144は同一個体である。143は緩く外反する口縁部片で、隆帯と刺突文が湾曲して施される。144・145・146は沈線区画された磨消縄文をもつ体部片である。145はＲＬ単節斜縄文を地文とし、146はＬＲ単節斜縄文を地文とし、沈線に沿って刺突文が施される。147は隆帯が巡る体部片で、地文はＲＬ単節斜縄文である。148はＲ１段の撚糸文を地文とする体部片である。149はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片である。150は側縁部に刃こぼれ状の微小な剝離痕がある。これら出土遺物のうち、141～148は第Ⅱ群３類土器に、149は第Ⅴ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推測して、縄文時代の遺構と考えられる。



DⅥb0土坑出土遺物

第47図　土坑（38）

4．陥し穴状遺構

CⅣｉ４陥し穴状遺構

遺構（第48図、写真図版44）

調査区中央の上位面南端に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともにやや不整な円形である。断面形はバケツ形である。規模は、開口部径176cm×164cm、底部径46cm×34cm、深さは中心部で92cmである。底面はⅡ層で平坦である。埋土は６層に細分される。上位は黒褐色土、下位は暗褐色土と褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。４・５層に炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

BⅡｆ９陥し穴状遺構

遺構（第48図、写真図版44）

調査区西側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに長軸を北東－南西方面にもつ隅丸長方形である。断面形はビーカー形であり、壁の上位が外傾する。規模は、開口部径140cm×122cm、底部径70cm×66cm、深さは中心部で98cmである。底面はⅣ層で平坦である。中央部に開口部直径15cm、底部直径５cm、深さ24cmの副穴１個がある。埋土は６層に細分される。黒色土と黒褐色土主体に構成され、浮石粒・炭化物粒を含む。４・６層は壁から崩落した浮石と粘土である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

BⅢｊ４陥し穴状遺構

遺構（第48図、写真図版44）

調査区西側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。北西半分が掘り過ぎのため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、開口部・底部ともに長軸を北東－南西方向にもつ隅丸長方形と考えられる。断面形はバケツ形である。規模は、開口部短軸径118cm、底部径104cm×72cm、深さは中心部で85cmである。底面はⅣ層で平坦である。中央部に開口部直径10cm～15cm、底部直径３cm～５cm、深さ15cm～35cmの副穴３個ある。埋土は６層

に細部される。黒褐色土と暗褐色土主体に構成され、６層以外は浮石粒を含む。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅡｅ１陥し穴状遺構

遺構（第48図、写真図版45）

調査区南西の取付道路中央部に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は開口部・底部ともに長軸を北東－南西方向にもつ隅丸長方形である。断面形はビーカー形であり、壁の上位が外傾する。規模は、開口部径140cm×122cm、底部径70cm×66cm、深さは中心部で90cmである。底面はⅤ層で平坦である。中央部に開口部直径23cm、底部直径14cm、深さ45cmの副穴が１個ある。埋土は７層に細分される。黒褐色土と暗褐色土主体に構成され、壁際には壁の崩落土が見られる。２・３・６層に炭化物粒を含む。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅢａ７①陥し穴状遺構

遺構（第48図、写真図版45）

調査区西側の南東に下る斜面上位に位置する。検出面はⅢ層上面である。木根のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、開口部・底部ともに長軸を北北東－南南西方向にもつ隅丸長方形と考えられる。断面形はバケツ形である。規模は、開口部径140cm×112cm（推定）、底部径83cm×72cm（推定）、深さは中心部で92cmである。底面はⅣ層上面で平坦である。埋土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土主体に構成され、浮石粒が多く含まれる。

出土遺物はない。

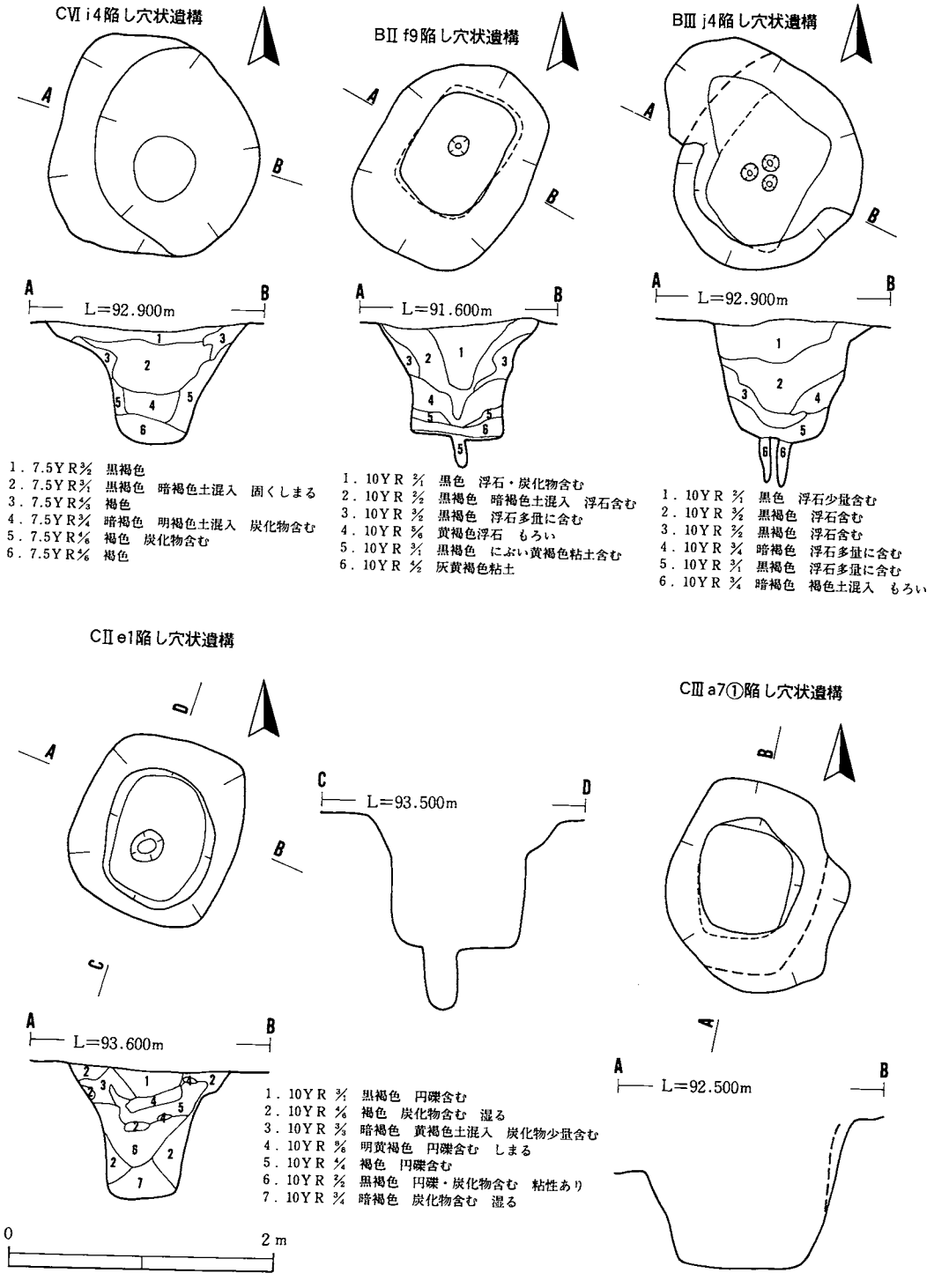
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅢａ７②陥し穴状遺構

遺構（第49図、写真図版45）

調査区西側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部が長軸を北－南方向にもつ長楕円形で、底部が長軸を北－南方向にもつ隅丸長方形である。断面



第48図 陥し穴状遺構（1）

形はバケツ形である。規模は、開口部径152cm×115cm、底部径106cm×64cm、深さは中心部で85cmである。底面はIV層でほぼ平坦である。埋土は9層に細分される。上位は黒色土、下位は黒褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土や浮石が見られる。下位層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CIVc 2 陥し穴状遺構

遺構（第49図、写真図版45）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は木根の撹乱を受け不整であるが、開口部・底部ともに長軸を北－南方向にもつ隅丸長方形である。断面形は撹乱のため歪んで立ち上がる。規模は、開口部径110cm×65cm、底部径86cm×25cm、深さは中心部で76cmである。底面はIII層で凸凹が見られる。埋土は3層に細分される。上位は黒褐色土、下位は褐色土で構成され、1層には浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CIVf 9 陥し穴状遺構

遺構（第49図、写真図版47）

調査区中央の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。南半がCIVf 9②土抗と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から平面形は、開口部・底部ともに長軸を北－南方向にもつ長方形と考えられる。断面形はビーカー形であり、西壁上位は外傾する。規模は、開口部短軸径100cm、底部短軸径50cm、深さは中心部で85cmである。底面はIII層である。埋土は上位が暗褐色土、下位は褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CVf 4 陥し穴状遺構

遺構（第49図、写真図版46）

調査区東側の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はII層上面である。平面形は開口部は長軸を東－西方向にもつ長方形であり、底部は隅丸長方形である。断面形はバケツ形である。規模は、開口部径120cm×98cm、底部径80cm×58cm、深さは中心部で90cmである。底面はIV層で平坦である。中央部に開口部直径22cm、底部直径７cm、深さ41cmの副穴が１個ある。埋土は４層に細分される。上位は主に黒色土、下位は黒褐色土で構成される。１・４層に浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ４①陥し穴状遺構

遺構（第49図、写真図版47）

調査区東側の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部は長軸を北西－南東方向にもつ長方形であり、底部は隅丸長方形である。断面形はバケツ形である。規模は、開口部径132cm×100cm、底部径80cm×58cm、深さは中心部で85cmである。底面はIV層で平坦である。中央部に開口部直径16cm、底部直径13cm、深さ35cmの副穴が１個ある。埋土は浮石粒を含む黒褐色土の単層である。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｇ４②陥し穴状遺構

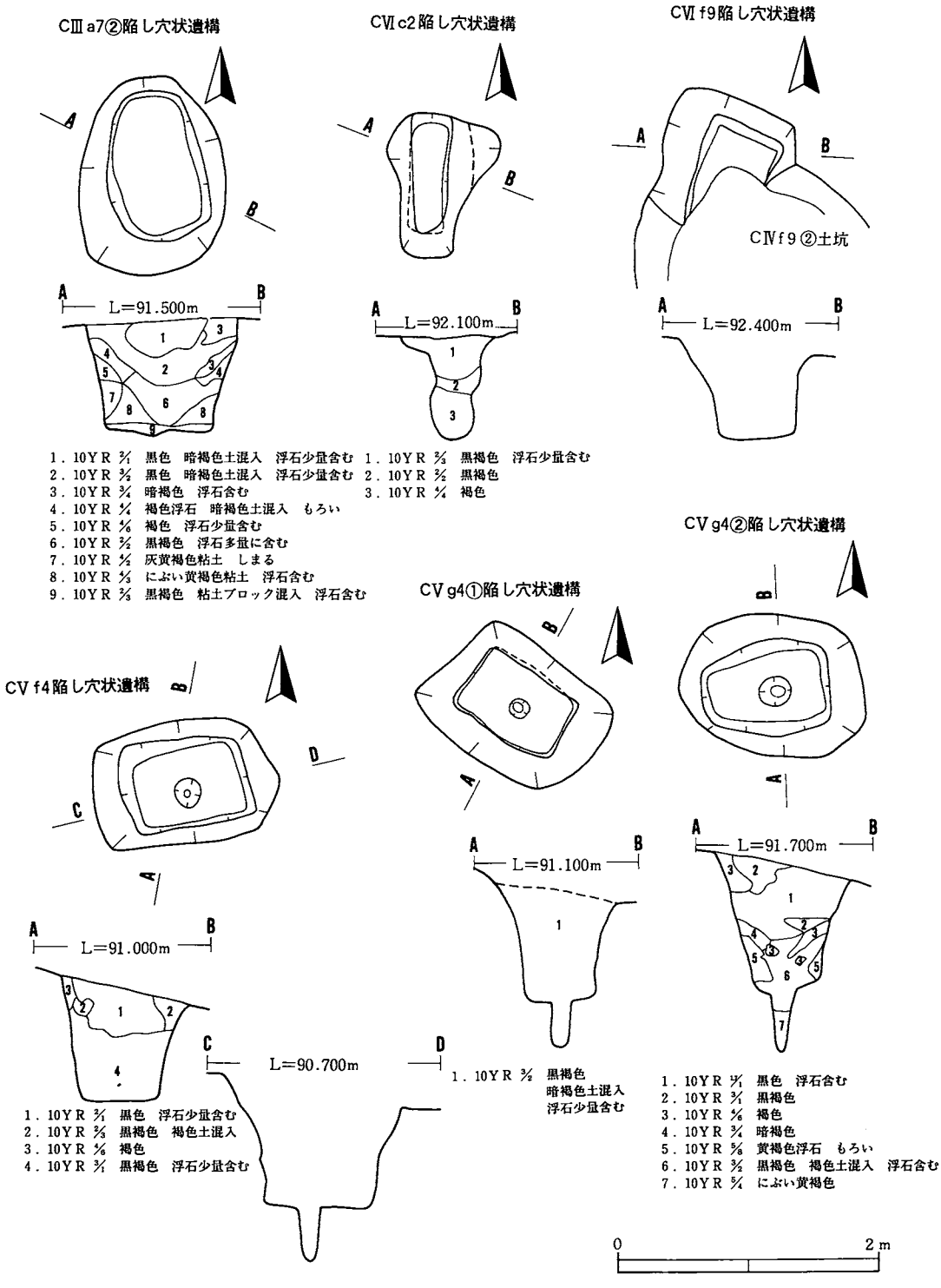
遺構（第49図、写真図版46）

調査区東側の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに長軸を東－西方向にもつ隅丸長方形である。断面形はバケツ形である。規模は、開口部径140cm×110cm、底部径88cm×54cm、深さは中心部で95cmである。底面はIII層で平坦である。中央部に開口部直径25cm、底部直径10cm、深さ45cmの副穴が１個ある。底はIV層に達する。埋土は７層に細分される。主に黒褐色土で構成され、壁際には壁の崩落土と浮石が見られる。１・６層には浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。



第49図 陥し穴状遺構（2）

ＣＶｈ３陥し穴状遺構

遺構（第50図、写真図版47）

調査区東側の北東に下る斜面中位に位置する。検出面はII層上面である。南西部でＣＶｈ３①土坑と隣接する。平面形は開口部長軸を北西－南東方向にもつ長方形であり、底部は隅丸である。断面形はバケツ形である。規模は、開口部径126cm×88cm、底部径85cm×46cm、深さは中心部で86cmである。底面はII層で若干凸凹がある。中央部に開口部直径20cm、底部直径８cm、深さ32cmの副穴が１個ある。埋土は主に暗褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｉ７陥し穴状遺構

遺構（第50図、写真図版46）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層下面である。東部をＣＶｉ７土坑に切られる。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から、平面形は開口部・底部ともに長軸を東－西方向にもつ隅丸長方形と考えられる。断面形はビーカー形である。規模は、開口部短軸径125cm、底部短軸径106cm、深さは中心部で95cmである。底面はIII層である。埋土は３層に細分される。上位と下位は暗褐色土、中位は黒色土で構成される。全層に浮石粒が含まれ、２層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣIVｉ０陥し穴状遺構

遺構（第50図、写真図版46）

調査区東端の北東に下る斜面下位に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部ともに長軸を北西－南東方向にもつ隅丸長方形である。断面形はビーカー形であるが、木根による撹乱のため歪んでいる。規模は、開口部径130cm×86cm（推定）、底部径94cm×74cm、深さは中心部で64cmである。底面はIII層で凸凹が激しい。中央部に開口部直径10cm×13cm、底部直径３cm～６cm、深さ18cm～34cmの副穴が北西－南東方向に３個並んで見られる。埋土は３層に細分される。上位は黒色土と暗褐色土、下位は黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶａ４陥し穴状遺構

遺構（第50図、写真図版47）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層上面である。南西半分がＤＶａ３②土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から平面形は、開口部・底部ともに長軸を北東－南西方向にもつ隅まる長方形と考えられる。断面形はビーカー形である。規模は、開口部短軸径110cm、底部短軸径84cm、深さは中心部で95cmである。底面はIII層でほぼ平坦である。中央部に開口部直径20cm、底部直径７cm、深さ30cmの副穴が１個ある。埋土は上位が暗褐色土、下位は褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＤＶｂ９陥し穴状遺構

遺構（第50図、写真図版47）

調査区東側上位面に位置する。検出面はII層下面である。北東半分がＤＶａ９④土坑と重複する。新旧関係は不明である。重複のため全体の平面形・規模は不明である。残存する部分から平面形は、開口部・底部ともに長軸を北東－南西方向にもつ隅丸長方形と考えられる。断面形はビーカー形であり、壁の上位が外傾する。規模は、開口部短軸径90cm、底部短軸径52cm、深さは中心部で75cmである。底面はIII層で木根による撹乱のため凸凹が激しい。埋土は上位が暗褐色土、下位は褐色土で構成される。

出土遺物はない。

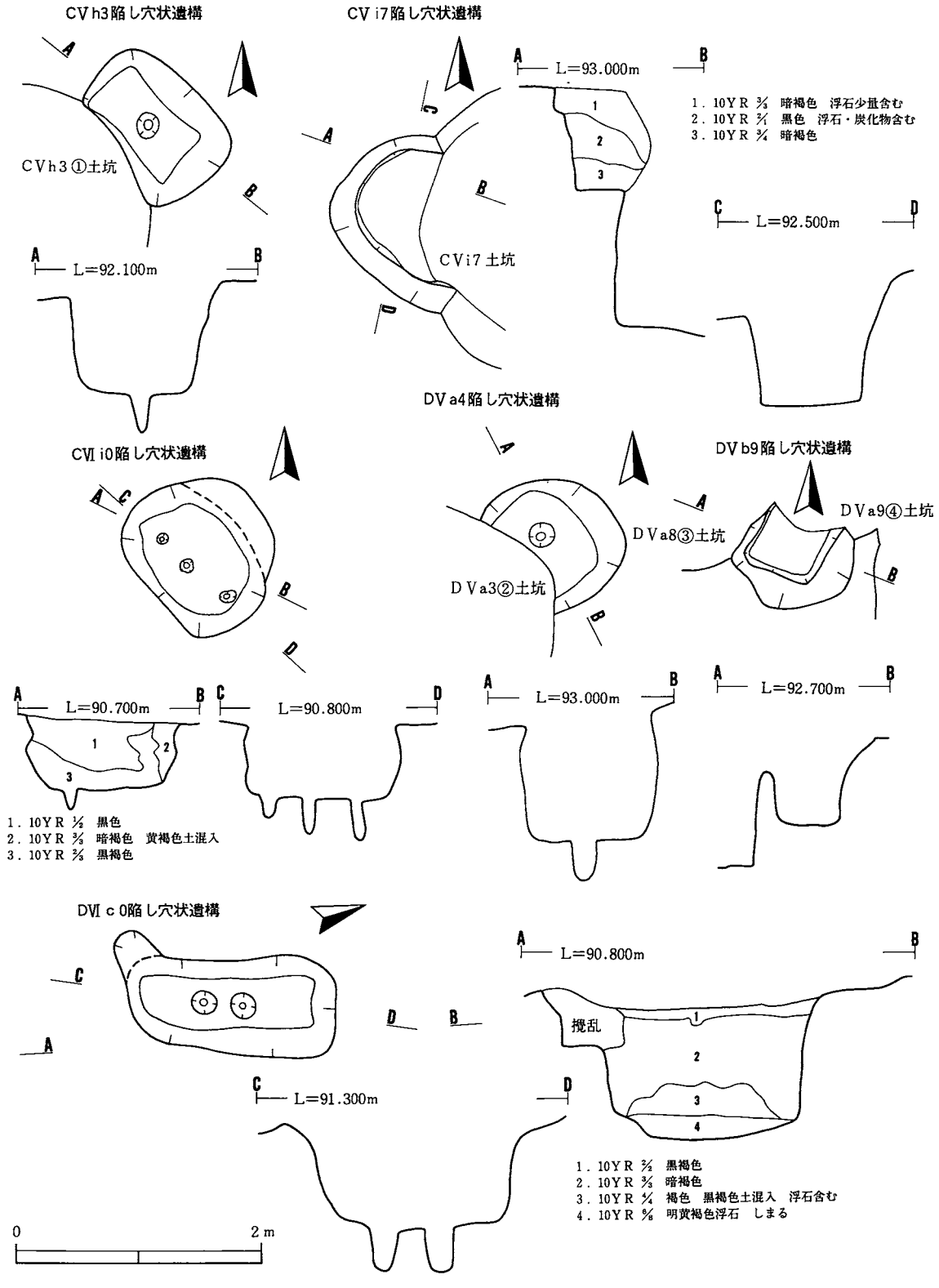
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣIVｃ０陥し穴状遺構

遺構（第50図、写真図版47）

調査区上位面東端に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部・底部ともに長軸を北北東－南南西方向にもつ隅丸長方形である。断面形はビーカー形である。規模は、開口部径172cm×80cm、底部径142cm×40cm、深さは中心部で76cmである。底面はIII層で凸凹が激しい。



第50図 陥し穴状遺構（3）

中央部に開口部直径20cm～22cm、底部直径４cm～６cm、深さ28cm～30cmの副穴が北北西－南南東方向に２個並んで見られる。埋土は４層に細分される。上位は黒褐色土と暗褐色土、下位は褐色土と明黄褐色浮石で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅢｃ９陥し穴状遺構

遺構（第51図、写真図版48）

調査区上位面中央の斜面寄りに位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は長軸を北－南方向にもつ溝形である。短軸の断面形は開口部がやや開くＶ字形である。規模は、開口部径384cm×144cm、底部径348cm×12cm、深さは中心部で190cmである。底面はⅥ層で北部が30cm、南部が80cmほど浅い。埋土は９層に細分される。上位は黒褐色土、以下は褐色土主体で構成され、最下部に明褐色土が見られる。

出土遺物（第51図、写真図版67）

埋土から151の土器が出土している。ＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片であり、第Ｖ類に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣⅢｄ９①陥し穴状遺構

遺構（第51図、写真図版48）

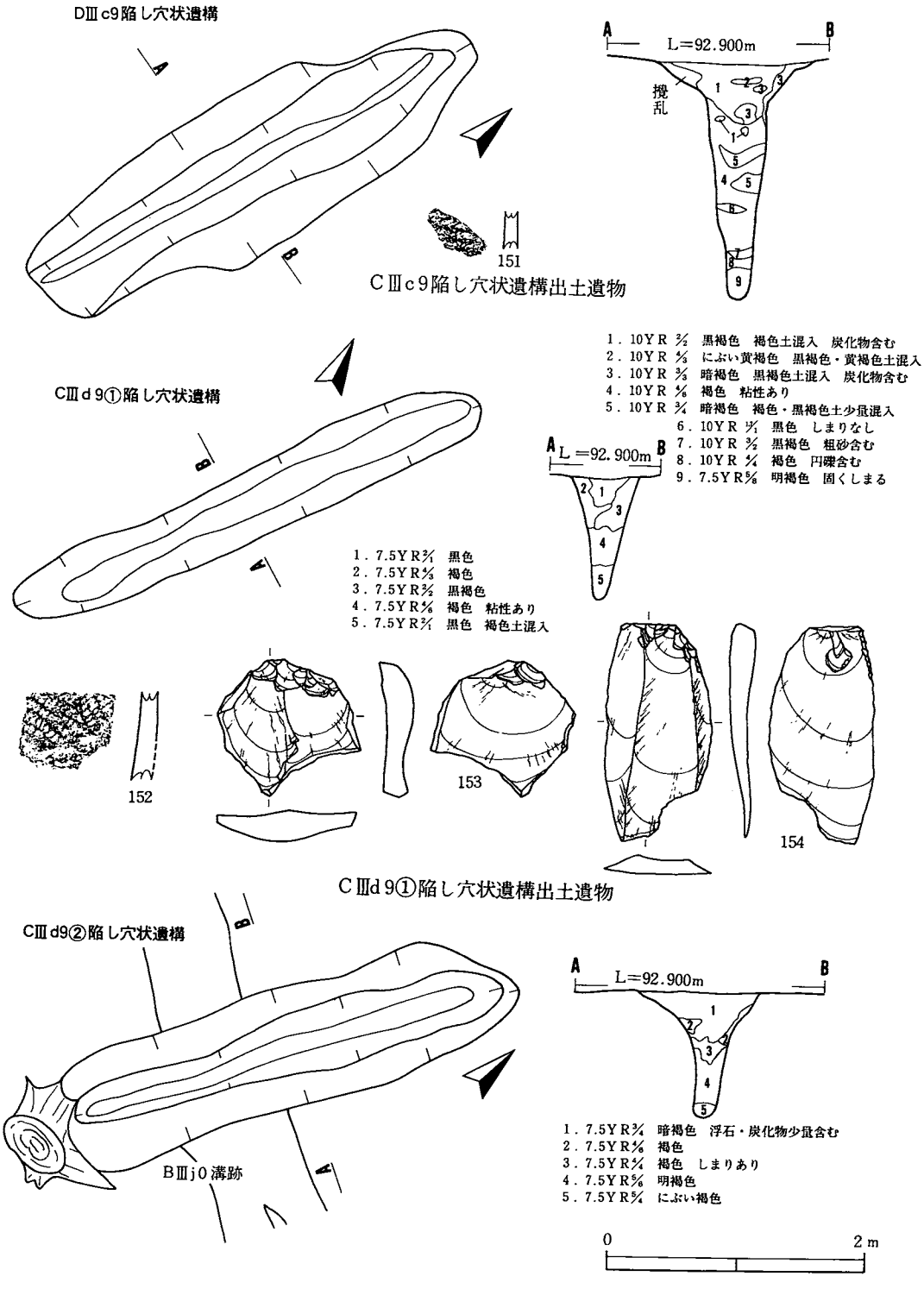
調査区上位面の中央に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は長軸を北東－南西方向にもつ細長い溝形である。短軸の断面形はＶ字形である。規模は、開口部径390cm×56cm、底部径346cm×22cm、深さは中心部で98cmである。底面はⅡ層で北東部が20cmほど浅い。埋土は５層に細分される。上位は黒色土、黒褐色土、中位は褐色土、下位は黒色土で構成される。

出土遺物（第51図、写真図版67）

埋土から152の土器と153・154の剝片が出土している。152はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片であり、Ｖ類土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。



第51図 陥し穴状遺構（4）

CⅢｄ９②陥し穴状遺構

遺構（第51図、写真図版48）

調査区上位面の中央に位置する。検出面はⅡ層上面である。中央部をＢⅢｊ０溝跡に切られる。平面形は長軸を北北東－南南西方向にもつ細長い溝形である。短軸の断面形は開口部がＹ字形である。規模は、開口部径390cm(木根のため推定)×96cm、底部径312cm×18cm、深さは中心部で110cmである。底面はⅡ層で南南西から北北東へ20cmほど傾斜して下る。埋土は５層に細分される。上位は暗褐色土、中位は褐色土、下位は明褐色土、にぶい褐色土で構成される。１層には浮石粒・炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｄ０陥し穴状遺構

遺構（第52図、写真図版49）

調査区上位面の中央に位置する。検出面はⅡ層上面である。南端部をＢⅢｊ０溝跡に切られる。平面形は長軸を北－南方向にもつ細長い溝形である。短軸の断面形はＶ字形である。規模は、開口部径400cm×72cm、底部径374cm×10cm、深さは中心部で114cmである。底面はⅡ層で平坦である。埋土は５層に細分される。上位は暗褐色土と褐色土、下位は明褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｄ１陥し穴状遺構

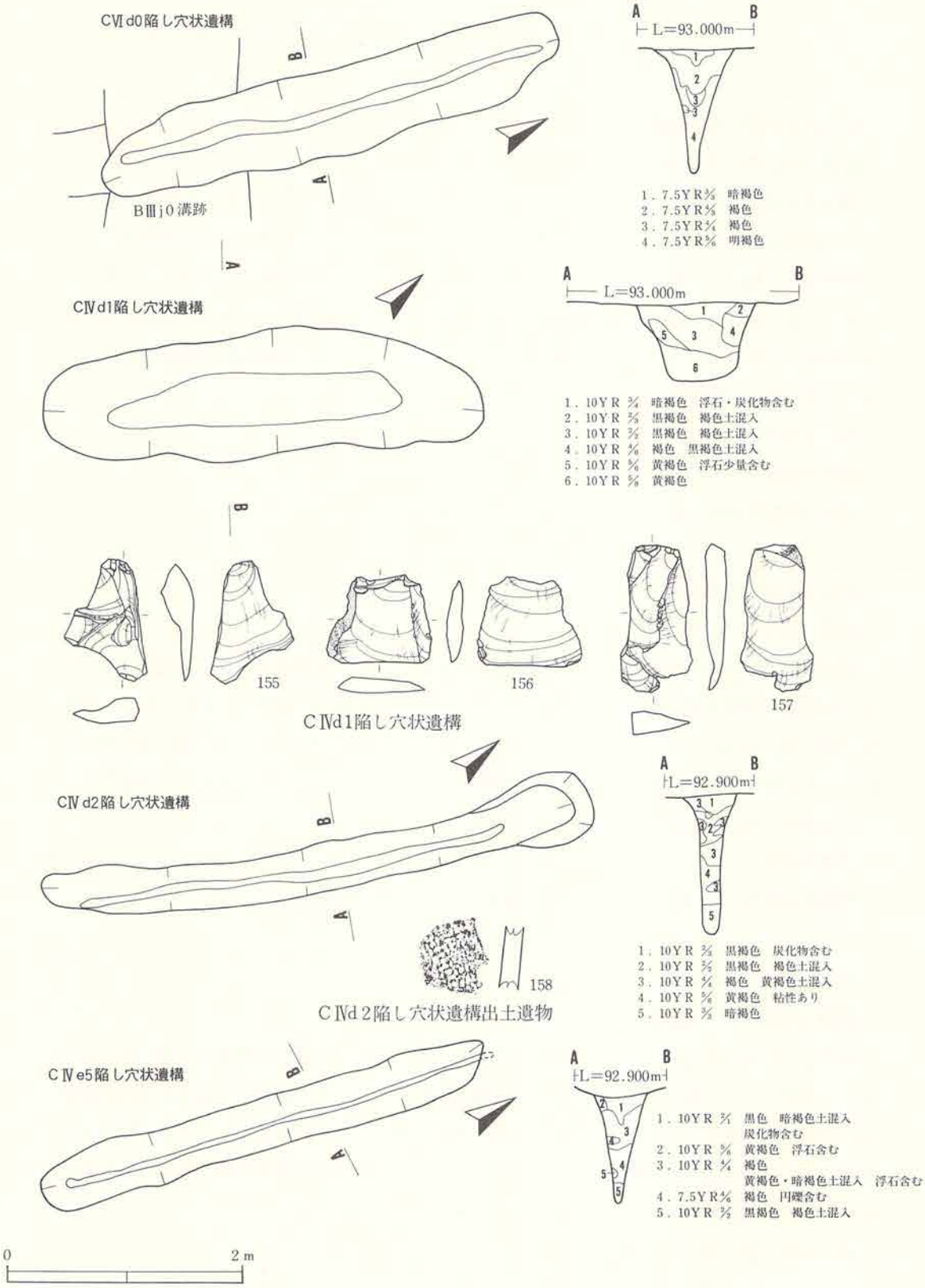
遺構（第52図、写真図版49）

調査区上位面の中央に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は長軸を北東－南西方向にもつ溝形である。短軸の断面形はＵ字形である。規模は、開口部径368cm×104cm、底部径250cm×45cm、深さは中心部で68cmである。底面はⅢ層上面で平坦である。埋土は６層に細分される。上位は黒褐色土と暗褐色土、中位は黒褐色土、下位は黄褐色土主体で構成される。１層には浮石粒・炭化物粒が、５層には浮石粒が含まれる。

出土遺物（第52図、写真図版67）

埋土から155～157の剥片が出土している。

遺構の時期



第52図 陥し穴状遺構（5）

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｄ２陥し穴状遺構

遺構（第52図、写真図版49）

調査区上位面中央の斜面寄りに位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は長軸を北東－南西方向にもつ細長い溝形である。短軸の断面形はＹ字形である。規模は、開口部径466cm×40cm、底部径362cm×10cm、深さは中心部で120cmである。底面はⅢ層下面で北東部が６cmほど浅い。埋土は５層に細分される。上位は黒褐色土、中位は褐色土、下位は暗褐色土で構成される。１層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物（第52図、写真図版67）

埋土から158の土器が出土している。ＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片であり、第Ⅴ群土器に属するものである。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｅ５陥し穴状遺構

遺構（第53図、写真図版50）

調査区上位面の中央に位置する。検出面はⅡ層下面である。平面形は長軸を北北東－南南西方向にもつ細長い溝形である。短軸の断面形はＶ字形であり、長軸では北北東端がわずかにオーバーハングする。規模は、開口部径388cm×46cm、底部径374cm×５cm、深さは中心部で97cmである。底面はⅢ層で南南西部が10cmほど浅い。埋土は５層に細分される。上位は黒色土、中位は褐色土、下位は黒褐色土主体で構成される。１層には炭化物粒が、２・３層には浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

CⅣｈ６陥し穴状遺構

遺構（第53図、写真図版50）

調査区上位面の中央に位置する。検出面はⅡ層上面である。平面形は長軸を北－南方向にもつ溝形である。短軸の断面形は木根による撹乱を受けているがＶ字形である。規模は、開口部径408cm×110cm、底部径372cm×16cm、深さは中心部で130cmである。底面はⅢ層で両端より中

央部が30cmほど深い。埋土は6層に細分される。上位は褐色土と黒褐色土、中位は明褐色土、下位は暗褐色土主体で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ＣＶｈ０陥し穴状遺構

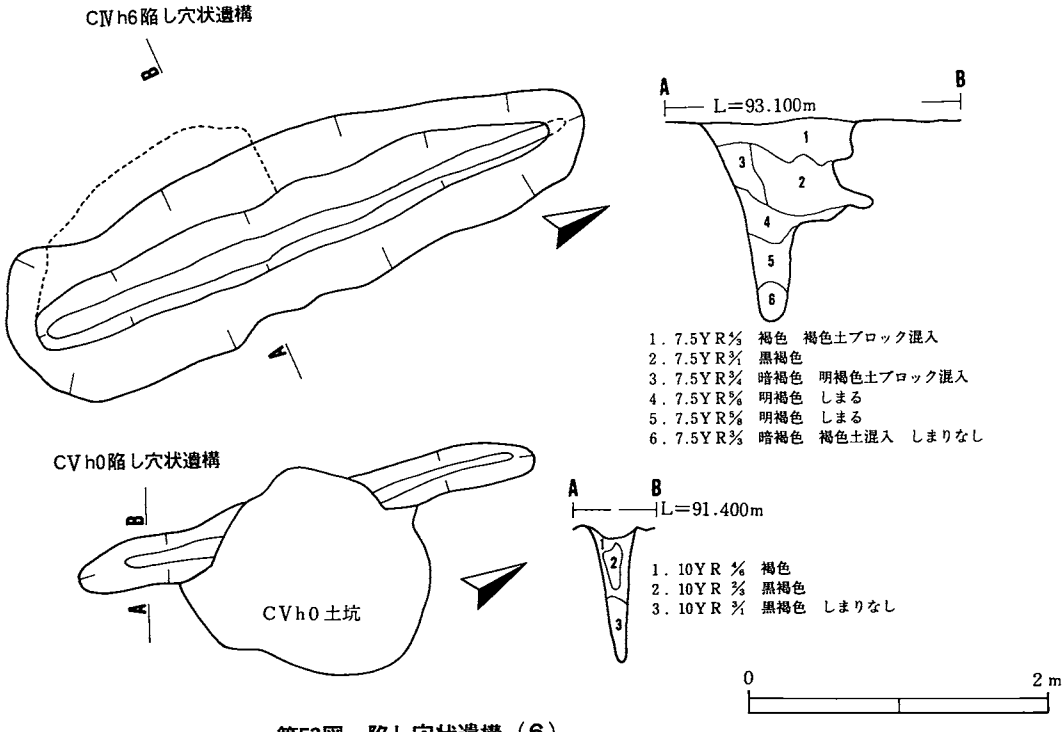
遺構（第53図、写真図版50）

調査区東側の北東に下る斜面上位に位置する。検出面はII層上面である。中央部でＣＶｈ０土坑を切る。重複のため全体の平面形・規模は不明であるが、残存する部分から平面形は長軸を北北東－南南西方向にもつ細長い溝形である。短軸の断面形はＶ字形である。規模は、開口部径312cm×35cm、底部径266cm×15cm、深さは中心部で90cmである。底面はIII層で中央部が若干低くなっている。埋土は3層に細分される。上位は褐色土と暗褐色土、下位は黒褐色土で構成される。

出土遺物はない。

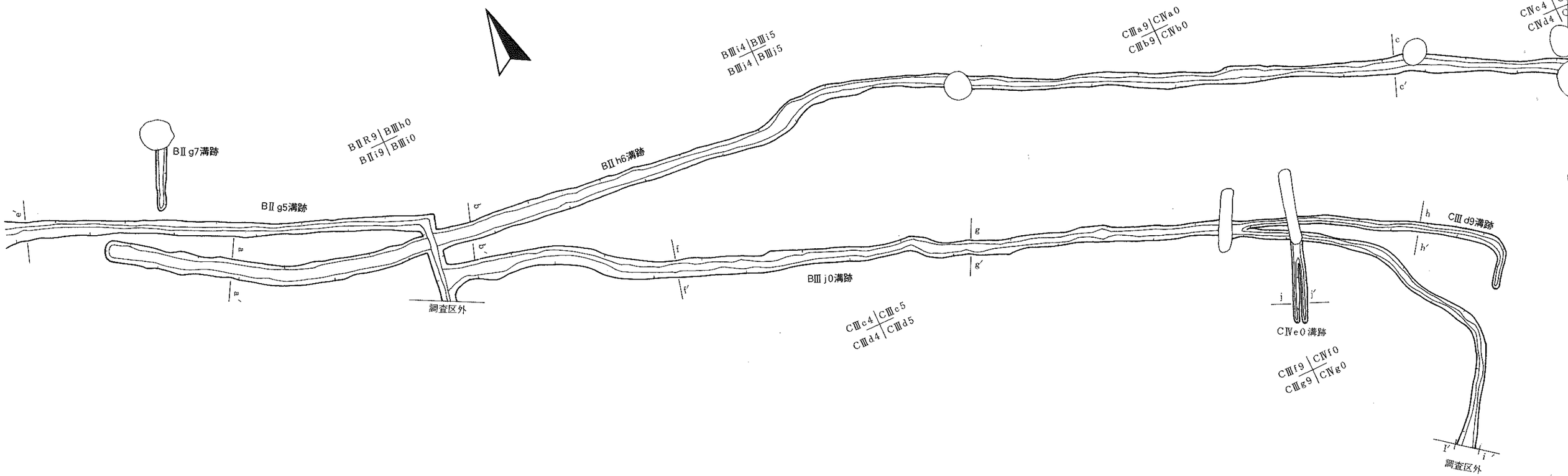
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

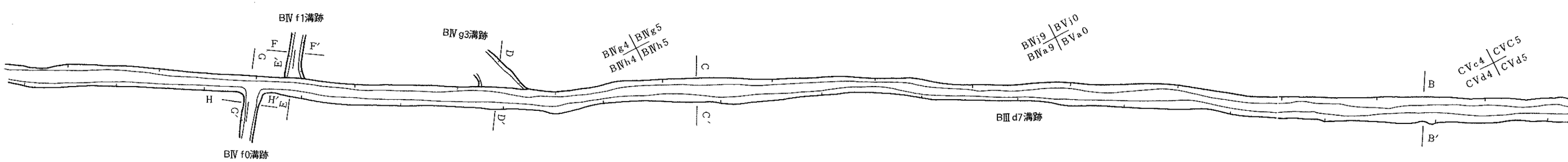


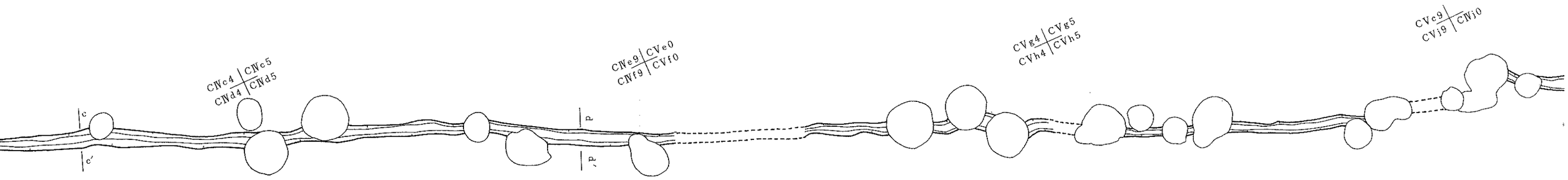
第53図　陥し穴状遺構（6）

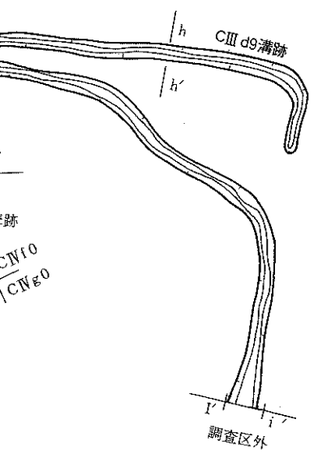
〈上 位 面〉

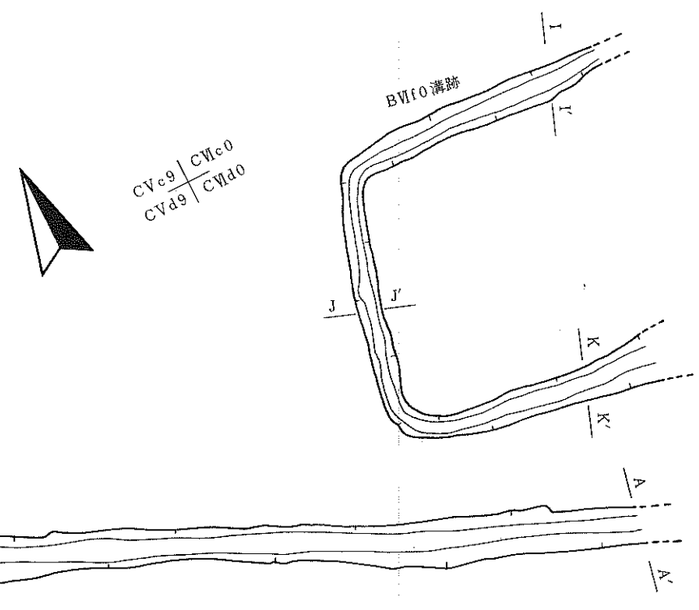

BⅡg7溝跡
BⅡg5溝跡
BⅡR9 BⅢh0
BⅡi9 BⅢi0
BⅡh6溝跡
BⅢi4 BⅢi5
BⅢj4 BⅢj5
CⅢa9 CⅣa0
CⅢb9 CⅣb0
CⅣc4
CⅣd4
CⅢd9溝跡
BⅢj0溝跡
CⅢc4 CⅢc5
CⅢd4 CⅢd5
CⅣe0溝跡
CⅢf9 CⅣf0
CⅢg9 CⅣg0
調査区外
調査区外

〈下 位 面〉

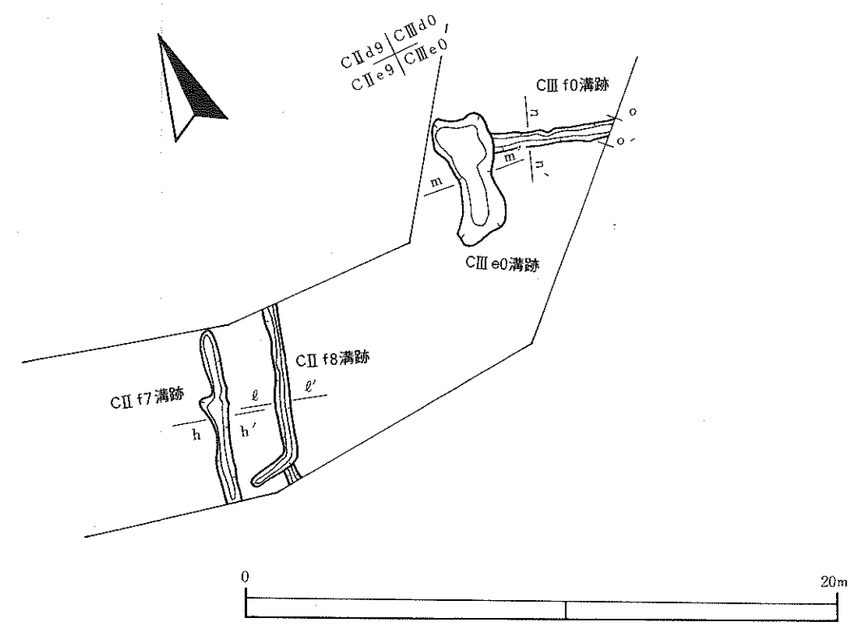

BⅣf1溝跡
BⅣg3溝跡
BⅣg4 BⅣg5
BⅣh4 BⅣh5
BⅣj9 BⅤj0
BⅣa9 BⅤa0
CⅤc4 CⅤC5
CⅤd4 CⅤd5
BⅢd7溝跡
BⅣf0溝跡


CⅣc4 | CⅣc5
CⅣd4 | CⅣd5
CⅣe9 | CⅤe0
CⅣf9 | CⅤf0
CⅤg4 | CⅤg5
CⅤh4 | CⅤh5
CⅤc9 |
CⅤj9 | CⅣj0
c
c′
d
d′


h
CⅢ d9溝跡
h′
CⅣf0
CⅣg0
i
i′
調査区外


CⅤc9 | CⅥc0
CⅤd9 | CⅥd0
BⅥf0溝跡
I
I′
J
J′
K
K′
CⅤc4 | CⅤC5
CⅤd4 | CⅤd5
B
B′
A
A′

〈取 付 道 路〉


CⅡd9 | CⅢd0
CⅡe9 | CⅢe0
CⅢ f0溝跡
n
n′
o
o′
m
m′
CⅢ e0溝跡
CⅡ f8溝跡
CⅡ f7溝跡
h
h′
ℓ
ℓ′
0
20m

5．溝跡

BⅢｄ７溝跡

遺構（第54・55図、写真図版51）

調査区下位面の西端から東端を北西－南東方向にほぼ直線的に横断して延びる。両端の比高差は164cmで東端から西端に向かって緩やかに下降している。東西両端は調査区外に延びる。検出面はⅢ層である。グリットBⅣ区西寄りでBⅣｆ０溝跡とBⅣｆ１溝跡を切る。また、BⅣｇ３溝跡と重複するが新旧関係は不明である。規模は長さ112cm、幅80cm～160cm、深さ20cm～45cmである。断面形は浅皿形であり、壁面から底面には凸凹が見られる。埋土は主に黒色土～暗褐色土で構成される。

時期は不明である。

出土遺物（第56図、写真図版67）

ＣⅣ区の埋土から159～162の土器が出土している。159はＲＬ単節斜縄文を地文とする口縁部片である。160はＬＲ単節斜縄文を地文とする体部片で上部に沈線が巡る。161はＲＬ単節斜縄文を地文とする体部片であり、磨消縄文が施される。162は無文の底部片である。これら出土遺物のうち159・160は第Ⅲ群土器に、161は第Ⅱ群３類土器に、162は第Ⅴ群土器に属するものである。

BⅣｆ０溝跡

遺構（第54・55図、写真図版51）

調査区下位面西側に位置する。グリットBⅣｆ０区でBⅢｄ７溝跡に切られる形で分岐して南西方向に直線的に延びる。規模は全長２ｍ70cm、幅55cm～１ｍ、深さ５cm～25cmである。断面形は浅皿形であり、底面は平坦である。埋土は黒褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

BⅣｆ１溝跡

遺構（第54・55図、写真図版51）

調査区下位面西側に位置する。グリットBⅣｆ０区でBⅢｄ７溝跡に切られる形で分岐して北東方向に直線的に延びる。規模は全長２ｍ50cm、幅67cm～１ｍ、深さ５cm～10cmである。断面形は浅皿形であり、底面は平坦である。埋土は暗褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅣｇ３溝跡

遺構（第54・55図、写真図版51）

調査区下位面西側に位置する。グリットＢⅣｈ３区でＢⅢｄ７溝跡から分岐して北方向に直線的に延びる。新旧関係は不明である。規模は全長２ｍ、幅190cm～140cm、深さ５cm～14cmである。断面形は浅皿形であり、底面は平坦である。埋土は黒色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅥｆ０溝跡

遺構（第54・55図、写真図版51）

調査区下位面の東端に位置する。両端が東側調査区外に延びるコの字形の溝である。南側をＢⅢｄ７溝跡が隣接して延びる。検出面はⅢ層である。規模は全長26ｍ、幅60cm～160cm、深さ20cm～40cmである。断面形は浅皿形であり、壁面から底面には凸凹が見られる。埋土は黒色土と暗褐色土で構成され、黒色土には小円礫が含まれる。

時期は不明である。

出土遺物（第56図、写真図版67）

グリットＣⅣｅ０区の埋土から163･164の剝片が出土している。163は側縁部から先端部にかけて片面からの調整剝離が施されている。164は側剝部に使用痕が認められる。

ＢⅡｈ６溝跡

遺構（第54・55図、写真図版52）

調査区上位面の西端に始まり、北東に下る斜面縁辺部に沿って西北西－南南東方向に土坑群を切りながらほぼ直線的に横断して東端に至る。東端は調査区外に延びる。グリットＢⅢｊ０区でＢⅡｇ５溝跡と直交するが新旧関係は不明である。検出面はⅡ～Ⅲ層である。規模は長さ150ｍ、幅40cm～130cm、深さ10cm～45cmである。断面形は浅皿形であり、壁面から底面には凸凹が見られる。埋土は主に黒色土・暗褐色土・暗褐色土で構成され、浮石粒や小円礫を含む。

時期は不明である。

出土遺物（第56図、写真図版67）

グリットＢⅡｊ８区の埋土から165～169の土器、グリットＣⅣ区の埋土から170・171の土器と172の剝片が出土している。165は口縁部～体部の壷形土器の破片である。口縁部には３本の平行沈線が巡り、沈線直下に指頭圧痕が施される。166は緩く外傾する口縁部片で、ＲＬ単節縄文を地文とする。167～169は同一個体の体部片であり、ＬＲ単節縄文が横走し、ナデによる調整が施される。170は緩く内湾する口縁部片で沈線文で区画された縄文が文様を構成する。

ＬＲ単節斜縄文を地文とする。171は無文に刺突文が施された体部片である。172は側縁部から先端部にかけて両面から調整剥離が施されている。これら出土遺物のうち165・166は第Ⅳ群２類土器に、167～171は第Ⅱ群３類土器に属するものである。

ＢⅡｇ５溝跡

遺構（第54・55図、写真図版52）

調査区上位面の西端から北西－南東方向に直線的に延び、グリットＢⅢｊ０区で南方向に向きを変えＢⅡｈ６溝跡とほぼ直行して延びる。両遺構との新旧関係は不明である。西南両端は調査区外に延びる。検出面はⅡ層上面である。規模は全長27m、幅50cm～140cm、深さ25cm～45cmである。断面形は浅皿形であり、壁面から底面には凸凹が見られる。埋土は黒褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅢｊ０溝跡

遺構（第54・56図、写真図版52）

調査区上位面の西側のＢⅡｇ５溝跡から分岐して始まり、西北西－南東南方向に直線的に延び、ＣⅢｄ９②陥し穴状遺構とＣⅣｄ０陥し穴状遺構を切った後、大きく湾曲して南端に至る。南端は調査区外に延びる。また、ＣⅢｄ９②陥し穴状遺構を過ぎてＣⅢｄ９溝跡と分岐する。ＢⅡｇ５溝跡とＣⅢｄ９溝跡との新旧関係は不明である。検出面はⅡ層上面である。規模は全長63cm、幅35cm～110cm、深さ５cm～20cmである。断面形は浅皿形であり、底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＣⅢｄ９溝跡

遺構（第54・56図、写真図版52）

調査区上位面の中央のＣⅢｄ９②陥し穴状遺構を過ぎたあと、ＢⅢｊ０溝跡から分岐して始まり、ＢⅢｊ０溝跡と平行して西北西－東南東方向に直線的に延び、ＣⅣｄ０陥し穴状遺構を切った後、南方向へ向きを変え、グリットＣⅣｆ２区に至る。ＢⅢｊ０溝跡との新旧関係は不明である。検出面はⅡ層上面である。規模は全長16m50cm、幅30cm～55cm、深さ10cm～18cmである。断面形は浅皿形であり、底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＣⅣｅ０溝跡

遺構（第54・56図、写真図版53）

調査区上位面の中央のＣⅣｄ０陥し穴状遺構の南端に始まり、北北西－南南西方向に直線的に延び、途中で２溝に分岐した後平行して走り、グリットＣⅣｆ０区に至る。検出面はⅡ層上面である。規模は全長４ｍ、幅30cm～60cm、深さ４cm～12cmである。断面形は浅皿形であり、底面は平坦である。埋土は黒褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＢⅡｇ７溝跡

遺構（第54図、写真図版53）

調査区上位面の西端に位置し、ＢⅡｇ７土坑を切って北北東－南南西方向に直線的に延びる。検出面はⅡ層上面である。規模は長さ３ｍ30cm、幅35cm～55cm、深さ５cm～10cmである。断面形は浅皿形であり、壁面から底面には木根の撹乱により凸凹が激しい。埋土は暗褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＣⅡｆ７溝跡

遺構（第54・56図、写真図版53）

調査区南西の工事用道路部分をほぼ南北に走る。東にＣⅡｆ８溝跡と平行しており、両端は調査区外に延びている。検出面はⅡ層上面である。規模は全長５ｍ60cm、幅35cm～90cm、深さ７cm～25cmである。断面形は浅皿形であり、底面は凸凹が見られる。

埋土は黒褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ＣⅡｆ８溝跡

遺構（第54・56図、写真図版53）

調査区南西の工事用道路部分をほぼ南北に走る。西にＣⅡｆ７溝跡と平行しており、両端は調査区外に延びている。検出面はⅡ層上面である。規模は全長６ｍ10cm、幅28cm～36cm、深さ８cm～11cmである。断面形は浅皿形であり、底面は凸凹が見られる。埋土は黒褐色土と褐色土で構成される。南端でＹ字に分岐している。

出土遺物はなく、時期は不明である。

CⅢｅ０溝跡

遺構（第54・56図、写真図版53）

調査区南西の工事用道路東側を南北にやや湾曲して走る。東部をＣⅡｆ０溝跡に切られる。北端は調査区外に延びている。検出面はⅡ層上面である。規模は全長４ｍ50㎝、幅105㎝～140㎝、深さ20㎝～20㎝である。断面形は浅皿形であり、底面は木根による撹乱のため凸凹が激しい。埋土は黒色土、黒褐色土、褐色土で構成される。

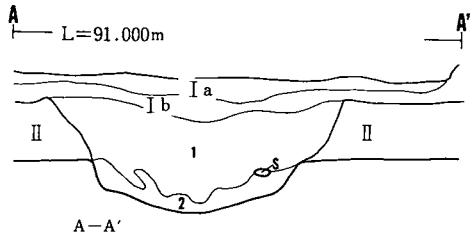
出土遺物はなく、時期は不明である。

CⅢｆ０溝跡

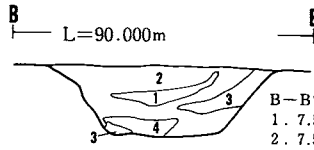
遺構（第54・56図、写真図版53）

調査区南西の工事用道路東側を西北西－東南東方向に直線的に走る。西部はＣⅢｅ０溝跡を切る。東端は調査区外に延びている。検出面はⅡ層上面である。規模は全長４ｍ20㎝、幅33㎝～60㎝、深さ13㎝～25㎝である。断面形は浅皿形であり、底面は凸凹が見られる。埋土は黒褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はなく、時期は不明である。

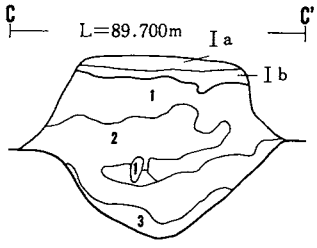


A－A′
1．7.5YR2/1　黒色　小円礫含む
2．7.5YR3/3　暗褐色

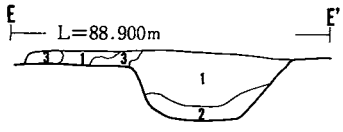


B－B′
1．7.5YR2/1　黒色
2．7.5YR3/3　暗褐色
3．7.5YR4/3　褐色
4．7.5YR3/2　黒褐色

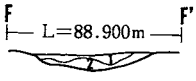
D－D′
1．7.5YR3/3　暗褐色
2．7.5YR2/1　黒色
3．7.5YR2/1　黒褐色



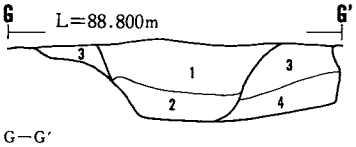
C－C′
1．7.5YR2/1　黒色
2．7.5YR3/2　黒褐色　小円礫含む
3．7.5YR3/3　暗褐色　小円礫含む



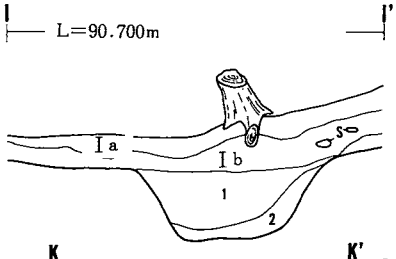
E－E′
1．7.5YR2/1　黒色
2．7.5YR3/2　黒褐色
3．7.5YR3/4　暗褐色　小円礫含む

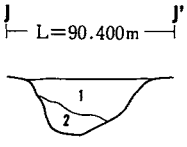


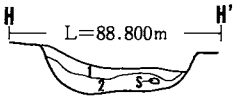
F－F′
1．7.5YR3/2　黒褐色　小円礫含む
2．7.5YR4/4　褐色　しまる



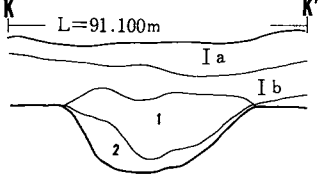
G－G′
1．7.5YR2/1　黒色　小円礫含む
2．7.5YR3/2　黒褐色
3．7.5YR3/4　暗褐色　小円礫少量含む
4．7.5YR3/3　黒褐色



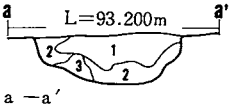




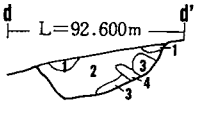
H－H′
1．7.5YR2/1　黒色　小円礫含む
2．7.5YR3/2　黒褐色



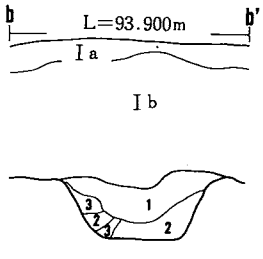
I－I′～K－K′
1．7.5YR2/1　黒色　円礫含む
2．7.5YR3/3　暗褐色　明褐色土粒混入　小円礫含む



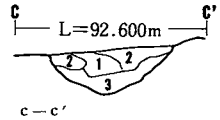
a －a′
1．7.5YR2/1　黒色
2．7.5YR3/3　暗褐色　しまる
3．7.5YR4/4　褐色



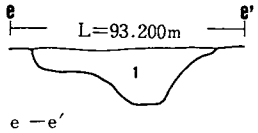
d－d′
1．7.5YR2/1　黒色
2．7.5YR3/3　暗褐色　しまる
3．7.5YR4/4　褐色　浮石含む
4．7.5YR5/6　明褐色



b－b′
1．7.5YR2/1　黒色
2．7.5YR4/3　褐色
3．7.5YR3/1　黒褐色　もろい

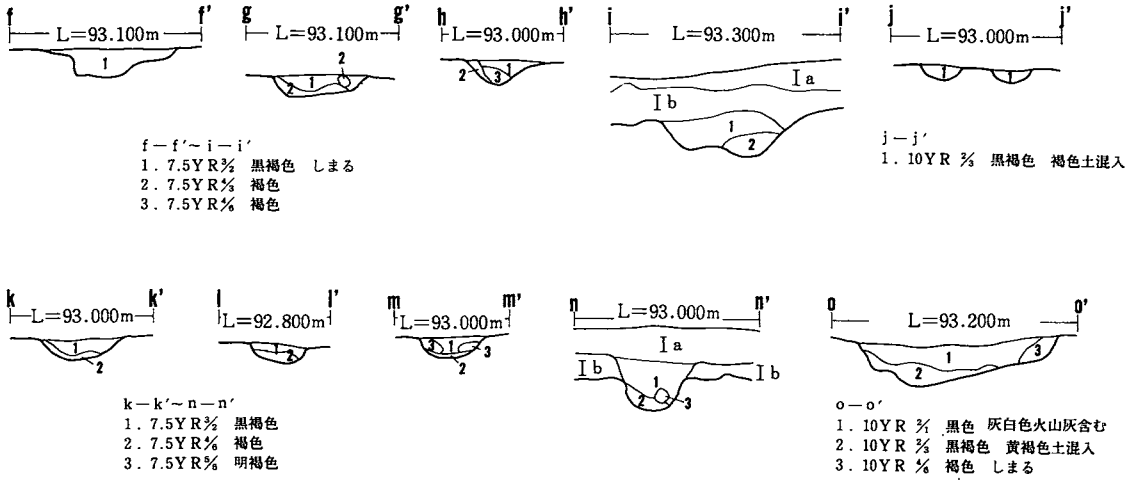


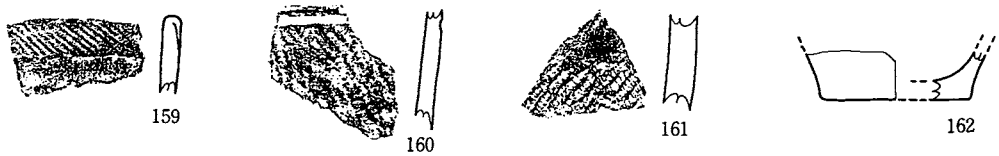
c－c′
1．7.5YR2/1　黒色
2．7.5YR3/3　暗褐色　小円礫含む
3．7.5YR4/4　褐色　浮石含む



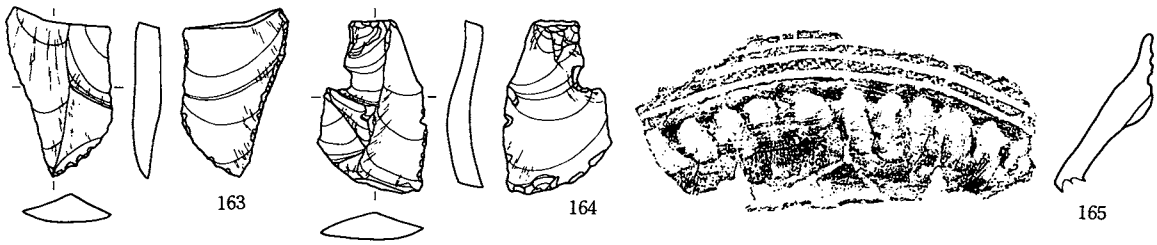
e －e′
1．10YR 3/2　黒褐色　しまる

第55図　溝跡（2）

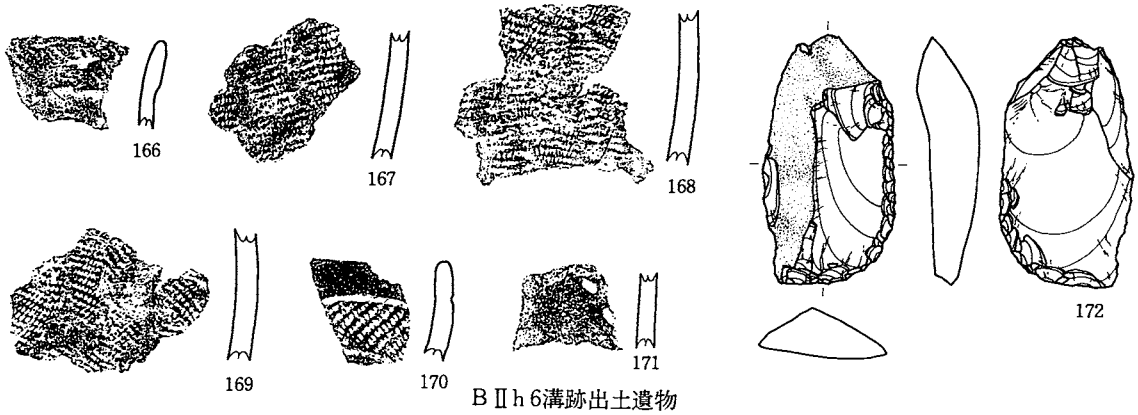




BⅢd7溝跡出土遺物



BⅥf0溝跡出土遺物



BⅡh6溝跡出土遺物

第56図　溝跡（3）

V．遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、縄文土器・弥生土器・土製品・石器である。出土量は小コンテナで２箱と少ない。いずれも粗掘り中に表土から、また遺構検出時には上位面ではＩ層下位～II層上位から、下位面ではII層下位～III層上位から出土したものである。

１．縄文時代・弥生時代の土器

出土した縄文土器は時期別にＩ～III群に分類し、弥生土器をIV群とした。また、時期の判別不明な土器をＶ群とした。この分類は遺構内出土遺物にも適用するものである。

［第Ｉ群土器］（第10・11図、写真図版68）

本群には縄文時代前期前葉に属する土器を一括した。ＢIIｄ６土坑・ＢIIｅ８土坑から出土しているが、遺構外からは出土していない。

［第II群土器］（第57図、写真図版68）

本群には縄文時代中期に属する土器を一括し、時期別に１～３類に細分した。

１類（173～179）　中期前葉に属すると思われる土器を本類とした。173は体部上半～口縁部が残存する深鉢である。体部は緩く内湾する。口縁部には太い隆帯が巡り、その内部に原体圧痕文が縦位に刻目状に施される。地文はＲＬ単節縄文である。174は口縁部が肥厚し、原体圧痕文が施される。地文はＬＲ単節縄文である。175は緩く内湾する口縁部に近い部分の破片である。沈線が横走しその上に原体圧痕文が施される。176は小波状を呈する口縁部片で、刺突文が施される。地文はＲＬ単節斜縄文である。177はＬ１段の撚糸文を地文とする体部片である。178は深鉢の底部片で、ＬＲ単節斜縄文を地文とする。内面はケズリ調整が施され、外面には炭化物が付着する。179は浅鉢の底部片である。地文はＬＲ単節斜縄文である。

２類（180～182）　中期中葉に属すると思われる土器を本類とした。180は沈線区画された体部片で、ＬＲ単節斜縄文を地文とする。181は緩く内湾する浅鉢の口縁部片で、口唇部は肥厚する。ＬＲ単節斜縄文を地文とする。182は２本の平行沈線と波状の沈線が巡る口縁部片で、ＲＬ単節斜縄文を地文とする。

３類（183～200）　中期末葉に属すると思われる土器を本類とした。183～188は深鉢の口縁部片である。183･184は口縁部に刺突文が施される。183は隆帯によって体部を区画し、その下には沈線が巡る。184は沈線によって体部を区画し、ＲＬ単節斜縄文を地文とする。185は口縁部直下に隆帯が施され、ＲＬ単節斜縄文を地文とする。186は渦巻状の隆帯をもつ。187はＲＬ単節斜縄文を地文とし、口縁部は無文である。188はＬＲ単節斜縄文を地文とし緩く外反する。口縁部は無文である。189・190は波状を呈する口縁部片で、隆帯が波頂部に渦巻状にのびる。

191～195は沈線区画された深鉢の体部片で、磨消縄文が文様を構成する。196・197は隆帯による曲線文が文様を構成する。196は隆帯側縁に刺突文が施され、197の隆帯は太くＬＲ単節斜縄文を地文とする。198・199は深鉢の体部片で、198は網目状撚糸文が施され、199はＲＬ単節斜縄文を地文とする。200は深鉢の底部片であり、底部には植物の葉脈痕がある。

［第Ⅲ群土器］（第58図、写真図版68）

本群には201～203の縄文時代晩期に属する土器を一括した。201・202は皿形土器の口縁部片で201は工字文が、202は平行沈線が施される。203は壺の頸部～体部上端で、頸部は無文帯、体部はＲＬ単節斜縄文を地文とする。

［第Ⅳ群土器］（第58図、写真図版69）

本群には弥生時代に属する土器を一括した。３形式に分類するのが一般的であるが、出土量が少なくすべて破片資料あることから、ここでは前半・後半の２類に分類した。

１類（204～212）　弥生時代前半の土器を一括した。204～206は鉢の口縁部片である。204は変形工字文が文様を構成し、２個一対の粘土粒がはりつけられる。口唇部には刻目が施され、内面上端に沈線が巡る。205・206には３本の平行沈線が巡り、205は粘土粒がはりつけられる。207～209は口縁部～体部上端の破片である。207・208は緩く外反し、209は強く外反する。207は口唇部に圧痕文が施され、口縁部と頸部に沈線が巡る。208の口唇部にも圧痕文が施され、口縁部は209とともに無文となる。また、207・209の体部はＬＲ単節斜縄文を地文とする。210・211は甕の頸部～体部上端の破片である。210は強く外反し、頸部に３本の平行沈線が巡り体部を区画する。口縁部は無文、体部はＬＲ単節斜縄文を地文とする。211はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は変形工字文が文様を構成する。体部はＲＬ単節斜縄文を地文とし、内外面に炭化物が付着する。212は浅鉢の底部片であり、強く外反する。ＲＬ単節斜縄文を地文とする。

２類（213～225）　弥生時代後半の土器を一括した。213～218は甕の口縁部片である。213は外反後ほぼ直立する。口唇部～口縁部はＬＲ単節斜縄文が施され口縁部に４本の平行沈線が巡り、その下端に指頭圧痕文が施文される。頸部は無文で、体部上端には沈線が見られる。214・215は同一個体と考えられる。口唇部には内外から圧痕文が施され波状を呈する。口縁部は１本の沈線が巡り、その直下に刺突列が配される。216口唇部に列点文が施され、口縁部は２条の平行沈線直下に圧痕文が施される。地文はＲＬ単節斜縄文である。217は折り返し口縁で肥厚している。口縁部はＲＬ単節斜縄文を地文とし、下端に刺突文が施される。218は緩く外反しＲＬ単節斜縄文を地文とする。219は甕の口縁部～体部上端の破片である。体部は緩く内湾した後外反して口縁部に続く。地文はＬＲ単節斜縄文で、頸部は無文となる。外面に炭化物が付着する。220は鉢の口縁部片でＲＬ単節斜縄文を地文とする。221～223は甕の頸部～体部上端の破片である。221は頸部には２本の弧状沈線が巡り体部を区画する。体部はＲＬ単節斜縄文を地文とす

る。222･223は頸部に山形文が施文される。224は壺の体部片であり、付加条を地文とし、その上に沈線による連弧状文が描かれている。225は小型甕の底部片であり、ＲＬ単節斜縄文を地文とする。

[第Ｖ群土器]（第58図、写真図版69）

時期を特定できかねる土器群である。226は内側に折り返された口縁部片である。遺構内からも本群に属する土器が多数出土しているが、大半のものは出土土器の分布状況・胎土・施文方法等から縄文時代中期末葉に属するものと考えられる。

２．土製品（第58図、写真図版69）

227･228の２点の出土である。227は縄文時代中期と思われる深鉢の体部破片の表面から打ち欠いて作成した**円盤状土製品**である。表面には沈線文で区画された磨消縄文が見られる。ＲＬ単節斜縄文を地文とする。228は**三角壔形土製品**である。正面と側面にそれぞれ２本の平行沈線が巡るもので2/3ほど欠損している。

３．石器（第59，60図、写真図版70，71）

遺構外から出土した石器は、掻・削器類・不定形石器などの剥片石器15点、石核２点と、磨石・敲石類の礫石器２点である。

不定形石器（229～243）

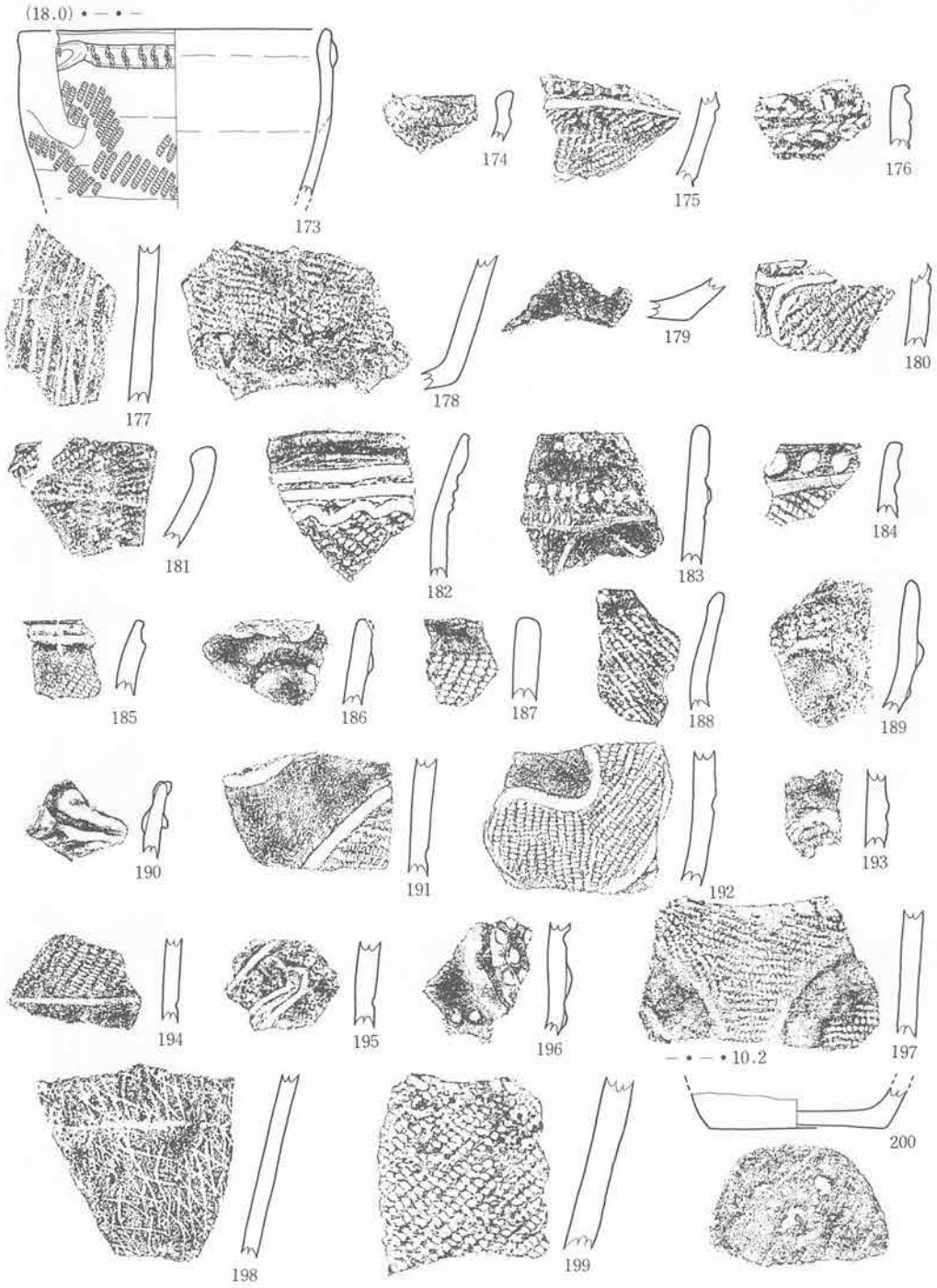
定形石器に区別できなかったもので、剥片の縁辺に調整加工が施され刃部が形成されるものや、微小な剥離痕が見られるものを一括した。229～231は１側縁に片面調整によって急角度の刃部が形成されており、エンド・スクレーパー状のものである。232～234は１側縁に片面から、235は両面から鋭利な刃部が形成されており、サイド･スクレーパー状のものである。236～243は縁辺に刃こぼれ状の微小な剥離痕が見られるものである。

石核（244・245）

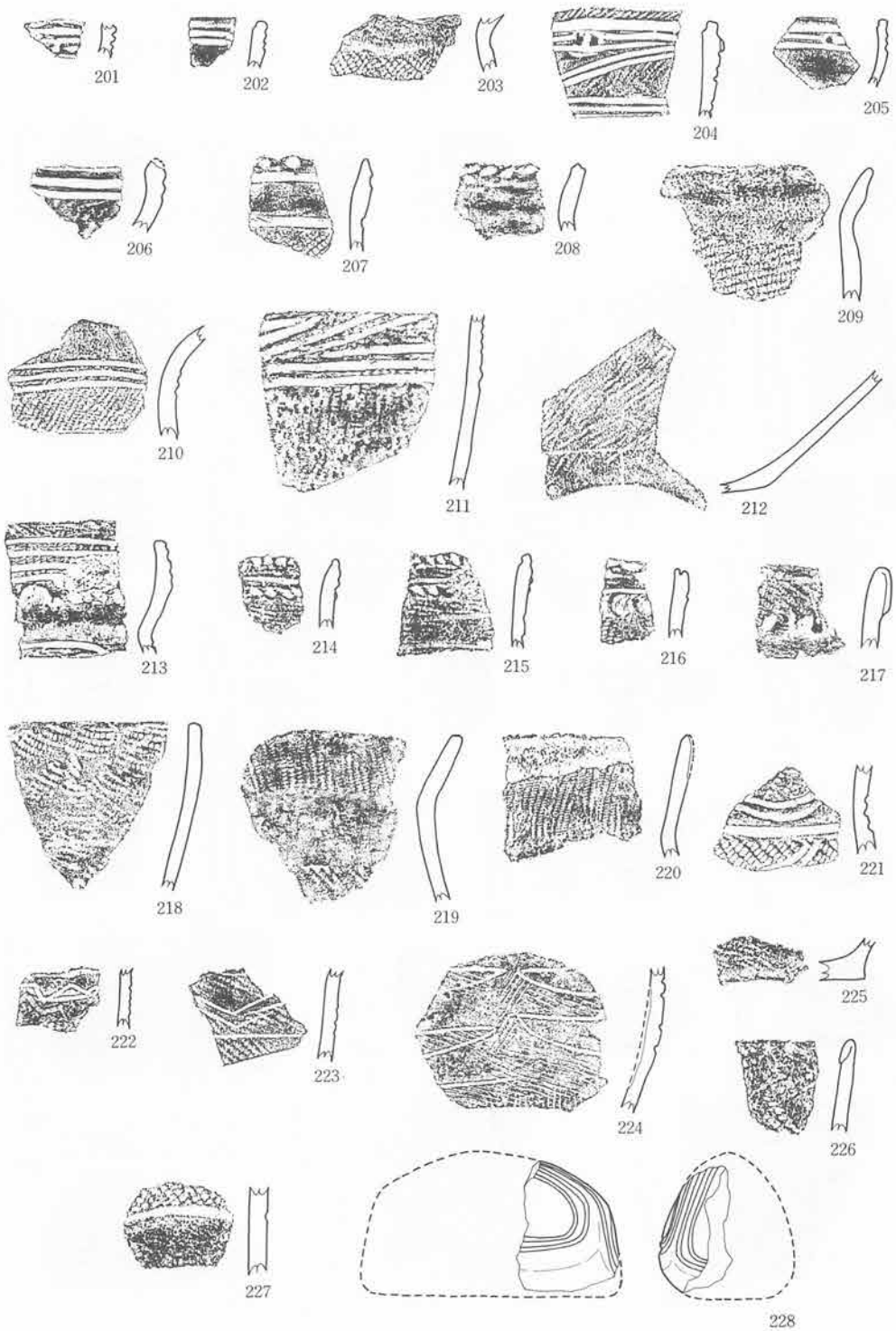
244は多方面からの剥離面を有し、245は一部に自然面が残る。

磨石・敲石類（246・247）

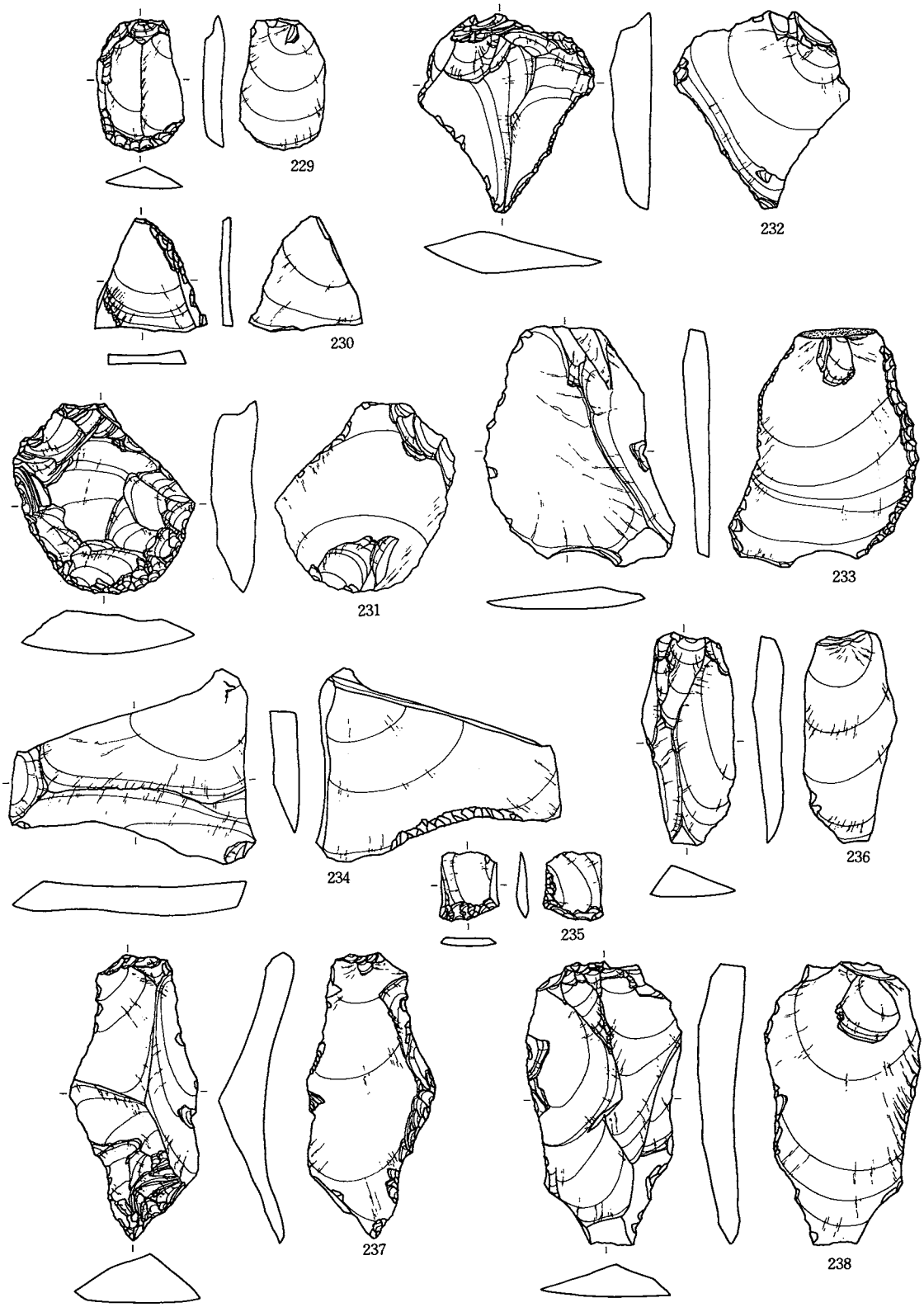
磨痕・敲打痕を有するが、単独の使用痕を有するものではなく、使用痕の重複があることから一括した。246は棒状の礫の表裏両面に使用痕が認められる。267は円礫の表面と一側面に使用痕が認められる。



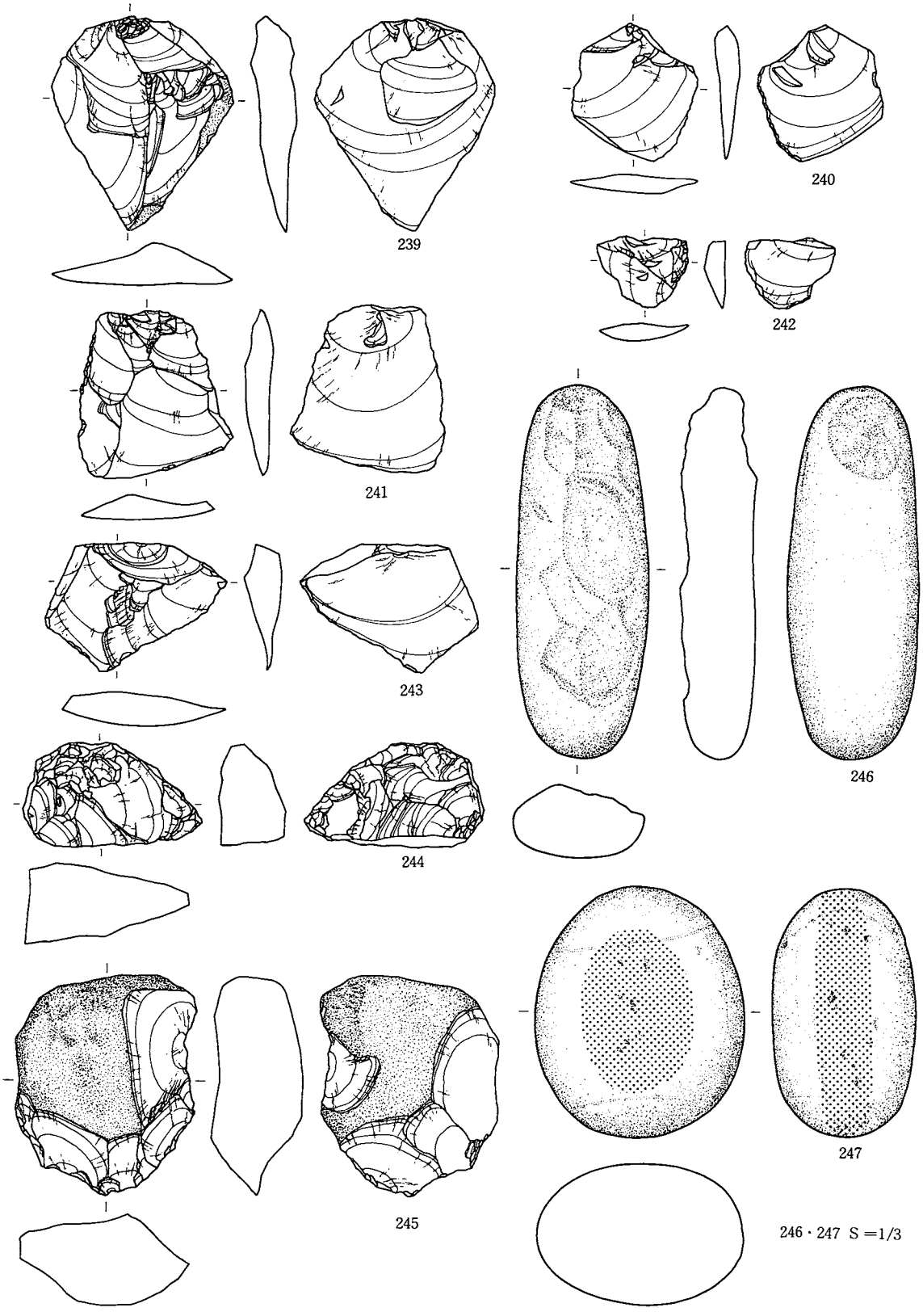
第57図　遺構外出土遺物　土器（1）



第58図　遺構外出土遺物　土器（2）



第59図　遺構外出土遺物　石器（1）



第60図　遺構外出土遺物　石器（2）

VI. まとめ

1．遺構

(1)竪穴住居跡・畑地跡

調査区南西の工事用道路部分から竪穴住居跡１棟、畑地跡１か所が検出された。住居跡は工事用道路中央部に、畑地跡はその最西端に位置し両者の距離は12mである。住居跡は、平面形は3.8×3.2mの長方形で、煙道は検出されなかった。畑地跡はほぼ南北方向に走る畝溝が10条検出された。両者とも、検出面であるII層上面から埋土上層ににぶい黄橙色の火山灰が含まれている。火山灰は鑑定結果によりいずれも十和田ａ火山灰であることが判明した。遺構の時期は同時代のものと考えられ、住居跡から共判する遺物から平安時代（９世紀末～10世紀）に位置付けられる。

畑地跡では、栽培植物の確認を目的としてプラント・オパール分析を行ったが、保存状態が不良のため期待した結果は得られなかった。

遺構の占地状況や、畑地跡の畝溝が南北調査区外に延びていることから、同種の遺構が調査区域外に存在することが推測される。

(2)土坑

検出した土坑は総数146基である。断面形から分類するとフラスコ形89、ビーカー形46、浅皿形９、不整形２に分類できる。検出箇所は、低位面北東の２基を除き、すべて調査区南側上位面から斜面にかけてであり、特に東側斜面は密度が高く重複する土坑が多く見られ、重複部分や地割れを石で補強している例が８基ある。また、底部に柱穴状の副穴や溝等の施設をもつものが非常に多い。

①規模・形状（第３・４表参照）

平面形は、隅丸方形や隅丸長方形も若干見られるが、ほとんどは円形で、ついで楕円形である。規模は、削平や開口部の崩落も考えられることから底部径を基に、深さは斜面にあるものはその中間点の計測値を基にまとめた。フラスコ形土坑では底径151～200cmが44％と最も多く、次いで201cm以上が35％、以下101～150cmが18％、51～100が３％である。深さは、151～200cmが59％で半数以上を占め、以下101～150cmが28％、51～100cmが13％となっている。ビーカー形土坑では底径101～150cmが44％で最も多く、以下、151～200cmが31％、51～100cmが16％、201cm以上が７％、50cm以下が２％である。深さは、101～150cmが37％、51～100cmが31％、151～200cmが17％、50cm以下が15％である。フラスコ形、ビーカー形ともに深さ200cmを越すものはない。底部は村崎野浮石（III層）まで掘り込まれているものが105基と大半を占める

が斜面では粘土層（IV層）や砂礫層（V層）まで掘り込まれている。

②底部施設（第５表、第61図参照）

フラスコ形土坑・ビーカー形土坑には、底部に柱穴状の副穴と溝の施設をもつものが97基あり、その形態は様々である。形態別に見ると、Aの中央一穴型が45基で全体の48％を占め最も多く、次いでEの中央一穴多方溝型の21基で22％である。発見地区別に見ると、上位面西側34基は中央一穴型が大半を占めており、東側108基は中央一穴・多方溝型が多く見られる。底部施設と規模の関係をみると、底部径150cm未満、深さ100cm未満では施設がないものが多く、底部径200cm、深さ180cmを超えるものには柱穴状の副穴と溝を伴うものが多い。その中間の底部径150～200cm、深さ100～180cmでは柱穴状の副穴だけのものが両方を伴うものよりやや多い。この柱穴状の副穴と溝は、すべての施設において副穴のレベルが他より低い位置にあること、溝は副穴に向かって僅かに低く傾斜していることから、水抜を考えた排水施設と考えられる。また、Gの中央一穴・支柱穴形３基の場合、底面周囲を巡る４～６個の小穴は上屋構造に関連する支柱穴の可能性も考えられるが、開口部周辺に支柱穴は確認されていない。

第３表　底径による分類

型＼底径(cm)	～50	51～100	101～150	151～200	200～	合計
フラスコ形	0	2	16	39	32	89
ビーカー形	1	7	20	14	4	46
浅　皿　形	1	3	0	2	3	9
不　整　形	0	0	0	2	0	2
合　　計	2	12	36	57	39	146

第４表　深さによる分類

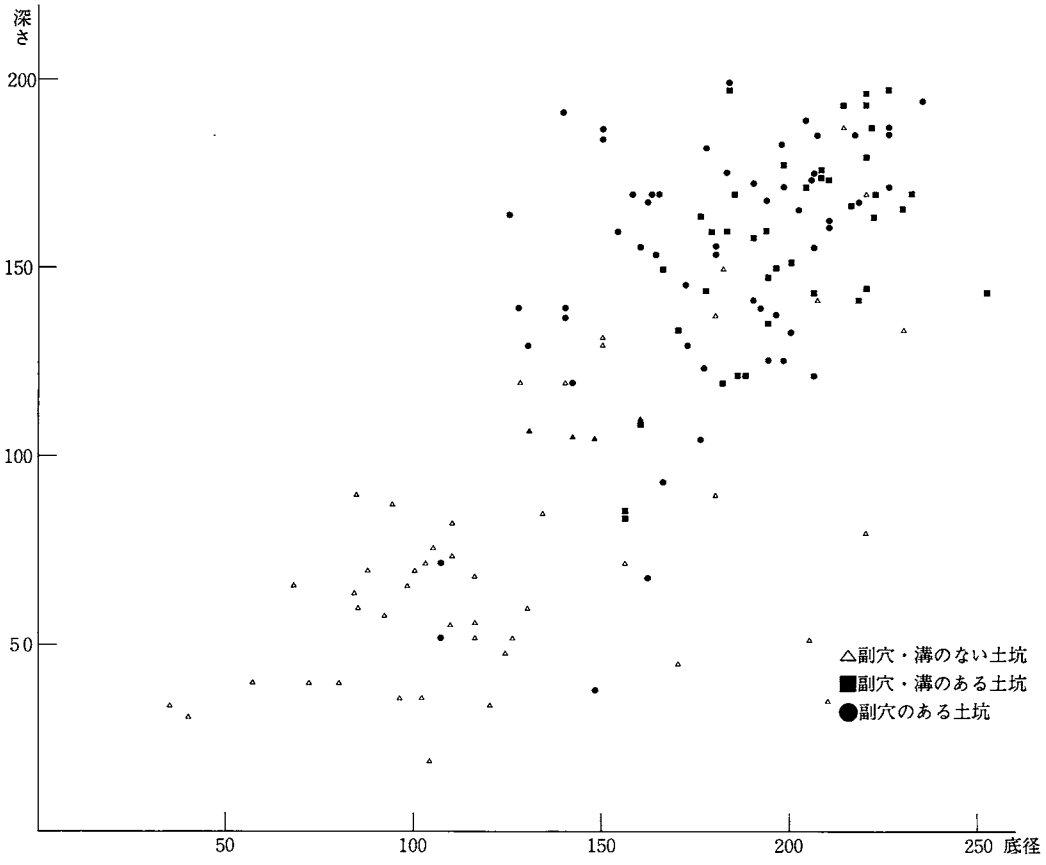
型＼深さ(cm)	～50	51～100	101～150	151～200	200～	合計
フラスコ形	0	12	25	52	0	89
ビーカー形	7	14	17	8	0	46
浅　皿　形	5	4	0	0	0	9
不　整　形	1	1	0	0	0	2
合　　計	13	31	42	60	0	146

第５表　形態別底部施設

A	一穴型 (47基)	(中央穴) BIIe6①・BIIe7・BIIe8・BIIf7①②④・BIIf8②・BIIf9・BIIg6①・BIIg7・BIIg8①④・BIIIho・BIIIi2・BIIIj2・CIVc3①・CIVd4①・CIVe7・CIVe8・CIVf8②・CIVh9・CIVj9・CVg9②・CVh4・CVh5①・CVi1②・CVi2②・CVi4①・CVi5①・CVi6②・CVi8②③・CVj1②・CVj7①・CVj9②・CVIi0・DVa0①②・DVa1・DVa2・DVa3②・DVa4①・DVb2・DVb9・DVIa0① (壁際穴) CVh0・DVb5②
B	二穴型(５基)	CVg0①・CVi5③・CVj4①・DVa3③・DVb7②
C	一穴・溝型 (9基)	(中央穴一方溝)CIVf7①・CIVg8・CIVf8①・CVi6①・DVb6 (壁際穴一方溝)BIIIh2 (壁際穴複数溝)CVi4②・CVi6③・CVj8③

D	中央一穴・一文字溝型(6基)	CIVf6①・CVi8①・DVa4②・CIVf7②・CVj0・DVa3①
E	中央一穴・多方溝型(21基)	(2～4本溝)CIVd4②・CVg2・CVh1・CVh3②・CVi1①・CVj1①・CVj6①・CVj8②・DVb5①・DVc5・DVIb0 (十文字溝)BIIf8①・CIVg9・CIVh8・CVi0・CVj2 (放射溝)CIVd5・CIVd6・CVj7②・CVj8④・DVa8①
F	複数穴・連結溝型(4基)	BIIIg0・CIVf9①・CVh2・CVi7
G	中央一穴・支柱穴型(3基)	BIId6・CVj3・DVb7①
H	一穴・周溝型(2基)	BIIIi3・CVh3①

第6表　規模と底部施設の関係



③配置

調査区低位面（金ケ崎段丘）北東の２基と南西の工事用道路部分の１基を除き、すべて調査区南側上位面から斜面にかけて分布している。これらの土坑は、規模や形態には大きな違いはなく、ほぼ同様の土坑が東側と西側の２地区にかたまりをもって配置され、特に東側斜面は密度が高く、重複する土坑が多くみられる。中央部は陥し穴状遺構が分布する。上位面は村崎野段丘であり、上位面の縁に沿って黄褐色の村崎野浮石が最大で150cm堆積している。この厚い浮石層に沿って大型土坑が構築されており、さらに土坑の底面が浮石層（Ⅲ層）にあるものが105基と大半を占めていることから、水捌けがよく、崩れ難く形を整えやすい浮石層の性質を認識しての構築と考えられる。さらに、掘り出した多量の土砂の運搬と処理を容易にするため台地縁に形成されたこともこうした配置の要因の一つであろう。

④時期

出土した土器から、土坑の構築時期について予想できるものが14基がある。

［縄文時代前期前葉］

・ＢⅡｄ６土坑…底面柱穴内より体部下端の破片

・ＢⅡｅ８土坑…埋土下位より深鉢の体部片

［縄文時代中期末葉］

・ＣⅣｇ８土坑…埋土下位よりほぼ完形の深鉢と体部片

・ＣＶｈ２土坑…底面より体部下半～底部の深鉢と体部片

・ＣＶｉ１①土坑…埋土下位より口縁部片

・ＣＶｉ１②土坑…底面より体部下半～底部の深鉢と体部片

・ＣＶｊ３土坑…底面より３個体の深鉢

・ＤＶａ３②土坑…底面より完形の深鉢（埋設土器）

・ＤＶａ４①土坑…底面より体部～底部の深鉢

・ＤＶａ９③土坑…底面より体部片

・ＤＶｂ７②土坑…底面より体部片

［縄文時代晩期］

・ＤＶｊ７①土坑…底面より鉢と口縁部～体部上半の深鉢

・ＤⅥｅ２土坑…埋土全面より２個体の壺

［弥生時代前半］

・ＢＶｇ５土坑…埋土下位より完形の甕形土器

また、底面より出土した炭化物による放射性炭素年代測定の結果から予想できるものが５基ある。

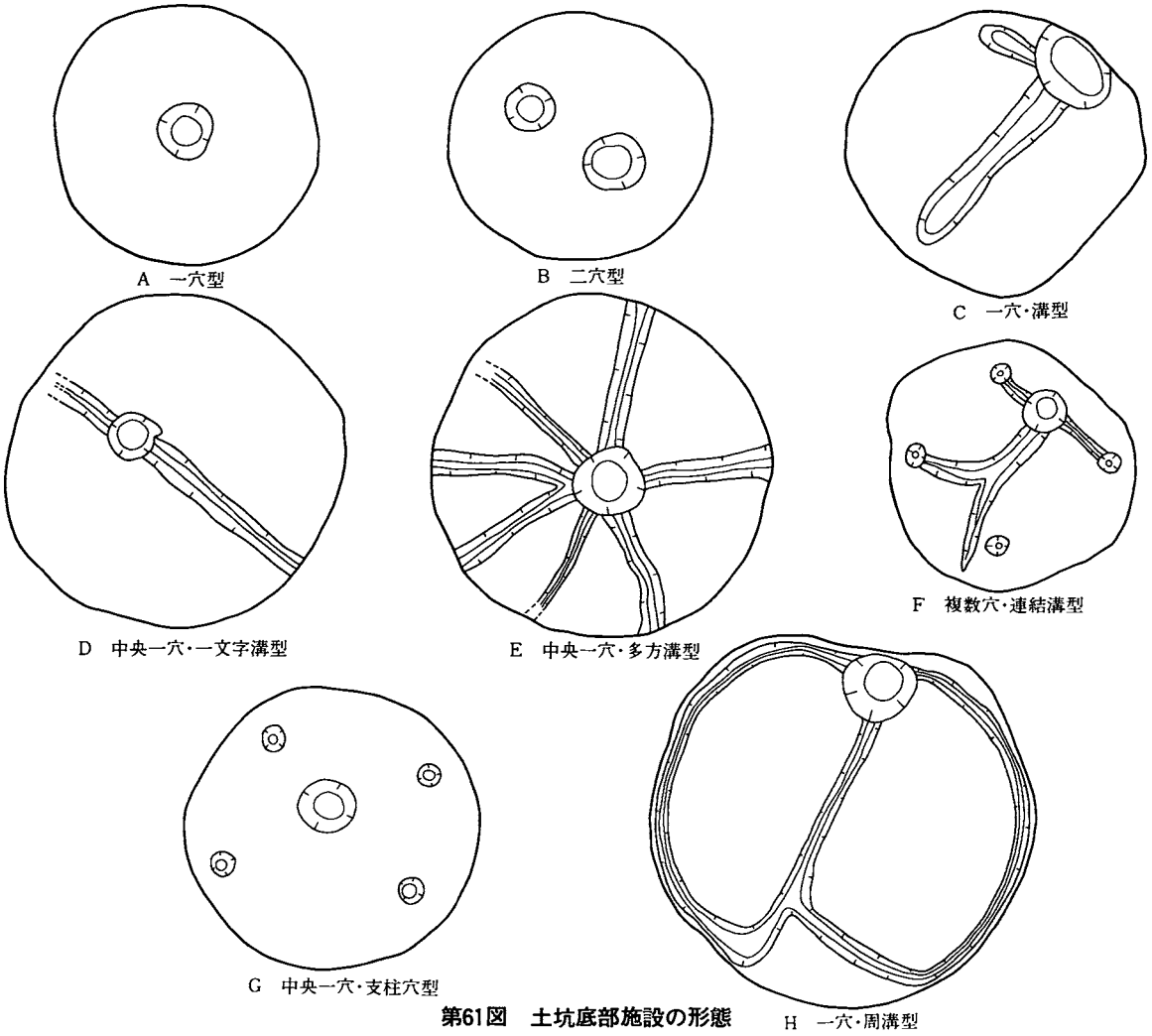
・CⅣd５土坑…4690±160　2740B.C.　・CⅣf７②土坑…4780±140　2830B.C.

・CⅤi２②土坑…4680±170　2730B.C.・CⅤj８④土坑…4240±150　2290B.C.

・DⅤa３①土坑…4330±90　2380B.C.　これら５基は縄文時代中期の土坑である。

土坑の重複は23例あるが、そのうちフラスコ形土坑同士の重複で新旧関係の明確なものが９例ある。これらのなかで土坑の深さが100cm未満と150cm以上の２基の重複の場合、浅い土坑が深い土坑を切っているものが６例あり、浅い土坑の埋土中位と底面より縄文時代晩期の土器が出土している。また、弥生土器の出土した土坑の深さも66cmと浅く規模は小さい。このことから、時期が下るにつれて土坑が小型化しているという可能性は考えられる。

以上、遺物の出土例は少ないが、放射性炭素年代測定結果と合わせて考えてみると土坑の構築時期は、遺物の最も多い縄文時代中期末を中心に、前期、晩期、そして弥生時代の４時期に分かれている。また、東端の沢を隔てて隣接する柳上遺跡が縄文時代中期末を中心とする住居跡の大集落であることから、本遺跡は柳上遺跡の貯蔵基地であったことが推測される。



第61図　土坑底部施設の形態

第7表　土坑一覧表

遺構名	平面図	断面図	規　模(cm)				底部施設	底面の層位	出土遺物(遺物番号)
			開口部	頸部	底部	深さ			
BIIｄ6	楕円形	フラスコ形	274×243	220×208	208×203	174	副穴5	V層	21～23(土器)
BIIｅ6①	楕円形	フラスコ形	207×155	160×127	160×148	156	副穴1	III層	なし
BIIｅ6②	円形	ビーカー形	55		35	35	なし	II層	なし
BIIｅ6③	楕円形	浅皿形	250×230		180×150	90	なし	III層	なし
BIIｅ7	円形	フラスコ形	250	217×192	220×210	170	副穴1	V層	24(土器)
BIIｅ8	円形	フラスコ形	225×216	180	200×194	134	副穴1	V層	25～29(土器)
BIIｆ6①	円形	ビーカー形	122×96	85	98	66	なし	II層	なし
BIIｆ6②	不明	浅皿形	262		205	52	なし	II層	なし
BIIｆ7①	円形	フラスコ形	160	140×125	183×170	176	副穴1	IV層	なし
BIIｆ7②	円形	ビーカー形	160×148		150×140	185	副穴1	IV層	なし
BIIｆ7③	円形	フラスコ形	160	120×114	128	120	なし	III層	なし
BIIｆ7④	円形	フラスコ形	148	136×130	164×150	154	副穴1	III層	なし
BIIｆ7⑤	円形	フラスコ形	105		105	76	なし	II層	なし
BIIｆ8①	円形	フラスコ形	184×172	184×174	206×190	144	副穴2、溝4	IV層	30(土器)
BIIｆ8②	円形	フラスコ形	170×164	136×130	140×134	138	副穴1	V層	なし
BIIｆ9	楕円形	ビーカー形	240×210		192×165	140	副穴1	III層	なし
BIIｇ5①	隅丸長方形	浅皿形	198×80		170×160	45	なし	II層	なし
BIIｇ5②	円形	ビーカー形	160×140		140×130	120	なし	V層	なし
BIIｇ6①	円形	フラスコ形	150×145	112×100	125×120	165	副穴1	V層	なし
BIIｇ6②	不明	ビーカー形	160		126	52	なし	II層	31(土器)
BIIｇ6③	不明	不整形	126		105	25	なし	II層	32(土器)
BIIｇ7	円形	フラスコ形	167×162	132×125	140×132	140	副穴1	V層	なし
BIIｇ8①	円形	フラスコ形	144×132	100	140×130	188	副穴1	IV層	なし
BIIｇ8②	楕円形	浅皿形	270×240		220×170	80	なし	III層	なし
BIIｇ8③	楕円形	不整形	170×160		100×80	70	なし	III層	なし
BIIｇ8④	円形	フラスコ形	120		194×150	168	副穴1	III層	なし
BIIｇ9①	隅丸方形	浅皿形	190×160		96×90	36	なし	III層	なし
BIIｇ9②	隅丸長方形	浅皿形	266×235		210×170	35	なし	III層	なし
BIIIｇ0	円形	フラスコ形	220×198	150×147	165×160	170	副穴5	IV層	なし
BIIIｈ0	円形	フラスコ形	178×152	150×140	176×150	168	副穴1	IV層	なし
BIIIｈ2	円形	フラスコ形	242×240	198×185	222×198	188	副穴1、溝1	V層	なし
BIIIｉ2	円形	ビーカー形	246×226	194×185	214×194	188	なし	V層	33(土器) 34(剥片)
BIIIｉ3	円形	フラスコ形	236×212	172×166	190×172	158	副穴1、溝4	V層	なし
BIIIｊ2	円形	フラスコ形	170×166	128×116	150×148	158	副穴1	III層	なし
BVｇ5	円形	ビーカー形	122×102		68×66	66	なし	III層	35・36(土器)
CIIｄ0	不整形	浅皿形	60×44		40×24	30	なし	II層	なし
CIV2	円形	浅皿形	134×122		92×66	58	なし	III層	なし
CIVC3①	円形	フラスコ形	216×190	190×174	206×190	156	副穴1	IV層	なし
CIVC3②	円形	フラスコ形	108×104		116×106	68	なし	III層	なし
CIVｄ4①	円形	フラスコ形	230×222	178×172	218×216	168	副穴1	III層	なし
CIVｄ4②	円形	フラスコ形	174×124	146×104	200×190	152	副穴1、溝3	IV層	なし
CIVｄ5	円形	フラスコ形	240×224	208×206	198×196	184	副穴1、溝5	IV層	なし
CIVｄ6	円形	フラスコ形	218×192	174×170	206×204	186	副穴1、溝5	IV層	なし
CIVｅ6	円形	ビーカー形	106×98		80×70	40	なし	III層	なし
CIVｅ7	楕円形	フラスコ形	158×134		194×164	126	副穴1	IV層	なし
CIVｅ8	円形	ビーカー形	174×168		162×158	168	副穴1	IV層	なし
CIVｆ6①	円形	フラスコ形	224	192×182	222×216	164	副穴1、溝2	III層	なし
CIVｆ6②	楕円形	ビーカー形	140		116	56	なし	III層	37(土器)
CIVｆ6③	楕円形	フラスコ形	124×86		110×96	58	なし	II層	なし
CIVｆ7①	楕円形	フラスコ形	190×162	170×152	210×174	174	副穴1、溝1	III層	38(土器)
CIVｆ7②	円形	フラスコ形	252×218	204×194	220×204	180	副穴1、溝2	III層	39(土器) 40(剥片)
CIVｆ8①	円形	フラスコ形	280×230	180×172	220×212	194	副穴1、溝1	III層	41、42(土器) 43(石器)
CIVｆ8②	円形	フラスコ形	220×218		184×166	200	副穴1	IV層	なし
CIVｆ9①	円形	ビーカー形	208×175		182×170	150	なし	IV層	44(土器)

遺構名	平面図	断面図	規　模(cm)				底部施設	底面の層位	出土遺物(遺物番号)
			開口部	頸部	底部	深さ			
CⅣｆ９②	円形	フラスコ形	200×190	152×144	184×180	170	副穴２、溝２	Ⅲ層	45(土器)
CⅣｇ７	楕円形	フラスコ形	70	44	88	70	なし	Ⅲ層	なし
CⅣｇ８	楕円形	フラスコ形	220×154	154×134	186×168	122	副穴１、溝１	Ⅲ層	46～49(土器)
CⅣｇ９	円形	フラスコ形	218×216	206×194	198×194	178	副穴１、溝４	Ⅱ層	なし
CⅣｈ８	円形	フラスコ形	210×206	182×180	196×180	150	副穴１、溝４	Ⅲ層	50(土器)
CⅣｈ９	楕円形	フラスコ形	188×160		180×164	156	副穴１	Ⅱ層	なし
CⅣｊ９	円形	フラスコ形	194×146	132×128	158×154	170	副穴１	Ⅱ層	51(土器)
CⅤｇ０①	円形	フラスコ形	224×210	196×188	226×220	172	副穴２	Ⅲ層	なし
CⅤｇ０②	円形	フラスコ形	214×210	194×174	206×186	142	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｇ１①	楕円形	ビーカー形	108×92		84×76	64	なし	Ⅲ層	52(土器)
CⅤｇ１②	楕円形	フラスコ形	200×165		226×220	184	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｇ１③	円形	ビーカー形	256×236		230×220	134	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｇ２	円形	フラスコ形	216×193	184×178	232×224	170	副穴１、溝３	Ⅲ層	なし
CⅤｈ０	円形	フラスコ形	148×134		172×170	146	副穴１	Ⅲ層	53、54(土器)
CⅤｈ１	円形	フラスコ形	210×208	196×182	208×206	174	副穴１、溝３	Ⅲ層	55(土器)
CⅤｈ２	円形	フラスコ形	216×193	184×178	232×223	170	副穴２、溝６	Ⅲ層	56～59(土器)
CⅤｈ３①	円形	フラスコ形	224×222	226×214	252×246	144	副穴１、溝３	Ⅲ層	なし
CⅤｈ３②	円形	フラスコ形	230×224	176×160	208×180	176	副穴１、溝４	Ⅲ層	なし
CⅤｈ４	円形	フラスコ形	210×180	160×144	206×204	122	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｈ５①	円形	ビーカー形	130×112		130×116	55	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｈ５②	円形	ビーカー形	162×140		148×142	106	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｉ０	円形	フラスコ形	176×166	132	176×166	164	副穴１、溝４	Ⅲ層	なし
CⅤｉ１①	円形	フラスコ形	216×200	194×176	216×208	168	副穴１、溝３	Ⅲ層	60～66(土器) 67(剥片)
CⅤｉ１②	円形	フラスコ形	170×166	150×136	190×178	172	副穴１	Ⅲ層	68、69(土器)
CⅤｉ２①	円形	ビーカー形	98		84	90	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｉ２②	円形	フラスコ形	210×190	180×170	210×200	162	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｉ３	円形	フラスコ形	126×120		134×132	54	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｉ４①	円形	フラスコ形	222×202	168×164	206×196	186	副穴１	Ⅲ層	70～73(土器)
CⅤｉ４②	円形	ビーカー形	216×204	182×170	188×176	122	副穴１、溝２	Ⅲ層	なし
CⅤｉ４③	円形	ビーカー形	106×102		110×108	74	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｉ５①	円形	フラスコ形	235×218	212×206	230×225	195	副穴１	Ⅲ層	74(土器)
CⅤｉ５②	円形	フラスコ形	100	86	94	88	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｉ５③	円形	フラスコ形	140×128		128×124	140	副穴２	Ⅲ層	なし
CⅤｉ６①	円形	ビーカー形	204×190	160×156	166×162	150	副穴１、溝１	Ⅲ層	なし
CⅤｉ６②	円形	フラスコ形	134×132	126×116	142×140	120	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｉ６③	円形	フラスコ形	130	110	214×190	194	副穴１、溝３	Ⅲ層	なし
CⅤｉ６④	円形	ビーカー形	226×212	164	150	130	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｉ７	円形	ビーカー形	232×220	204×186	220×214	196	副穴２、溝３	Ⅳ層	なし
CⅤｉ８①	円形	ビーカー形	206×182	174×152	184×166	198	副穴１、溝２	Ⅳ層	75(土器)
CⅤｉ８②	円形	フラスコ形	172×170		176×174	105	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｉ８③	円形	ビーカー形	120		107×102	52	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｉ９	円形	ビーカー形	140×120		120×110	34	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｊ０	円形	フラスコ形	158×152	140×134	170×158	134	副穴１、溝２	Ⅲ層	なし
CⅤｊ１①	円形	フラスコ形	232×194	184×172	204×190	172	副穴１、溝２	Ⅲ層	なし
CⅤｊ１②	円形	フラスコ形	195×180	174×162	198×174	126	副穴１	Ⅲ層	なし
CⅤｊ２	楕円形	フラスコ形	180×162	145×130	178×160	144	副穴１、溝４	Ⅲ層	なし
CⅤｊ３	円形	フラスコ形	180×162	148×142	198×190	172	副穴４	Ⅲ層	76～79(土器)
CⅤｊ４①	円形	フラスコ形	152×136	138×125	176×170	124	副穴２	Ⅲ層	80(土器)
CⅤｊ４②	円形	ビーカー	170×146	146×132	142×138	106	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｊ５	円形	フラスコ形	130	122	130	60	なし	Ⅲ層	81(土器)
CⅤｊ６①	円形	フラスコ形	192×180		194×192	148	副穴１、溝４	Ⅲ層	なし
CⅤｊ６②	円形	ビーカー形	188×166	156×148	150×146	132	なし	Ⅲ層	なし
CⅤｊ７①	円形	フラスコ形	170		162×148	68	副穴１	Ⅲ層	82～86(土器)
CⅤｊ７②	円形	ビーカー形	205	185×172	190×176	170	副穴１、溝４	Ⅲ層	87、88(土器)

遺構名	平面図	断面図	規　模(cm)				底部施設	底面の層位	出土遺物 (遺物番号)
			開口部	頸部	底部	深さ			
CVj 7③	不明	フラスコ形	92		110	82	なし	Ⅲ層	なし
CVj 8①	円形	フラスコ形	114	100	116	52	なし	Ⅲ層	なし
CVj 8②	円形	フラスコ形	160	126	156×146	86	副穴1、溝2	Ⅲ層	なし
CVj 8③	円形	ビーカー形	154		156×150	86	副穴1、溝3	Ⅲ層	なし
CVj 8④	円形	フラスコ形	210×206	182×180	226×220	198	副穴1、溝5	Ⅳ層	なし
CVj 9①	円形	ビーカー形	136		134×118	85	なし	Ⅲ層	89、90(土器)
CVj 9②	円形	フラスコ形	232	174	204×190	180	副穴1	Ⅲ層	91(土器)
CVIe 2	円形	浅皿形	85×76		56×54	40	なし	Ⅲ層	92～96(土器) 97(石器)
CVIi 0	円形	ビーカー形	170×158		154×152	72	なし	Ⅲ層	98～102(土器)
CVIj 0	円形	ビーカー形	162×124	104×94	112×100	72	副穴1	Ⅲ層	103～105(土器)
DVa 0①	円形	フラスコ形	190×178	180×176	180×176	164	副穴1	Ⅲ層	106、107(土器)
DVa 0②	円形	フラスコ形	125	104×102	130×126	130	副穴1	Ⅲ層	なし
DVa 1	円形	フラスコ形	162×160	154	202×186	166	副穴1	Ⅲ層	なし
DVa 2	円形	フラスコ形	160×156		166×160	94	副穴1	Ⅲ層	なし
DVa 3①	円形	フラスコ形	174×168	178×160	194×192	160	副穴1、溝2	Ⅲ層	なし
DVa 3②	楕円形	フラスコ形	216×176	166×164	196×190	138	副穴1	Ⅲ層	108(土器)
DVa 3③	円形	フラスコ形	160×146		182×180	120	副穴2、溝1	Ⅲ層	なし
DVa 4①	円形	フラスコ形	210×198	193×168	210×208	162	副穴1	Ⅲ層	109～112(土器)
DVa 4②	楕円形	ビーカー形	166×165		160×155	109	副穴1、溝2	Ⅲ層	なし
DVa 6	円形	ビーカー形	86×84		72×68	40	なし	Ⅱ層	なし
DVa 8①	円形	ビーカー形	255×250		230×220	166	副穴1、溝7	Ⅲ層	なし
DVa 8②	円形	フラスコ形	82	63	85	60	なし	Ⅲ層	なし
DVa 8③	円形	ビーカー形	188×182		180×152	110	なし	Ⅲ層	113～117(土器)
DVa 9①	円形	ビーカー形	150	112	103	72	なし	Ⅲ層	なし
DVa 9②	円形	ビーカー形	116		102	36	なし	Ⅲ層	なし
DVa 9③	円形	ビーカー形	210×198	178×164	180×162	138	なし	Ⅲ層	119～122(土器)
DVa 9④	円形	ビーカー形	152	116	132	106	なし	Ⅲ層	なし
DVb 2	円形	フラスコ形	255	158×154	154	160	副穴1	Ⅲ層	123～126(土器)
DVb 5①	円形	フラスコ形	166	176×128	178×176	160	副穴1、溝4	Ⅲ層	なし
DVb 5②	円形	フラスコ形	266×254	184×176	226×210	186	副穴1	Ⅲ層	なし
DVb 6	円形	ビーカー形	198×192		194×186	136	副穴1、溝1	Ⅲ層	なし
DVb 7①	円形	フラスコ形	195×162		218×215	142	副穴7、溝1	Ⅲ層	127～131(土器)
DVb 7②	円形	フラスコ形	182×176	162×148	172×166	130	副穴2	Ⅲ層	132(土器)
DVb 9	円形	ビーカー形	190×170		164×162	170	副穴1	Ⅲ層	なし
DVc 5	円形	フラスコ形	170	142	184×174	160	副穴1、溝1	Ⅲ層	133～138(土器) 139、140(剥片)
DVIa 0①	円形	フラスコ形	210×206	165×150	178×170	182	副穴1	Ⅴ層	なし
DVIa 0②	円形	ビーカー形	137×134		124×118	48	なし	Ⅲ層	なし
DVIb 0	円形	フラスコ形	220×205	186×180	220×205	145	副穴1、溝2	Ⅲ層	141～149(土器)、150(剥片)

(3)陥し穴状遺構

検出した陥し穴状遺構は総数26基で、平面形が円形を呈するタイプ１基、長方形を呈するタイプ16基、溝状を呈するタイプ９基の３形態に分類できる。

①規模・形状・配置

[円形タイプ]

上位面中央の南端に１基発見された。規模は開口部径が170cm前後、深さ約90cm、底部径40cm前後であり、断面形は開口部がやや攪乱を受けているためバケツ形になっている。同タイプの陥し穴が南側の調査区外にひろがる可能性は考えられる。

[長方形タイプ]

斜面を中心に１～３基単位で、規則性を持たず散在する配置になっている。規模は、開口部では長軸直径110～170cm、短軸直径70～140cm、底部では長軸直径80～140cm、短軸直径30～100cm、長さは75～100cmである。平面形は隅丸長方形であるが小判形に近くなっているものもある。断面形はビーカー形８基、バケツ形７基、不整形１基に分類できる。底部に深さ25～45cmの副穴を１～３個もつものが９基ある。規模と副穴との間には特別の関連は認められない。なお、CⅣｆ９・ＣＶｉ７・ＤＶａ４・ＤＶｂ９の４基はフラスコ形土坑との重複で1/2を欠損しており、詳細は不明である。

[溝状タイプ]

上位面中央部に位置し、長軸方向をほぼ南北方向にもちながらやや弧状に分布している。長さは310～460cm、深さは70～190cmである。断面形はＶ字形６基・Ｙ字形２基・Ｕ字形１基に分類できる。

②時期

いずれの陥し穴状遺構も時期を決定し得る資料がないが、フラスコ形土坑との重複で新旧関係の明確なものが２例ある。溝状タイプのＣＶｈ０陥し穴状遺構はＣＶｈ０土坑を切る。また、長方形タイプのＣＶｉ７陥し穴状遺構はＣＶｉ７土坑に切られる。他にもフラスコ形土坑との重複は３例みられるが新旧関係は不明であった。出土遺物はCⅢｄ９①陥し穴状遺構・CⅣｄ１陥し穴状遺構・CⅣｄ２陥し穴状遺構の埋土から縄文土器片と剥片がいくつか散見された程度で、埋没過程での流れ込みと思われる。以上のように陥し穴状遺構の構築時期の詳細は不明であるが、過去の類例から推定してすべて縄文時代の遺構と考えられる。

第8表　陥し穴状遺構一覧表

番号	遺構名	平面形	断面形	開口部規模(cm)		底部規模(cm)		深さ(cm)	底部施設	出土遺物
				長軸	短軸	長軸	短軸			
1	CⅣi 4	円形	バケツ形	176	164	46	34	92		
2	BⅡf 9	長方形	ピーカー形	140	122	70	66	98	副穴1	
3	BⅢj 4	長方形	バケツ形		118	104	72	85	副穴3	
4	CⅡe 1	長方形	ピーカー形	140	122	70	66	90	副穴1	
5	CⅢa 7①	長方形	バケツ形	140	122	83	72	92		
6	CⅢa 7②	長方形	バケツ形	152	115	106	64	85		
7	CⅣC 2	長方形	不整形	110	65	86	25	76		
8	CⅣf 9	長方形	ピーカー形		100		50	(85)		
9	CⅤf 4	長方形	バケツ形	120	98	80	58	90	副穴1	
10	CⅤg 4①	長方形	バケツ形	132	100	80	58	85	副穴1	
11	CⅤg 4②	長方形	バケツ形	140	110	88	54	95	副穴1	
12	CⅤh 3	長方形	バケツ形	126	88	85	46	86	副穴1	
13	CⅤi 7	長方形	ピーカー形		125		106	95		
14	CⅥi 0	長方形	ピーカー形	130	86	94	74	64	副穴3	
15	DⅤa 4	長方形	ピーカー形		110		84	95	副穴1	
16	DⅤb 9	長方形	ピーカー形		90		52	75		
17	DⅥc 0	長方形	ピーカー形	172	80	142	40	76	副穴2	
18	CⅢc 9	溝形	V字形	384	144	348	12	190		151(土器)
19	CⅢd 9①	溝形	V字形	390	56	346	22	98		152(土器) 153・154(剥片)
20	CⅢd 9②	溝形	Y字形	390	96	312	18	110		
21	CⅣd 0	溝形	V字形	400	72	374	10	114		
22	CⅣd 1	溝形	U字形	368	104	250	45	68		155～157(剥片)
23	CⅣd 2	溝形	Y字形	466	40	362	10	120		158(土器)
24	CⅣe 5	溝形	V字形	388	46	374	5	97		
25	CⅣh 6	溝形	V字形	408	110	372	16	130		
26	CⅤh 0	溝形	V字形	312	35	266	15	90		

(4)溝跡

調査区を東西方向に横断するものが3条、それから分岐するものが5条、下位面東端のコの字形のものが1条、上位面西側に北西～南東方向に走る短いものが6条、合計15条検出された。上位面のBⅡj 0溝跡は地籍図の境界線と一致するもので現代の地堺溝と考えられる。下位面を横断するBⅡd 7溝跡は、Ⅱ層より最大で45cmの深さに掘り込まれている。上位面を横断するBⅡh 6溝跡は、斜面縁辺部に沿って土坑群を切りながら延びており、埋土に浮石粒が含まれる。この2条は長さは100mを越す非常に長いものであり、現代のものではないと考えられる。

BⅡj 0溝跡以外は、遺構の時期や性格を決定する資料は得られておらず不明である。

2．遺物

全体的に出土遺物は少なく総量はコンテナ4箱で、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器、土製品、鉄製品が出土している。これらのうちで、土器の大半を占める縄文土器と弥生土器を中心に若干記することとする。

第Ⅰ群土器は縄文時代前期に位置づけられ、遺構内からの出土のみである。いずれも胎土に繊維が混入している深鉢の体部片である。器形が尖底に近いもの、羽状縄文が施されているもの、ループ文が施されているものの3種類が出土しており、尖底に近いものは前期初頭、他は前期前葉の大木1式に相当するものと考えられる。

第Ⅱ群土器は縄文時代中期に位置づけられる。器種はいずれも深鉢である。1類土器は器形や原体圧痕文の特徴から中期前葉の大木7a・7b式に、2類土器は器形（キャリパー形）、沈線文等の特徴から中期中葉の大木8a・8b式に比定するものと考えられる。これらは出土量が非常に少なくいずれも小破片のためa・b式の細分は行わなかった。3類土器は中期末葉の大木10式に相当するもので出土量が最も多い。土坑の底面からほぼ完形に復元された深鉢が4点出土している。器形は底部から外傾して立ち上がり口縁部に最大径を有するものと、口縁部が外反し胴央部が膨らみ胴下部ですぼまるもの、頸部がやや「く」の字状に張り出すものに大別できる。文様は沈線で区画されたU字状・J字状・渦巻き状の磨消縄文、あるいは隆帯による曲線文が描かれ、沈線や隆帯の側縁に刺突文が施されるものも多く見受けられる。底部に網代痕または葉脈痕がみられるものが6点ある。また口縁部が波状を呈し頸部に隆帯が巡るもの、隆帯が口縁項部に延びるもの、部分的に鰭状突起が付されるもの等は縄文後期初頭のいわゆる「門前式」土器の特徴をもち、その判別が難しいが本類に位置付けた。

第Ⅲ群土器は縄文時代晩期に位置づけられる。器種は深鉢・台付鉢・壺・皿である。本群土器を大洞B・BC式に比定されると思われる土器を晩期前葉、大洞C_1・C_2式を晩期中葉、大洞A・A′式を晩期後葉に分類して述べると、鉢・壺は晩期前葉、皿は晩期中葉、台付鉢は晩期前葉ないし中葉に属するものと思われる。深鉢は粗製土器のため判別できなかった。

第Ⅳ群土器は弥生時代に位置づけられる。器種は甕・浅鉢・壺である。本群の土器は地文・沈線文・器種等の特徴から、前半に属する1類土器と後半に属する2類土器に大別した。なお、土坑の埋土下位からは1類土器に属する完形の甕が1点出土している。

第Ⅴ群土器は無文または地文のみの小破片で時期の特定が困難なものであるが、胎土・地文等から第Ⅱ群3類土器に相当するものが大半を占めると考えられる。

以上の縄文土器・弥生土器はほぼ遺跡全体に散布し、縄文時代に属する石器類も少量出土している。このほか数点であるが、平安時代の土師器・須恵器が住居跡周辺から出土している。

第9表　土器観察表

N＝ヘラナデ　K＝ヘラケズリ　M＝ヘラミガキ

図版番号(写真番号)	出土地点	器　種	部　位	外面調整		内面調整		ロクロ成形	備　考
				口縁	胴部	口縁	胴部		
1	CⅡe2住居跡　カマド焼焼部	土師器(坏)	完形					○	回転糸切り痕
2	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	一部欠損					○	〃
3	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	体部下半～底部					○	〃
4	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	底部					○	〃
5	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	底部					○	〃
6	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	底部					○	〃
7	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	底部				M	○	内黒　回転糸切り
8	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	口縁部～体部上半			M	M	○	回転糸切り
9	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	口縁部～体部上半			M		○	〃
10	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	口縁部～体部上半					○	〃
11	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(坏)	口縁部～体部上半					○	
12	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(甕)	口縁部～体部上半		K			○	
13	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(甕)	口縁部～体部上半					○	
14	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	土師器(甕)	口縁部					○	
15	CⅡe2住居跡　床面	土師器(鍋)	口縁部・底部		K		N	○	
16	CⅡe2住居跡　底面	須恵器(甕)	口縁部					○	
17	CⅡe2住居跡　埋土下位～床面	須恵器(甕)	頸部					○	

図版番号(写真番号)	出土地点	器種	部　位	文様の特徴	分類
21	BⅡd6土坑　副穴内	深鉢	体部下端	不明瞭(胎土に繊維含む)	Ⅰ群
22	BⅡd6土坑　埋土中位	深鉢	体部	LR	Ⅴ群
23	BⅡd6土坑　埋土上位	深鉢	体部	羽状縄文(胎土に繊維含む)	Ⅰ群
24	BⅡe7土坑　埋土	深鉢	体部下端	LR	Ⅱ群
25	BⅡe8土坑　埋土下位	深鉢	体部	羽状縄文(胎土に繊維含む)	Ⅰ群
26	BⅡe8土坑　埋土下位	深鉢	体部	羽状縄文(胎土に繊維含む)	Ⅰ群
27	BⅡe8土坑　埋土下位	深鉢	口縁部	羽状縄文(胎土に繊維含む)	Ⅰ群
28	BⅡe8土坑　埋土下位	深鉢	体部	ループ文、RL(胎土に繊維含む)	Ⅰ群
29	BⅡe8土坑　埋土下位	深鉢	体部	RL	Ⅴ群
30	BⅡf8①土坑　埋土	深鉢	体部	LR	Ⅲ群
31	BⅡg6②土坑　埋土	深鉢	体部	隆帯、RL	Ⅱ群3類
32	BⅡg6③土坑　埋土	深鉢	体部	RL	Ⅳ群2類
33	BⅢi2土坑　埋土	深鉢	体部	LR	Ⅴ群
35	BⅤg5土坑　埋土下位	甕	完形	LR(口唇部小波状)	Ⅳ群1類
36	BⅤg5土坑　埋土下位	甕	口縁部～体部上半	LR(口唇部小波状)	Ⅳ群1類
37	CⅣf6②土坑　埋土上位	台付鉢	口縁部～体部下半	口唇部突起、平行沈線文、雲形文、LR	Ⅲ群
38	CⅣf7①土坑　埋土	深鉢	口縁部	沈線文、RLR	Ⅱ群3類
39	CⅣf7②土坑　埋土	深鉢	体部	LR	Ⅱ群3類
41	CⅣf8①土坑　底面	深鉢	体部	沈線文	Ⅴ群
42	CⅣf8①土坑　底面	深鉢	口縁部	不明瞭	Ⅴ群
44	CⅣf9①土坑　埋土上位	深鉢	底部		Ⅴ群
45	CⅣf9②土坑　埋土	深鉢	体部	隆帯	Ⅱ群3類
46	CⅣg8土坑　埋土下位	深鉢	ほぼ完形	隆帯、刺突文、沈線文、櫛歯状工具による状線、LR(上部欠損部再加工、底部外面ケズリ調整)	Ⅱ群3類
47	CⅣg8土坑　埋土下位	深鉢	体部	隆帯、R1段撚糸文	Ⅱ群3類
48	CⅣg8土坑　埋土下位	深鉢	体部	沈線文、R1段撚糸文	Ⅱ群3類
49	CⅣg8土坑　埋土下位	深鉢	体部	R1段撚糸文	Ⅱ群3類
50	CⅣh8土坑　埋土	深鉢	体部	LR(外面に炭化物付着)	Ⅱ群
51	CⅣj9土坑　埋土	深鉢	体部	RLR	Ⅴ群
52	CⅤg1①土坑　埋土	深鉢	体部	無文	Ⅴ群
53	CⅤh0土坑　埋土下位	深鉢	体部	沈線による磨消縄文、RL	Ⅱ群3類
54	CⅤh0土坑　埋土下位	深鉢	体部	RL(外面に炭化物付着)	Ⅱ群3類
55	CⅤh1土坑　埋土上位	深鉢	口縁部～体部上半	原体圧痕文を伴う波状・菱形状の隆帯、RLR(内面ミガキ調整)	Ⅱ群1類
56	CⅤh2土坑　底面	深鉢	体部下半～底部	RL(上端欠損部再加工底部木葉痕、内外面炭火物付着)	Ⅱ群3類
57	CⅤh2土坑　底面	深鉢	体部	RL	Ⅱ群3類

図版番号(写真番号)	出土地点	器種	部　位	文様の特徴	分類
58	CVh2土坑　底面	深鉢	体部	RL	II群3類
59	CVh2土坑　底面	深鉢	体部	RL	II群3類
60	CVi1①土坑　埋土下位	深鉢	口縁部	隆帯、沈線による磨消縄文、RL	II群3類
61	CVi1①土坑　埋土下位	深鉢	体部	RL	II群3類
62	CVi1①土坑　埋土下位	深鉢	体部	RL	II群3類
63	CVi1①土坑　埋土	深鉢	口縁部	口唇部に刻目、平行沈線文、LR	II群3類
64	CVi1①土坑　埋土下位	深鉢	口縁部	LR	V群
65	CVi1①土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
66	CVi1①土坑　埋土	深鉢	体部	LR	V群
68	CVi1②土坑　底面	深鉢	体部～底部	沈線による磨消縄文、鰭状突起、LR	II群3類
69	CVi1②土坑　底面	深鉢	体部	LR	II群3類
70	CVi4①土坑　埋土	深鉢	口縁部	沈線による磨消縄文、LR	II群3類
71	CVi4①土坑　埋土	深鉢	口縁部	沈線による磨消縄文、RL	II群3類
72	CVi4①土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
73	CVi4①土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
74	CVi5①土坑　埋土	深鉢	口縁部	無文	V群
75	CVi8①土坑　埋土	深鉢	体部	LR	V群
76	CVj3土坑　底面	深鉢	完形	LRL(底部網代痕)	II群3類
77	CVj3土坑　底面	深鉢	体部	沈線文、RL	II群3類
78	CVj3土坑　底面	深鉢	1/2残存	隆帯、刺突文、沈線文、LR(口縁部山形突起)	II群3類
79	CVj3土坑　底面	深鉢	完形	隆帯、刺突文、LR(口縁部山形突起、底部葉脈痕、体部下半に炭化物付着)	II群3類
80	CVj4①土坑　埋土	深鉢	体部	沈線による磨消縄文、L1段撚糸文	II群3類
81	CVj5土坑　埋土	深鉢	頸部	沈線文、刺突文、RL	II群3類
82	CVj7①土坑　底面	鉢	口縁部～体部下半	三叉文、平行沈線文、羽状縄文	III群
82	CVj7①土坑　埋土中位	台付鉢	口縁部～体部上半	三叉文、平行沈線文、RL	III群
83	CVj7①土坑　埋土中位	深鉢	体部	隆沈線文LR(キャリパー形)	II群2類
84	CVj7①土坑　埋土中位	深鉢	体部	隆沈線文、LR(キャリパー形)	II群2類
85	CVj7①土坑　埋土中位	深鉢	体部	渦巻状沈線文、RL	II群2類
87	CVj7②土坑　埋土	深鉢	口縁部	LR	V群
88	CVj7②土坑　埋土	深鉢	口縁部	LR	V群
89	CVj9①土坑　埋土	深鉢	口縁部	沈線文、RL	V群
90	CVj9①土坑　埋土	深鉢	底部	無文	V群
91	CVj9②土坑　埋土上位	深鉢	体部～底部	沈線文、磨消縄文、刺突文、綾絡文、RL(底部網代痕、ケズリ調整)	II群3類
92	CVIe2土坑　埋土	壺	口縁部欠損	平行沈線文、菱形状入組文、X字文	III群
93	CVIe2土坑　埋土	壺	体中央部欠損	平行沈線文、菱形状入組文、X字文	III群
94	CVIe2土坑　埋土	深鉢	底部	RL	V群
95	CVIe2土坑　埋土	深鉢	底部	RL	V群
96	CVIe2土坑　埋土	壺	体部	沈線による渦巻文	III群
98	CVIi0土坑　埋土上位	深鉢	体部	磨消縄文、LR	II群3類
99	CVIi0土坑　埋土上位	深鉢	体部	磨消縄文、LR	II群3類
100	CVIi0土坑　埋土上位	深鉢	体部	磨消縄文、LR	II群3類
101	CVIi0土坑　埋土上位	深鉢	体部	隆帯	II群3類
102	CVIi0土坑　埋土上位	深鉢	体部	RLR	II群3類
103	CVIj0土坑　埋土	深鉢	体部	LR	V群
104	CVIj0土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
105	CVIj0土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
106	DVa0①土坑　埋土	深鉢	体部	RL	IV群1類
107	DVa0①土坑　埋土	深鉢	頸部	無文	IV群1類
108	DVa3②土坑　底面埋設	深鉢	完形	沈線文、J字状磨消縄文、刺突文、LR	II群3類
109	DVa4土坑　底面	深鉢	体部～底部	R1段撚糸文、沈線文	II群3類
110	DVa4土坑　埋土	深鉢	体部	磨消縄文、RL	II群3類
111	DVa4土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
112	DVa4土坑　埋土	深鉢	体部	無文	V群
113	DVa8③土坑　埋土	深鉢	口縁部～体部上端	隆帯、刺突文、無文帯	II群3類

図版番号(写真番号)	出土地点	器種	部　位	文様の特徴	分類
114	DVa8③土坑　埋土	深鉢	口縁部	無文	V群
115	DVa8③土坑　埋土	深鉢	口縁部	無文	V群
116	DVa8③土坑　埋土	深鉢	口縁部	無文	V群
117	DVa8③土坑　埋土	深鉢	口縁部	無文	V群
118	DVa8③土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
119	DVa9③土坑　底面	深鉢	口縁部～体部	沈線文、磨消縄文、三日月状突起、L1R撚糸文	II群3類
120	DVa9③土坑　底面	深鉢	体部	RL	II群3類
121	DVa9③土坑　底面	深鉢	体部	沈線文、RL	II群3類
122	DVa9③土坑　埋土上位	深鉢	体部	RL	V群
123	DVb2土坑　埋土中位	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
124	DVb2土坑　埋土中位	深鉢	体部	沈線文、RL	II群3類
125	DVb2土坑　埋土中位	深鉢	体部下端～底部	L1段撚糸文	II群3類
126	DVb2土坑　埋土中位	深鉢	体部下端～底部	L1段撚糸文	II群3類
127	DVb7①土坑　埋土	深鉢	口縁部	刺突文、沈線文	II群3類
128	DVb7①土坑　埋土	深鉢	口縁部	沈線文、RL	II群3類
129	DVb7①土坑　埋土	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
130	DVb7①土坑　埋土	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
131	DVb7①土坑　埋土	深鉢	底部	RL	V群
132	DVb7②土坑　底面	深鉢	体部	L1段撚糸文	II群3類
133	DVc5土坑　埋土	深鉢	口縁部～体部	綾絡文、RL	II群3類
134	DVc5土坑　埋土	深鉢	体部	綾絡文、RL	II群3類
135	DVc5土坑　埋土	深鉢	体部	綾絡文、RL	II群3類
136	DVc5土坑　埋土	深鉢	体部	綾絡文、RL	II群3類
137	DVc5土坑　埋土	深鉢	体部	綾絡文、RL	II群3類
138	DVc5土坑　埋土	深鉢	底部	RL(底部葉脈痕)	V群
141	DVIb0土坑　埋土	深鉢	口縁部～体部上端	磨消縄文、刺突文、L1段撚糸文	II群3類
142	DVIb0土坑　埋土	深鉢	口縁部～体部上端	隆帯、刺突文、R1段撚糸文	II群3類
143	DVIb0土坑　埋土	深鉢	口縁部	隆帯、刺突文	II群3類
144	DVIb0土坑　埋土	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
145	DVIb0土坑　埋土	深鉢	体部	磨消縄文、RL	II群3類
146	DVIb0土坑　埋土	深鉢	体部	磨消縄文、刺突文、LR	II群3類
147	DVIb0土坑　埋土	深鉢	体部	隆帯、RL	II群3類
148	DVIb0土坑　埋土	深鉢	体部	R1段撚糸文	II群3類
149	DVIb0土坑　埋土	深鉢	体部	RL	V群
151	CIIIc9陥し穴状遺構埋土	深鉢	体部	RL	V群
152	CIIId9①陥し穴状遺構埋土	深鉢	体部	RL	V群
158	CIVd2陥し穴　埋土	深鉢	体部	LR	V群
159	BIIId7溝跡　埋土	深鉢	口縁部	RL	III群
160	BIIId7溝跡　埋土	深鉢	体部	沈線文、LR	III群
161	BIIId7溝跡　埋土	深鉢	体部	磨消縄文、RL	II群3類
162	BIIId7溝跡　埋土	深鉢	底部	無文	V群
165	BIIh6溝跡　埋土	壺	口縁部～体部上端	平行波線文、指頭圧痕	IV群2類
166	BIIh6溝跡　埋土	深鉢	口縁部	RL	IV群2類
167	BIIh6溝跡　埋土	深鉢	体部	LR	II群3類
168	BIIh6溝跡　埋土	深鉢	体部	LR	II群3類
169	BIIh6溝跡　埋土	深鉢	体部	LR	II群3類
170	BIIh6溝跡　埋土	深鉢	口縁部	磨消縄文、LR	II群3類
171	BIIh6溝跡　埋土	深鉢	体部	刺突文	II群3類
173	CIV区	深鉢	口縁部～体部上半	隆帯、原体圧痕文、RL	II群1類
174	CIV区	深鉢	口縁部	原体圧痕文、LR	II群1類
175	CV区	深鉢	体部上端	沈線文、原体圧痕文	II群1類
176	CIV区	深鉢	口縁部	刺突文、RL	II群1類
177	CVi4区	深鉢	体部	L1段撚糸文	II群1類
178	CVd9区	深鉢	底部	LR(内面ケズリ調整、外面炭化物付着)	II群1類

図版番号(写真番号)	出土地点	器種	部　位	文様の特徴	分類
179	DV区	浅鉢	底部	LR	II群1類
180	CV区	深鉢	体部	沈線文、LR	II群2類
181	CIV区	深鉢	口縁部	LR	II群2類
182	CV区	深鉢	口縁部	平行沈線文、波状沈線、RL	II群2類
183	CIVh5区	深鉢	口縁部	刺突文、隆帯、沈線文	II群3類
184	CIV区	深鉢	口縁部	刺突文、沈線文、RL	II群3類
185	BV区	深鉢	口縁部	隆帯、RL	II群3類
186	不明	深鉢	口縁部	渦巻状隆帯	II群3類
187	CIV区	深鉢	口縁部	RL	II群3類
188	CV区	深鉢	口縁部	RL	II群3類
189	CVf4区	深鉢	口縁部	渦巻状隆帯	II群3類
190	CV区	深鉢	口縁部	渦巻状隆帯	II群3類
191	BIV区	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
192	BV区	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
193	CIV区	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
194	CIV区	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
195	CVI区	深鉢	体部	磨消縄文	II群3類
196	CVh2区	深鉢	体部	隆帯による曲線文、刺突文	II群3類
197	DV区	深鉢	体部	隆帯による曲線文、LR	II群3類
198	CV区	深鉢	体部	網目状撚糸文	II群3類
199	下位面	深鉢	体部	RL	II群3類
200	BV区	深鉢	底部	無文(底部葉脈痕)	II群3類
201	BVg9区	皿	口縁部	工字文	III群
202	CVI区	皿	口縁部	平行沈線文	III群
203	CIV区	壺	頸部	RL	III群
204	CV区	鉢	口縁部	変型工字文、粘土粒、内面に沈線文	IV群1類
205	CV区	鉢	口縁部	平行沈線文、粘土粒	IV群1類
206	上位面	鉢	口縁部	平行沈線文	IV群1類
207	CVI区	甕	口縁部～体部上端	圧痕文、沈線文、LR	IV群1類
208	BV区	甕	口縁部～体部上端	圧痕文	IV群1類
209	CV区	甕	口縁部～体部上端	LR	IV群1類
210	CV区	甕	頸部	平行沈線文、LR	IV群1類
211	CVI区	甕	頸部	変形工字文、RL(内外面炭化物付着)	IV群1類
212	CV区	浅鉢	底部	RL	IV群2類
213	CIV区	甕	口縁部	平行沈線文、指頭圧痕	IV群2類
214	CV区	甕	口縁部	圧痕文、沈線文、刺突文	IV群2類
215	CV区	甕	口縁部	圧痕文、沈線文、刺突文	IV群2類
216	CIV区	甕	口縁部	列点文、平行沈線文、圧痕文、RL	IV群2類
217	DV区	甕	口縁部	刺突文、RL(複合口縁)	IV群2類
218	CV区	甕	口縁部	RL	IV群2類
219	CV区	甕	口縁部～体部上端	LR(外面炭化物付着)	IV群2類
220	CIV区	鉢	口縁部	RL	IV群2類
221	CV区	甕	頸部	弧状沈線文、RL	IV群2類
222	CIV区	甕	頸部	山形文	IV群2類
223	CV区	甕	頸部	山形文	IV群2類
224	BV区	壺	体部	付加条、連弧状文	IV群2類
225	CIV区	甕	底部	RL	IV群2類
226	CII区	深鉢	口縁部	無文(折り返し口縁)	V群

第10表　石器計測表

番号	図版番号 写真番号	出土地点	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石　質	産地	備考
1	34	BⅡi2土坑埋土	剝片	4.0	3.4	0.8	9.0	硬質泥岩	奥羽山地	
2	40	CⅣf7②土坑埋土	〃	4.3	4.8	1.4	26.0	玻璃質安山岩(鉄石英)	〃	
3	43	CⅣf8①土坑底面	磨石	12.7	11.0	7.0	1138.0	花崗閃緑岩	〃	
4	67	CⅤi1①土坑埋土	剝片	6.8	5.4	1.0	28.6	珪質泥岩	〃	
5	97	CⅥe2土坑埋土	石剣	(9.8)	(2.0)	(0.8)	25.6	粘板岩	北上山地	
6	139	DⅤc5土坑埋土	剝片	10.1	5.0	2.4	115.0	珪質泥岩	奥羽山地	
7	140	〃	〃	8.3	6.0	2.7	120.0	〃	〃	
8	150	DⅥb0土坑埋土	〃	4.4	6.0	0.9	12.2	硬質泥岩	〃	
9	153	CⅢd9①陥し穴状遺構埋土	〃	4.2	4.5	0.9	16.2	〃	〃	
10	154	〃	〃	6.7	3.2	0.5	14.0	流紋岩	〃	
11	155	CⅣd1陥し穴状遺構埋土	〃	4.1	2.7	1.0	6.6	珪質泥岩	〃	
12	156	〃	〃	3.0	3.5	0.4	6.0	〃	〃	
13	157	〃	〃	5.0	2.4	0.7	9.0	〃	〃	
14	163	BⅥf0溝跡埋土	〃	4.6	2.9	0.7	9.3	硬質泥岩	〃	
15	164	〃	〃	4.5	2.8	0.7	7.0	〃	〃	
16	172	BⅡh6溝跡埋土	〃	6.7	3.6	1.4	33.1	珪質泥岩	〃	
17	229	DⅤ区	不定形石器	4.2	2.8	0.7	8.3	硬質泥岩	〃	掻器類
18	230	BⅡ区	〃	3.7	3.7	0.3	5.5	〃	〃	〃
19	231	CⅣ区	〃	6.2	5.8	1.3	55.4	〃	〃	〃
20	232	BⅤ区	〃	6.4	5.7	1.3	32.3	〃	〃	削器類
21	233	BⅡ区	〃	7.7	6.1	0.8	39.2	〃	〃	〃
22	234	CⅣ区	〃	6.2	8.0	1.0	52.0	〃	〃	〃
23	235	〃	〃	2.3	1.9	0.3	1.5	珪質泥岩	〃	〃
24	236	BⅤ区	〃	6.8	3.0	1.0	18.4	硬質泥岩	〃	使用痕有
25	237	CⅥ区	〃	9.2	4.1	1.6	42.1	〃	〃	〃
26	238	BⅢ区	〃	9.2	5.0	1.1	52.0	〃	〃	〃
27	239	上位面CⅤ～DⅤ区	〃	7.0	6.3	1.3	43.0	珪質泥岩	〃	〃
28	240	CⅣ区	〃	4.2	4.2	0.8	12.0	〃	〃	〃
29	241	CⅢ区	〃	5.5	5.1	0.9	23.6	珪質緑色凝灰岩	〃	〃
30	242	上位面CⅤ～DⅤ区	〃	2.3	3.0	0.6	3.6	玻璃質安山岩(鉄石英)	〃	〃
31	243	CⅢ区	〃	4.2	5.9	1.0	18.6	硬質泥岩	〃	〃
32	244	CⅤ区	石核	3.4	5.9	2.6	55.2	珪質泥岩	〃	
33	245	上位面	〃	10.9	8.8	4.5	500.0	硬質泥岩	〃	
34	246	不明	敲石	12.3	4.3	2.4	200.0	硬砂岩	北上山地	磨石?
35	247	BⅤ区	磨石	8.1	6.9	4.7	351.0	緑色凝灰岩	奥羽山地	敲石?

〈引用・参考文献〉

興野義一(1967)「大木式土器理解のために（Ⅰ)」『考古学ジャーナル13』

小田野哲憲　熊谷常正(1982)『岩手の土器』岩手県立博物館

丹羽　茂(1984)「縄文土器Ⅱ　大木式土器」『縄文文化の研究４』

小島俊彰(1984)「縄文人の精神文化　三角擣形土製品」『縄文文化の研究９』

中村良幸(1986)「観音堂遺跡第１次～第６次発掘調査報告書」『大迫町埋蔵文化財報告第11集』大迫町教育委員会

永瀬福男(198?)『秋田地方史論集』半田市太郎教授退官記念会　編

近藤宗光ほか（1986)「駒板遺跡発掘調査報告書第２分冊」『岩手文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第98集』

田鎮壽夫ほか（1986)「大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第100集』

平井進（1988)「皀角子久保Ⅳ遺跡発掘調査報告書」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第129集』

高橋与右エ門　酒井宗孝(1990)「夏本遺跡発掘調査報告書」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第134集』

中村良一(1990)「岩崎城西遺跡発掘調査報告書」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第148集』

能登　健（1991)「生産と流通Ⅰ　畑作農耕」『古墳時代の研究４』

Ⅶ. 鑑定・分析

1．種子同定および植物珪酸体分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

貴、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター殿より御依頼のありました「上鬼柳Ⅳ遺跡種子同定及び植物珪酸体分析」が終了致しましたので、その結果を下記の通りご報告申し上げます。

はじめに

上鬼柳Ⅳ遺跡のＣ－１地点では、岩手県内としては２例目の畑遺構が検出されている。この畑遺構は、腐植土層（黒ボク土）で構成され、溝や畝及び畝合が認められる。また畝合には灰白色のテラフ（十和田のテラフと推定されている）が厚さ１～２cmで堆積している。

今回の分析調査では、畑遺構の畝合に混入するテラフを構成している本質物質を調べて畑遺構の属する年代を推定する目的でテラフ分析を行った。また、この畑遺構の土壌を試料として栽培植物の有無について検討することを目的として、栽培植物や局地的な植生に関する情報が得られやすい植物珪酸体分析と大型植物遺体同定を行った。なお、分析点数はテラフ分析が１点、植物珪酸体分析が２点、大型植物遺体同定が６点である。

(1)試料

試料採取地点は、発掘担当者により畑遺構の畝合及び畝に設定された①～⑥である。分析試料は、各地点から縦25cm×横25cm×厚さ５cmの定量に採取した土壌である。分析の際は、各分析目的に応じて分析試料を選択した。（表１）

表１　上鬼柳Ⅳ遺跡の分析試料一覧表

試料番号	採取位置	土質	分析項目		
			T	PO	S
①	畝合	黒ボク土	●	●	●
②	畝	〃			●
③	畝合	〃		●	●
④	畝	〃			●
⑤	畝	〃			●
⑥	畝	〃			●

ＰＯは植物珪酸体分析、Ｓは大型植物遺体同定、Ｔはテフラ分析を示す。

また、●は各分析の分析試料を示す。土質は、当社での観察結果である。

(2)示標テフラの検出

(2)－１．試料

試料は、試料番号①の畝合に堆積するテフラ試料である。

(2)－２．分析方法

適量の試料を蒸発皿に取り、水を加えて泥化した状態で超音波洗浄装置にかけて分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより泥分を取り除く。得られた砂分を実体顕微鏡下で観察し、テフラの本質物質である軽石、スコリア、火山ガラス、遊離結晶の産状を調べる。それらの特徴からテフラの同定を行う。

(2)－３．分析結果

試料のテフラの本質物質の産状を以下に示す。

・軽石

非常に多く認められる。最大粒径約1.5㎜、白色～灰白色を呈し、スポンジ状あるいは繊維束状によく発泡している。

・火山ガラス

多く認められる。スポンジ状あるいは繊維束状によく発泡した塊状の軽石型火山ガラスと薄手平板状のバブル型火山ガラスの２種類が認められる。両者を比べると軽石型の方が多い。色は無色透明なものがほとんどであるが、淡緑灰色～褐色のものも微量認められる。

・遊離結晶

斜方輝石と単斜輝石が多く認められる。両者を比べると斜方輝石の方がやや多い。他に磁性鉱などの不透明鉱物や長石などが認められる。

・岩片

灰色または黒色の安山岩片が微量認められる。

以上の特徴および現地での層位学的な見地から、本試料は十和田ａテフラ（To-a：町田ほか、1981）に同定される。以下に、今回検出されたテフラの特徴をまとめる。

名称　　：十和田ａテフラ（To-a）

産状　　：試料番号①にブロック状に細粒火山灰として認められる。

特徴　　：最大粒径約1.5㎜、灰色～白色の発泡の良い軽石。軽石型を主体とする火山ガラスおよび両輝石を主体とする遊離結晶を比較的多く含む。

給源　　：十和田カルデラ（町田ほか、1981）

噴出年代：おそらくA.D.915年（町田ほか、1984）

(3)植物珪酸体分析

(3)－１．分析方法と結果の表示方法

分析は、近藤・佐瀬（1986）の方法を参考にした。近藤・佐瀬（1986）の方法は、植物体に形成される植物珪酸体全てを同定の対象とし、種類毎の出現率から過去の植生や栽培植物の有無を推定するものである。特に栽培植物の有無について検討する場合には、イネ科植物の各種類における植物珪酸体の組成および生産量が異なる（近藤、1983）ことから、短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体について注目する必要がある。分析方法は、以下の通りである。

湿重５ｇ前後の試料を過酸化水素水（H2O2）で泥化し、塩酸（HCl）を加えて有機物･鉄分を除去する。超音波処理（100w、250KHz、３分間）で土壌粒子を完全に分散した後に、沈定法で粘土分を除去し、重液分離法（臭化亜鉛、比重2.3）で植物珪酸体を分離･濃集する。これを封入（封入剤：プリュウラックス）し、プレパラートを作成する。400倍の光学顕微鏡（簡易偏光装置装備）下で全面を走査する。その間に、出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

なお、分析結果は計測数を一覧表（表２）として表示する。

(3)－２．結果

①・④から検出されたイネ科葉部起源の植物珪酸体は少ない。また、保存状態は不良であり、両珪酸体ともに表面に多数の小孔（溶食痕）が生じているものが認められる。そのため、今回の分析結果には過去の農耕に関する情報を如実に反映していない可能性があり、植物珪酸体組成を歪曲したまま評価してしまう恐れがある。したがって、ここでは植物珪酸体組成を求めず、計数結果を表２に示す。

両試料からは、栽培植物とされるイネ属が検出される。①では、短細胞珪酸体列がわずかながら認められる。また、④では短細胞珪酸体とともに機動細胞珪酸体が検出され、これらの中には細胞列を形成するものも認められる。さらに、稲籾に形成される穎珪酸体も検出される。

この他に、両試料から検出された種類はキビ族（キビ属･エノコログサ属など）、ウシクサ族（ススキ属）であり、両試料ともにタケ亜科の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の計測数が多い。また、④ではイチゴツナギ亜科もわずかに検出される。

(3)－３．考察

今回の分析では、①・④から栽培種とされるイネ属が検出された。特に、畝から採取された④では葉部に形成される植物珪酸体の他に稲籾由来の植物珪酸体も認められた。これより、畝の土壌中にイネ属の植物体（葉部や籾）が埋積していた可能性が考えられる。ただし、計測数

が少ないことから、ここでのイネ属が畑遺構での栽培に由来するものか否かについては判断を差し控えたい。

また、植物珪酸体の保存状態が不良であり、各種類の計測数は少なかった。計測数の多いタケ亜科の植物珪酸体については、タケ亜科植物における植物珪酸体の生産量が他のイネ科植物より多い（近藤、1982：杉山、1986）ことが知られている。したがって、植物珪酸体の残留する割合が低い土壌中でもタケ亜科の植物珪酸体は残留し、タケ亜科が生育していた割合を過大に評価してしまう可能性が高い。このことから、今回の分析結果から畑遺構周辺に生育していたイネ科植物を推定するには検討の余地が残される。しかしながら、平安時代に少なくともキビ族、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族（ススキ属）などのイネ科植物が存在していたことは考えられる。

表2　上鬼柳IV遺跡の植物珪酸体分析結果

種類(Taxa)　　試料番号	①	④
イネ科葉部短細胞珪酸体		
イネ族イネ属	1	15
キビ族キビ属	3	6
キビ族エノコログサ属	1	3
キビ族(その他)	20	14
タケ亜科(その他)	38	20
ヨシ属	4	1
ウシクサ族ススキ属	1	2
イチゴツナギ亜科(その他)	-	4
不明キビ型	24	51
不明ヒゲシバ型	20	30
不明ダンチク型	26	35
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
イネ族イネ属	-	3
キビ族	6	3
タケ亜科(その他)	28	24
ヨシ属	2	1
ウシクサ族	2	5
不明	37	28
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	138	181
イネ科葉身機動細胞珪酸体	75	64
計　測　数	213	245
組　織　片		
イネ属穎珪酸体	-	8
イネ属短細胞列	1	1
イネ属機動細胞列	-	1

(4)大型植物遺体同定

(4)－１．分析方法および結果の表示法

試料約500mlを容器にいれ、５％苛性ソーダ(NaOH)水溶液を加えて一昼夜放置し、試料を泥化させる。ときどき容器を静かに振って泥化を促進させる。その後、希塩酸を加えて放置し試料を中和させた後、0.5㎜、1.0㎜、2.0㎜の篩を重ねたものに試料を通し残渣を集める。篩に残った0.5～1.0㎜、1.0～2.0㎜、2.0㎜以上のそれぞれについて、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な大型植物遺体について拾い出し、それぞれについて同定を行った。

分析結果は、一覧表で表示した（表３）。

(4)－２．結果

各試料から得られた大型植物遺体の同定結果を表３に示す。同定された大型植物遺体の形態記載は以下の通りである。

タデ科ギシギシ属（果実）　Rumex sp.　写真番号１（倍率：25倍）

果実は、黒色で光沢がある。得られた標本では、側面観は一端がやや尖る卵形、上面観は丸みを帯びる三陵形。長さ1.4㎜、幅1.0㎜程度。果皮は、やや厚く硬い。

マメ科？（種子？）　Leguminosae？　写真番号２（倍率：25倍）

マメ科の種子？と考えられる個体。炭化し、黒色。側面観は腎形、上面観は楕円形。長さ1.4㎜、幅1.1㎜。「へそ」部と考えられる部分が周囲よりくぼむ。保存状態は悪い。

スミレ科スミレ属（種子）　Viola sp.　写真番号３（倍率：40倍）

種子は炭化し、黒色。側面観は一端がやや尖る側卵形、上面観は円形。長さ1.0㎜、径0.75㎜程度。種子の表面には微細な網目模様がある。種皮は厚く、硬い。

キク科トキンソウ（果実）　Certipeda minima A.BRAUN et.ASHERSON
写真番号４（倍率：30倍）

果実は茶褐色。側面観は線形、上面観は４～５角形。長さ1.3㎜、幅0.3㎜程度。果実表面には微細な斑紋がある。果皮は、薄く柔らかい。

キク科（果実）　Compositae　写真番号５（倍率：10倍）

果実は茶褐色。側面観は狭側卵形、上面観は丸みを帯びる４角形。長さ4.8㎜、幅1.6㎜。やや炭化しているため、表面の状態は不明。

イネ科オオムギ（穎果）　Hordeum vulgare LINNNE　写真番号６～８（倍率：６倍）

穎果は炭化し、黒色。側面観は一端がやや尖り、残りの一端がやや平で丸みを帯びる楕円形。上面観は楕円形。長さは、穎果が７㎜、胚乳が５㎜程度。幅は、穎果が3.3㎜、胚乳が2.4㎜程度。胚乳の側面一端には、胚が位置する凹部があり、逆の側面には中央部に縦方向に一条の溝がある。比較的細長く、やや大型であるため、オオムギであると考えられる。一方、コムギの

特徴である比較的小型で丸みを帯びる個体は認められなかった。

イネ科オオムギ族（穎果）　Hordeae

オオムギの破片と考えられるが、破片であるためにコムギやその他のムギ類との区別が困難な個体を含めた。

イネ科イネ（胚乳）　Oryza sativa LINNNE　写真番号９（倍率：８倍）

胚乳は炭化し、黒色。側面観・上面観ともに楕円形。長さ4.5㎜、幅2.2㎜程度。胚乳側面の表面には、イネ特有の隆起構造があり、下端側方に胚が位置していた部位が認められる。イネの穎は炭化するともろく壊れやすいため、穎に包まれた状態で炭化したか否かは不明である。

不明Ａ　Undetermined A　写真番号10（倍率：40倍）

標本は炭化し、黒色。やや偏平な球形。径0.7～1.1㎜程度。表面には、網目模様状の隆起構造が認められる。

不明Ｂ　Undetermined B　写真番号11（倍率：40倍）

標本はやや炭化し、暗茶褐色。ほぼ球形。径0.5～1.0㎜程度。表面はやや滑らかであるが、微凹凸が認められる。

不明Ｃ　Undetermined C　写真番号12（倍率：40倍）

標本は炭化し、黒色。ほぼ球形。径0.6㎜程度。表面は滑らかで、光沢がある。

不明Ｄ　Undetermined D　写真番号13（倍率：15倍）

標本は茶褐色。ほぼ球形。径２㎜程度。表面には弱いいぼ状突起が疎に分布し、それ以外の部分はや滑らか。硬い。

不明Ｅ　Undetermined E　写真番号14（倍率：20倍）

標本は炭化し、黒色。ほぼ球形。径1.5㎜程度。表面にはごく弱い微凹凸が認められるが、滑らかで光沢がある。

不明Ｆ　Undetermined F　写真番号15（倍率：20倍）

標本は炭化し、黒色に近い暗茶褐色。側面観は不規則な楕円形、上面観は卵形。幅1.5㎜程度。「へそ」部と考えられる部分は大きくくぼむ。表面には縦長で細かい網目模様状の隆起が認められる。

不明Ｇ　Undetermined G　写真番号16（倍率：15倍）

標本は淡茶褐色。側面観・上面観ともに楕円形。径2.5㎜程度。表面には不規則な弱い凹凸があり、やや弾力がある。

不明Ｈ　Undetermined H　写真番号17（倍率：20倍）

標本は暗赤褐色。側面観・上面観ともに楕円形。長さ1.5㎜、幅0.9㎜。表面に微凹凸があり、やや弾力がある。

不明Ⅰ　Undetermined Ⅰ　写真番号18・19（倍率：２倍）

標本は淡茶褐色。側面観は楕円形、上面観はほぼ円形。上面観に陵をもつ個体がある。いろいろな産出状態が認められ、２個体が連結状態のもの、地下茎？に付き根を出しているものなどがある。

(4)－３．考察

固定された大型植物遺体は、一部で保存状態のよい個体が認められるものの、大部分は炭化が進んでおり保存状態は不良であった。

保存状態がよい個体の中には発芽している個体もあったが、埋積した種子がこのような状態で残留しているとは考えにくい。したがって、保存状態のよい個体は土壌生物の活動などによって、現地表面から下位に落ち込んだ可能性が高いと思われる。

また、大部分の個体において保存状態が不良であった原因としては、分析を行った試料が畑作にともなう土壌であったためと思われる。すなわち、畑作土は一般的に好気的で土壌微生物の活性が高く、ミミズなどの土壌生物も多く生育しているため有機物の分解が進みやすい。このような理由により、畑作土中に埋没した大型植物遺体の炭化が進んだものと考えられる。

以上、今回得られた大型植物遺体の組成は埋積後から現在にいたる植物の情報を反映しているものと考えられる。そのため、このことを考慮にいれて現在までの植物相について考察を行う。

本遺構の周辺では、ギシギシ属・マメ科・スミレ属・トキンソウ・キク科が、遺跡周辺の草地に生育していた可能性が考えられる。また栽培植物であるオオムギおよびイネが検出されていることから、遺跡周辺での栽培が考えられる。

５．まとめ

今回の分析調査では、畑遺構から採取された試料についてテフラ分析と植物珪酸体分析および大型植物遺体同定を実施した。

テフラ分析の結果、溝内に混入していた火山灰は十和田ａテフラであることが判明した。このことから、畑遺構が平安時代に属すことが確認された。

植物珪酸体分析および大型植物遺体同定の結果からは、畝の土壌中に栽培植物とされるイネおよびオオムギの種子やイネ属の葉部が埋積していたと推定される。これより、平安時代以降に畑遺構あるいはその周辺でイネあるいはオオムギの栽培が営まれた可能性が考えられる。また、その頃には、畑遺構周辺で少なくともギシギシ属・マメ科・スミレ属・キク科（トキンソウなど）・キビ族・タケ亜科・ヨシ属・ウシクサ族（ススキ属）などの草本植物が生育していたと思われる。

引用文献

(テフラ分析)

町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）日本海を渡ってきたテフラ。科学、51、P.562－569.町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学－考古学研究と関係するテフラのカタログ－。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」P.865－928.

(植物珪酸体分析)

近藤錬三(1982)Plant opal分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究。昭和56年度科学研究費（一般研究C）研究成果報告書、32P.

(1983) 植物珪酸体（プラント・オパール）分析の農学および理学への応用。十勝農学談話会誌、24、P.66－83.

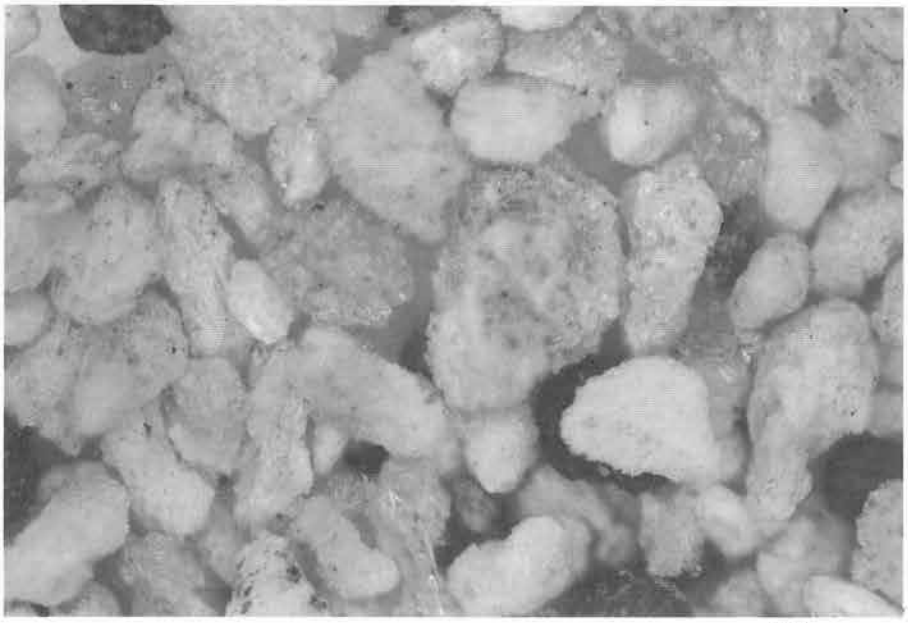
・佐藤隆(1986)植物珪酸体分析、その特性と応用。第四紀研究、25、P.31－64.杉山真二(1986)機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－。考古学と自然科学、19、P.69－84.

表３　上鬼柳Ⅳ遺跡試料の種子分析結果

種　類	部位	①		②			③			④			⑤			⑥		
		0.5~1.0	1.0~2.0	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0~	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0~	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0~	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0~	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0~
草本種子																		
ギシギシ属	果実		1		1													
マメ科?	種子													1				
スミレ属	種子									1							1	
トキンソウ	果実	1								1			4					
キク科	果実																	1
オオムギ	穎果					1						3						
オオムギ族	穎果											3						1
イネ	胚乳											2						
不明種子																		
A		4	1	15				1		8			20			17		
B		10		3			8		1	8			3	2		14	1	
C		1		2			3											
D						1												
E		1		1				1		1						2		
F											1							
G						1						1						
H													2					
I						4			8			5		11				2
合　計		17	2	21	1	7	11	2	9	19	1	14	29	14	0	33	2	4

①～⑥の段は試料番号を、その下段は種子の大きさ（単位：mm）を示す。

1mm



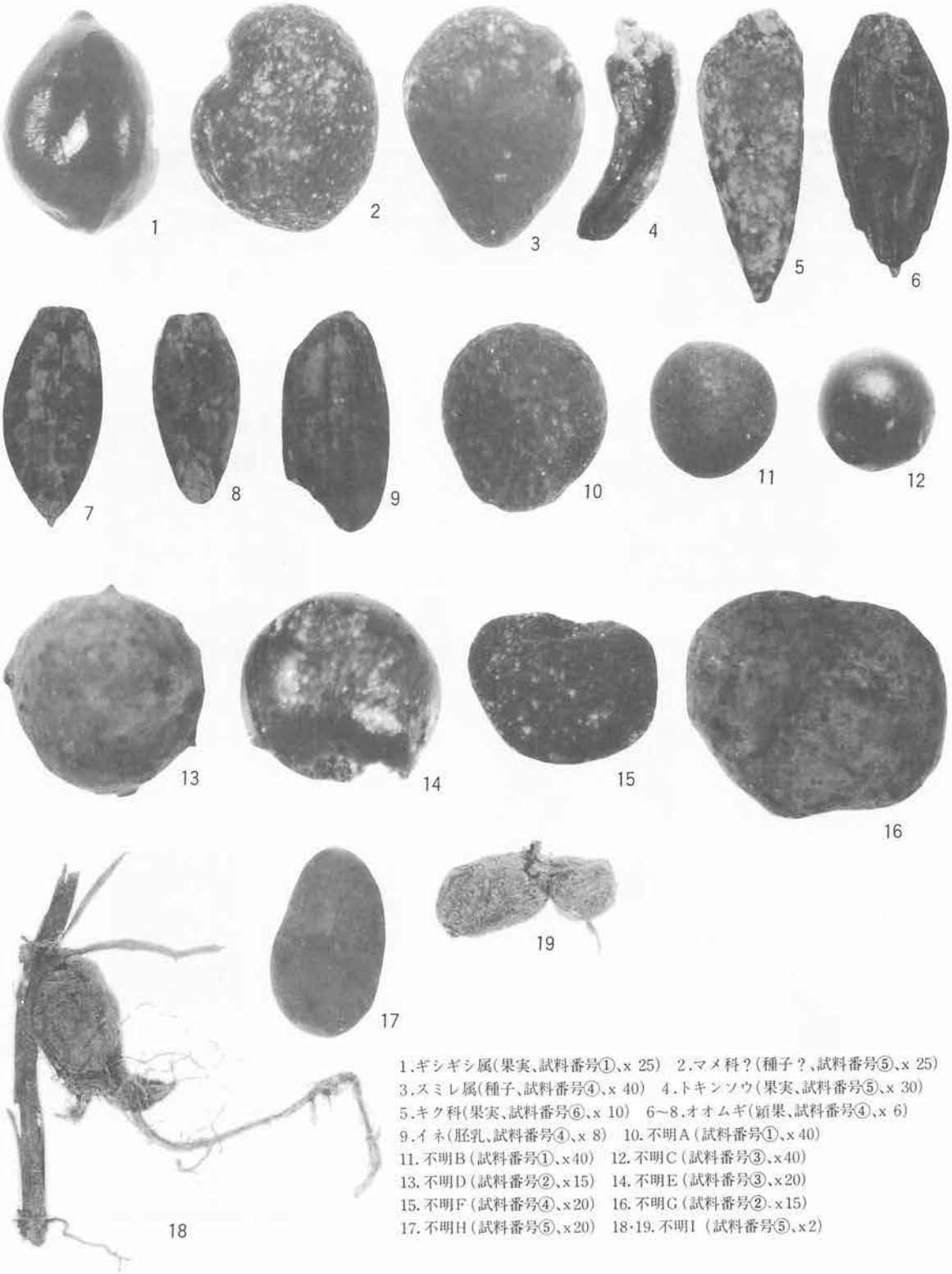
1mm

図版１　上鬼柳Ⅳ遺跡　十和田ａテラフ写真（試料番号①）

図版２　植物珪酸体顕微鏡写真の説明

写真番号		試料番号
1	イネ族イネ属（葉身機動細胞由来）	4
2	イネ族イネ属（葉部短細胞列）	4
3	イネ族イネ属（穎珪酸体）	4
4	キビ属　（葉身機動細胞由来、側面）	4
5	キビ族キビ属（葉部短細胞由来）	4
6	キビ族エノコログサ属（葉部短細胞由来）	1
7	タケ亜科　（葉身機動細胞由来）	1
8	タケ亜科　（葉部短細胞由来）	1
9	タケ亜科　（葉身機動細胞由来）	4
10	タケ亜科　（葉部短細胞由来）	4
11	ウシクサ族　（葉身機動細胞由来、側面）	1
12	ウシクサ族ススキ属（葉部短細胞由来）	4
13	イチゴツナギ亜科（葉部短細胞由来）	4

図版２　植物珪酸体顕微鏡写真



1.ギシギシ属(果実、試料番号①、x 25)　2.マメ科？(種子？、試料番号⑤、x 25)
3.スミレ属(種子、試料番号④、x 40)　4.トキンソウ(果実、試料番号⑤、x 30)
5.キク科(果実、試料番号⑥、x 10)　6～8.オオムギ(穎果、試料番号④、x 6)
9.イネ(胚乳、試料番号④、x 8)　10.不明A(試料番号①、x 40)
11.不明B(試料番号①、x40)　12.不明C(試料番号③、x40)
13.不明D(試料番号②、x15)　14.不明E(試料番号③、x20)
15.不明F(試料番号④、x20)　16.不明G(試料番号②、x15)
17.不明H(試料番号⑤、x20)　18･19.不明I(試料番号⑤、x2)

図版3　種子顕微鏡写真　顕微鏡写真

図版２　植物珪酸体顕微鏡写真のネガ説明

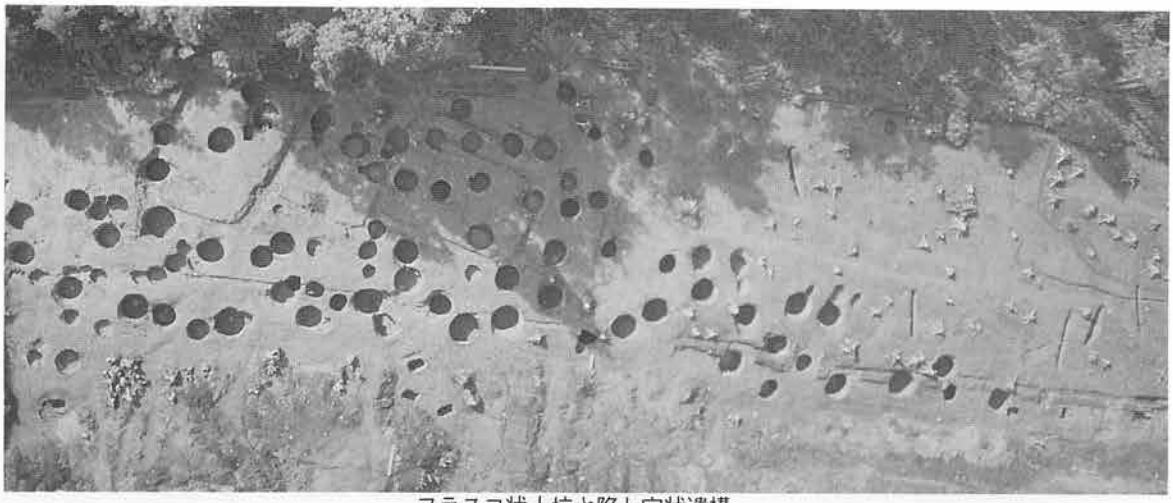
ネガ番号		試料番号	写真番号
1	スケール（小目盛りが10μm）		
2	タケ亜科　（葉身機動細胞由来）	1	7
3	タケ亜科　（葉部短細胞由来）	1	8
4	キビ族キビ属（葉部短細胞由来）	1	
5	ヨシ属　（葉部短細胞由来）	1	
6	ウシクサ族　（葉身機動細胞由来、側面）	1	11
8	イネ族イネ属（葉部短細胞列）	1	
9	ウシクサ族ススキ属 （葉部短細胞由来）	1	
10	タケ亜科　（葉身機動細胞由来）	1	
11	キビ族エノコログサ属 （葉部短細胞由来）	1	6
12	キビ族　（葉身機動細胞由来、側面）	1	
13	タケ亜科　（葉部短細胞由来）	4	
14	イネ族イネ属（葉部短細胞由来）	4	
15	ウシクサ族ススキ属 （葉部短細胞由来）	4	12
16	イネ族イネ属（葉身機動細胞由来）	4	1
17	イチゴツナギ亜科 （葉部短細胞由来）	4	13
18	キビ族キビ属（葉部短細胞由来）	4	5
19	イネ族イネ属（穎珪酸体）	4	
20	タケ亜科　（葉身機動細胞由来）	4	9
21	イネ族イネ属（葉部短細胞列）	4	2
22	キビ族　（葉身機動細胞由来、側面）	4	4
23	イネ族イネ属（穎珪酸体）	4	3
24	タケ亜科　（葉部短細胞由来）	4	10

写　真　図　版

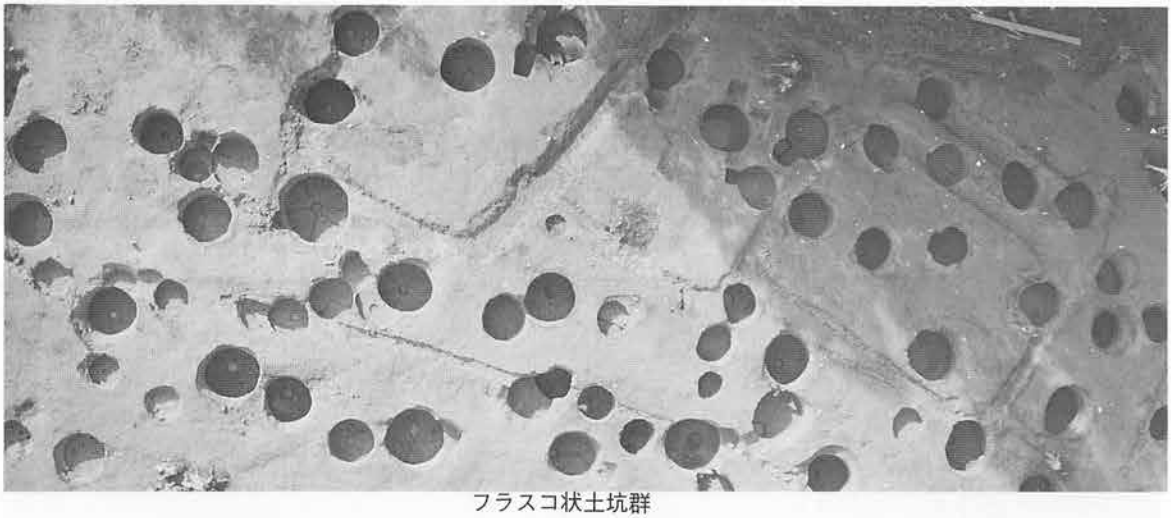
遺跡遠景（西から）

遺跡全景

写真図版１　空中写真



フラスコ状土坑と陥し穴状遺構



フラスコ状土坑群

基本層序

作業風景

写真図版２　遺構群・基本層序等

住居跡全景

埋土土層断面

カマド全景

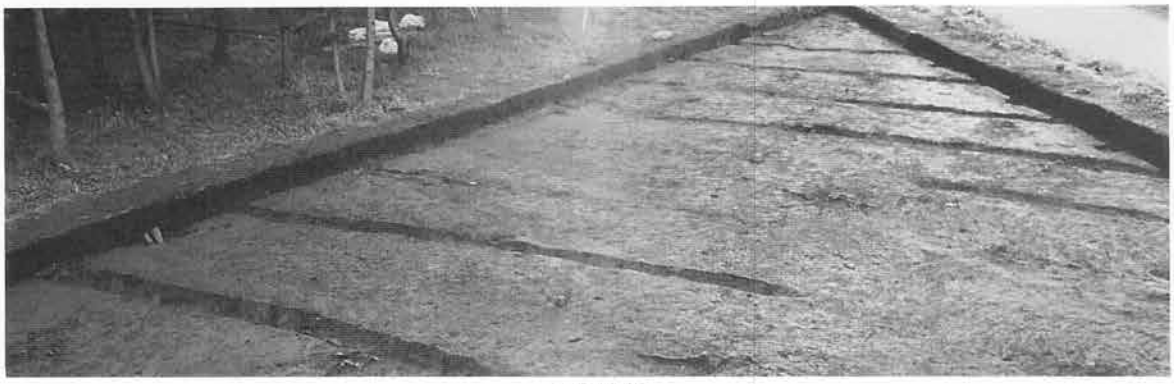
カマド断面

写真図版３　C Ⅱ e2 住居跡

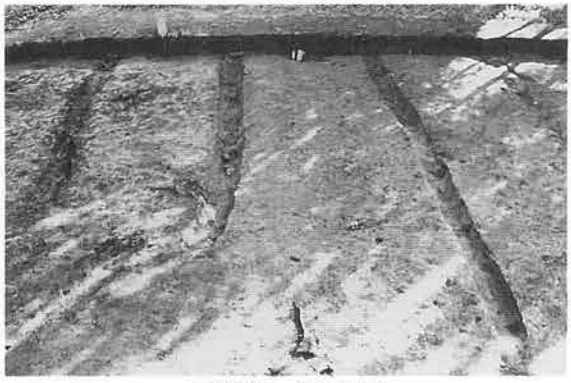
検出状況

完掘状況

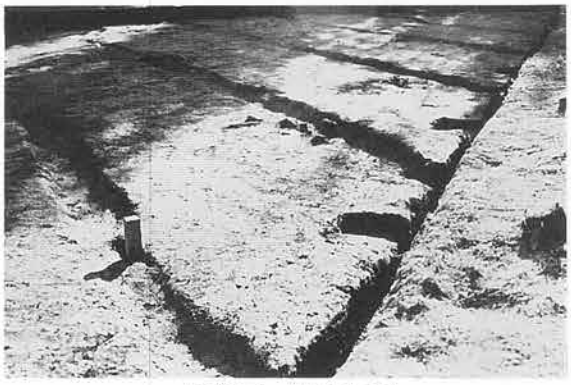
写真図版４　畑地跡(1)



完掘状況



畝溝拡大（北から）



畝溝拡大（北東から）

北西壁（A－B）土層断面

畝溝３断面（A－B）

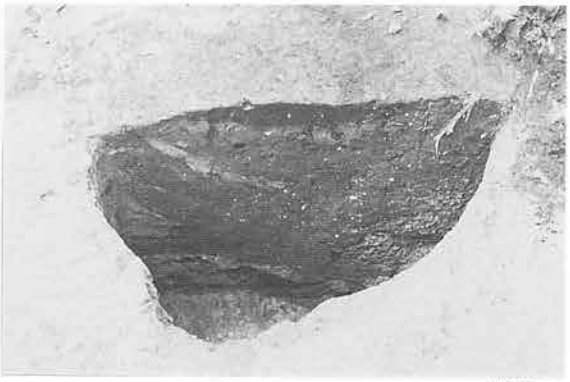
畝溝４断面（A－B）

畝溝２断面（C－D）

畝溝９断面（C－D）

写真図版５　畑地跡(2)

ＢⅡｄ６土坑平面

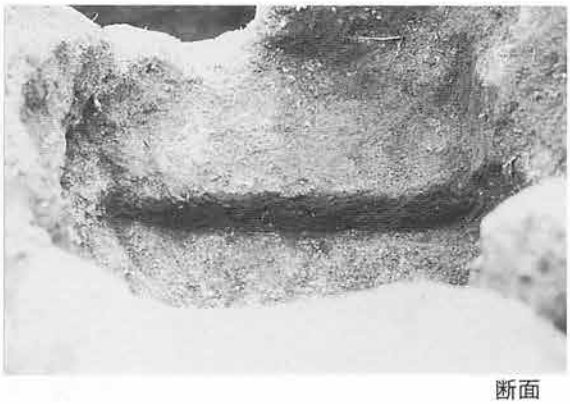


断面

ＢⅡｅ①土坑平面

断面

ＢⅡｅ６②土坑平面



断面

ＢⅡｅ６③土坑平面

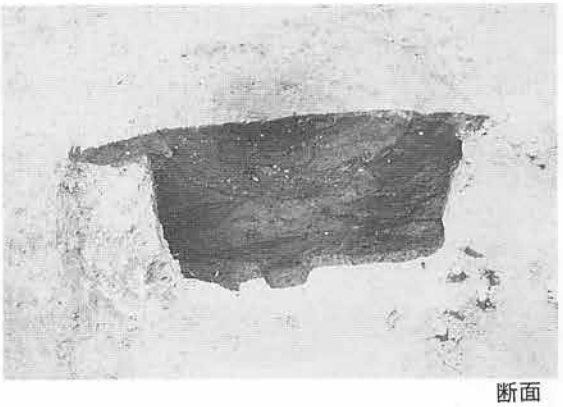
断面

写真図版６　土坑(1)

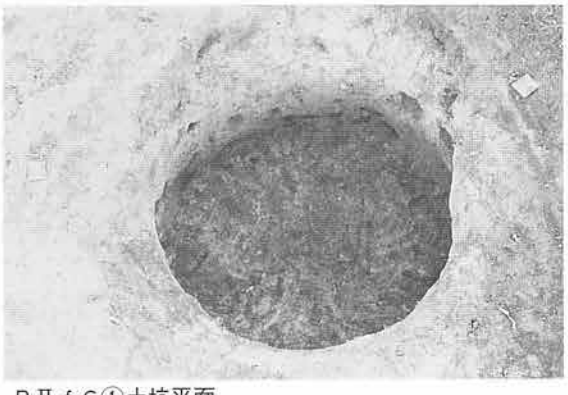
ＢⅡｅ７土坑平面

断面

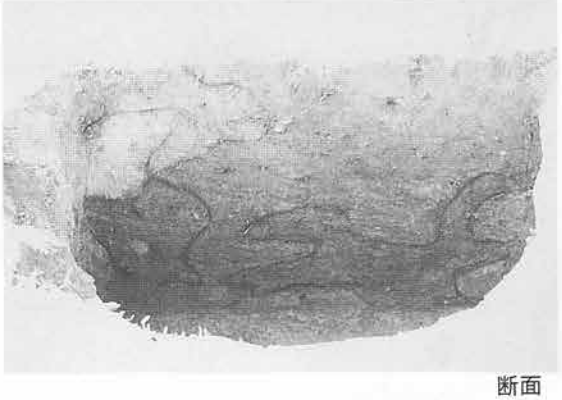
ＢⅡｅ８土坑平面



断面

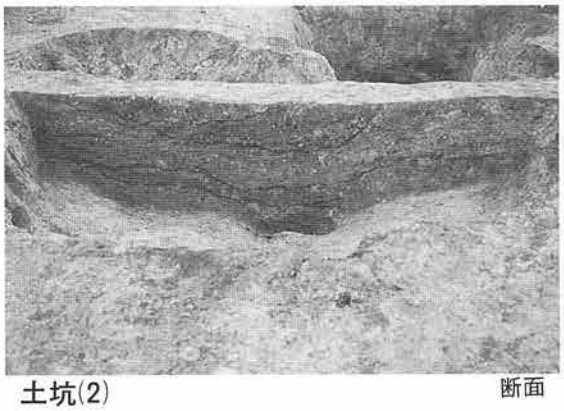


ＢⅡｆ６①土坑平面



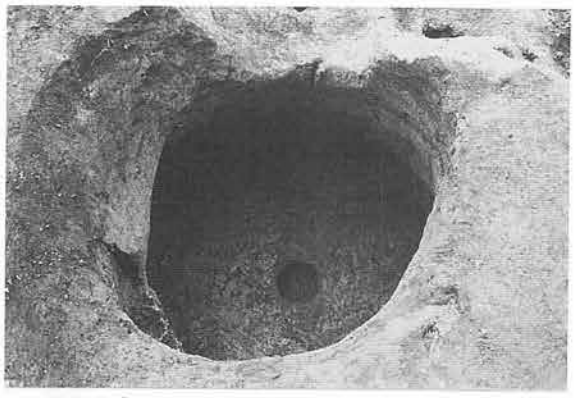
断面

ＢⅡｆ６②土坑平面

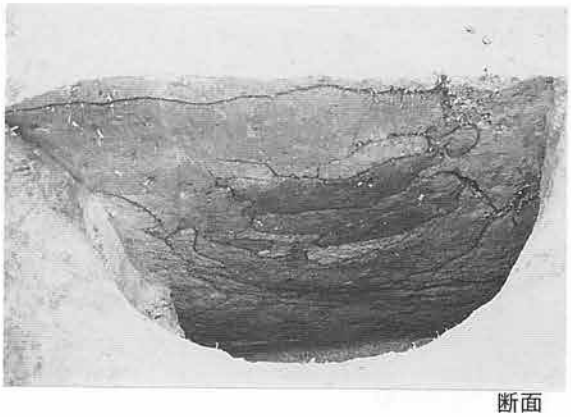


断面

写真図版７　土坑(2)



ＢⅡｆ７①土坑平面

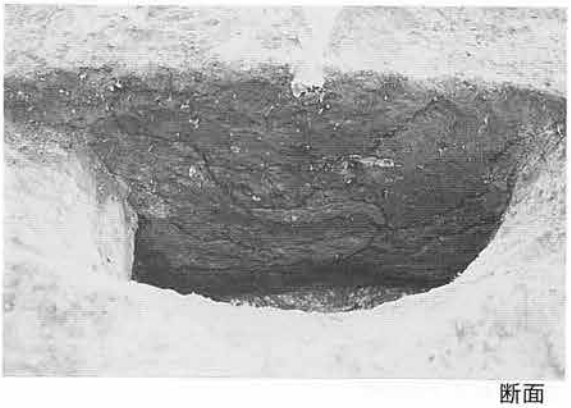


断面

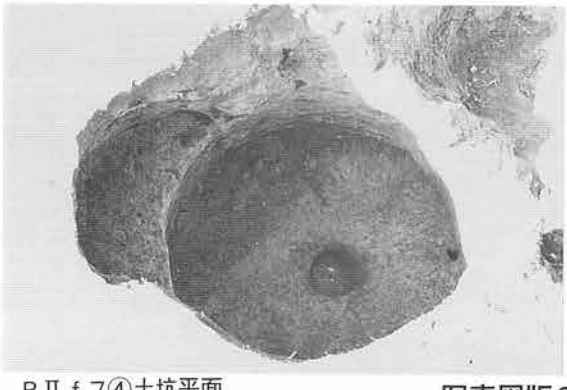
ＢⅡｆ７②土坑平面

断面

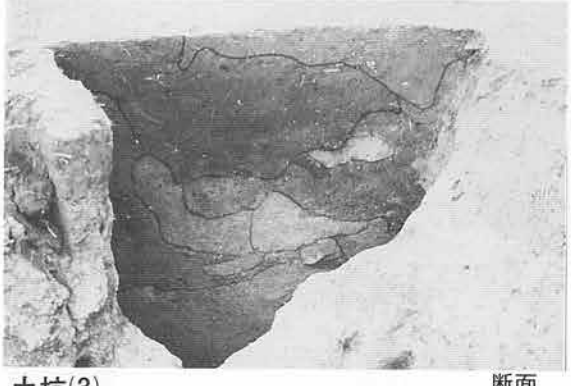
ＢⅡｆ７③土坑平面



断面



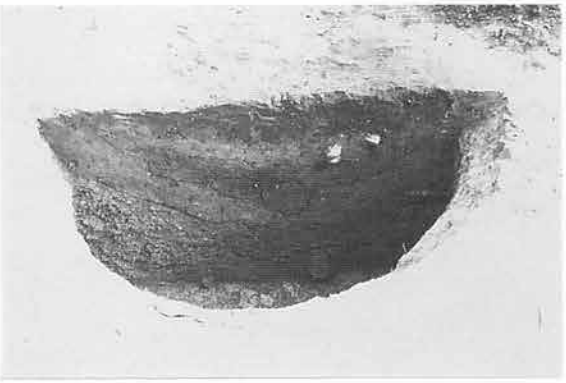
ＢⅡｆ７④土坑平面



断面

写真図版８　土坑(3)

BⅡｆ８①土坑平面

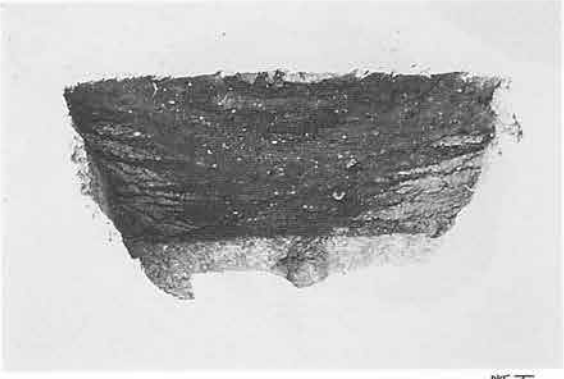


断面

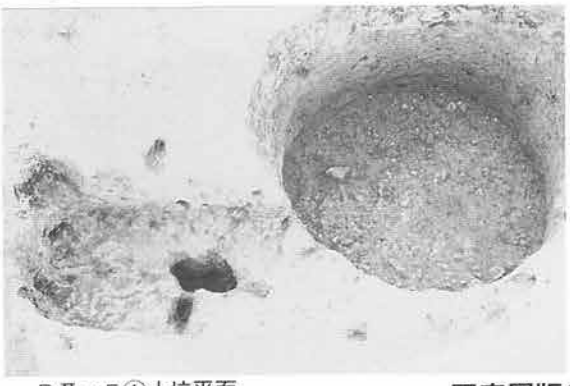
BⅡｆ８②土坑平面

断面

BⅡｆ９土坑平面



断面



BⅡｇ５①土坑平面

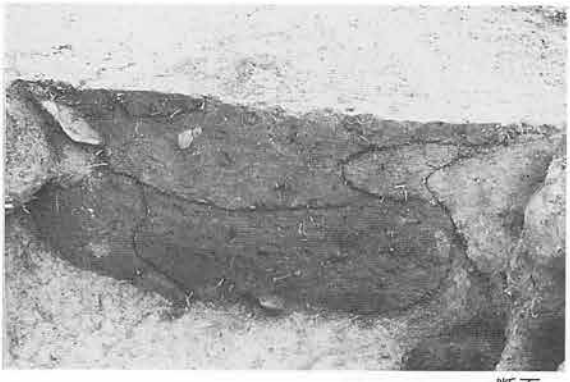
断面

写真図版９　土坑(4)

ＢⅡｇ６①土坑平面

断面

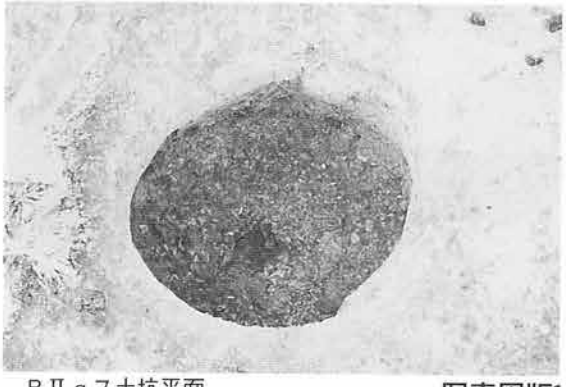
ＢⅡｇ６②土坑平面



断面

ＢⅡｇ６③土坑平面

断面

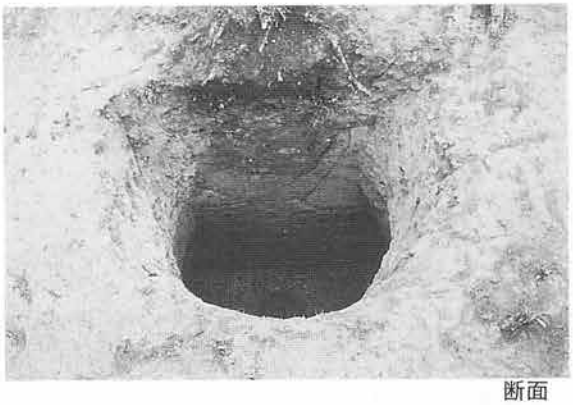


ＢⅡｇ７土坑平面

断面

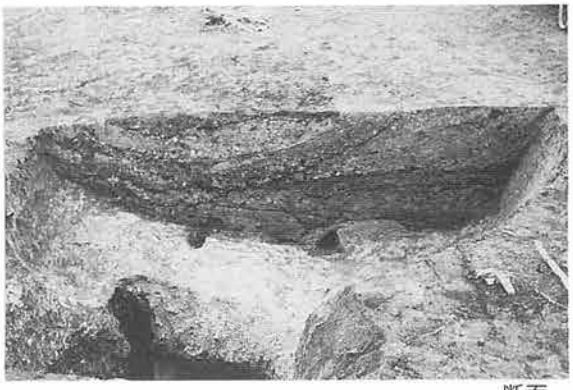
写真図版10　土坑(5)

ＢⅡｇ８①土坑平面



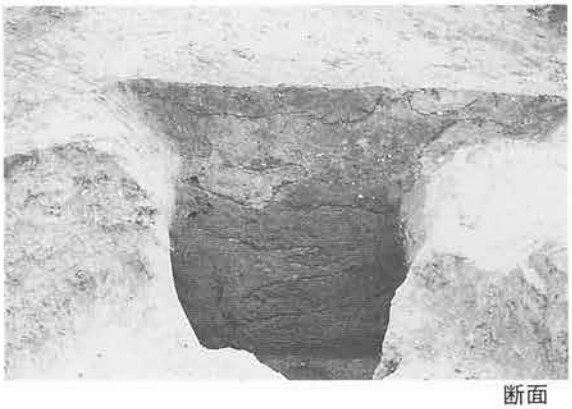
断面

ＢⅡｇ８②土坑平面



断面

ＢⅡｇ８④土坑平面



断面

ＢⅡｇ９①土坑平面

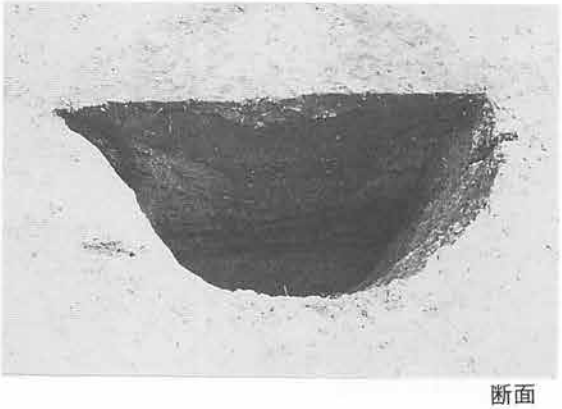
断面

写真図版11　土坑(6)

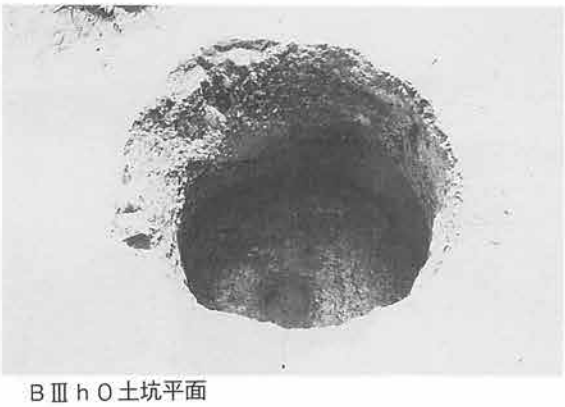
ＢⅡｇ９②土坑平面

断面

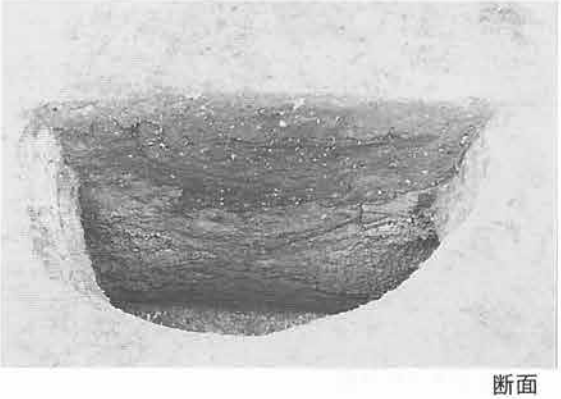
ＢⅢｇ０土坑平面



断面

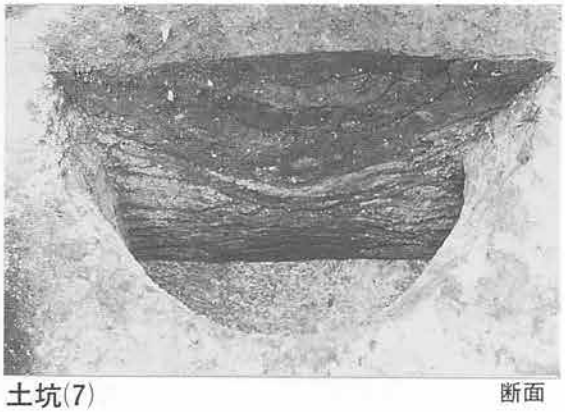


ＢⅢｈ０土坑平面



断面

ＢⅢｈ２土坑平面



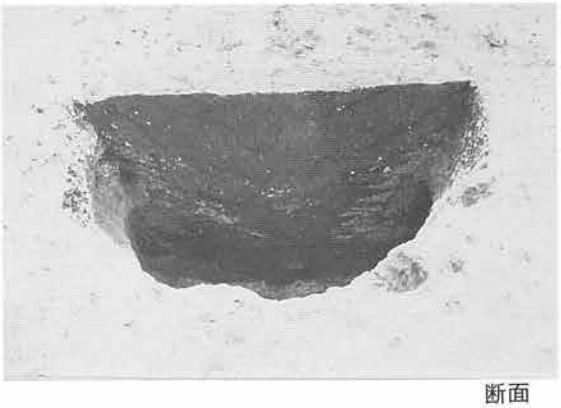
断面

写真図版12　土坑(7)

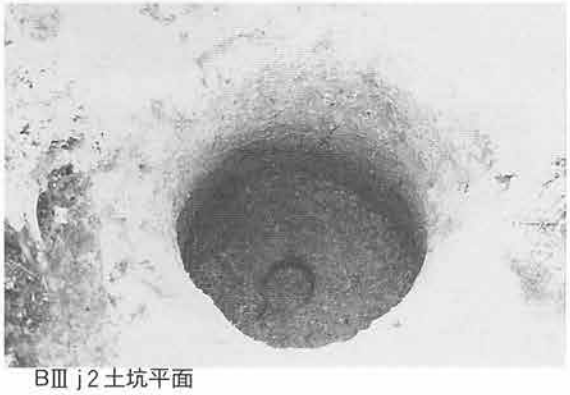
BⅢｉ２土坑平面

断面

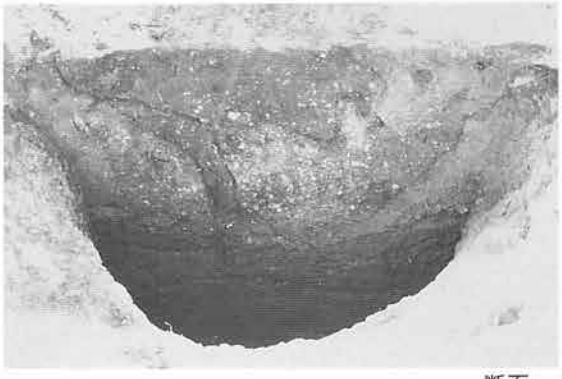
BⅢｉ３土坑平面



断面

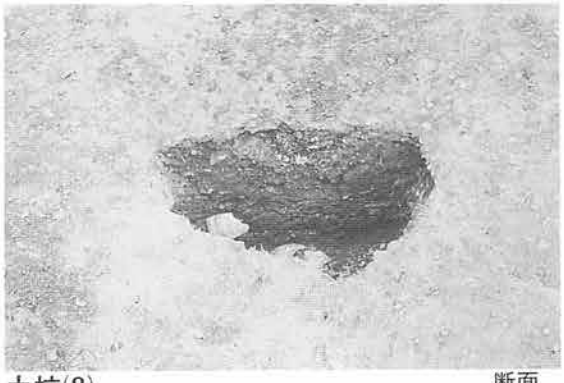


BⅢｊ2土坑平面



断面

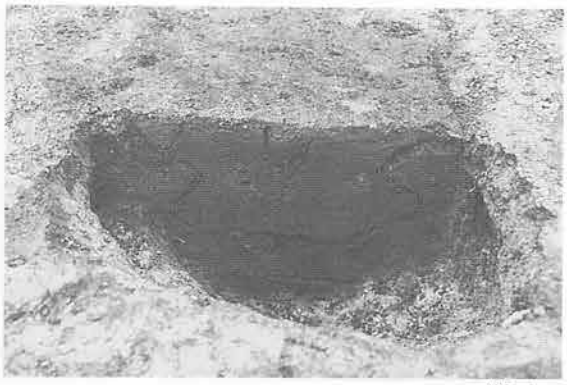
ＢＶｇ５土坑平面



断面

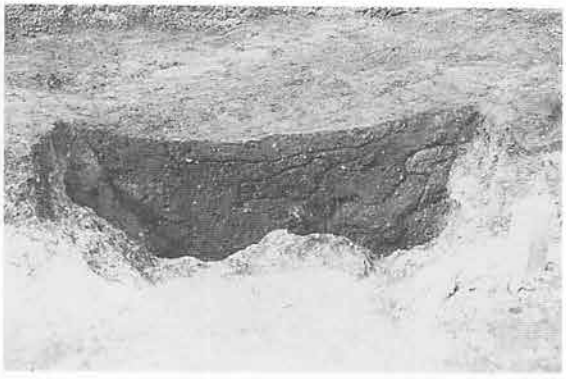
写真図版13　土坑(8)

CⅡｄ０土坑平面



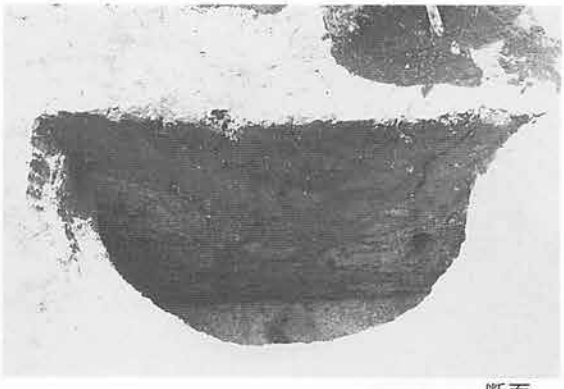
断面

CⅣＣ２土坑平面

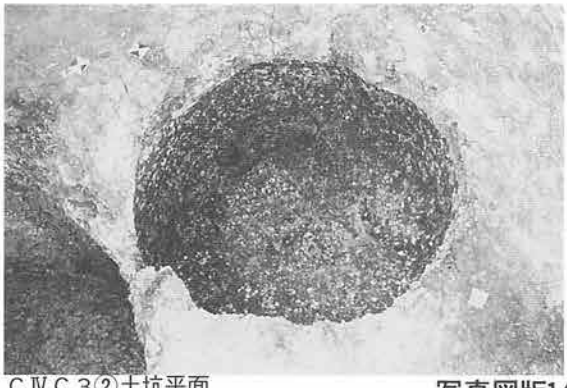


断面

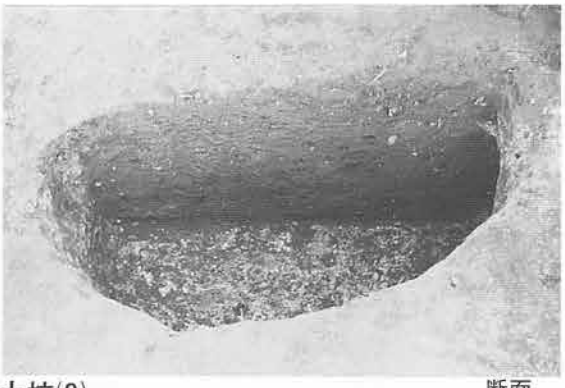
CⅣＣ３①土坑平面



断面



CⅣＣ３②土坑平面



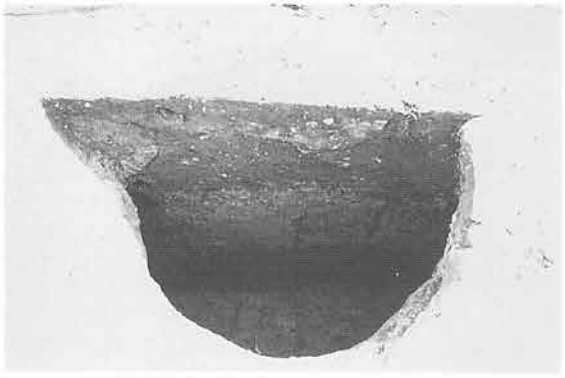
断面

写真図版14　土坑(9)

CⅣd4①土坑平面

断面

CⅣd4②土坑平面

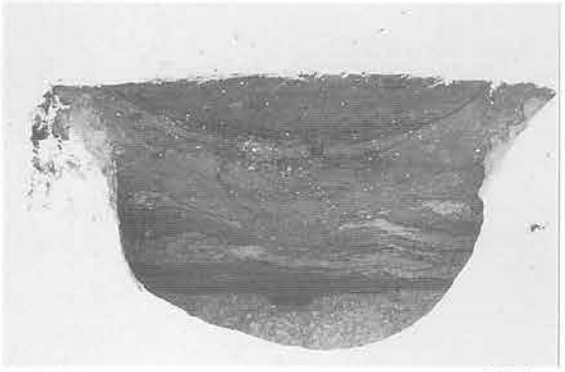


断面

CⅣd5土坑平面

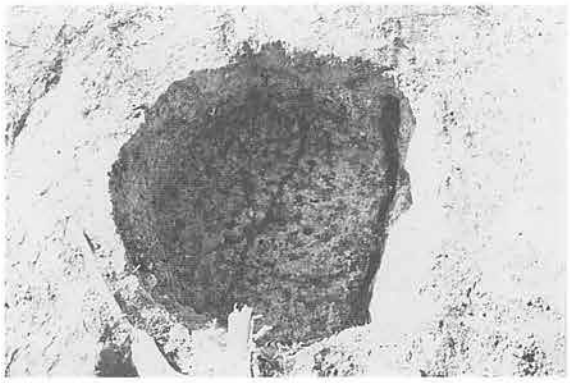
断面

CⅣd6土坑平面

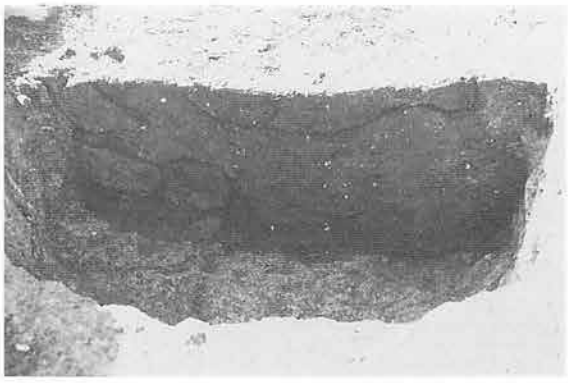


断面

写真図版15　土坑(10)



CⅣe6土坑平面



断面

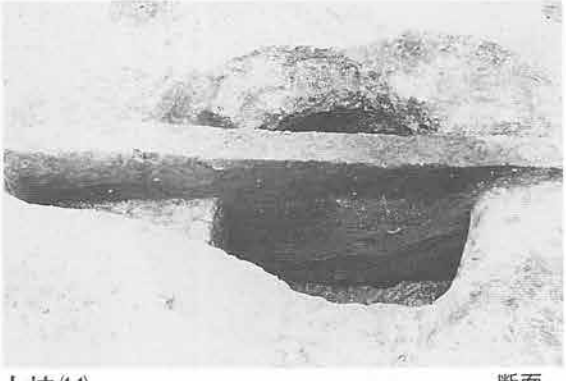
CⅣe7土坑平面

断面

CⅣe8土坑平面

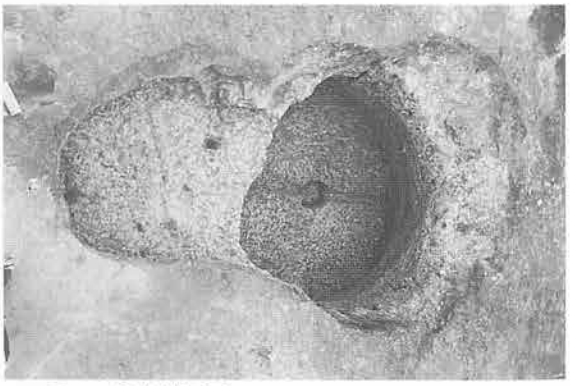
断面

CⅣf6①土坑平面

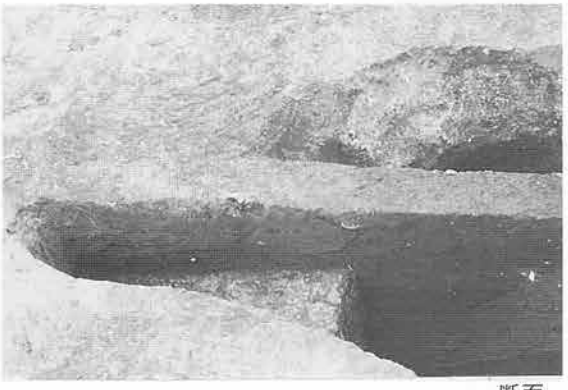


断面

写真図版16　土坑(11)



CⅣｆ６②土坑平面

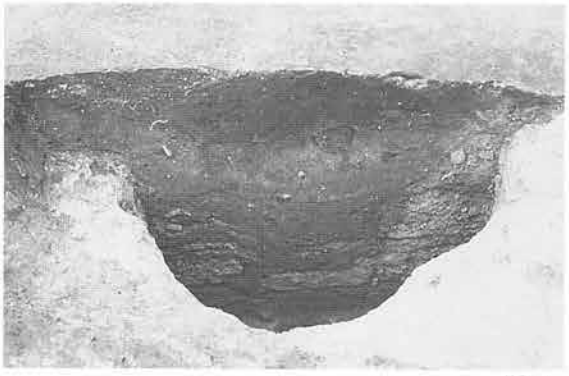


断面

CⅣｆ６③土坑平面

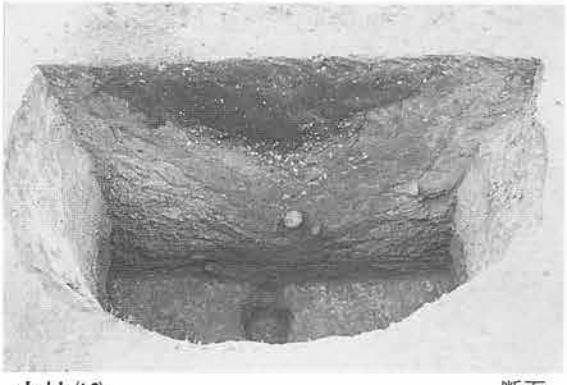
断面

CⅣｆ７①土坑平面



断面

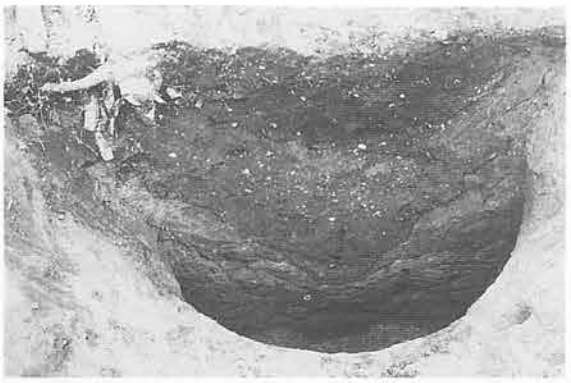
CⅣｆ７②土坑平面



断面

写真図版17　土坑(12)

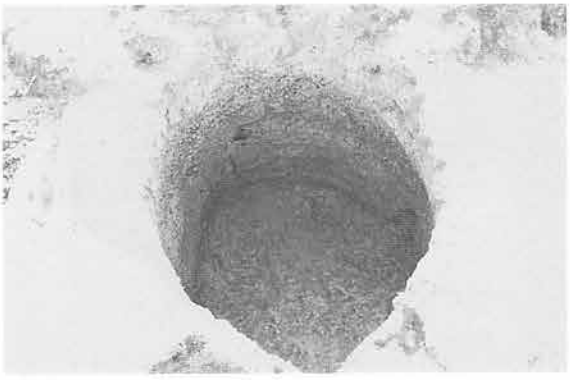
CⅣｆ８①土坑平面



断面

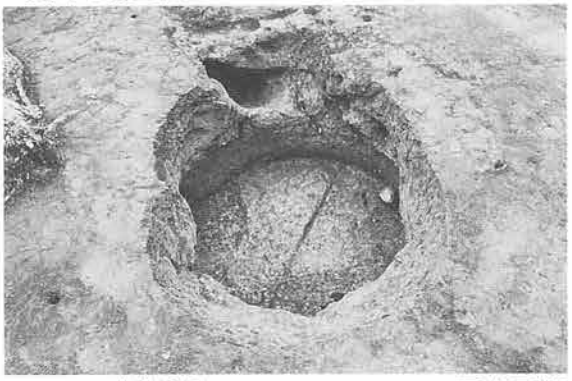
CⅣｆ８②土坑平面

断面



CⅣｆ９①土坑平面

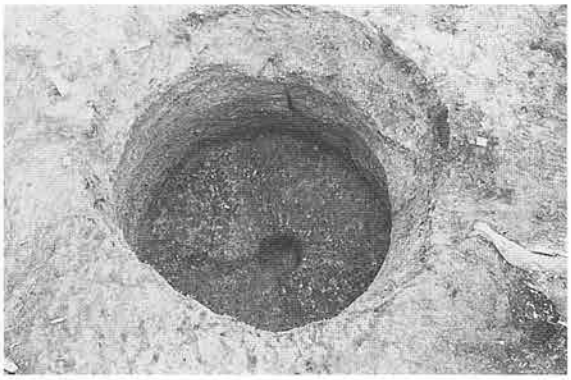
断面



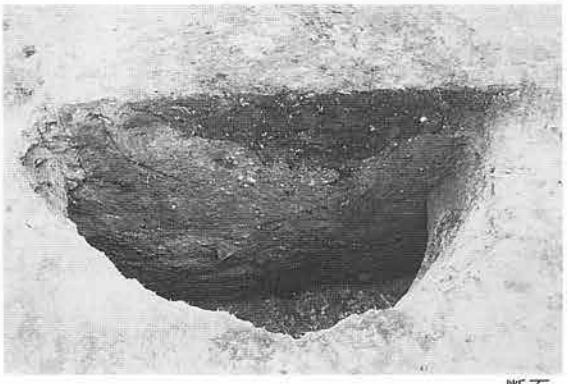
CⅣｇ８土坑平面

断面

写真図版18　土坑(13)



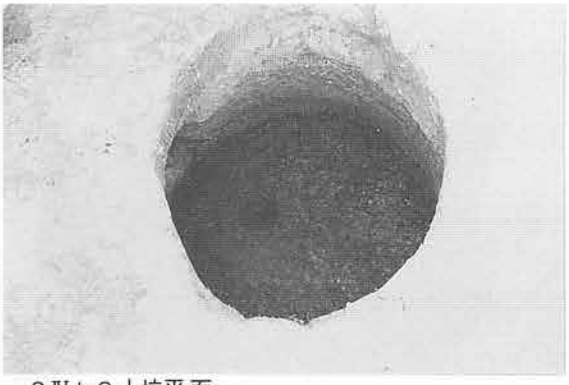
CⅣg９土坑平面



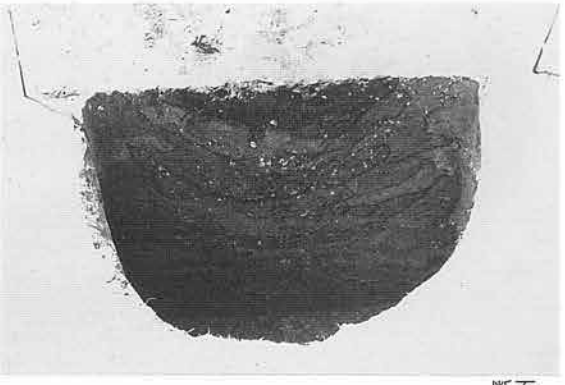
断面

CⅣh８土坑平面

断面

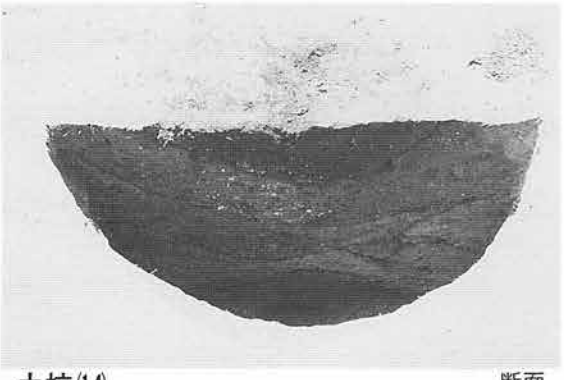


CⅣh９土坑平面



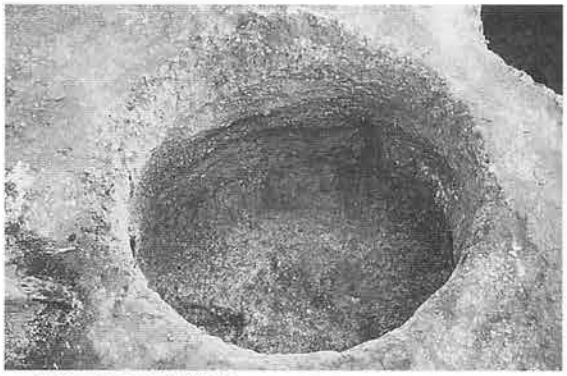
断面

CⅤg０①土坑平面

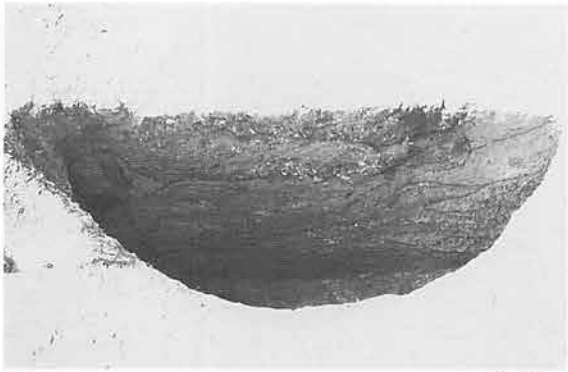


断面

写真図版19　土坑(14)

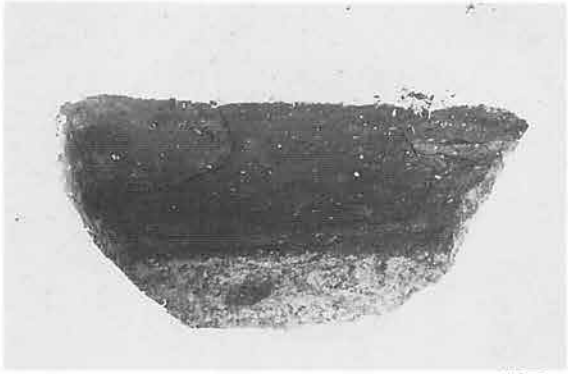


ＣＶｇＯ②土坑平面



断面

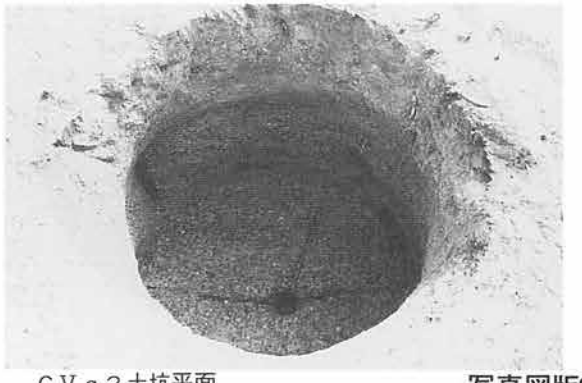
ＣＶｇ１①土坑平面



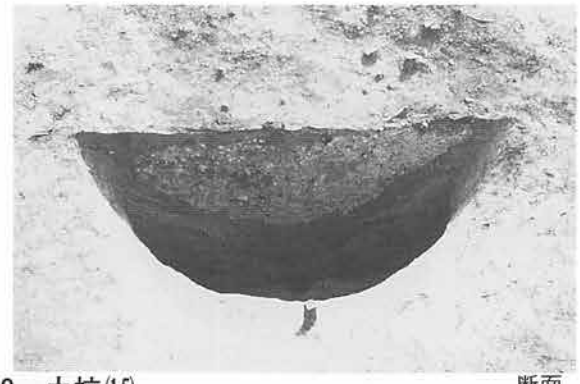
断面

ＣＶｇ１②土坑平面

断面



ＣＶｇ２土坑平面

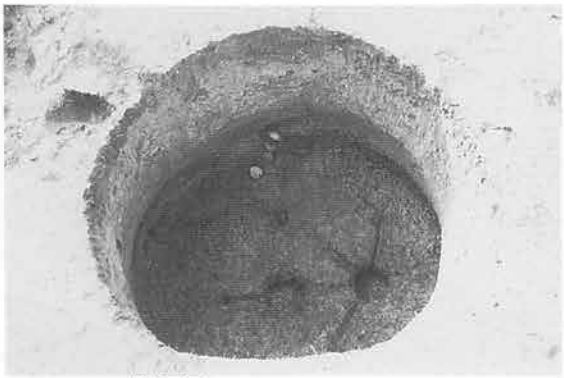


断面

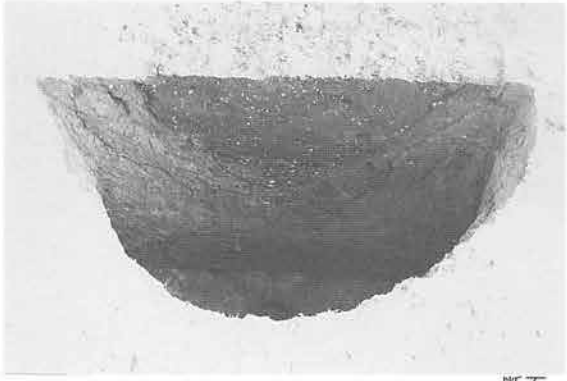
写真図版20　土坑(15)

ＣⅤｈ０土坑平面

断面

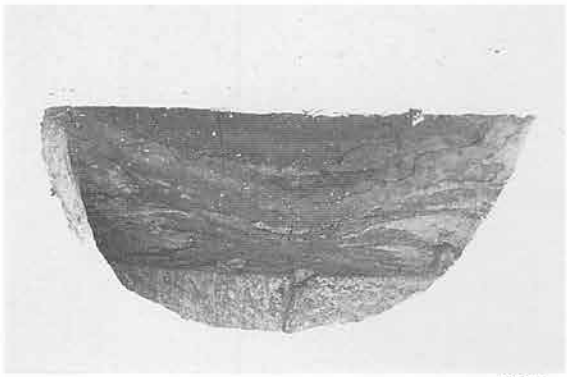


ＣⅤｈ２土坑平面



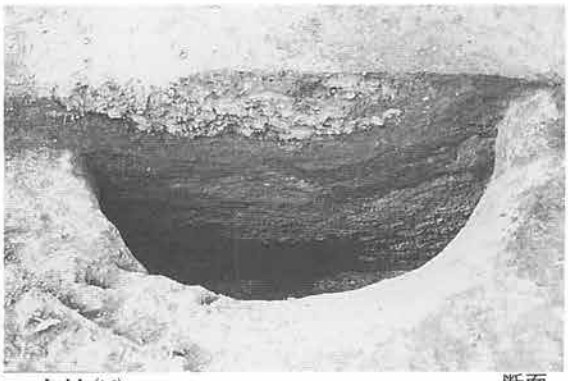
断面

ＣⅤｈ３①土坑平面



断面

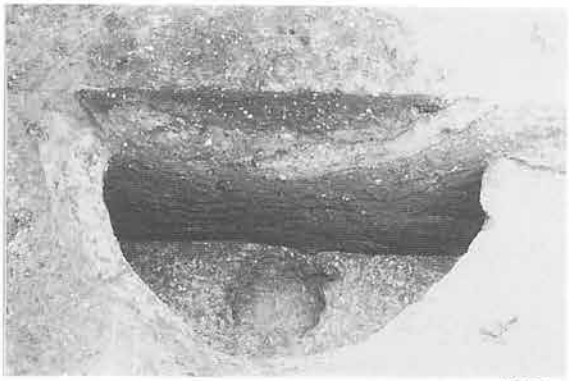
ＣⅤｈ３②土坑平面



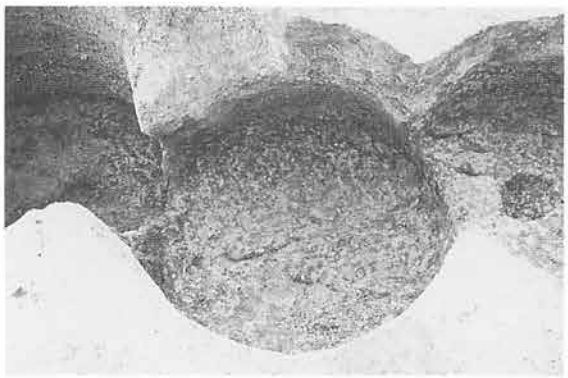
断面

写真図版21　土坑(16)

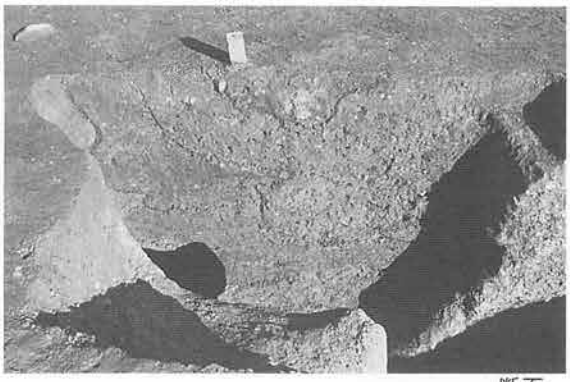
ＣＶｈ４土坑平面



断面



ＣＶｈ５土坑平面



断面

ＣＶｉ０土坑平面

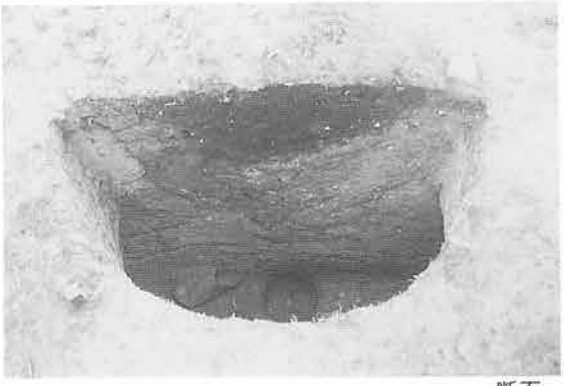
断面

ＣＶｉ１①土坑平面

断面

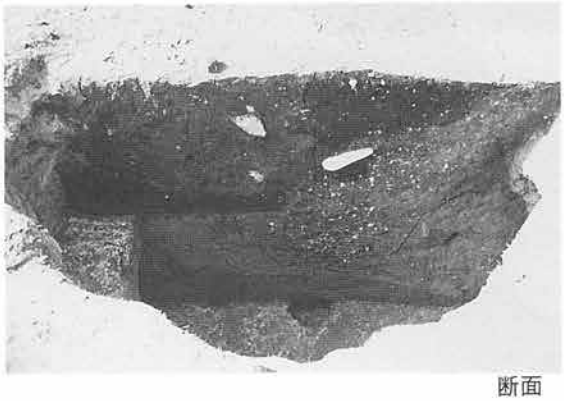
写真図版22　土坑(17)

ＣＶｉ１②土坑平面



断面

ＣＶｉ２①土坑平面

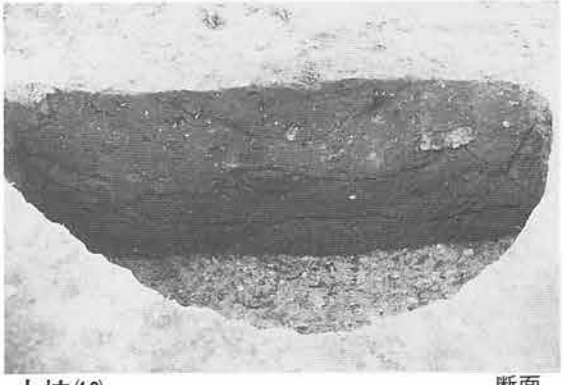


断面

ＣＶｉ２②土坑平面

断面

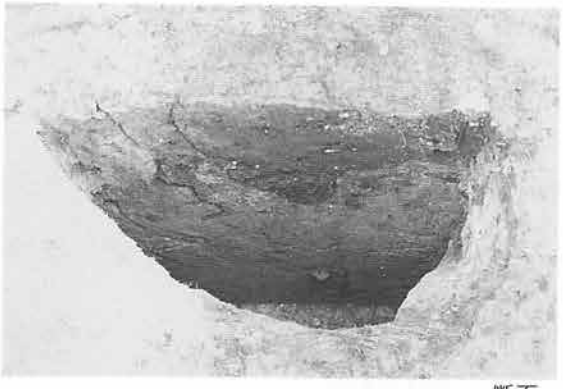
ＣＶｉ３土坑平面



断面

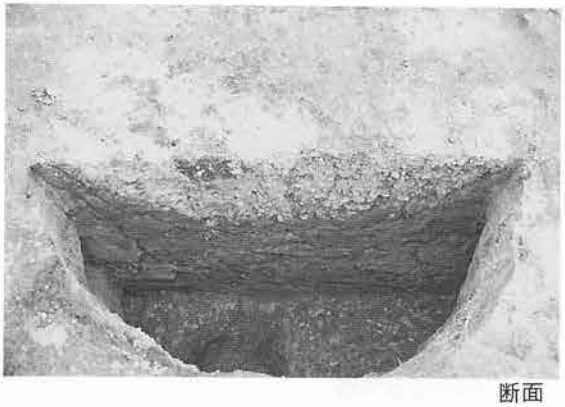
写真図版23　土坑(18)

ＣＶｉ４①土坑平面



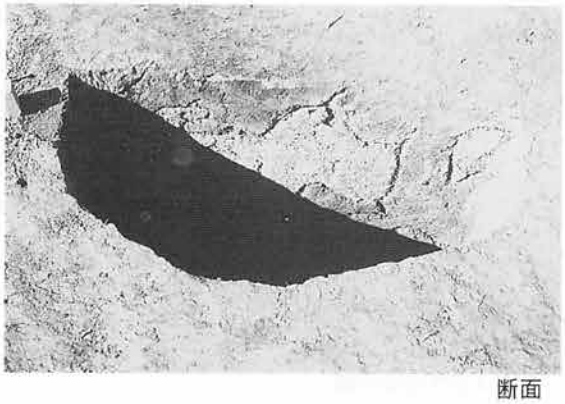
断面

ＣＶｉ４②土坑平面

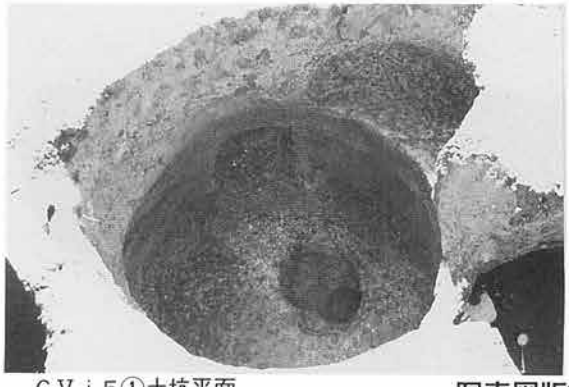


断面

ＣＶｉ４③土坑平面



断面



ＣＶｉ５①土坑平面

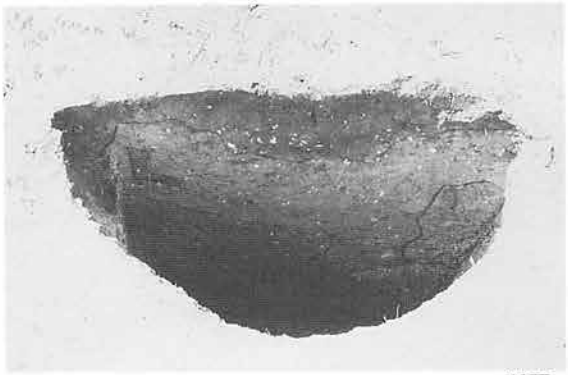
断面

写真図版24　土坑(19)

ＣＶｉ５②土坑平面

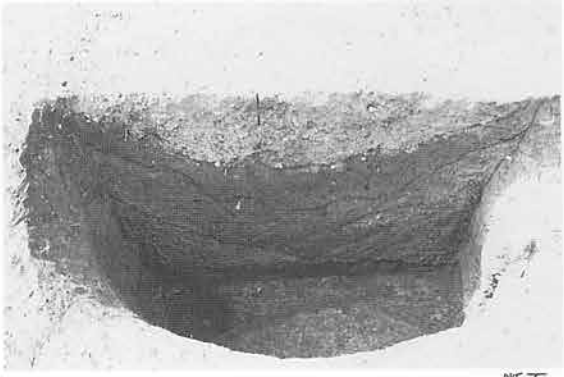
断面

ＣＶｉ５③土坑平面



断面

ＣＶｉ６①土坑平面



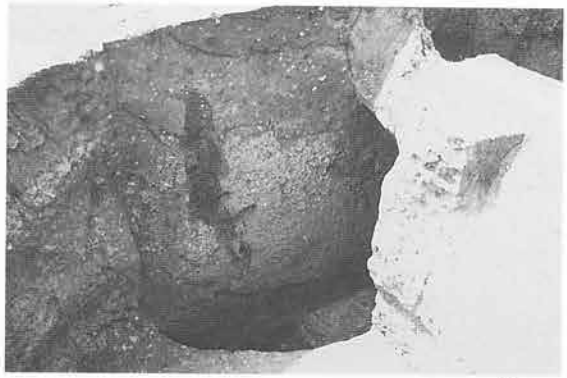
断面

ＣＶｉ６②土坑平面

断面

写真図版25　土坑(20)

ＣＶｉ６③土坑平面



断面

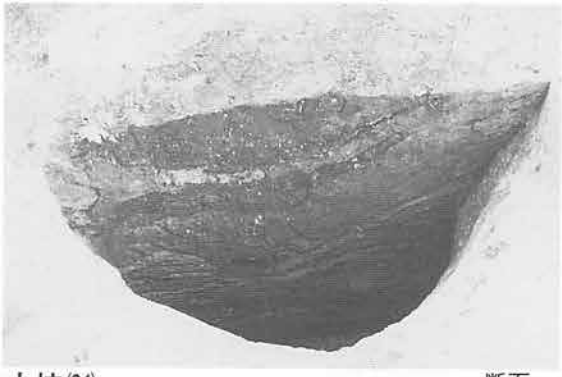
ＣＶｉ６④土坑平面

断面

ＣＶｉ７土坑平面

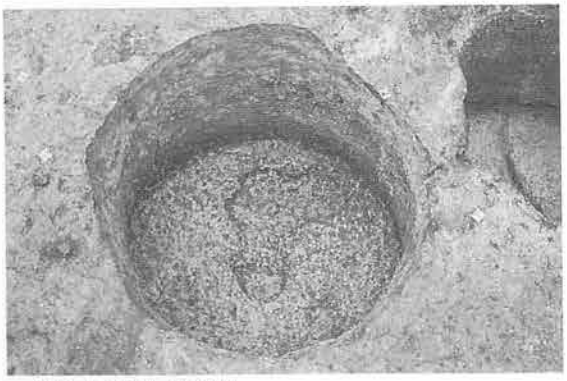
断面

ＣＶｉ８①土坑平面

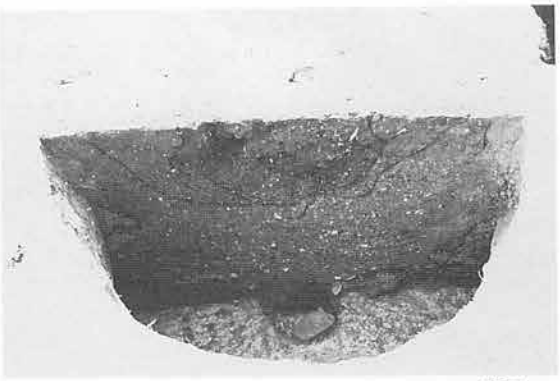


断面

写真図版26　土坑(21)



ＣＶｉ８②土坑平面

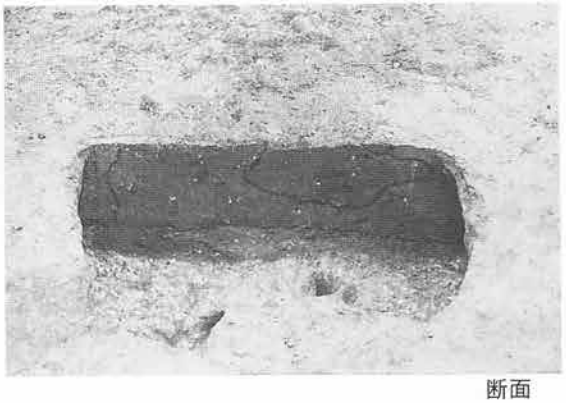


断面

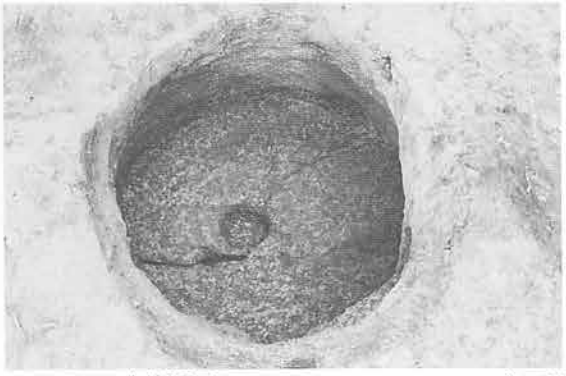
ＣＶｉ８③土坑平面

断面

ＣＶｉ９土坑平面



断面



ＣＶｊ０土坑平面

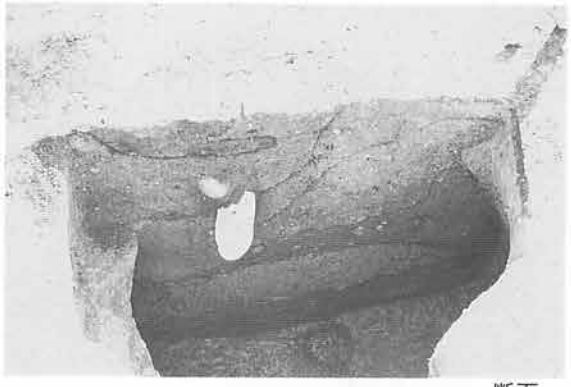
断面

写真図版27　土坑(22)

ＣＶｊ１①土坑平面

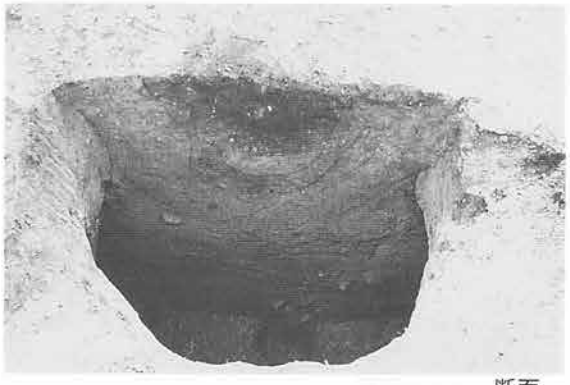
断面

ＣＶｊ２土坑平面



断面

ＣＶｊ３土坑平面



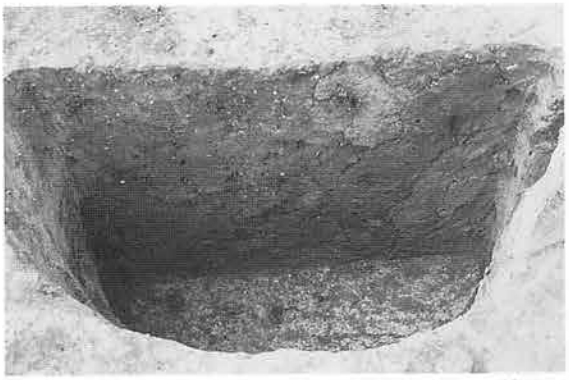
断面

ＣＶｊ４①土坑平面

断面

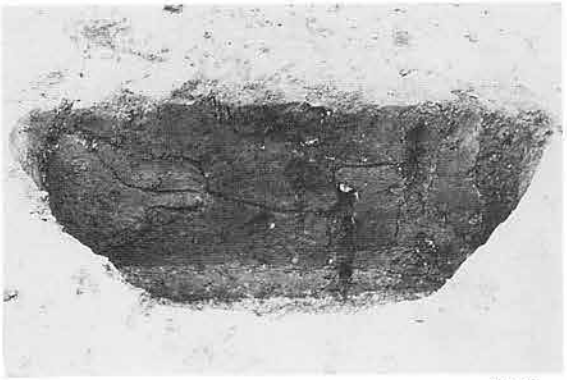
写真図版28　土坑(23)

ＣＶｊ４②土坑平面



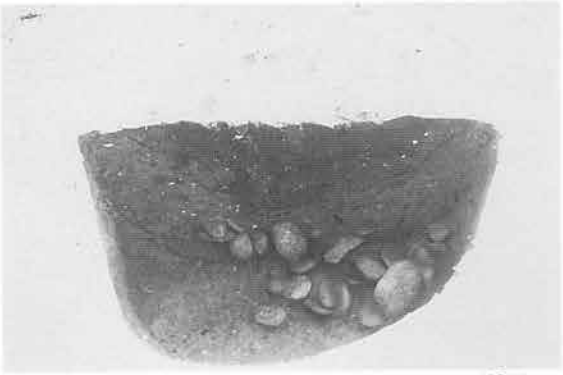
断面

ＣＶｊ５土坑平面



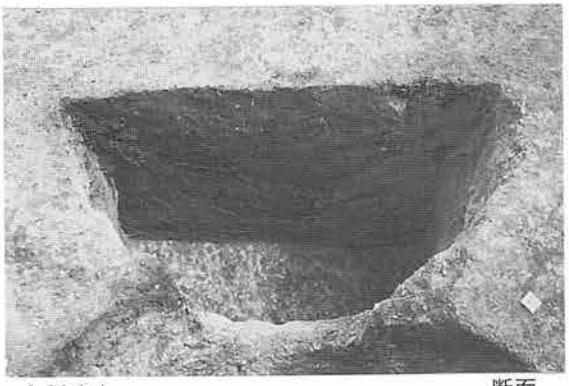
断面

ＣＶｊ６①土坑平面



断面

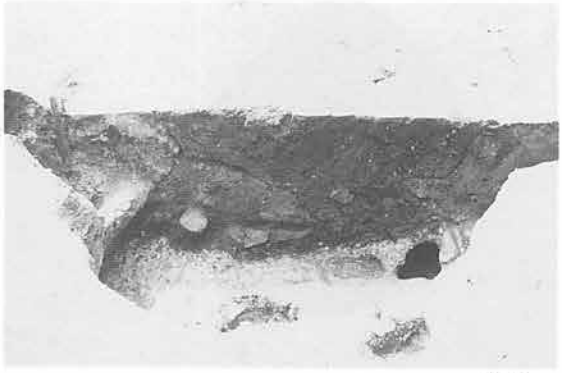
ＣＶｊ６②土坑平面



断面

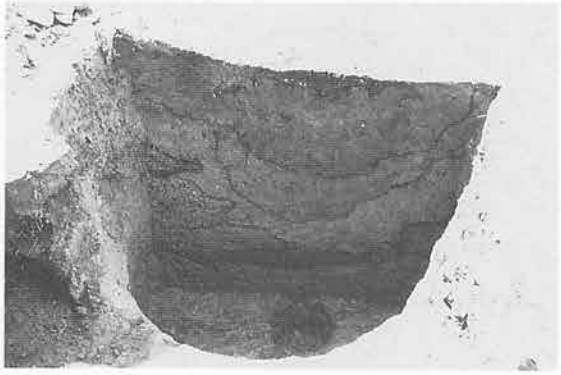
写真図版29　土坑(24)

ＣＶｊ７①土坑平面



断面

ＣＶｊ７②土坑平面



断面

ＣＶｊ７③土坑平面

断面

ＣＶｊ８①土坑平面

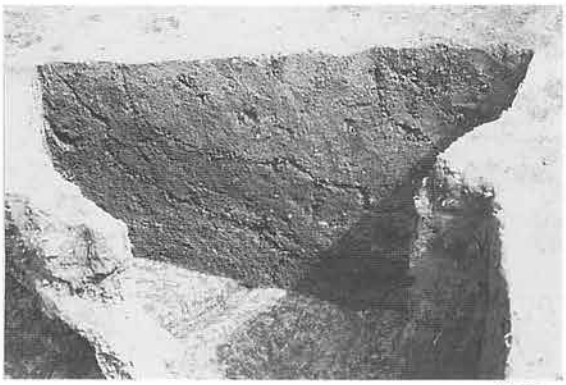
断面

写真図版30　土坑(25)

ＣＶｊ８②土坑平面

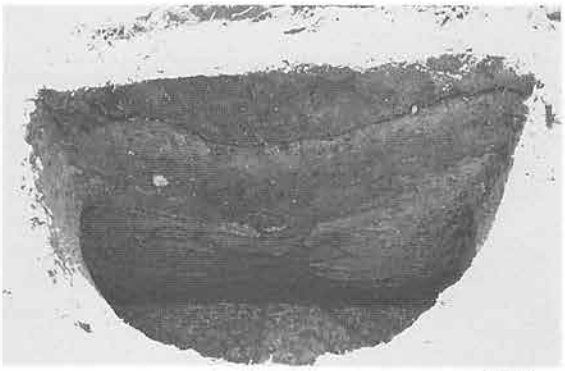
断面

ＣＶｊ８③土坑平面



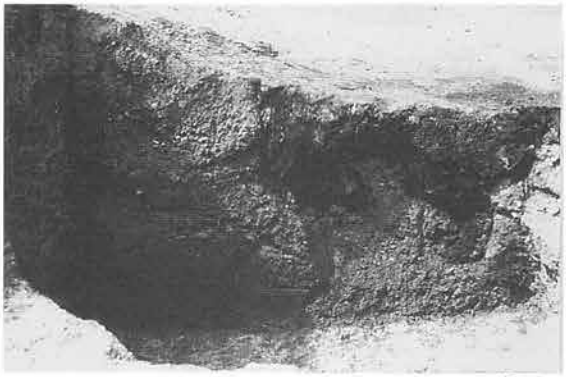
断面

ＣＶｊ８④土坑平面



断面

ＣＶｊ９①土坑平面



断面

写真図版31　土坑(26)

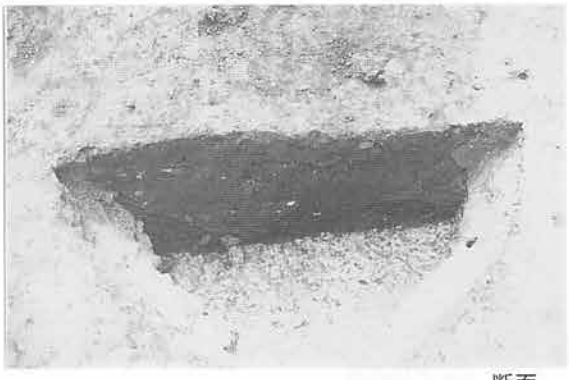
ＣＶｊ９②土坑平面

断面

ＣⅥｅ２土坑平面

断面

ＣⅥｉＯ土坑平面



断面

ＣⅥｊＯ土坑平面

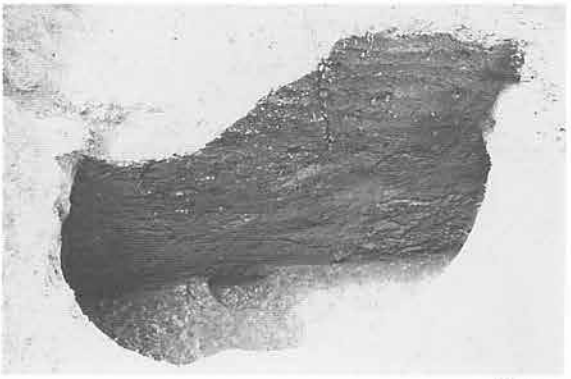
断面

写真図版32　土坑(27)

ＤＶａ０②土坑平面

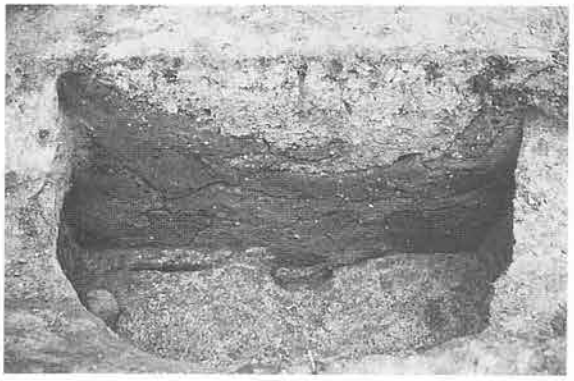
断面

ＤＶａ１土坑平面



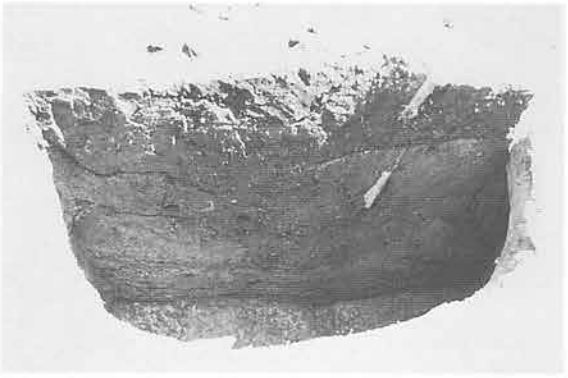
断面

ＤＶａ２土坑平面



断面

ＤＶａ３①土坑平面



断面

写真図版33　土坑(28)

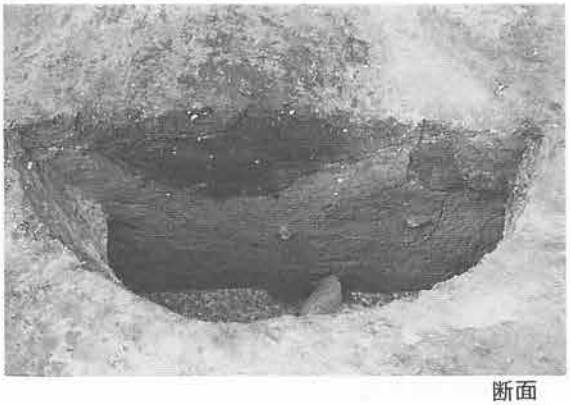
ＤＶａ３②土坑平面

断面

ＤＶａ３③土坑平面

断面

ＤＶａ４①土坑平面

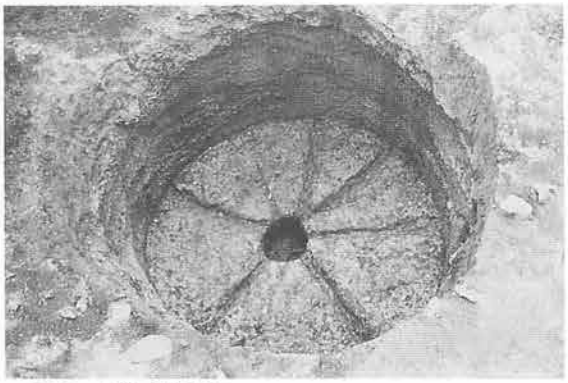


断面

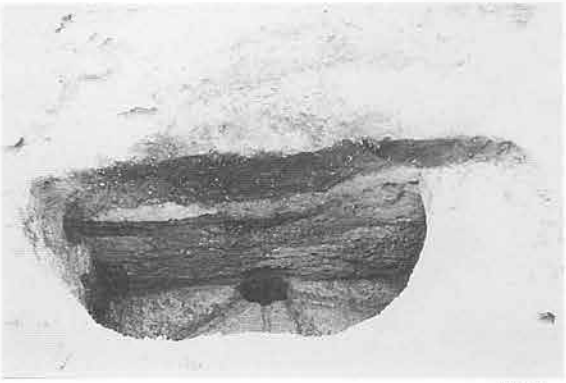
ＤＶａ４②土坑平面

断面

写真図版34　土坑(29)



ＤＶａ８①土坑平面

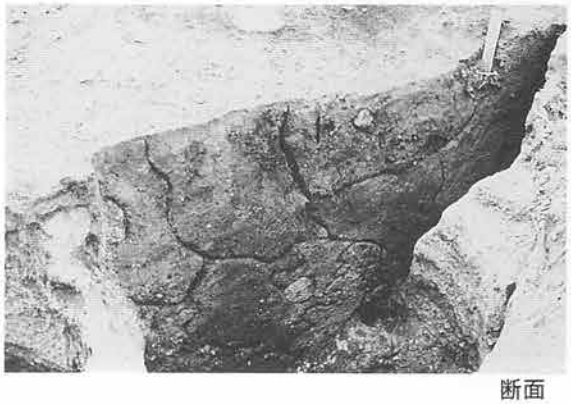


断面

ＤＶａ９③土坑平面

断面

ＤＶａ９④土坑平面



断面

ＤＶｂ２土坑平面

断面

写真図版35　土坑(30)

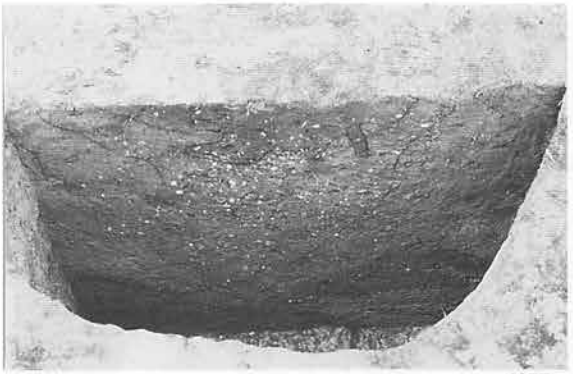
ＤⅤｂ５①土坑平面

断面

ＤⅤｂ５②土坑平面

断面

ＤⅤｂ６土坑平面



断面

ＤⅤｂ７①土坑平面

断面

写真図版36　土坑(31)

ＤⅤｂ７②土坑平面

断面

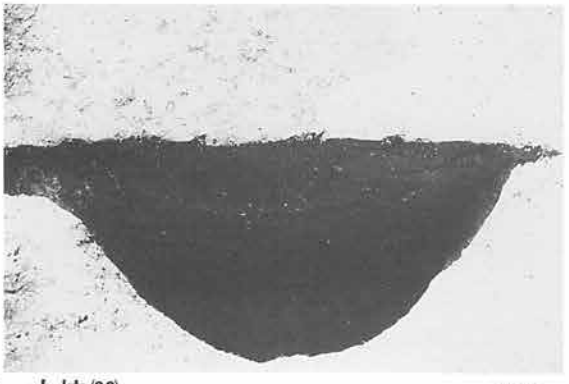
ＤⅤｂ９土坑平面

断面

ＤⅤｃ５土坑平面

断面

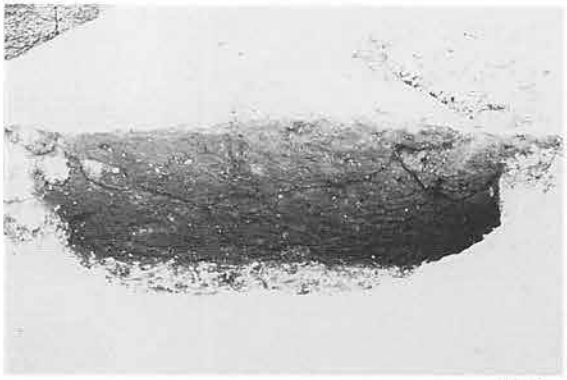
ＤⅥａ０①土坑平面



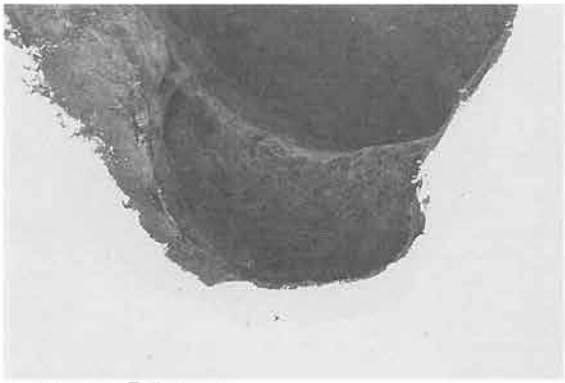
断面

写真図版37　土坑(32)

DⅥａ0②土坑平面



断面

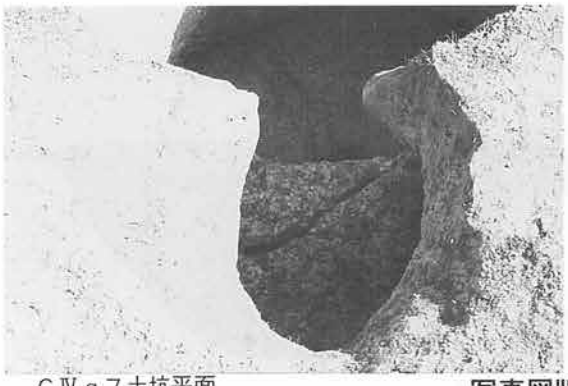


BⅡｆ7⑤土坑平面

BⅡｇ5②土坑平面

BⅡｇ8③土坑平面

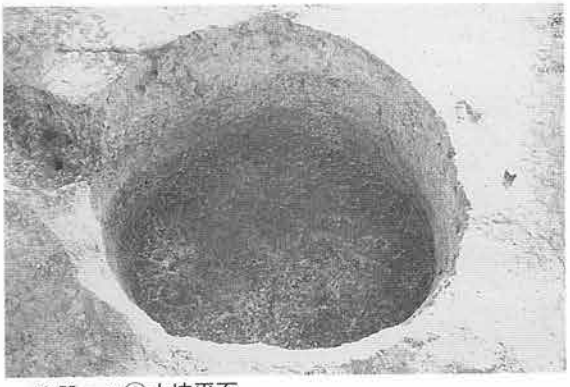
CⅣｆ9②土坑平面



CⅣｇ7土坑平面

CⅣｊ9土坑平面

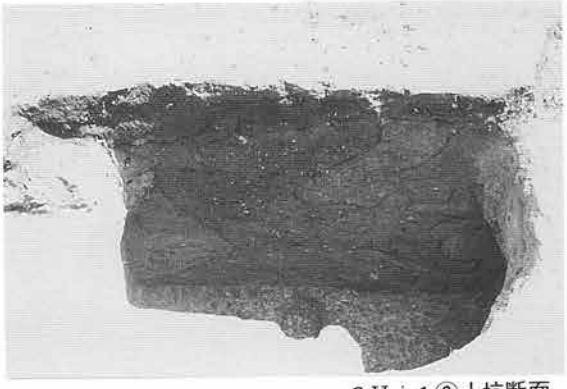
写真図版38　土坑(33)



ＣⅤｇ１③土坑平面

ＣⅤｈ１土坑平面

ＣⅤｈ５②土坑平面



ＣⅤｊ１②土坑断面

ＤⅤａ０①土坑平面

ＤⅤａ６土坑平面

ＤⅤａ８②土坑平面

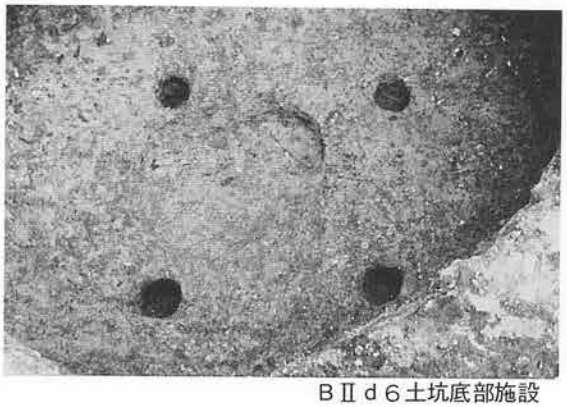
ＤⅤａ８③土坑平面

写真図版39　土坑(34)

ＤⅤａ９①土坑平面

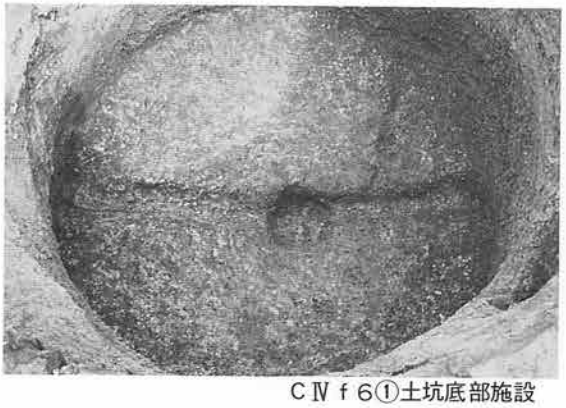
ＤⅤａ９②土坑平面

ＤⅥｂ０土坑平面



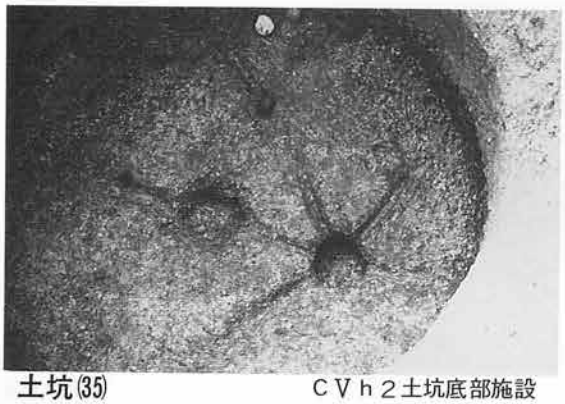
ＢⅡｄ６土坑底部施設

ＢⅢｇ０土坑底部施設



ＣⅣｆ６①土坑底部施設

ＣⅤｈ１土坑底部施設



ＣⅤｈ２土坑底部施設

写真図版40　土坑(35)

ＣＶｈ３①土坑底部施設

ＣＶｉ０土坑底部施設

ＣＶｉ６③土坑底部施設

ＣＶｊ３土坑底部施設

ＣＶｊ８③土坑底部施設

ＣＶｊ８④土坑底部施設

ＤＶａ８①土坑底部施設

ＤＶｂ７①土坑底部施設

写真図版41　土坑(36)

CⅣd4①土坑補強石

CⅣd4①土坑補強石

CⅣf8①土坑補強石

CⅣf8①土坑補強石

CⅤh4土坑補強石

CⅤi4②土坑補強石

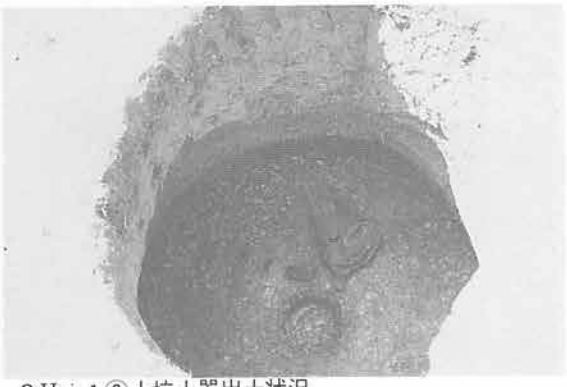
CⅤi5①土坑補強石

CⅤi5①土坑補強石

写真図版42　土坑(37)

ＢＶｇ５土坑土器出土状況

ＣＶｈ２土坑土器出土状況



ＣＶｉ１②土坑土器出土状況

ＣＶｊ３土坑土器出土状況

ＣＶｊ７①土坑土器出土状況

ＣⅥｅ２土坑土器出土状況

ＤＶａ３②土坑土器出土状況（底面埋設）

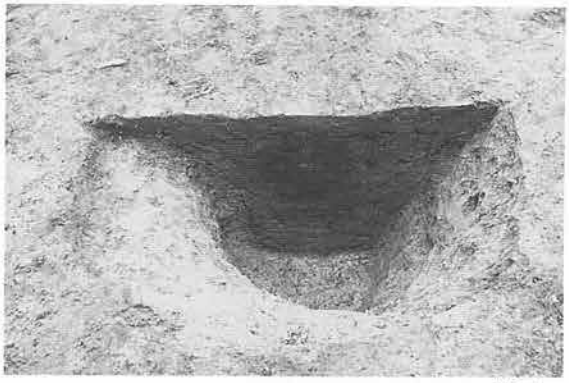
ＤＶａ４①土坑土器出土状況

写真図版43　土坑(38)

ＤⅤａ９③土坑土器出土状況

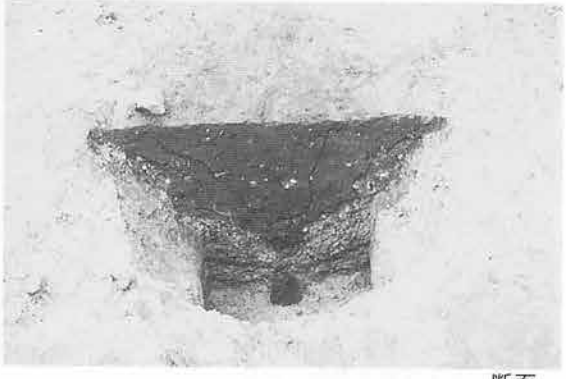
ＤⅤｂ７②土坑土器出土状況

ＣⅣｉ４陥し穴状遺構平面



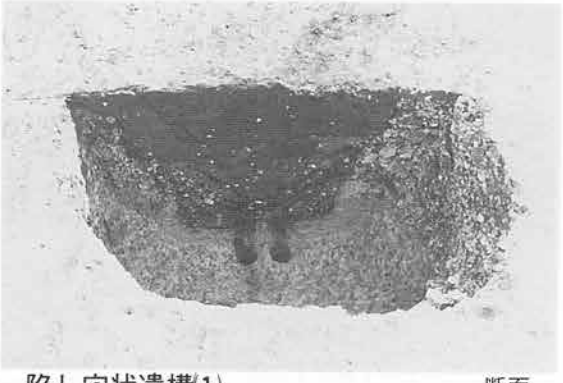
断面

ＢⅡｆ９陥し穴状遺構平面



断面

ＢⅢｊ４陥し穴状遺構平面



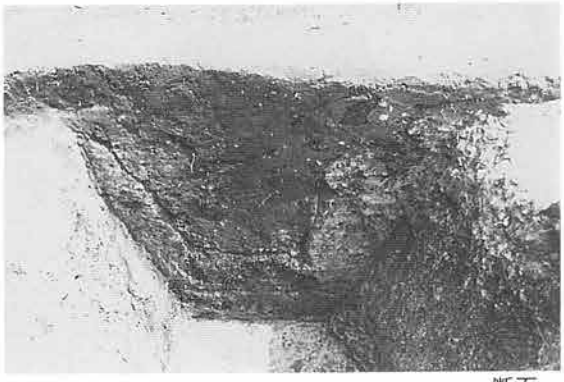
断面

写真図版44　土坑(39)・陥し穴状遺構(1)

CⅡｅ１陥し穴状遺構平面

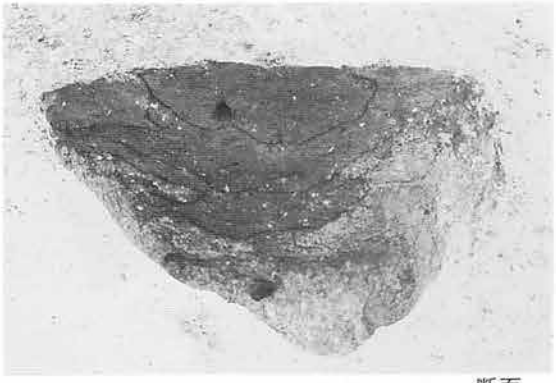
断面

CⅢａ７陥し穴状遺構平面



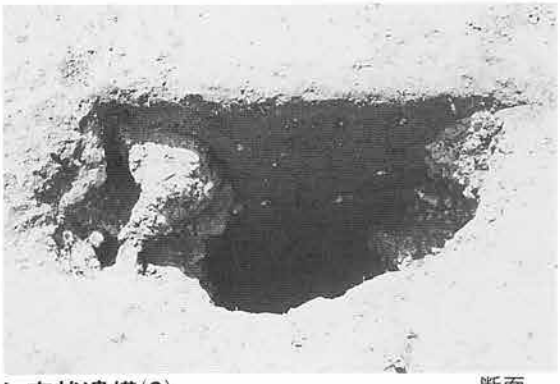
断面

CⅢａ８陥し穴状遺構平面



断面

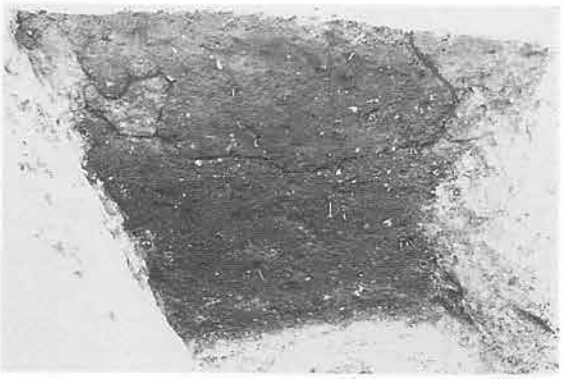
CⅣｃ２陥し穴状遺構平面



断面

写真図版45　陥し穴状遺構(2)

ＣⅤｆ４陥し穴状遺構平面

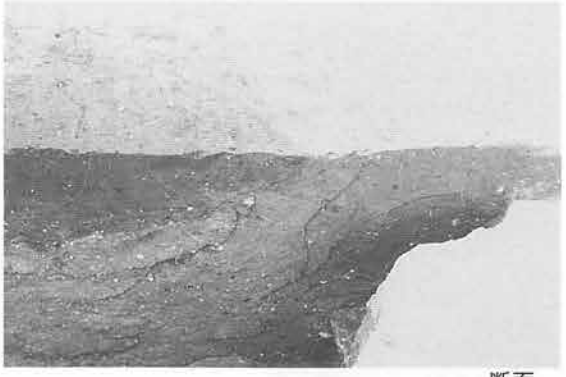


断面

ＣⅤｇ４②陥し穴状遺構平面

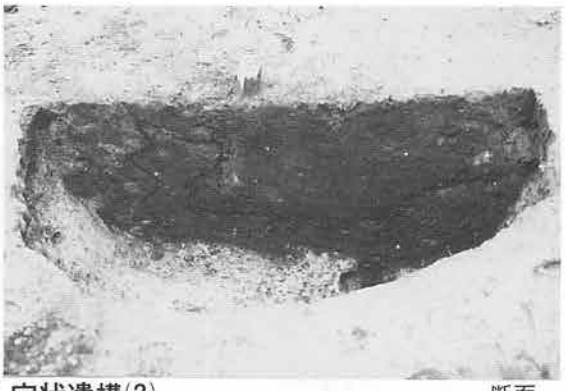
断面

ＣⅤｉ７陥し穴状遺構平面



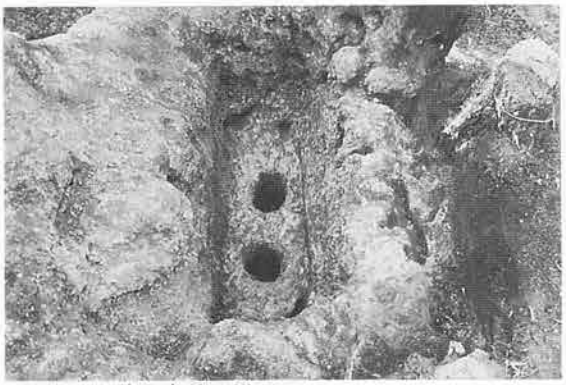
断面

ＣⅥｉ０陥し穴状遺構平面

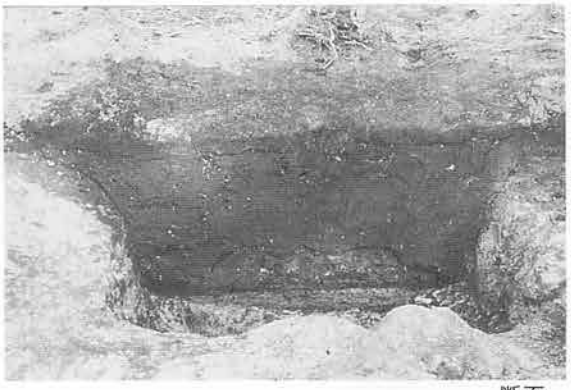


断面

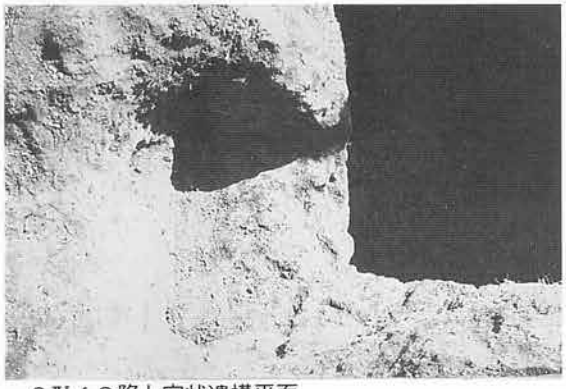
写真図版46　陥し穴状遺構(3)



ＤⅥｃ０陥し穴状遺構平面



断面



ＣⅣｆ９陥し穴状遺構平面

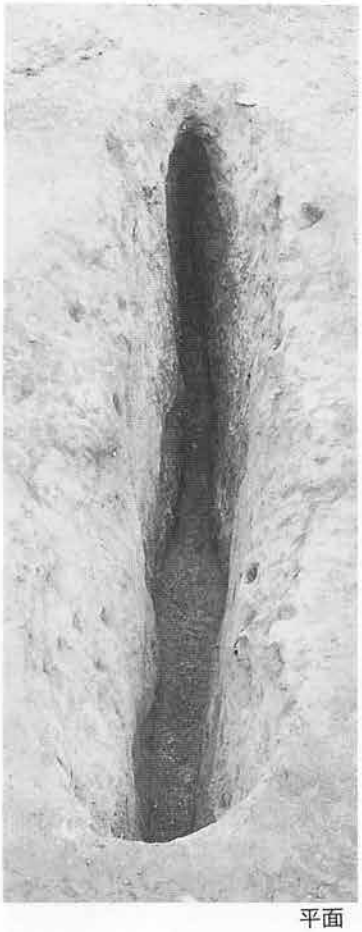
ＣⅤｇ４①陥し穴状遺構平面

ＣⅤｈ３陥し穴状遺構平面

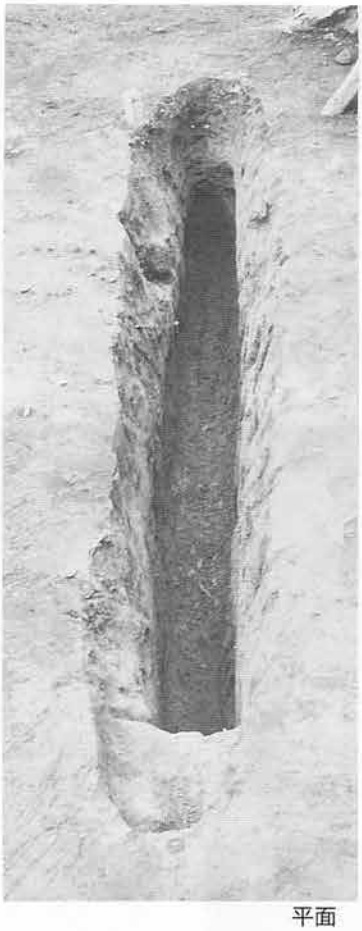
ＤⅤａ４陥し穴状遺構平面

ＤⅤｂ９陥し穴状遺構平面

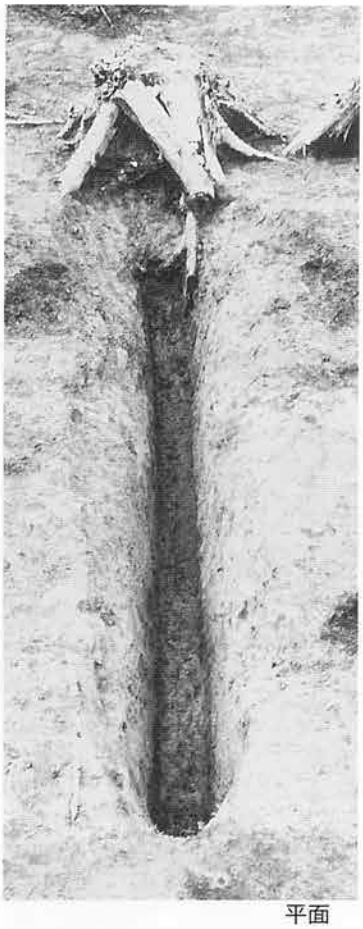
写真図版47　陥し穴状遺構(4)



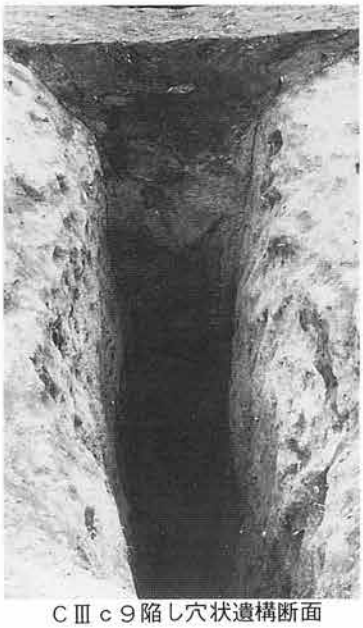
平面



平面



平面



ＣⅢｃ９陥し穴状遺構断面

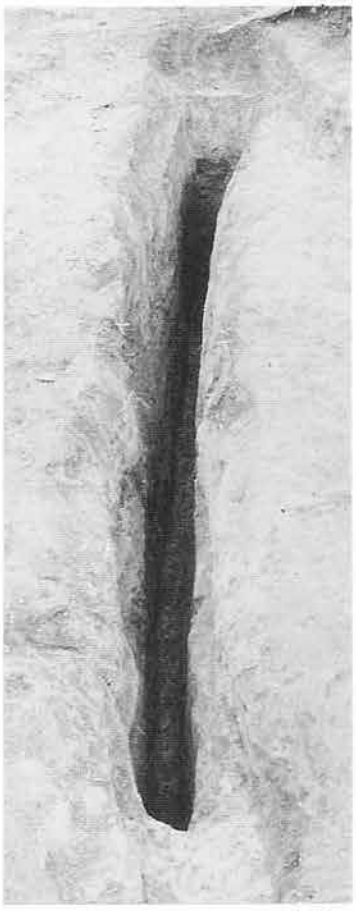
ＣⅢｄ９①陥し穴状遺構断面

ＣⅢｄ９②陥し穴状遺構断面

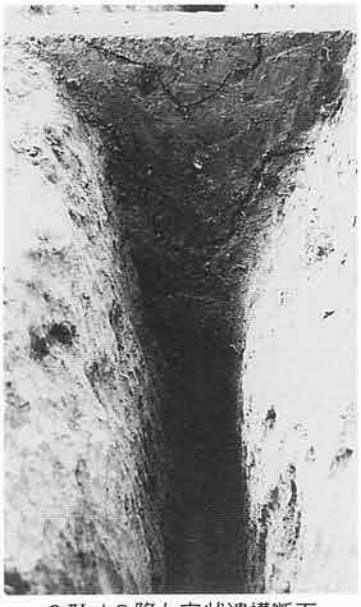
写真図版48　陥し穴状遺構(5)

平面

平面

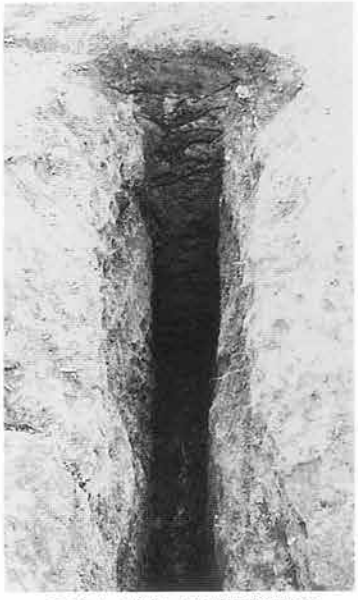


平面



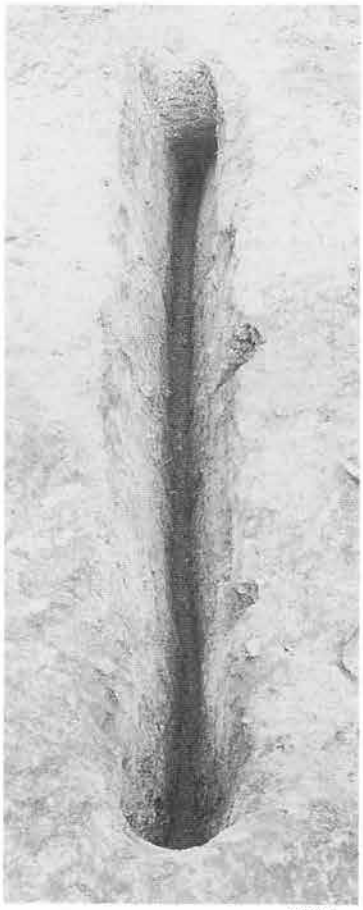
ＣⅣｄ０陥し穴状遺構断面

ＣⅣｄ１陥し穴状遺構断面



ＣⅣｄ２陥し穴状遺構断面

写真図版49　陥し穴状遺構(6)



平面

平面

平面

ＣⅣｅ５陥し穴状遺構断面

ＣⅣｈ６陥し穴状遺構断面

ＣⅤｈ０陥し穴状遺構断面

写真図版50　陥し穴状遺構(7)

BⅢｄ７溝跡全景

断面（A－A′）

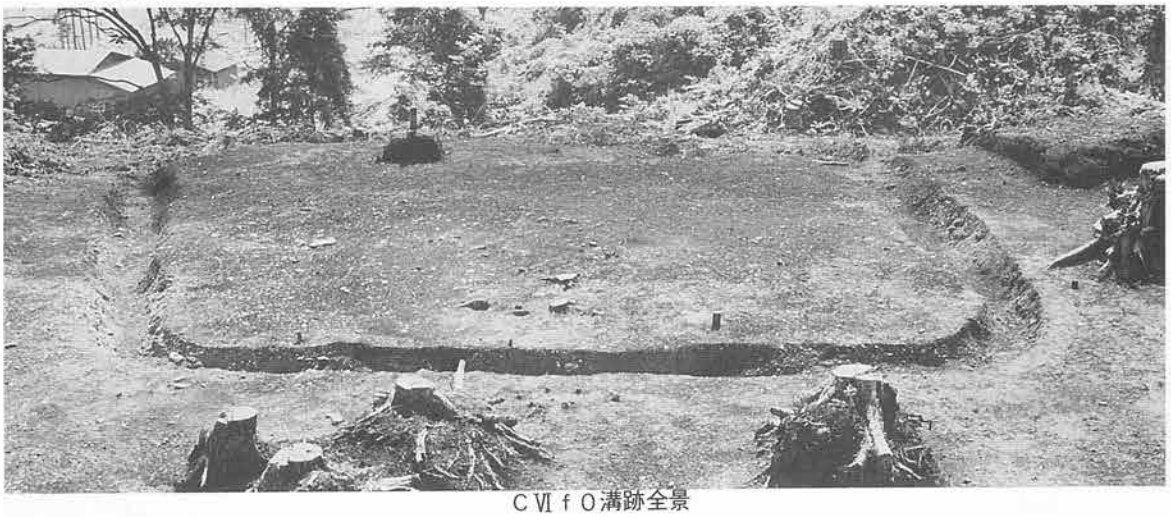
断面（C－C′）

断面（D－D′）

断面（E－E′）

断面（G－G′）

断面（H－H′）


CⅥｆ０溝跡全景

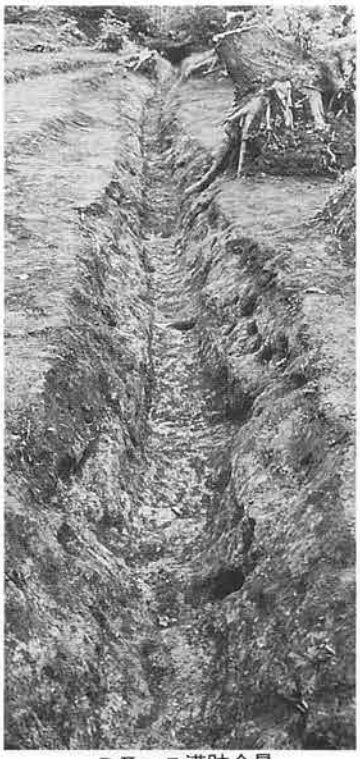
断面（H－H′）

断面（J－J′）

断面（K－K′）

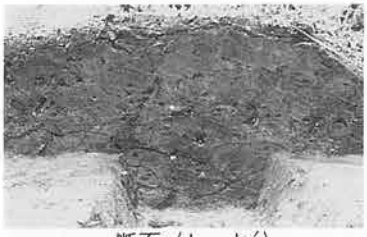
写真図版51　溝跡(1)

ＢⅡｈ６溝跡全景



ＢⅡｇ５溝跡全景

ＢⅡｊ０溝跡・ＣⅢｄ９溝跡全景



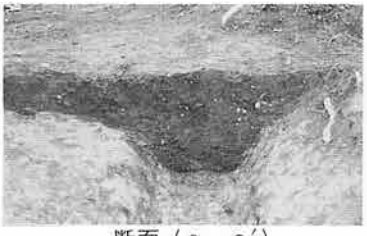
断面（ｂ－ｂ′）

断面（ｆ－ｆ′）

ＢⅡｈ６溝跡とＢⅡｇ５溝跡の交差部分

断面（ｃ－ｃ′）

断面（ｇ－ｇ′）



断面（ｅ－ｅ′）

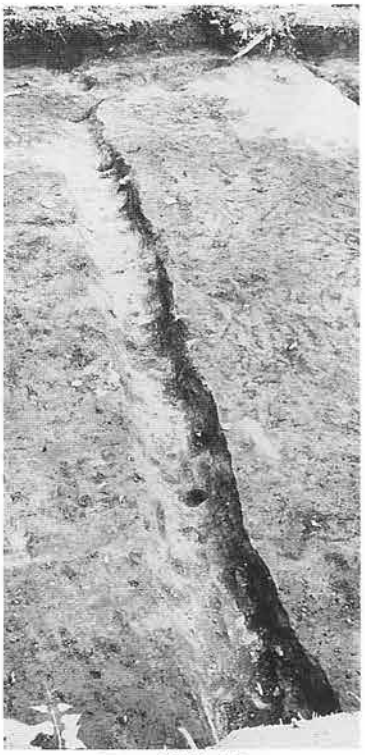
断面（ｈ－ｈ′）

断面（ｉ－ｉ′）

写真図版52　溝跡(2)

BⅡg 7溝跡全景

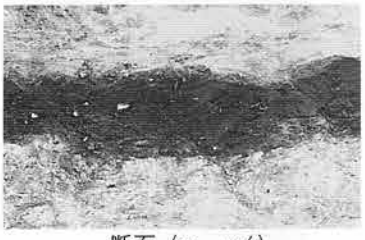
CⅣeO溝跡全景



CⅡf 7溝跡全景

CⅡf 8溝跡

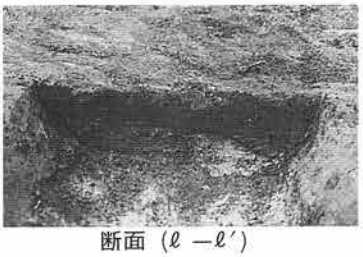
断面（J－J′）



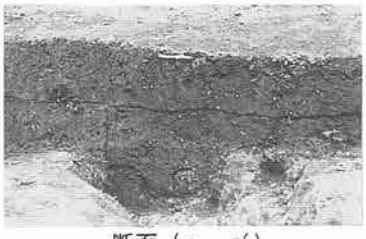
断面（m－m′）

断面（k－k′）

断面（n－n′）

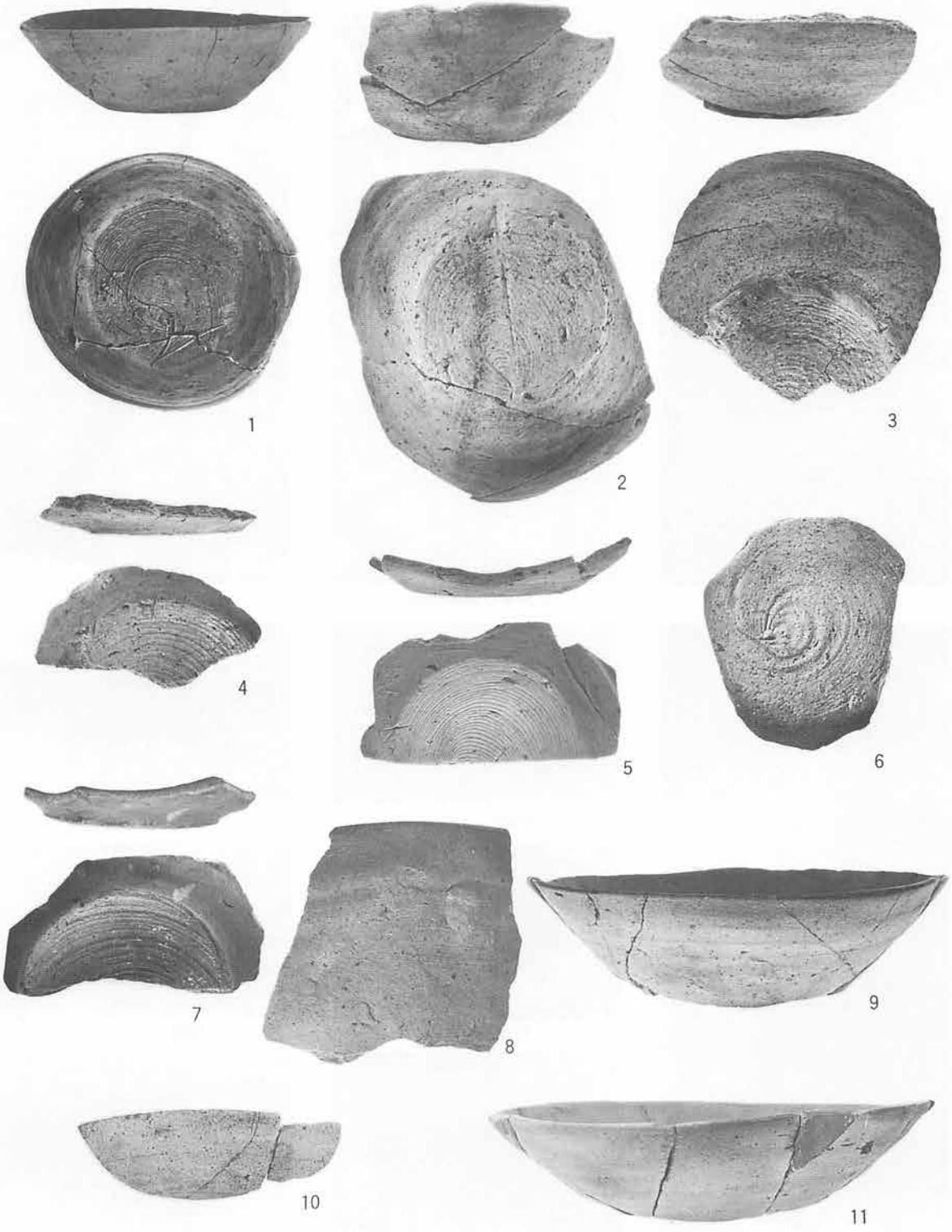


断面（ℓ－ℓ′）

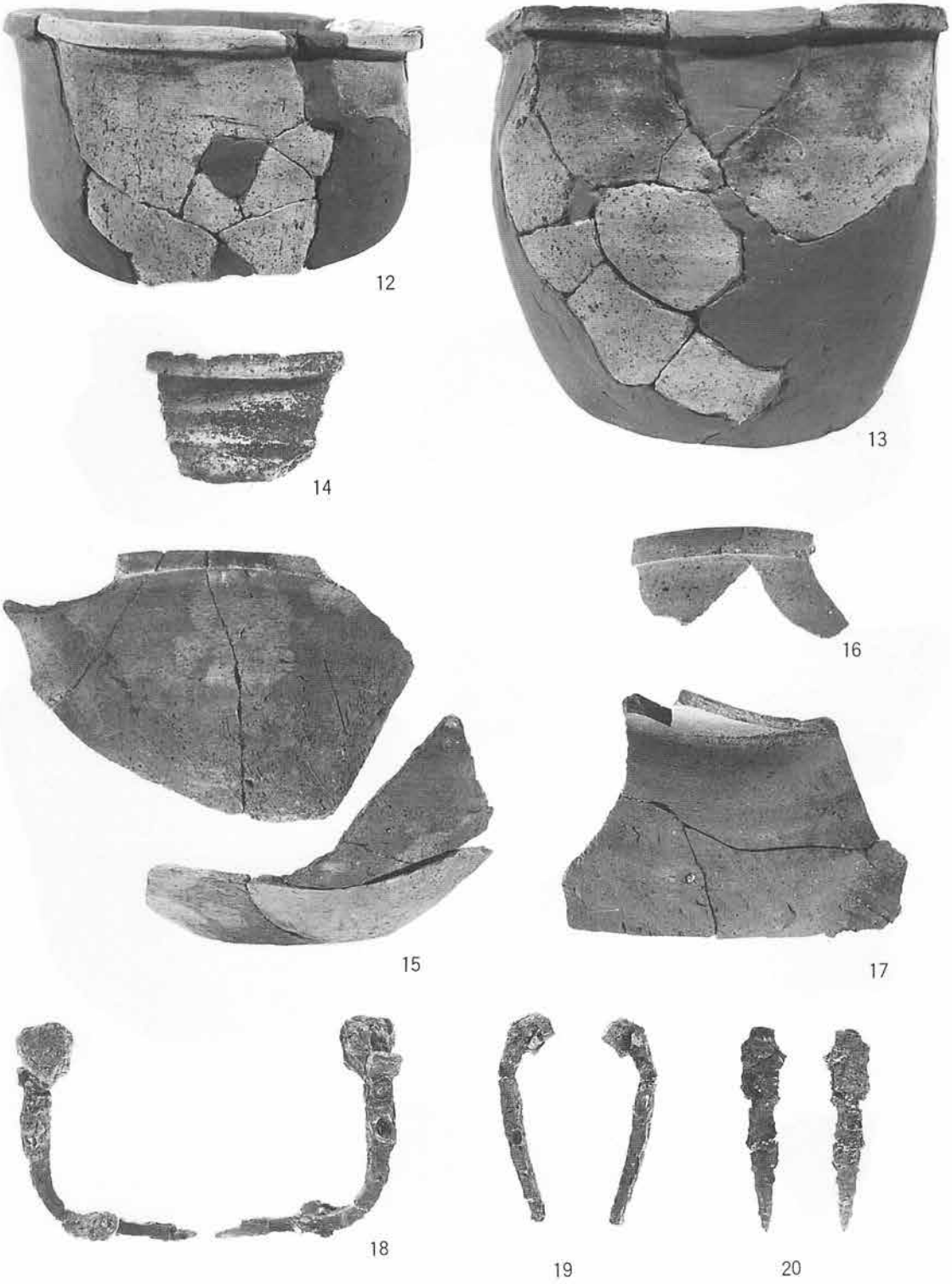


断面（o－o′）

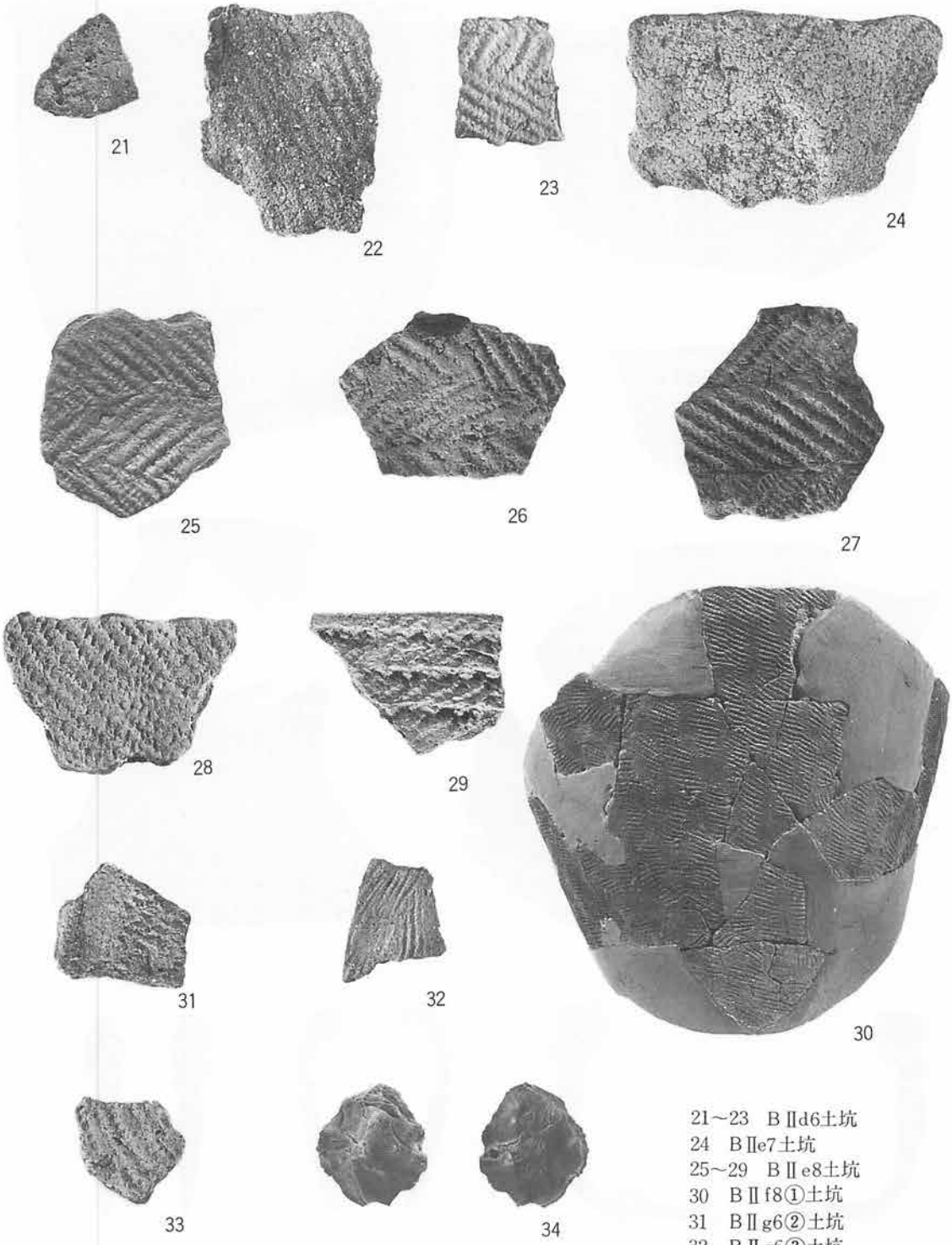
写真図版53　溝跡(3)



写真図版54　CⅡe2 住居跡出土遺物(1)

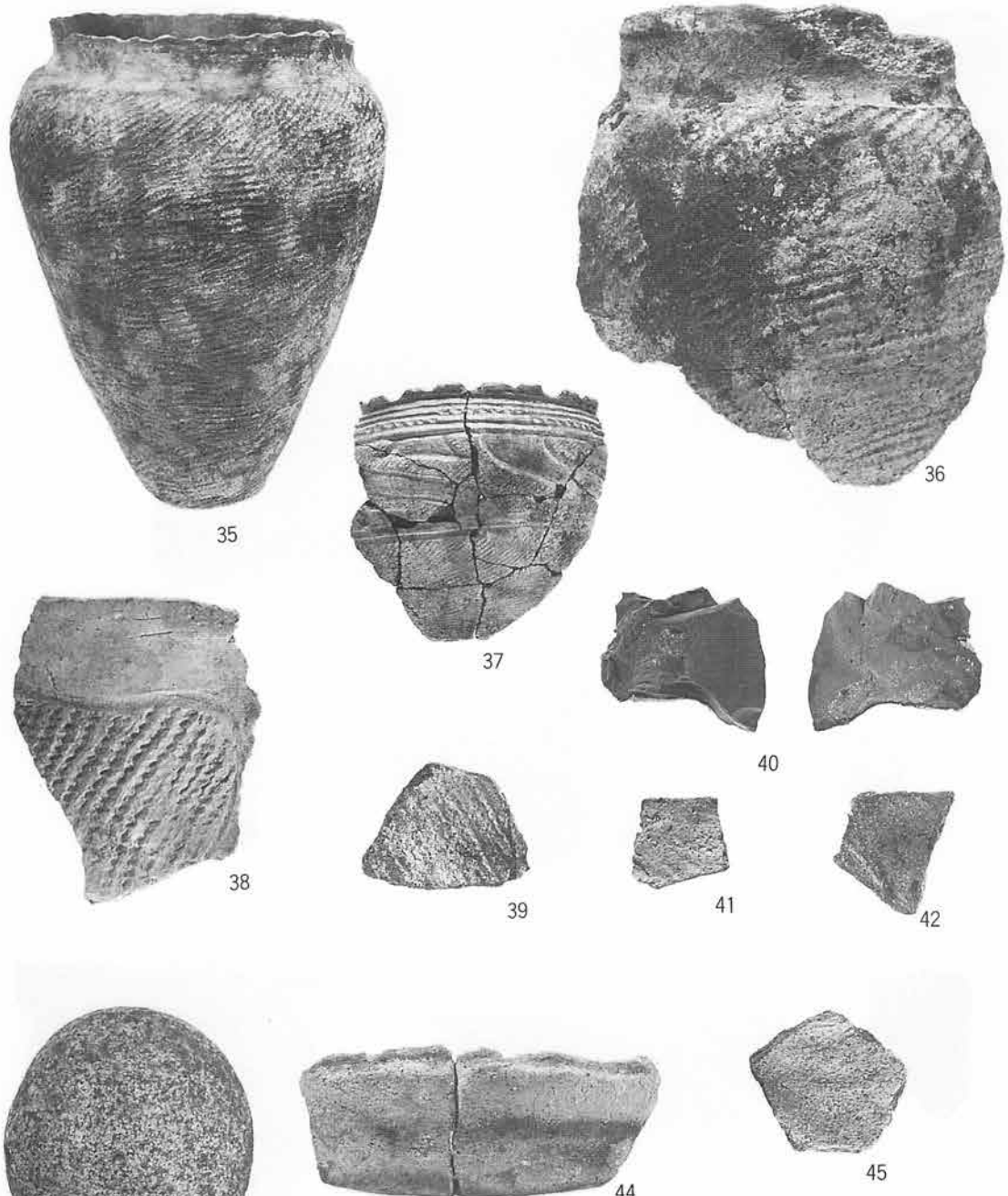


写真図版55　CⅡe2 住居跡出土遺物(2)



21～23　B Ⅱd6土坑
24　B Ⅱe7土坑
25～29　B Ⅱe8土坑
30　B Ⅱf8①土坑
31　B Ⅱg6②土坑
32　B Ⅱg6③土坑
33～34　B Ⅲi2土坑

写真図版56　土坑出土遺物(1)



35・36　B Vg5土坑
37　C Ⅳf6②土坑
38　C Ⅳf7①土坑
39・40　C Ⅳf7②土坑
41～43　C Ⅳf8①土坑
44　C Ⅳf9①土坑
45　C Ⅳf9②土坑

写真図版57　土坑出土遺物(2)

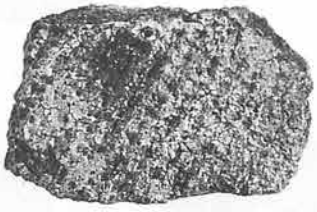
46

47

48

49

50


51

52

53

54

55

46～49　CⅣg8土坑
50　CⅣh8土坑
51　CⅣj9土坑
52　CⅤg1①土坑
53・54　CⅤh0土坑
55　CⅤh1土坑

写真図版58　土坑出土遺物(3)

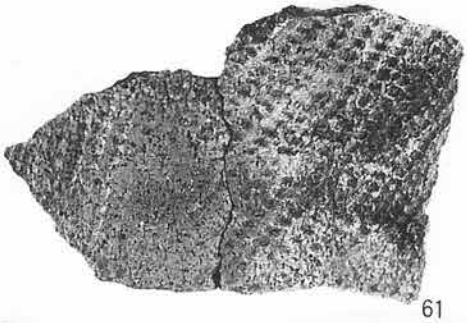
57

59

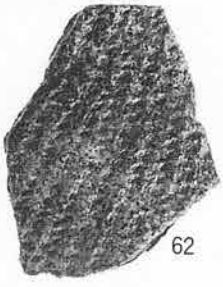
58

60

56



61



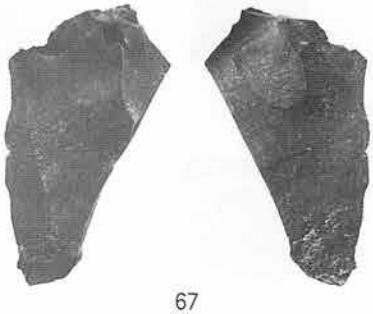
62

63

64

65

66



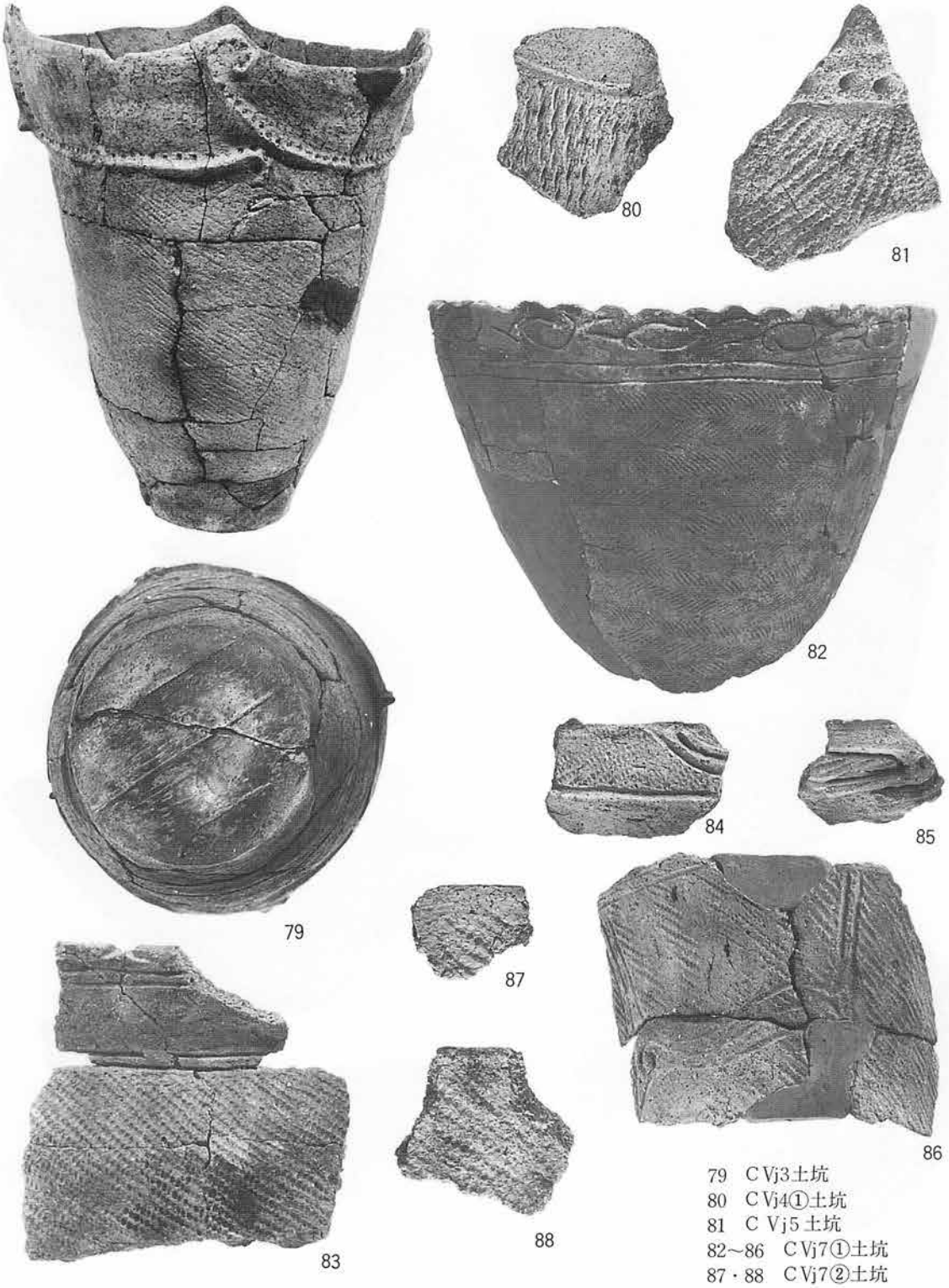
67

56～59　C Vh2土坑
60～67　C Vi1①土坑

写真図版59　土坑出土遺物(4)

68・69　C Vi1②土坑
70～73　C Vi4①土坑
74　C Vi5①土坑
75　C Vi8①土坑
76～78　C Vj3土坑

写真図版60　土坑出土遺物(5)

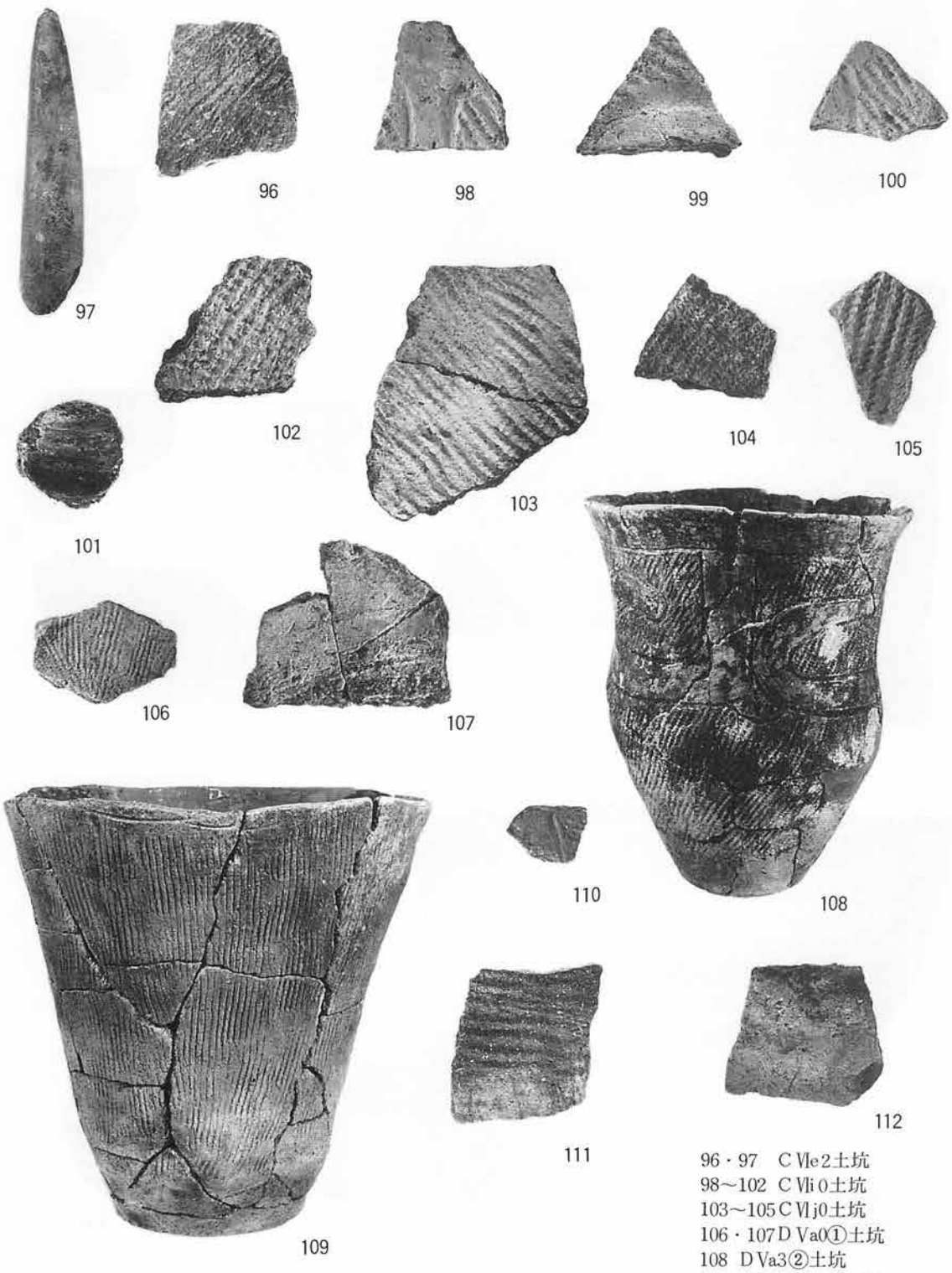


79　C Vj3土坑
80　C Vj4①土坑
81　C Vj5土坑
82～86　C Vj7①土坑
87・88　C Vj7②土坑

写真図版61　土坑出土遺物(6)

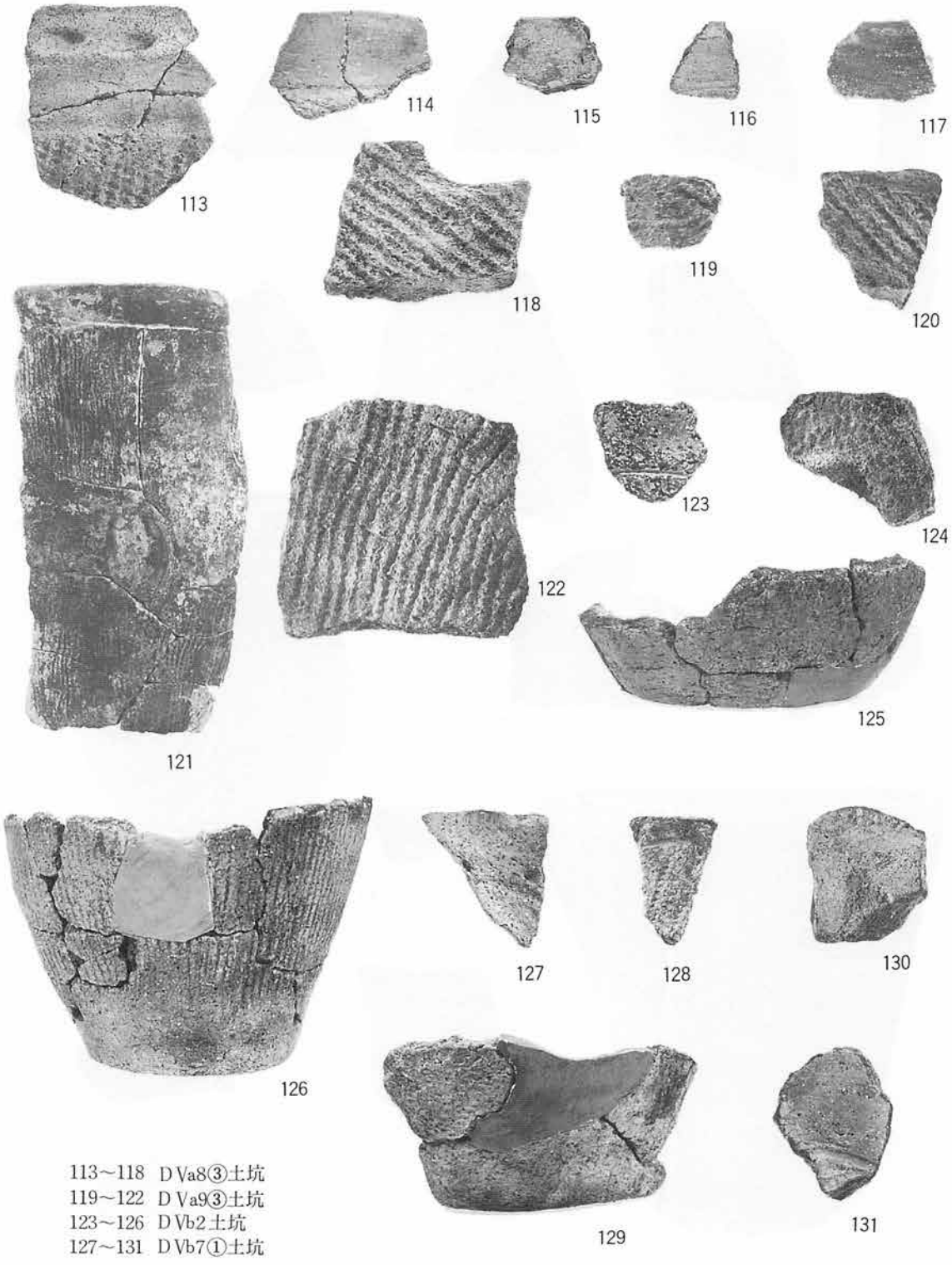
89・90　C Vj9①土坑
91　C Vj9②土坑
92～95　C Ⅵe2土坑

写真図版62　土坑出土遺物(7)



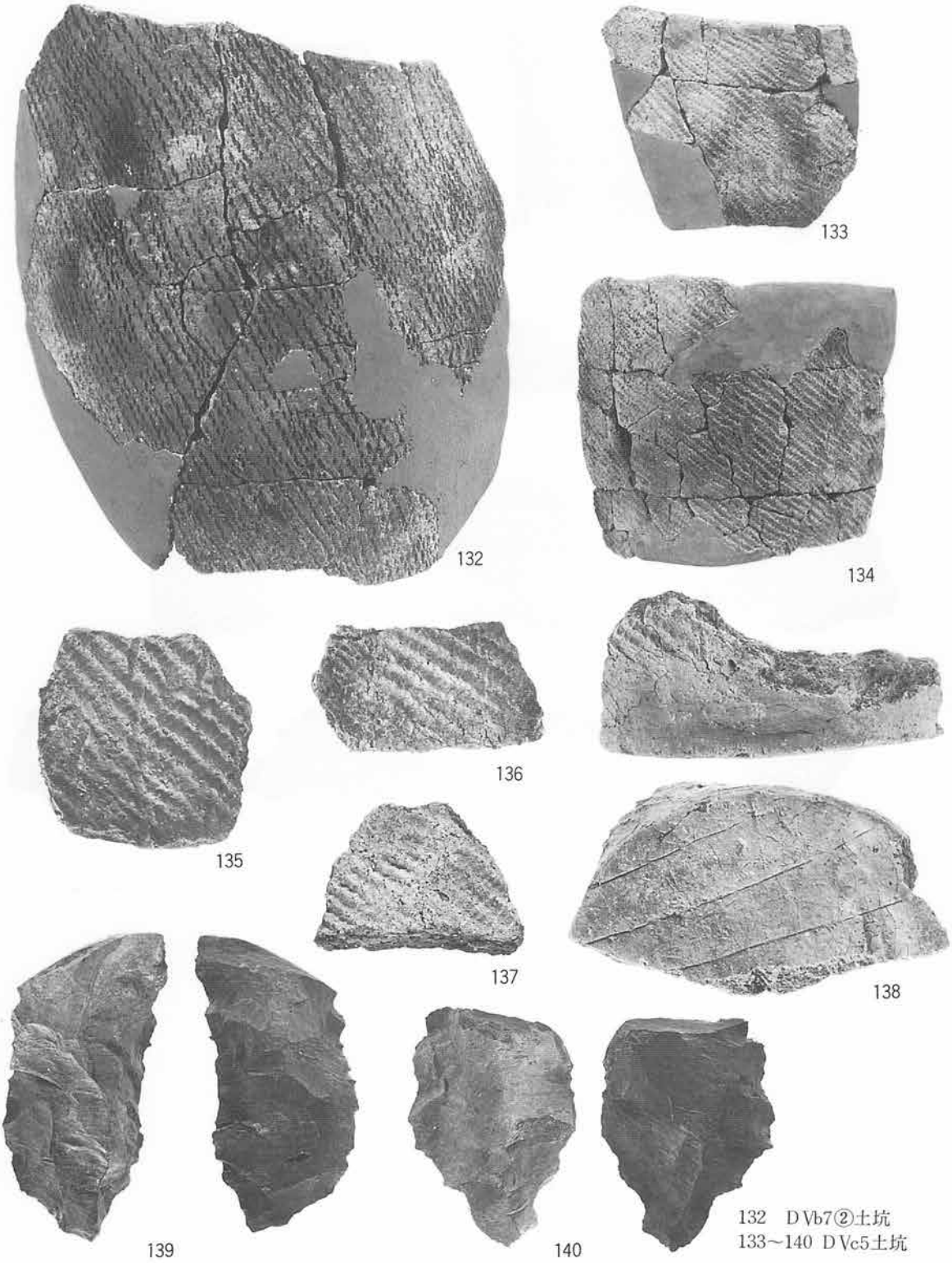
96・97　C Ⅵe2土坑
98～102　C Ⅵi0土坑
103～105 C Ⅵj0土坑
106・107 D Ⅴa0①土坑
108　D Ⅴa3②土坑
109～112 D Ⅴa4①土坑

写真図版63　土坑出土遺物(8)



113～118　D Va8③土坑
119～122　D Va9③土坑
123～126　D Vb2土坑
127～131　D Vb7①土坑

写真図版64　土坑出土遺物(9)



132　DⅤb7②土坑
133～140　DⅤc5土坑

写真図版65　土坑出土遺物(10)

141

142

143

144

145

146

147

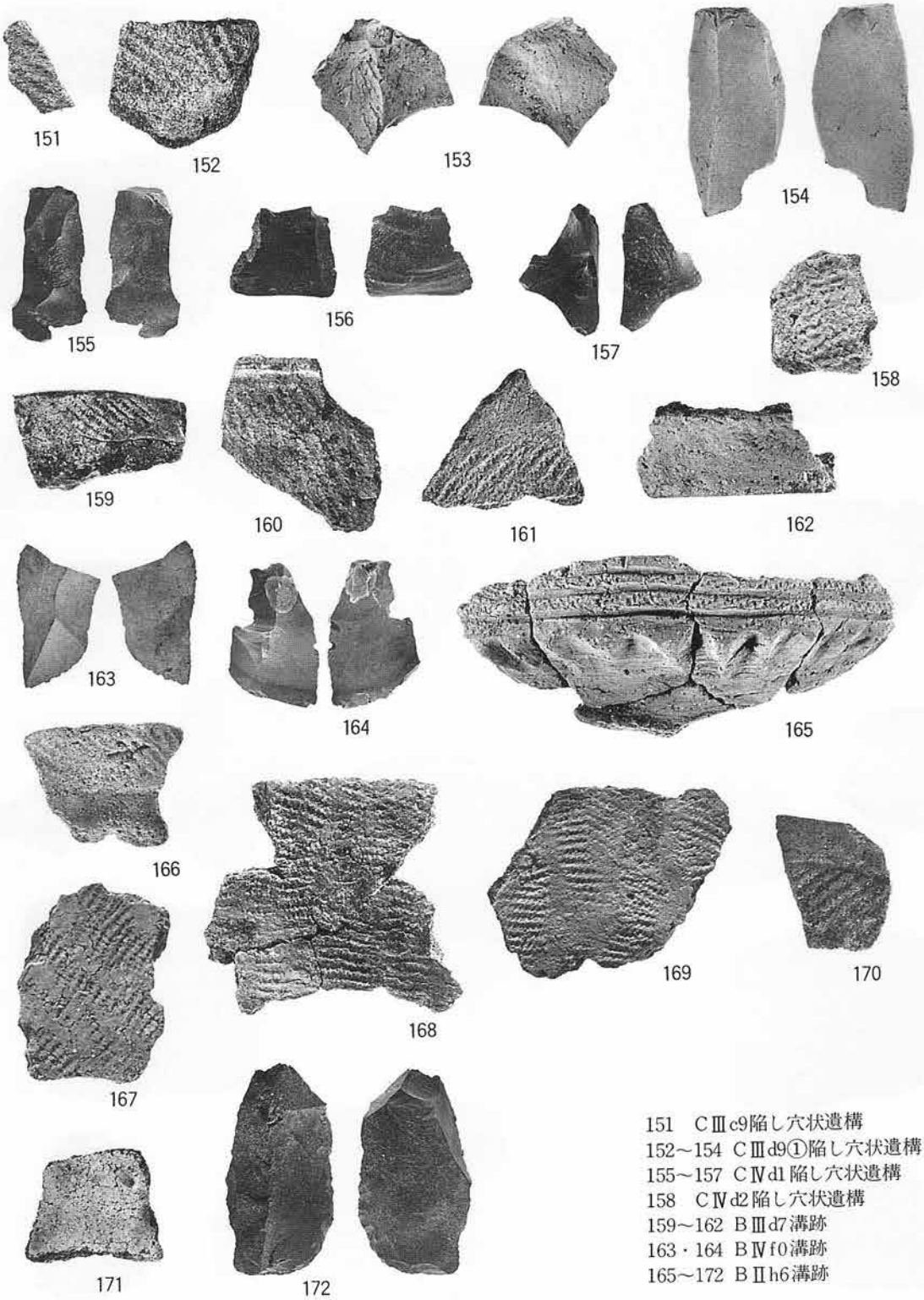
148

149

150

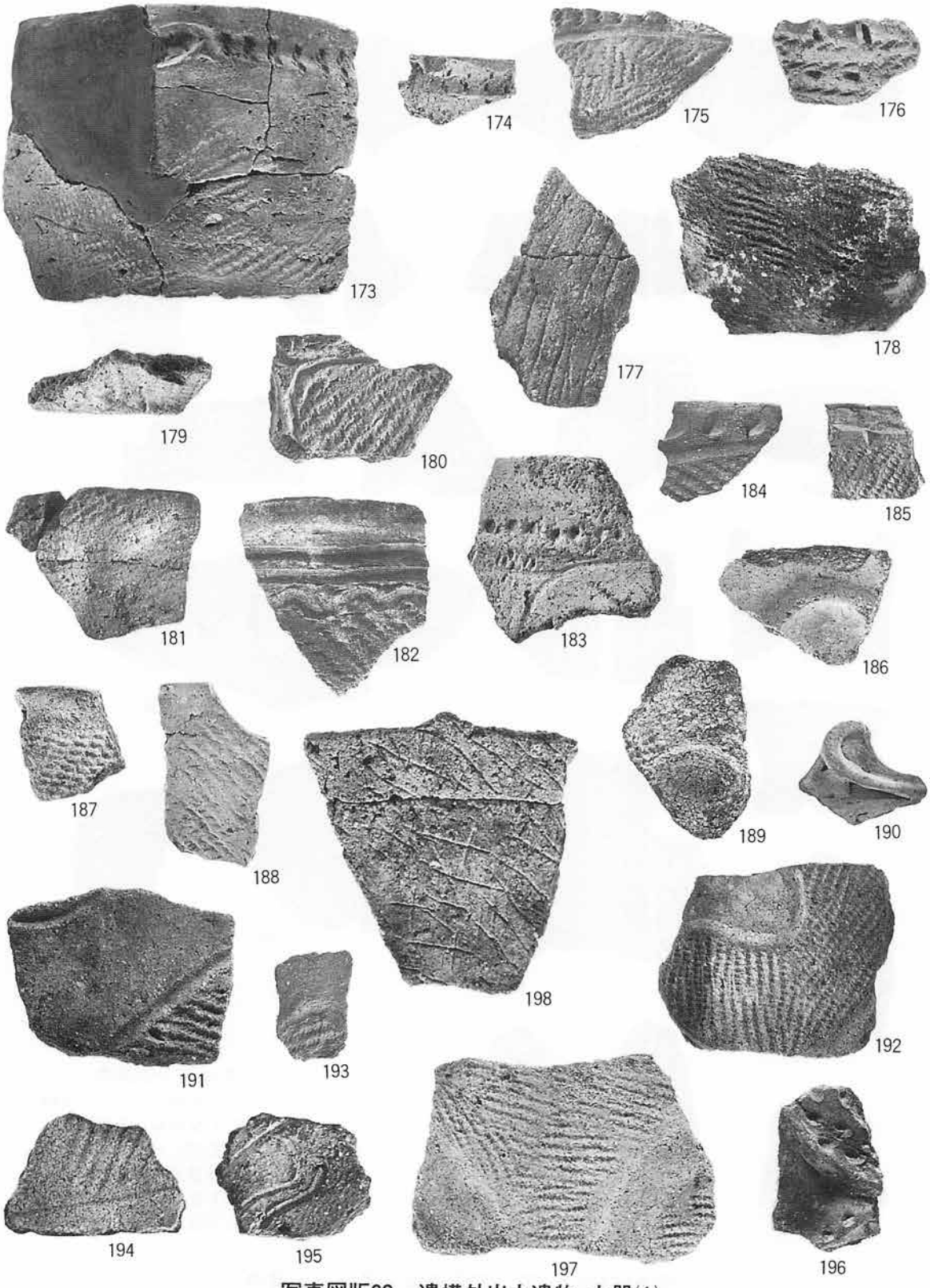
141～ 150D Ⅵb0土坑

写真図版66　土坑出土遺物(11)

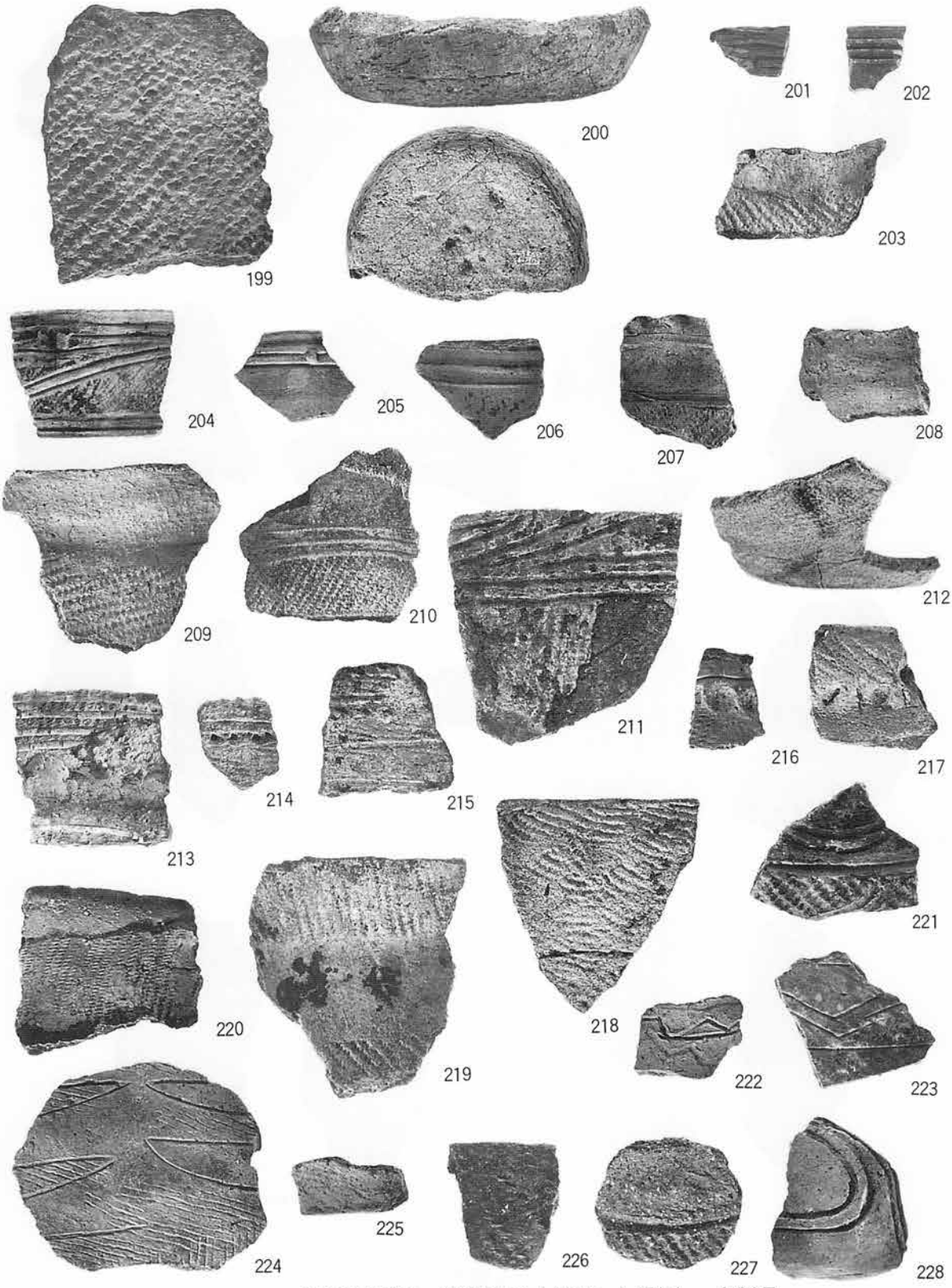


151　CⅢc9陥し穴状遺構
152～154　CⅢd9①陥し穴状遺構
155～157　CⅣd1陥し穴状遺構
158　CⅣd2陥し穴状遺構
159～162　BⅢd7溝跡
163・164　BⅣf0溝跡
165～172　BⅡh6溝跡

写真図版67　陥し穴状遺構・溝跡出土遺物



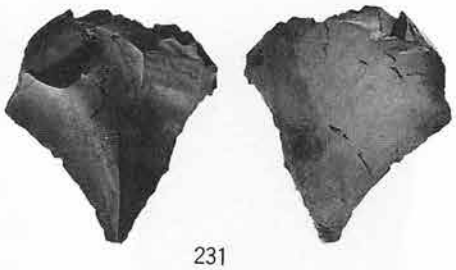
写真図版68　遺構外出土遺物 土器(1)



写真図版69　遺構外出土遺物 土器(2)・土製品

229

230



231

232

233

234

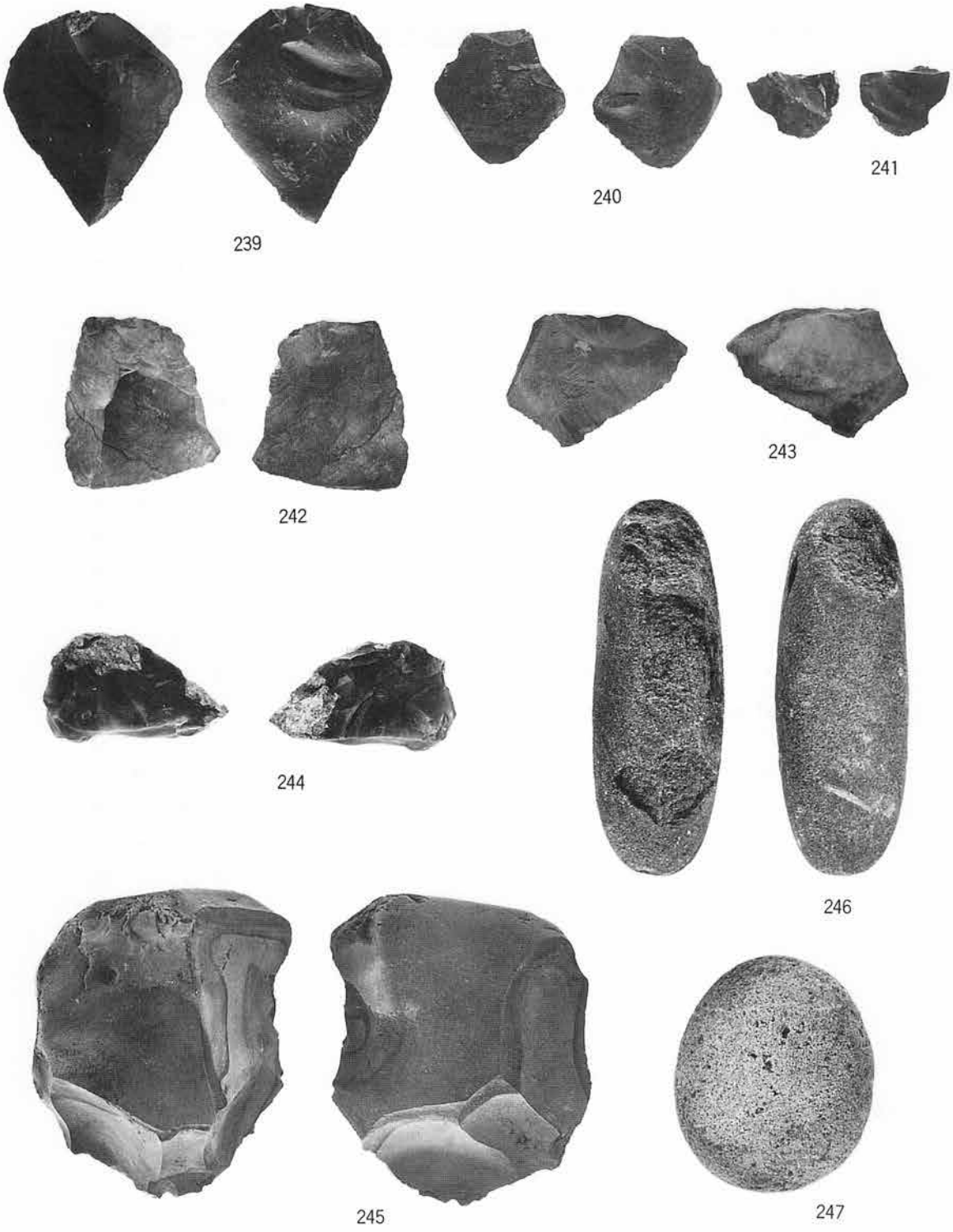
235

236

237

238

写真図版70　遺構外出土遺物 石器(1)



写真図版71　遺構外出土遺物 石器(2)

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

理事兼所長　小笠原　喜　一
副所長　高　橋　敬　明

［管理課］

管理課長(兼)　高　橋　敬　明
課長補佐　森　岡　陽　一
主事　佐　藤　　理

［調査課］

調査課長　村　上　康　昭
課長補佐（第一班）　佐々木　嘉　直
課長補佐（第二班）　鈴　木　恵　治
主任文化財専門調査員　小田野　哲　憲
〃　三　浦　謙　一
〃　工　藤　利　幸
〃　高橋　与右衛門
〃　平　井　　進
〃　中　川　重　紀
〃　藤　村　敏　男
〃　高　橋　義　介
文化財専門調査員　斎　藤　　實
〃　佐　瀬　　隆
〃　千　葉　孝　雄
〃　斎　藤　博　司
〃　東海林　隆　幹
〃　佐々木　　弘
〃　川　村　　均
〃　鈴　木　貞　行
〃　伊　東　　格
〃　遠　藤　　修
〃　齋　藤　邦　雄
〃　神　　敏　明

［資料課］

資料課長　村　松　義　夫
主任文化財専門調査員　田　鎖　寿　夫
嘱託　吉　田　一　男
〃　根　橋　文　一
運転技士兼技能員　佐　藤　春　男
文化財専門調査員　佐々木　信　一
〃　小　原　眞　一
〃　村　上　　修
〃　酒　井　宗　孝
〃　松　本　建　速
〃　笹　平　克　子
〃　花　坂　政　博
〃　佐々木　　務
〃　金　子　昭　彦
〃　濱　田　　宏
期限付専門調査員　鎌　田　精　造
〃　阿　部　勝　則
〃　安　藤　邦　彦
〃　星　　雅　之
〃　引屋敷　　学
〃　鈴　木　知　己
〃　藤　村　　隆
〃　千　葉　　悟
〃　熊　谷　博　由
〃　新　倉　信一郎
〃　山　口　博　英
〃　川　村　　聡
〃　八重樫　のり子

岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財調査報告書第160集

上鬼柳Ⅳ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

印刷　平成４年３月25日
発行　平成４年３月30日

発行　財団法人　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡11―185
電話（0196）38―9001・9002

印刷　㈱　熊　谷　印　刷
〒020岩手県盛岡市上田一丁目６―49
電話（016）53―4151

© 財団法人　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992